ニューデザイン独習書

杉野芳子著

柳原操絵

第15集

欧米四度目の旅から帰って

秋・冬の号

ホームライフ社

目　次

婦人服のデザイン

子供服のデザイン

若い人の外出着

2・流行に支配されない新鮮なスタイル。その人に合う材料を選べば年令に関係なく着られ、ツイード、コーデュロイなど、格子にも向きます。

3・均勢のとれた人に向くスーツ。ペプラムの打合にポケット風に見せた新しい工夫を試みました。カーディガンネックにして衿元の変化を考えてあります。ツイードが向きます。

4・打合の胸に思いつきなステッチをしてデザインに変化をあたえ、スカートにもこれと関聯性をもたせたポケットをおいてみました。

1・毛皮のとりはずしを自由にし、ノーカラーでも着られるようにしたハーフコート。毛皮なしの場合は、着る人によってボタンを衿元に一箇と、ポケットの上方に一箇つけてもよく、ぐっと下げて裾につけたポケットがデザインのポイントです。

5・袖附から前へと切替えを入れて、フラップの置き方を新しく考えたワンピース。

6・ヒップポケットを新しい扱い方にした、大柄な人に向くドレス。

7・ミディーシルエット。可愛い感じの無地もよく、スカートはプリーツにしても結構です。

8・9・組合せを便利に考えたワンピース風のツーピース。ジャンパースカートに、同じデザインの上着を添えてありますが、上着もジャンパースカートも、それぞれ別のものとも組合せられるように考えたデザインです。

秋から春まで

10・袖附から肩線につづいた胸の線がこのシルエットを新しいものにしています。年令に区別なく喜ばれているプリーツのスカートを組合せて、スポーティな感じにしました。

11・張りのあるツイードなどに向く変り型のジャンパードレス。カラー風のバンドをバストの切替えの蔭に入れ、同じ感じをスカートのポケットにも扱って、若さを強調しました。

12・新しい感覚のセーラーシルエット。スカートはバックにだけ襞を置いて体型にこだわらずに着られるようにしてあります。女学生から30才くらいまで。

13・ジャケットを組合せたブラウスとスカート。ポケットの扱い方を新しくして、ブラウスのデザインに重きをおいてあります。それぞれスカートとの色の調和に御注意ください。

トリミングした外出着

14・このデザインはボディーとポケットの扱い方に重点をおいてあります。それだけに二つの対照と仕立の手際が大切で、一番簡単な材料は伸縮のあまりない編物を挾みこむようにして、周囲に共色のステッチをすることですが、着る人によつてはベルベットを扱うか、共布に黒などのようにはっきりした糸でステッチを扱うのも面白いでしょう。

15・打合からラベルに毛皮をトリミングした新しいシルエット。帽子をアンサンブルにすると立派な訪問着になりましょう。毛皮の代りにベルベットなども向きます。

16・カラーからつづけて前立とカフスの周囲に、別布をトリミングして効果をあらわすように考えたもので、例えばベルベットにグログレン、時にはスエードというように、二つの材料の調和に重点をおきます。ここでは縞を扱いましたが、縞と同じ色のカラーとカフス、また外套とのアンサンブル、無地の場合なら濃淡でもいいでしょう。

17・毛皮を縁とってジュニア向きにデザインしたものです。14・15・16のスタイルで説明したように、毛皮の代りにベルベットなども向きます。

15

14

17

16

クラシックなうちに新しさを匂わせている
ウエディング・ドレス

近代的な感じとクラシックな感じの両方を充分に生かしたデザインです。カラーがバンドカラーであるだけに、肥った人や頸の短い人にはちょっと不向きですが、そうした人にはバンドの前を少し下げて着物衿に近くし、衿元にわずかばかりのドレープを入れて、バストのバンドに似かよわせたカーヴを、カラーに持たせます。バストとヒップを強調させたスタイルですから、これならバランスのとれたものになりましょう。ヴェールはその人に似合う範囲に短くして顔の方に下げてもよく、この場合式場では顔にかかっているヴェールを後へ上げます。

材料は張りをもったサテン、ブロケードなら申し分ありませんが、その他厚地のサテン、レーヨンのモアレ、化繊のタフタ、これ以外でもしっかりした光沢のある布地なら何でも向きます。

スーツのいろいろ

21・ベルトのある一般向きスーツ。ベルトはつけなくても結構です。材料はやわらかい線の出るものを条件として選びます。材料次第で改った場所へも着られましょう。なお無地物の場合、カフスボタンは宝石風の光る石を扱うようにすると、新鮮で豪華な感じを添えることができます。

22・ペプラムにドレープを入れたことをデザインのポイントにしてあります。それだけにドレープの映える材料を選ぶことが大切です。ドレープによってやさしい感じを出したものですから、どちらかといえば線の弱い方に向きましょう。

19・単純なうちにもやわらかさをもったスーツ。ウールにも絹物にも向きます。タックした衿を前で明けて、スカーフやネックレスの扱い方に変化をもたせるようにしました。孔は目立たさないようにしてありますから、時には孔の一方だけ使って、もう一方の端は打合の中にしのばせておくということも考えられます。

20・ペプラムからつづけたポイントを飾りとしたスーツ。スポーティな人に向きますが、ポイントの輪郭をやわらかい感じに仕立てれば、比較的一般向きとなります。材料は硬くないものを選びます。

便利な

23・思いがけないところに毛糸編物を扱って、ポケットの感じに創意を加えてみました。カーディガンネックの扱い方にも新しさをもたせてあります。ボタンの数は着る人によって自由です。

24・ダブルに折返した衿が技術的に非常にむずかしくなつていますが、これは仮縫で補正を充分にし、ふくらみや柔い線を完全に出すようにしたいものです。従って型紙だけを頼り、型紙だけで布をいっぱいに裁ってしまわぬよう御注意ください。

25・肩先をドロップさせて袖山を低くした、一般向きのスーツ。あきずに着られるデザインです。

26・毛糸編物をカラー風にのせて、セーターの感じをもたせた新しいスーツ。一般向き。

しても着られる
スカート

ここにお目にかけてあるブラウスとスカートは、スカートを共布で作ればセパレーツ(組合せ服)として、またベルトの扱い方でワンピースにも見えるものばかりです。

27・ポケットをアクセントにしたこのスカートは、均勢のとれた、スポーティな若い人に向きます。

28・スカートの縞の一色をブラウスに扱いましたが、反対色の組合せもよいでしょう。衿の高さを加減すれば大ていの人に着られます。

29・切替えによってつけた胸ポケットが全体を新しくしています。ワンピースとして、またアンサンブルとして着る場合のことも考えてスカートのポケットも同じ感じのものをつけました。スカーフを衿元にのぞかせたりして、いろいろに感じを変えて着ます。若向き。

30・カラーからつづいたラペルを折返した感じに、打合にステッチを扱って感じを変えてみました。

27

28

31

30

29

ワンピースと
ブラウスと

31・ポイントの先に試みてあるドレープのため、胸の貧弱な人に向きますが、ドレープの位置を少し下げれば逆効果として胸の高い人にも着られます。スカートは一般向。

32・スカートのデザインと関聯性をもたせて、ブラウスにもウェスト線に向ってV型の切替えを入れ、片返しのタックにしました。

33・ブラウスはカラーを小さくして実用的な感じを強調しました。スカートも一般向き。通勤や通学に。

34・ブラウスは改ったスーツの下にも組合せられます。スリムなこのスカートは無地が無難です。

35・スカートを共布で作れば、セパレーツとして、またブラウスのバンドを中に入れてベルトをすると、ワンピース風にも着られます。

36・フラップの位置を面白く考えたブラウス。フラップをとつて切替えの先をタックにすると、非常に優美なものになりましょう。

35

36

34

33

32

新しい感覚のトッパー

フランスでは、トッパーは一年中を通じてなくてはならないものとして重宝されています。例えばパーティその他の出先によつて、ドレスはノースリーヴのこともありましょうが、そうした出先に応じたそれぞれのよそおいをした上に、トッパーを気軽に羽織って外出するというように、トッパーはずい分有効に利用されていることを見てまいりました。
季節に相違がありますが、日本の場合でもトッパーはもっと利用されていいと思います。例えば数多く用意しなくとも、一つのトッパーが組合せるものによつてスーツとして着られ、寒い冬にはオーバー代りに、また朝夕の涼しい春先など軽いワンピースの上に気軽に羽織るというように、広範囲に利用することができましょう。ここに発表のトッパーは、そうした気持で考えたものばかりで、一見平凡なデザインのようですが、いずれも時代感覚を盛り込んで、誰にも着られるようなものにしました。

37・若い人にも中年にも向きます。
38・37と同様一般向き。
39・若向きなら線の弱い人、中年ならスマートな人に。
40・年令に区別なく若い人から中年まで。
41・特別肥った人をのぞけば誰にでも着られます。
42・肥った人にも細い人にも向きます。
43・ポケットのボタンをとれば、誰にでも着こなせるスタイルです。
44・若向きには弱い線の人に、中年向きには線の強い人におすすめします。

春まで若向き

49・このワンピースのようないき方は、日本人なら大ていの方に似合います。ただボタンの扱いを召す方によっていろいろに変えて頂きましょう。

50・均勢のとれた人に向きます。

51・衿元に別布のネックウェアをのぞかせたワンピース。材料によっては、パーティ服にもふだん着にもなります。胸のポケットの扱い方は、素人の方には少しむずかしいでしょう。

52・このデザインは、打合の脇のドレープの扱い方が目新しいもので、中年の方にも着られます。

45・身体の線のととのった若い人に向く、軽快なワンピース。

46・ネックラインとヒップポケットに関聯性をもたせたワンピース。カラーに毛糸編物を扱いました。45と同様に均勢のとれた人に似合います。

47・カラーを縁取りし、その感じに合せて玉縁ポケットを胸とヒップにアンバランスに置いてみました。一般向きのするおとなしいデザイン。

48・衿ぐり廻りとフラップポケットの蓋に、同じ調子のステッチを三ミリ間隔にあしらって、新しさを全体にもたせました。ここに別の感じの材料を扱うのも面白いでしょう。

新しいシルエット

53・若い人から中年に向くストレートなコート。大きなカラーのラペルに毛皮を扱ってボウの感じにしましたが、毛皮はつけなくても着られます。

54・スポーティなコート。衿元から放射状の切替え線を出し、そこにステッチを扱って新しい感じにしました。ステッチの生きる材料を選びます。

55・肩から胸に入れた切替え線を利用して作った胸ポケットは、実用的なものとしてでなく、一つの服飾としての感じを出したものです。

56・若い人たちに喜ばれるプリンセス・スタイルのオーバーコート。カラーと帽子をお揃いの毛皮にしましたが、これはベルベットでもよいのです。

オーバーの

57・ドレープを利用して、カラー風に後身頃へとつづけて面白い感じにカットしました。裁断の妙味に重点をおいたものです。若い人から中年まで。

58・毛糸編物を扱って、堂々としたタイプの方に向くようにデザインしたコート。毛糸は地色と同色でないと失敗しやすいですから、御注意ください。

59・打合のボタンを面白く一つだけ表に出し、あとは皆内ボタンにしてあります。細い毛皮を衿元とカフスに扱って服飾としました。よそゆきに。

60・ドレープした大きなカラーの折先に持出しをつけて、ちょっと思いつきな感じを出し、このカラーの折先の感じをポケットにもとり入れてみました。

中年婦人の よそおいに

中年の方でも、若い人と同じに区別なく着られるスタイルも多くありますが、中年の方全体からみた場合、線のあまり強くない人などにも向くものをと考えてみますと、がいしてやわらかさをもち、ゆったりとして落着きのある線が無難ということになりましょう。そうした中年の方の間違いのない見方を考慮に入れて、中年の方ならどなたにも似合うというようなデザインをここに発表いたしました。この中で68のスタイルだけは、この絵そのままにステッチであらわしていくとすると、健康的なタイプの方に向くものとなり、そのほかの人にはちょっと着こなしがむずかしくなります。

ふだん着
ページ）
70・四、五才〜十一、二才
70
71・四、五才〜五、六才
71
69・六才〜十二才
69
74・六、七才〜十四、五才
74
73
73・七、八才〜十三、四才
72・十才〜十四才
72
71のスタイル以外は
デザインのほかに
全部実物大型紙つき

外出着と
（子供服の

76・七、八才～十一、二才
76
77・七、八才～十四、五才
77
75・二、三才～五、六才
75
79・七、八才～十四、五才
79
80・七、八才～十四、五才
80
78・二、三才～五、六才
78

子供のオーバー

ここにお目にかけてある子供のオーバーは、子供の一番の特長である無邪気さに重点をおいただけでなく、新鮮な感覚をデザインのポイントとして考えてあります。着やすく、そのうえ身体が大きくなっても差しさわらないようにデザインされたものばかりです。

デザインのほかに
全部実物大型紙つき

1

杉野芳子先生滞欧アルバム

本書の著者杉野芳子先生には、七カ月にわたる欧洲各地の視察旅行を終えられて、九月中旬無事お帰りになりました。ここに滞欧中のスナップ写真の一部をお目にかけて、あちらでもお元気で活躍された杉野先生の御様子を、愛読者の皆様と共にお偲びいたしましょう。

1・パリの一流デザイナー、ジェーン・デセーのショーウインドウの一部と、その前に立たれた杉野先生。先生はよくこの店に出入りして、親しくされていた由。

2・日佛デザイン対談中の杉野芳子先生とピーエル・バルマン氏——パリのデザイナー中の第一人者、バルマン氏の部屋で。

3

5

6

4

3・パリ空港のバスターミナル駅（アンバリード）にて――杉野繁一先生をお出迎えの芳子先生とスタイル画家柳原操先生の御夫君。

4・ロンドン塔入口の山高帽を被つた番兵さんと杉野先生。

5・ヴアッキンガム宮殿の近くで――杉野先生御夫妻。

6・観光バスでシェークスピアの生家を訪れる際のバスの説明者と杉野先生。

7・かつてナポレオンの住んだフォンテンブロー宮殿（パリ郊外）前の両先生。

杉野芳子先生 滞欧アルバム

セーヌ河に面した、美しい博物館庭園の子供の遊び場で——風景といい、無心に遊ぶ子供たちの可愛い様子といい、あまりにも素晴しいので、ついフィルムに——

8

10

9

欧米四度目の旅から帰って

杉野芳子

大正から昭和にかけてアメリカに二度、ヨーロッパに一度、そしてこのたび二度目の欧洲旅行から、つい先頃帰つてきたばかりでございます。

皆様に大そう喜んでいただきましたこの前の第十四集(夏の号)は、パリ滞在中、日本の愛読者の皆様のために一つ一つのデザインにパリの香りをもたせながら考えた原稿を、空輸によつてホームライフ社に送つたものでございました。

こんどの第十五集も、前号と同じようにあちらでデザインして送るつもりで予定しておりましたところ、急に帰国することになり、重なる用事のため、すつかり予定が狂つてしまいました。それに帰りましてからは、長いあいだ留守をしておりましたため、対外的なことや何かで文字通り目の廻るような忙しさに、第十五集の原稿がどんどんおくれまして、またしても愛読者の方々に御迷惑をかける結果となりましたことを深くお詫び申し上げます。

外国に旅をしていつも思いますことは、日本の着物と違つて、洋服のスタイルは御承知の通り次から次へと絶え間なく新しいものが考え出されているのですが、いつの時代のいかなる流行にも、各国に共通した流れが見出されることです。日本からアメリカまで半月、ヨーロッパまで四十日近くかかつた以前ですらそうでしたが、交通が便利になつて、ヨーロッパまでたつた二日で行けるようになつた今日では、流行の写真でも実物でも、すぐ手にとつて見ることができるようになつたため、各国の流行の共通点が、ファッションブックのうえだけでなく、実際に非常に濃くはつきり表れていることを、このたびの旅行で痛感いたしました。

ところが、そうした共通点をもちながら、国民性と申しましょうか、どこの国に於いてもその国の政治、経済、生活、気候などによつて、デザインのうえにそれぞれはつきりした特色をもつていることが目立ちます。

モードの創作市場といわれるパリに於いてすら、モードを追つている一流デザイナーの考えたものは、ほんとの限られた一部の階級の人たちにだけ着られているにすぎず、一般にはその時々の流行を実用化し、生活とかけ離れた衣生活は全くしていないということ、殊にドイツに至つてはその代表的なものでした。各国を視察して、同じようにこのことを見てまいりました。

フランスの一般の人たちのあいだでは、流行を部分的にとり入れながら少い数で合理的な着方を考え、楽しい組合せ方にいろいろの工夫をし、分に応じた衣生活に満足していますが、この点は洋装の歴史の浅い私ども日本人の今後大いに学んでゆかなければならないことだと思います。

第十五集に於いては、実用的なものに重点をおき、スーツ、トッパー、組合せ服など、実際に便利なものを、いろいろのタイプの人に合うように考えて数多く発表し、そのうえ最近のデザインの傾向であるところの、部分的な裁断のむずかしいものを、図解によつてできるだけ詳しく説明し、洋裁にあまり慣れていない方のためにも作れるように努力いたしました。

婦人服の基礎

身頃の原型

原型はあらゆる服の基礎になるものですから、正確に作ることが大切です。

身頃の原型

ここに発表の原型は、標準の中寸法で割り出したものです。

初めて自分の原型を作る方は、まずここに発表の釣合のとれた標準寸法の原型を正しく製図してみて、一つ一つの線の引き方の要領をよくのみ込んだうえで、各自の採寸による原型を作るようにすると、標準寸法で製図した原型と比較対照ができますから、楽に間違いのないものが作れます。（標準寸法は五三頁に発表）

図に記入の×印は、大ていの人にこのままで合う規定寸法です。

バスト線の三センチの前後の差とは、ちょうど腕の蔭に脇の縫目が入るように、脇線を三センチ後寄りに入れたものです。

後身頃

・角を右上にして直角線を引きます。

・衿ぐりは、横線に角から六センチ六ミリを計り、縦線に一センチ八ミリ下げて、図のようなカーヴ線で引きます。

・肩線は、横線にネックポイント（衿ぐりの角）から肩巾十二センチ五ミリを計り、直角に六センチ下げて、ネックポイントと直線で結び、肩巾を計り直します。

・縦線を後中央線とし、背丈三十七センチを衿ぐりから下に計ります。

・バスト線は、背丈の二分の一に一センチを加えた十九センチ五ミリを、衿ぐりから中央線上に計り、ここで中央線に直角にバスト線を引き、後バストサイズ二十一センチを計ります。

・ウェスト線は、背丈のところで中央線に直角線を引き、脇線をバスト線の端から垂直に引き下してこの直角線より五ミリ延長し、ウェスト線の脇側を図のようなカーヴ線で引き直します。

・背巾線は、後中央線に衿ぐりから肩巾同寸を計り、ここで中央線に直角線を引き、背巾の二分の一の十七センチを計ります。

・袖ぐり線は、背巾線まではややくり気味に引き、バスト線には少し深くくりをつけて結びます。

前身頃

・角を左上にして直角線を引きます。

・衿ぐりは、横線に角から後衿ぐりと同寸を計り、縦線に七センチ五ミリ下げて、図のようなカーヴ線で描きますが、前中央には直角に結びます。

・肩線は、肩先の下りを三センチ五ミリとして後と同じ要領で引きます。

・バスト線は、背丈の二分の一に一センチ五ミリを加えた寸法を縦線上に角から計り、ここで中央線に直角にバスト線を引き、前バストサイズを計ります。

・脇線は、バスト線の端から垂直に、後脇丈と同寸に引き下げます。

・ウェスト線は、脇線の下から中央線に対して直角線を前中央まで引き、ここで前下りを三センチつけて、図のようなカーヴ線で引き直します。

・胸巾線は、前中央線で衿ぐりからバスト線までの寸法を二等分し、ここから中央線に対して直角線を引き、胸巾の二分の一の寸法を計ります。

・袖ぐり線は、後よりカーヴを強くして図のように描きます。

・これで前後の原型が出来ましたから、原型を切りとる前に、前後の脇線をつき合せて、ウェスト線、袖ぐり線をつながりよく訂正し、次に肩線をつき合せ、衿ぐりを形よく訂正します。

ワンピーススリーヴの元型

一枚裁ちの袖で、ドレスからコートまで広い範囲に使われます。

袖丈、袖山の高さ、袖巾のゆるみなどは服の種類によつて変ります。

ツーピーススリーヴの元型

外袖と内袖の二枚裁ちの袖で、元型のままではテーラードジャケットの袖に多く使われます。

図に記入の×印は、大ていの人にこのままで合う規定寸法です。

外袖の袖巾寸法を割り出すときの規定寸法五センチ五ミリは、内袖と外袖の、袖巾の差の半分に当るものです。

図に記入してありませんが、袖山のしるしから最初に引いた横線に平行の線を引いておくと、この線が布を裁つときの縦地を通す線になり、また袖巾を広くしたいときの切開き線になります。

内袖を別紙に写しとるとき、いま引いた縦地の線と肘線を必ず入れてください。

内袖と外袖を切り抜いて合せて見ると、肘側の線は外袖の方が少し長く、内側の線は内袖の方が長くなつています。

これをぬい合せるときは、どちらも内袖の長さに合せて、肘側の線では外袖の長い分をいせ込み、内側の線では外袖を肘の辺りで伸してぬい合せます。

タイトスカートの元型

一般に使われる裾巾の狭いもので、いろいろのスカートの基礎となります。流行によつて裾巾や丈は変ります。

- 直角線を引き、縦線は中央線、横線はウェスト線の基準とします。
- ウェスト線は、横線に四分の一のウェストサイズを計り、縦線にくり分二センチを下げて、カーヴ線で結びます。
- 丈は、ウェスト線から中央線上に七十二センチ計り、直角に裾巾を引きます。
- ウェスト線から下にヒップ丈を計り、ヒップ線を引き、ゆるみを加えたヒップサイズの四分の一を計ります。
- 脇線は、裾脇とヒップ脇を直線で結び、ウェスト脇にはカーヴ線で結びます。
- 脇丈を図の点線のように直線に計り、裾線を脇線にと直角に引き直します。
- 前後の差を二センチつけるときは、脇線を一センチ内と外に移動しますが、ウェスト線では更にダーツ分を脇に出し、前後の脇線を図のように引きます。
- ウェスト線にダーツを描き入れます。

ワンピーススリーヴの元型

袖丈55　袖山線　袖山　袖巾線　肘線　袖口線　袖下線　前　後

肘丈30＝袖丈/2＋2.5

17.5＝腕廻り/2＋ゆるみ(3.5)

15＝掌廻り/2＋ゆるみ(5)

ツーピーススリーヴの元型

袖丈55　肘丈30　（内袖）　（外袖）　袖山　中央

7.3＝袖巾/4＋1.5

6.8＝袖巾/4＋1

14＝掌廻り/2＋2

袖巾/2＋1.5＝13

23＝※印

※印23＝腕廻り/2＋3.5(ゆるみ)＋5.5

×印規定寸法

タイトスカートの元型

16.5＝W/4　2後ダーツ分　1.5前ダーツ分　2後ダーツ　1.5前ダーツ　H丈20

24＝H+4(ゆるみ)/4　ヒップ線　中央わ　スカート丈72　（前後スカート）

スカート丈72を計り直す　前後の差2　前　後　30

フレンチスリーヴについて

身頃につづいた袖附のない袖で、袖巾も袖丈も袖口寸法も自由に変化できます。この袖は肩から袖にゆるやかなやわらかい女性的な線が出るのが特長で、現在大変流行しています。ワンピース、ブラウス、コートなどに広く応用されています。

ここに発表のフレンチスリーヴの元型では、肩線の延長線を袖山線にしてあるので、袖下寸法は長くなり、手の上げ下げが楽ですが、袖山線が吊れてきます。

現在多く使われているデザインでは、袖先に下りをつけ、袖山線に傾斜をつけているため、袖下線が短くなつて吊り気味になるので、袖下のゆとりを出すために、襠を入れることもあります。

フレンチスリーヴの元型

ゆるみ B=8
前後の差 1

フレンチスリーヴの引き方

後身頃

・バストのゆるみと前後の差によつて、脇線を移動する分量を割り出します。この元型ではバストのゆるみを八センチ、前後の差を一センチにするため、脇線を原型線平行に一センチ出します。

・前後の差を一センチ、またはなしにするのは、袖が身頃につづいているため、前後の差が多くついていると、前後の袖下寸法が合わなくなるからです。

・肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイント(衿ぐりの角)と直線で結び、この線に肩巾を計り直し、(後肩にいせ込みやダーツのあるときは、その分を加える。)その先に袖丈(『フレンチスリーヴの伸縮』の項を参照。)を延長します。

・脇線でバスト線より四センチ下つたところから、袖山線に対して直角線（図の細線）を引き、この直角線と同寸法を、袖先で袖山線に直角に引き下し、袖下線を結び、袖下の丸みをつけます。

・フレンチスリーヴの応用で、袖山線に傾斜をつけ、袖口寸法を定めて製図するときは、肩線を延長した袖先で、袖先の下り分を直角に下げ、肩先と結んでもう一度袖丈を計り直し、この袖山線に直角に袖口寸法を引き、袖下線を結ぶことになります。

・袖下線を結ぶとき、脇線でバスト線より四センチ下げたのは、袖巾寸法をワンピーススリーヴと大体同じにするためで、この寸法は流行によつても、袖の長さによつてもいろいろ変化します。

前身頃

・脇線を後で割り出した分量だけ移動させます。この元型では一センチ平行に入れて引き直します。

・肩先で五ミリ上げてネックポイントと直線で結び、後と同様肩巾と同寸をしるし、その先に袖丈を延長します。

・袖口線、袖下線も後と同様に引きます。

フレンチスリーヴの伸縮

フレンチスリーヴはこのままでは肩で布が吊り上つてしまいます。このため袖山線の伸しが必要になります。

この伸す分量は、袖先の下り分と、布の地質と、着る人の体型によつて違いますが、大たい三センチから四センチくらいは袖丈を伸すことになります。

そのうえ、袖附のないルーズな形ですから、身頃から袖にかけてのゆとりも、多少袖丈に加わつてきます。

フレンチスリーヴを製図するときは、この袖山の伸し分とゆとり分をあらかじめ見積つて、出来上つた袖がちようどよい丈になるように、製図の袖丈を各自で加減してください。

袖下線の伸縮　袖先の下り分を前後とも同寸に製図しても、後袖には肩のいせ込みやダーツ分が加わり、前身頃は原型を倒している場合が多いので、前後の袖下寸法を計り合せると、どうしても前が短くなります。この場合は前袖下を充分に伸しますが、前の袖先の下り分を少くして、前袖下を長くすることもあります。

袖下から脇につながるカーヴのところは、前後とも縫代を少く裁ち落して、吊れなくなるまで充分に伸します。

裏布の伸縮　袖山、袖下とも表布と同様に多少伸縮しますが、ウールのようには伸びないので、不足分は布をたるませて裁ち、表布との釣合をとります。

婦人服のデザイン

毛皮なしでも着られる

若い人の外出着

（口絵 1）

用布

コート＝表はダブル巾で一ヤール五分、裏は九十センチ巾で二ヤール、スカート＝ダブル巾で九分

デザイン

後身頃

・背巾線で一センチ開いて原型を写し、バストのゆるみを二十二センチとし、前後の差をなしにするため、脇線を平行に五センチ出します。

・後中央線を一センチ平行に出し、丈を後中央で十七センチ、脇で十四センチとして延長し、裾線をカーヴで結び、中央線をややカーヴさせて図のように訂正します。

・肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと直線で結び、肩巾にダーツといせ込み分の二センチを加えて肩先をしるし、その先に袖丈を延長します。

・袖先で直角に九センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直し、直角に袖口寸法十三センチを引きます。

・袖下線は、脇でバスト線より七センチ下と袖口下を結びます。

・ネックポイントで一センチ出して肩先と結び直し、袖山線もふくらみをつけて引き直します。

・肩と裾に図のようにダーツを描きます。

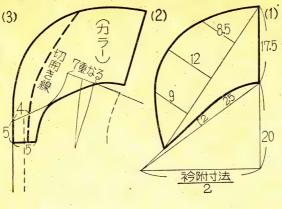
ゆるみ
B＝22
前後の差なし

原型線
縦の布目

口絵（1） 若向き外出着のデザイン

・襠附線は、袖下の角から背巾線の二センチ外に向つて方向線を引き、角から五センチ上を附止りとし、ここから脇線上に七センチ、袖下線上に十一センチの附線を引きます。
・肘線で袖下を二センチ五ミリ切り開き、一センチのダーツを二本とり、残りをいせ込みます。

口絵（1）カラーのデザイン

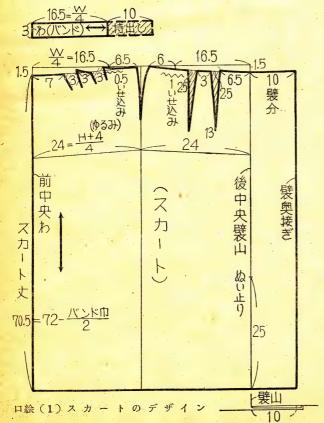
前身頃

・原型を一センチ五ミリ倒して写し、脇線で二センチ出します。
・前中央線を一センチ平行に出し、ウェスト線より下に十三センチ五ミリ延長します。
・図の位置に三センチの肩ダーツを描き、ダーツ分を型紙でつまんで原型を置き直します。
・脇線は訂正された袖ぐり下から垂直線を引き下し、丈をウェスト線より十四センチとして、裾線をつながりよく結びます。
・肩線を延長して袖丈を計り、袖先で直角に六センチ下げて肩先と結び直し、後と同じ要領で袖口寸法十二センチの袖を引きます。
・後と同様に襠附線を引き、袖山線にふくらみをつけます。
・ウェスト線に三センチのダーツをとり、このダーツを利用してウェスト線より下にポケットを作り、ポケット口の浮き分五ミリを裾に出します。
・打合は二センチ五ミリとし、中央線に平行に出します。
・衿ぐりを打合先で三センチ五ミリ下げて描き直します。
・見返しは裾で七センチ巾とし、肩で三センチ巾にして図のように結び、後衿ぐりにもつながりよく描き入れます。
・打合先は比翼仕立にして三センチ五ミリ巾のステッチ線を入れ、かくしボタンの位置を記入します。
・ポケット口のステッチは、三センチ三ミリ巾とし、ポケットの上側のウェスト線にも、打合先までステッチ線を記入します。
・芯取り線を描き入れます。

襠

・襠巾十センチ、附寸法は身頃と同寸にして図のように引き、附線をくり気味に訂正します。

カラー

・前後身頃の衿ぐり寸法を計つて衿附寸法を定め、（1）図のように二十センチ上りのショールカラーを引きます。
・（1）図のカラー型紙を切りとり、（2）図のように前身頃衿ぐりにつき合せて、打合先とカラー外廻り線が真直になるように置くと、肩で七センチくらい重なります。
・このカラー外廻り線を写しとり、打合先で衿ぐりより五センチ下り、直角に五センチ巾を引き、衿ぐりとカラー附線との交点の辺りとつながりよくカーヴ線で結び、図のように切開き線を記入します。
・（3）図のように切開き線を切り込んで、身頃衿ぐり線の位置で、タック分を四センチ切り開き、これを毛皮のカラー

口絵（1）スカートのデザイン

の型紙とします。

スカート

•ヒップのゆるみを四センチとし、これを裾巾とする長方形のスカートを、前後をつづけて引き、脇の縫目をなしにします。

•ウェスト線は前後とも一センチ五ミリのくりをつけますが、前はウェスト寸法に三センチずつのタック分といせ込み分五ミリを加えてカーヴ線で結び、タックは着る人の腰の形を美しく見せる方向に流すようにつまみます。

•後ウェスト線は、二センチ五ミリのダーツ二本といせ込み一センチを加えた寸法に引きましたが、この分量は着る人の腰の形に合せて適当に加減します。

•後中央に十センチの片襞分を出します。

•バンドは三センチ巾に引き、後中央に襞奥分十センチの持出しをつけます。

裁方と縫方の要点

•身頃は衿なしとし、毛皮のカラーはとりはずせるように仕立てます。

•前身頃のポケットはダーツの奥に切込みをし、それぞれ口布と向う布をつけて作ります。

•打合先とポケットのステッチはミシンステッチにし、打合は比翼に仕上げて、ボタンは厚味の少い、目立たない小さいものをつけます。

•毛皮のカラーの仕立方は、口絵(15)の『毛皮の附方』を御参照ください。

•タック分がかさばるような場合は、折山より内側のタック分を切りとり、平らにつき合せて裏側で巻縫にします。

•カラーの裏は毛皮と同色のデシン程度の布を用い、タックはしませんから、切開きはしないで、外廻りをまつりつけますが、このとき上前折先のところに目立たぬように打紐のリングをつけ、下前の身頃にボタンをつけて掛け合せます。

無地にも格子にも向く

新感覚のハーフコート

（口絵 2）

用布

表＝ダブル巾で二ヤール

裏＝七十一センチ巾で二ヤール四分

デザイン

後身頃

•バストのゆるみを二十六センチとし、前後の差をなしにしますので、脇線を平行に六センチ出します。

•後中央線を平行に五ミリ出し、ウェスト線より下に二十二センチ五ミリ延長し、脇線も二十センチ引き下して、裾線を図のようにややカーヴした線で描きます。

•肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾同寸にいせ込み分一センチを加えて肩先をしるし、その先に袖丈を延長します。

•袖先で直角に九センチ下げて肩先と結び、袖丈と同寸を計って直角に袖口寸法十二センチを引きます。

•袖下線は、脇でバスト線から五センチ下と袖口下を結びます。

•襠附線は、背巾線より二センチ外と袖下の角を直線で結び、袖下の角から斜めに五センチ上った点を襠の附止りとし、脇線上に九センチ、袖下線上に十一センチに引きます。

•脇線は、裾で一センチ五ミリ入れて襠附線に結び直します。

•ネックポイントで着込み分を一センチ出して肩先と結び直し、袖山線もふくらみをつけます。

•背の線は衿ぐり線上でダーツ分八センチを出し、裾線では一センチ五ミリ入れて図のようにややカーヴした線で結び、衿ぐり線より上に五センチ五ミリ延長します。

•衿ぐり線をネックポイントでは四センチ五ミリ上げて描き直し、肩線につながりよく結び入れます。

•衿ぐりに原型衿ぐり線で八ミリの分量のダーツを、図のようにとります。

•衿ぐりの見返し線を、図のように記入します。

•前身頃を製図してから前後の袖山をつき合せにして、後袖下の肘線で二センチ五ミリ切り開き、二本のダーツを一センチの分量で描き、残りをいせ込みます。

前身頃

•原型を二センチ倒して写し、脇線を平行に三センチ出します。

•前中央線を平行に五ミリ出し、ウェスト線より下に十七センチ延長しておきます。

•脇線もウェスト線より下に二十センチ延長し、図のようにややカーヴした線

で裾線を描きます。

•肩線を延長して袖丈を計り、後と同じ要領で袖口寸法十二センチの袖を引き、襠附線を入れ、脇線を裾で三センチ入れて訂正します。

•ネックポイントで四センチ五ミリハイネックし、先を少し上げて図のように肩線に結び入れます。

•打合は中央線平行に二センチ五ミリ出し、ウェスト線より九センチ五ミリ下からは、裾線に向つて図のような傾斜をつけます。

•衿ぐりは、ネックポイントの先から図の点線のようなカーヴ線で引き、乳下り線の辺りで打合先に結び入れます。

•十二センチ五ミリのポケット口を、図の位置に縦に記入します。

•身頃につづくカラーは、肩線でハイネックの先から十二センチ五ミリ入りから、乳下り線より六センチ下で中央線から五センチ入りに、ややカーヴした線で図のように結び、外廻りに二センチ巾のバイヤス布を描き入れます。

•後カラーは、前カラーとつづけますから、まずダーツを入れない後身頃の衿ぐり先を別の紙に写しとつて、前身頃衿ぐり先につき合せにし、肩先で一センチ五ミリ重ねて写します。

•後カラー巾は十二センチ五ミリとし、前カラーにつづくカラー外廻り線を図のように描き、更に二センチ巾のバイヤス布も描きます。

•衿ぐりの外廻りは、わの感じに仕上げたいため、図のように衿ぐり線に沿つて一センチの見返し分をつづけて裁つことになります。

•裏カラーは、図の太点線になります。

•身頃のカラー外廻り線より五ミリ（縫代分）外側に切込み線を入れると、この線から衿ぐり側の斜線の部分が身頃不足分となります。

•見返し線と芯取り線を記入します。

•ウェスト線より上のボタンは、蔭ボタンとします。

襠

•襠巾を七センチとし、附線を身頃の寸法に合せて、図のようにややくり気味に描きます。

スカート

•スカートは、別項のスリムスカートを御参照ください。

口絵（2）
ハーフコートのデザイン

裁方と縫方の要点

•後身頃の見返し布は、型紙のダーツをつまんで正バイヤスに裁ちます。

•カラーの後身頃への附線は、身頃より少し短い分をアイロンで伸して合せるようにします。

カラーの作り方

•(1)図のようにバイヤス布の附止りにほつれ止めをし、身頃のカラー線より五ミリ外側に切込みを入れます。

・(2)図のように前身頃の不足分を五ミリの縫代で接ぎ合せて縫代を割り、芯を据え、前後の肩線をぬいますが、芯はぬわずに縫代にとじつけます。

・表裏カラーとも中央線をぬい合せ、表カラーと裏カラーを中表に合せ、カラー外廻りにバイヤス布を挟み込み、(バイヤス布の両端はぬい合せておく。)ぐるっとぬい合せます。

・(3)図のように裏カラーと身頃の衿ぐり線を中表に合せてぬいますが、この部分は縫代なしに裁ち落しておき、七ミリくらい奥を地縫し、この縫代を割ると、縫代の先が折山線となるので、裏側に据えた芯の縫代でこの縫代を図のようにくるんでとじつけます。

・裏カラーと身頃不足布の下側は、二枚一緒に地縫して、芯にとじつけます。

・(4)図のように表カラーを裏カラーの上に平らに重ね、表カラーの見返し分を折山から裏側に折り返し、折山より一センチ奥で裏布をぬい合せた見返し布と接ぎ合せますが、折山はつぶれないように注意してください。

・(5)図のように、バイヤス布は附止りを軽く身頃に奥まつりしておきます。

口絵（2）カラーの作り方

ペプラムに新しい工夫をした

若い人のスーツ

（口絵 3）

用布
表＝ダブル巾で二ヤール三分
裏＝七十一センチ巾で二ヤール四分

デザイン

後身頃

・バストのゆるみを十四センチとし、前後の差をなしにするため、脇線を平行に三センチ出します。

・ウェスト線は、後中央で二センチ、脇で一センチのだぶり分を下げて引き直します。

・丈はだぶり分を下げたウェスト線から二十センチとし、ヒップサイズ二十五センチ五ミリを計つて裾線を引きます。

・ウェスト線に、ウェストサイズ十七センチ五ミリにタック分五センチ五ミリを加えてしるし、脇線をバスト脇より三センチ下と、裾にそれぞれ結びます。

・ウェスト線に三センチと二センチ五ミリのタックをしるします。

・肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾にいせ込み分一センチを加えて肩先をしるし、その先に袖丈を延長します。

・袖先を直角に八センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直し、直角に袖口巾十一センチを引き、袖下線を結びます。

・ネックポイントで一センチ出して肩先と結び直し、袖山にもふくらみをつけます。

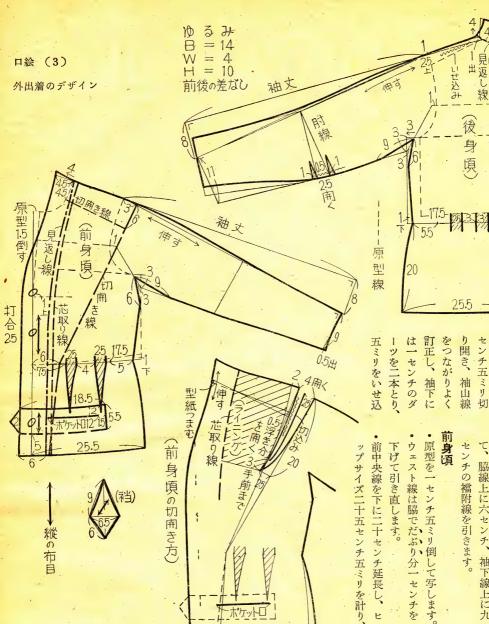
・衿ぐりの後中央で八ミリ出して中央線を引き直し、上に四センチ五ミリ延長し、ネックポイントでも四センチ上げてハイネックした衿ぐり線を描き、肩線につながりよく結びます。

・衿ぐりに八ミリのダーツを描き、四セ

口絵（3）

外出着のデザイン

ンチ五ミリ巾に見返し線を記入します。

・肘線で袖下を二センチ五ミリ切り開き、袖山線をつながりよく訂正し、袖下には一センチのダーツを二本とり、五ミリをいせ込み分とします。

・襠附線は、袖下の角と背巾線の一センチ外を結び、この線上に角から三センチ上をしるし、ここを襠の附止りとして、脇線上に六センチ、袖下線上に九センチの襠附線を引きます。

前身頃

・原型を一センチ五ミリ倒して写します。

・ウェスト線は脇でだぶり分一センチを下げて引き直します。

・前中央線を下に二十センチ延長し、ヒップサイズ二十五センチ五ミリを計り、ウェスト線にウェストサイズ十七センチ五ミリとダーツ分五センチを加えてしるし、後と同様脇線を引き、裾線を引きます。

・肩線を延長して袖丈を計り、後と同じ要領で袖口巾九センチの袖を引きます。

・前中央で乳下り線より一センチ上を第一ボタンの位置とし、これより下に打合二センチ五ミリを出します。

・衿ぐりはネックポイントで四センチハイネックし、図のようなカーヴ線で打合先に結びます。

・裾のバンドは長さ十八センチ五ミリ、巾五センチ五ミリとし、裾線に沿つて五センチ上に図のように引き、打合先に二センチのポイントをつけます。

・このバンドの下に、十二センチのポケット口明を図のように記入します。

・肩のタック分を切り開くため、肩先より三センチ下つた袖山から、ウェスト線を通り、裾線に結ぶ切開き線を図の長点線のように引き、肩線の少し下にも原型衿ぐり線までに切開き線を一本引きます。

・見返し線は肩で四センチ巾、裾で六センチ五ミリ巾にして図のように引き、芯取り線は見返し巾より一センチ広く記入します。

・『前身頃の切開き方』図を参照し、切開

き線を肩先からウェスト線まで切り込み、肩でタック分を四センチ開き、ウェスト線より下でたるむ分を図のようにたたみ、そのたたまれた分（一センチ五ミリくらい）を脇裾に出して、脇線を引き直します。

•肩のタックは、二十センチの長さにダーツのように消し、肩線の下の切開き線で五ミリ浮き分を切り開き、衿ぐりではつまれた分を伸します。

襠

•襠巾六センチ五ミリ、附寸法を身頃と同寸にし、附線をくり気味に描きます。

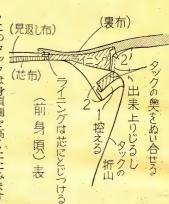
スカート

•別項のスリムスカートを参照してください。

縫方の要点

肩のタックの始末

•『前身頃の切開き方』図を参照し、タック分に切込みをし、共色薄地布のライニングを、斜線の大きさに縫代を加えて裁ちます。

口絵（3）ポケットとバンドの縫方

口絵（3）肩のタックの始末

•このタックは身頃側を高くたたみますが、この身頃側は五ミリの浮き分を細かくぬい縮め、『肩のタックの始末』図のように、折山より一センチ控えた奥に、薄地布の見返し布をぬい合せます。

•タックを出来上り通りに重ね、タックの奥をぬい合せ、先の方はダーツのようにぬい消しますが、このときライニングも一緒にぬい合せ、ライニングの奥は芯にとじつけます。

ポケットとバンドの縫方

•ポケットは口明じるしの位置に、スラッシュまたは八ミリ巾の片玉縁ポケットを作ります。

•バンドは表裏二枚裁つて、中表に外廻りをぬい合せ、表に返して仕上げます。

•バンドの附位置に、バイヤスまたは縦地の見返し布を中表に重ね、（1）図のように附位置の外廻りを地縫し、中央に切込みをして、見返し布を裏側に引き出し、見返し布を控えてアイロンで押えます。

•（2）図のようにいま作つた孔にバンドを差し込み、（3）図のように身頃をはぐつて見返し布とバンド布を合せ、スラッシュの縫目のきわを返し針でぬい止めます。

•（4）図のように、見返し布の外廻りを身頃に千鳥がけで止めつけ、バンドの端を見返し布に止めつけます。

ステッチで変化をみせた ベルトのあるスーツ

（口絵 4）

用布

表＝ダブル巾で二ヤール三分

裏＝七十一センチ巾で二ヤール三分

デザイン

後身頃

•バストのゆるみを十八センチとし、前後の差をなしにするため、脇で平行に四センチ出します。

•肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、この延長上に肩巾といせ込み分一センチを加えて肩先をしるし、その先に袖丈（出来上り寸法より伸し分だけ短く）を延長します。

•袖先で直角に六センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直し、直角に袖口寸法十一センチを引きます。

•袖下線は脇線でバスト線より四センチ

下に結びます。

・襠附線は、背巾線を一センチ出して袖下の角と結び、角から五センチ上を襠の附止りとし、ここから袖下線と脇線上に七センチの襠附線を引きます。

・後中央線を下に延長してヒップ丈を計り、ヒップサイズ二十六センチを計ります。

・ウェスト線に、後中央より二センチ入つたところから、ウェストサイズ十七センチとダーツ分三センチを加えてしるし、脇線を袖下と裾とにそれぞれ結びます。

・ペプラムの丈は後中央で十五センチ、脇線では右身頃は十五センチ、左身頃は十四センチとし、裾線を描きます。

・背の線は、衿ぐりでダーツ分八ミリを出してウェスト線で二センチ入つたところと結び、裾線にはカーヴ線で結びます。

・ネックポイントを一センチ前に廻して肩先と結び直し、袖山線にふくらみをつけます。

・衿ぐりは、ネックポイントと後中央でそれぞれ五センチ五ミリハイネックし、ネックポイントをハイネックした先では図のように二センチかきとつて、肩線につながりよく結び直します。

・衿ぐりに八ミリのダーツを描き、六センチ五ミリ巾の見返し線を記入します。

・ウェスト線に三センチのダーツを描きます。

・肘線で袖下を二センチ五ミリ切り開き、開き分は一センチのダーツを二本とり、残りをいせ込みにします。

前身頃

・原型を一センチ五ミリ倒して写します。

・衿ぐりに一センチのダーツを描き、このダーツ分をたたんでもう一度原型をのせ、衿ぐり、肩、袖ぐり、ウェスト線を写し直します。

・脇線を一センチ平行に出します。

・訂正した肩線を延長して袖丈を計り、後と同じ要領で袖口巾十センチの袖を引き、襠附線を記入します。

・前中央線を下に延長してヒップ丈を計り、ヒップサイズ二十六センチを計ります。

袖丈40
伸す
肘線
いせ込み
見返し線6.5巾
（後身頃）
左身頃
2.5切開き
原型線
縦の布目
ゆるみ
B＝18
W＝6
H＝12
前後の差なし

・ウェスト線に、ウェストサイズ十七センチにダーツ分六センチを加えてしるし、脇線を引きます。

・ペプラムの丈は、前中央で十三センチ、脇では右身頃十五センチ、左身頃十四センチにして裾線を描きます。

口絵（4） 外出着のデザイン

●打合は裾で十三センチ、ウェスト線で八センチ、衿ぐり線では一センチ五ミリを中央線より出し、打合先を図のように結び、裾線を打合先で二センチ上げてつながりよく結び直します。

●衿ぐりは、ネックポイントで肩線を一センチ前寄りに引き直し、ここで五センチ五ミリハイネックさせ、打合線では七センチ引き上げて衿ぐり線を結び、打合先と肩線に図のようにつながりよく結び、衿ぐりダーツを五センチ五ミリの長さに消します。

●打合先のステッチは一センチ五ミリ巾とし、ウェスト線より九センチ五ミリ上で四センチの山形にし、ウェスト線まで図のようにつづけます。

●ウェスト線のダーツは、前中央より七センチ入りに四センチの分量にとりますが、上はステッチ線に沿つて消し、裾では中央より九センチ五ミリ入りに消して描きます。更に四センチ脇寄りに二センチのダーツを描き入れます。

●見返し線、芯取り線を記入します。

襠

●七センチの正三角形に引きます。

スカート

●直角線を引き、縦線にくり分一センチ五ミリと、スカート丈七十センチ五ミリを計り、直角に裾巾二十四センチを引きます。

●横線にウェストサイズ十五センチ五ミリをしるし、前後の差を二センチにするため、前はしるしより一センチ出し、後は一センチ入れて、そこからダーツ分といせ込み分を前は四センチ、後は五センチ出して、脇をしるし直します。

●ヒップ下りの位置でヒップサイズ二十四センチを計つて裾と結び、前後の差をつけて前後の脇線を引き、ウェスト脇にそれぞれカーヴ線で結びます。

●脇丈を計つて裾線を訂正します。

●後スカートには、中央線に平行に襞分七センチを出し、裾から二十センチ上を襞山のぬい止りとします。

●ウェスト線のダーツは、前は一センチ五ミリ、後は二センチの分量にして、いずれも二本ずつとります。

●記入の貼附ポケットは、ポケット口の浮き分を一センチ切り開き、外廻りには一センチ五ミリのステッチをします。

●バンドは三センチ巾にして、ウェスト寸法に後持出し分四センチを加えます。

フラップの置き方を考えた

通学向きワンピース

（口絵 5）

用布
ダブル巾で二ヤール三分

デザイン

後身頃

●バストのゆるみを十二センチ、前後の差をなしにしますので、脇線平行に二センチ五ミリ出します。

●ウェスト線に、ウェストサイズ十七センチ五ミリとダーツ分といせ込み分の四センチを加えてしるし、バスト線で四センチ下げて脇線を結びます。

●ウェスト線の後中央から六センチ五ミリ入り、三センチのダーツを描きます。

●肩先を二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、その線を延長して肩巾同寸といせ込み分一センチをしるし、その先に袖丈（出来上り袖丈より伸分を差し引いたもの）を計ります。

●袖先で直角に六センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直して直角に十二センチ五ミリの袖口寸法を引き、袖下線を直線で結びます。

●襠附線は、背巾線で袖ぐりより二センチ外と袖下を結び、その斜線の袖下より四センチ上を襠の附止りとし、身頃側に八センチ、袖側に十センチの附線をそれぞれ引きます。

●衿ぐりの後中央でダーツ分六ミリを出してウェスト線に結び、上にハイネック分の三センチを延長します。

●ネックポイントで一センチ出して肩先と結び直し、ここでも三センチ五ミリをハイネックして衿ぐり線を描き直し、つながりよく肩線に結び入れます。

●衿ぐりダーツを描き入れます。

●袖下の切開きは、前身頃を製図してから前後の袖山をつき合せに置き、肘の位置で後袖下を二センチ五ミリ切り開き、一センチのダーツを二本とつて、五ミリをいせ込みます。

●後スカートは、ウェスト線のくりを一センチ五ミリつけて、スカート丈を七十二センチに引き下し、直角に裾巾三十一センチを引きます。

●ウェスト線に、ウェストサイズ十七センチ五ミリにダーツ分といせ込み分の

三センチを加えてしるし、ヒップサイズを二十四センチ五ミリとし、脇線を引きます。

・脇裾で二センチ出して脇線を引き直し、図の位置に切開き線を入れ、裾で六センチ開きます。

・ウエストダーツは後中央から六センチ五ミリ入りに描きます。

前身頃

・原型を一センチ倒して写し、脇線を平行に五ミリ入れます。

・前身頃の切替え線は、肩先から乳下り線で十二センチ入りを通り、ウエスト線の前中央から七センチ五ミリ入りに、図のようなカーヴ線で結びます。

・この切替え線を利用して、三センチのダーツを図のように描き、ダーツ分をたたんで袖ぐり線、脇線、ウエスト線を訂正します。

・ダーツ分をたたんで肩線を延長し、袖丈を計り、後と同じ要領で袖口寸法十センチ五ミリの袖を引きます。

・ウエスト線に、ウエスト寸法とダーツ分五センチを加えてしるし、脇線を引き、ウエストダーツを描きます。

・襠附線を後と同じ要領で引きます。

・ポケットの蓋は、肩線から切替え線上に九センチ下つて、長さ十一センチ五ミリを計り、巾四センチにして図のような形に角を丸みに落して描きます。

・ポケットの袋布を蓋の外側へ図のように描き入れます。

・衿ぐりは、ネックポイントで二センチ五ミリハイネックにし、倒さない衿ぐり前中央と図のように結び直し、二センチ五ミリ巾の見返し線を記入しておきます。

・前スカートは、ウエスト線のくりを一センチ五ミリつけてスカート丈七十二センチを引き下し、直角に裾巾三十四センチを引きます。

・ウエスト線、脇線、ダーツを後同様に描き、切開き線を入れて裾で四センチ開きます。

襠

・襠巾を八センチとして記入の寸法の襠を引き、正バイヤスに裁ちます。

裁方と縫方の要点

・ポケット蓋布は、前身頃脇布を裁つときに、脇布につづけて裁ちます。

・後身頃の中央をウエスト線より十八センチくらい下まで明け、ファスナーで始末します。

ゆるみ
B＝12
W＝4
H＝6
前後の差なし

口絵（5）ワンピースのデザイン

秋から春まで着られる
ジュニアのワンピース

（口絵 6）

用布 ダブル巾で二ヤール二分

デザイン

後身頃

・バストのゆるみを十二センチとし、前後の差をなしにするため、脇線を平行に二センチ五ミリ出して引きます。

・肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾にいせ込み分一センチを加えてしるし、その先に袖丈(袖山の伸し分を短く)を延長します。

・袖先で直角に九センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直し、直角に九センチの袖口巾を引きます。

・脇線でバスト線から四センチ下と、袖口下を直線で結び、袖口線を図のように訂正します。

・袖山線をふくらみをつけてカーヴ線で引き直します。

・ウェスト線に、ウェストサイズ十七センチとダーツ分四センチをしるし、脇線を引きます。

・ウェスト線に二センチのダーツを二本とります。

・ネックポイントで一センチ出して肩先と結び、衿ぐりの後中央で六ミリのダーツ分を出し、ウェスト線と直線に結びます。

・衿ぐりは後中央で二センチ、ネックポイントでは一センチ五ミリのハイネックに描き直し、衿ぐりに六ミリのダーツを記入します。

・前身頃を製図してから、前後の袖山をつき合せにし、肘の位置で後袖下を二

婦人服の寸法の計り方

寸法は原型の土台となるものですから、正確に計ります。季節の下着を正しくつけ、胴の一番細いところを紐で軽く締めておきます。この紐の位置がウェスト廻りとなりますから、上りすぎぬよう、下りすぎぬように平らに締めてください。

　次に両腕の附根をゴムテープで結えます。これは肩巾、背巾、胸巾を計るときに必要なものです。五三頁の標準寸法を参照しながら計ると、大きな計り違いがなくてすみます。

頸廻り 頸の附根にテープ尺を立てて廻し、前は鎖骨の内側を、後は背骨の一番上を無理なく通して、前で重ね合せて計ります。

胸巾 頸の附根から六、七センチ下つたところを、両腕の附根のゴムテープからゴムテープまで計ります。

背巾 肩胛骨の上で、両腕の附根のゴムテープからゴムテープまで計ります。

胸廻り 胸の一番高いところを平らに廻して、心持ちゆるやかに計ります。

乳下り 頸の附根から胸廻りを計つたところまでの寸法。

ウェスト廻り 最初に紐で締めた位置を苦しくない程度に締めて計ります。

ヒップ廻り 腰の一番太いところを一廻りしてゆるめに計ります。

ヒップ下り ウェスト廻りからヒップ廻りまでの間隔を計ります。

背丈 背の中央で、頸の附根からウェスト廻りまでを計りますが、肩胛骨の高さの分を含めてゆるめに計ります。

総丈 背丈を計りましたら、そのままテープ尺をウェスト線の位置で押え、つづけて床までを計ります。即ち頸の附根から床までの寸法です。

着丈とスカート丈 洋服の丈は流行、好み、洋服の種類などによつて違い、床上りから定めるものです。総丈から床上り寸法を引いたものが着丈で、更に背丈を引いたものがスカート丈です。

肩巾 肩の真上で心持ち後寄りのところを、頸の附根から腕の附根のゴムテープまで計ります。この寸法はなれないと正確に計りにくいので、予備寸法として後肩巾（肩の腕の附根から附根まで）の寸法を計つておきます。

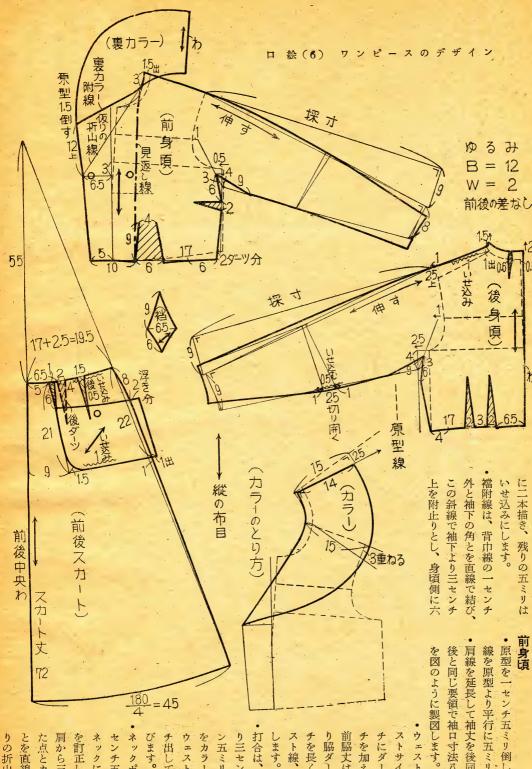
腕廻り 腕の附根の一番太いところをゆるく計ります。

袖丈 肘を軽く曲げて、肩先の腕の附根から、肘を通つて手頸の細いところまで計ります。

肘廻り 肘の廻りをゆるめに計ります。

手頸廻り 手頸の太さを計ります。

掌廻り 拇指を内側へ折り曲げて掌の廻りを計ります。

センチ五ミリ切り開き、一センチずつのタックを図のように二本描き、残りの五ミリはいせ込みにします。

・襠附線は、背巾線の一センチ外と袖下の角とを直線で結び、この斜線で袖下より三センチ上を附止りとし、身頃側に六センチ、袖下側に九センチの附線を引きます。

前身頃

・原型を一センチ五ミリ倒して写し、脇線を原型より平行に五ミリ入れます。

・肩線を延長して袖丈を後同寸に計り、後と同じ要領で袖口寸法八センチの袖を図のように製図します。

・ウエスト線に、ウエストサイズ十七センチにダーツ分六センチを加えてしるし、前脇丈は、後脇丈より脇ダーツ分二センチを長くして、ウェスト線、脇線を訂正します。

・打合は、バスト線より三センチ下で六セン五ミリ出し、ここをカラーの折先とし、ウエスト線で五センチ出して打合先を結びます。

・ネックポイントで一センチ五ミリのハイネックにして衿ぐりを訂正し、衿ぐりで肩から三センチ下つた点とカラーの折先とを直線で結び、仮りの折山線とします。

・カラーは『カラーのとり方』図を参照して、前後のネックポイントをつき合せにし、肩先では三センチ重ねて写し、背の線は後中央線に衿ぐり線から十五センチをしるし、直角に二センチ五ミリ入つて矢の線を引き、その線に直角に衿ぐり線を訂正します。
・カラー巾を後十四センチ、肩十五センチとし、カラーの外廻り線を描きます。
・後衿附寸法の不足分は、ネックポイントの辺りでカラーを伸してつけます。
・見返しつづきのカラーにしますので、いま製図したカラーの外廻りを切りとつて裏返しにし、カラーの折山線を身頃の仮りの折山線につき合せに置き、カラー外廻りを写します。
・表カラーは見返しつづきにとりますから、裾で見返し巾を十センチとし、見返し線を図のようにカラー附線に結びます。
・裏カラー附線を折先から十二センチ上に図のように移動させます。
・ボタンの位置を記入します。

襠

・襠巾を六センチ五ミリとして記入の寸法の襠を引き、正バイヤスに裁ちます。

スカート

・スカート丈七十二センチ、裾巾一メートル八十センチとし、ウェスト線にはダーツ分二センチ五ミリを加えて、サーキュラースカートを図のように引き、脇に一センチのふくらみをつけます。
・前スカートのポケット切替え線は、ウエスト線で中央より五センチ入り、ここから二十一センチを中央より九センチ入りに引き下し、ウェスト脇より二十二センチ下に結びます。
・ポケット口は、切替え線でウェストより六センチ下り、脇線で八センチ下つた点に結び、浮き分としてポケット口で二センチ、底ではいせ込む分として一センチを出して脇を結びます。
・このポケットは、外廻りをいせ込んで、スカート切替え線と割接ぎにします。
・ウェスト線に前中央より五センチ入つて一センチのダーツを、そこから更に四センチ離して一センチ五ミリのダーツをとります。
・後スカートは、ウェスト線に中央より六センチ五ミリ入つて二センチのダーツを描き、五ミリを脇寄りでいせ込みにします。

ミディー・シルエットの

通学向きツーピース

（口絵 7）

用布

ブラウス＝ダブル巾で一ヤール
四分スカートダブル巾で九分

デザイン

後身頃

・バストのゆるみを十六センチとし、前後の差をなしにするため、脇線平行に三センチ五ミリ出します。
・後中央線をウェスト線から下に十七センチ延長し、直角に裾線を引き、脇線を裾まで引き下します。
・肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、この延長上に肩巾同寸にダーツ分一センチ五ミリ、いせ込み分五ミリを加えて肩先をしるし、その先に袖丈（出来上り袖丈三十七センチから伸し分を引いたもの）を計ります。
・袖先で直角に六センチ下げ、肩先と結び直し、袖丈同寸を計り直して直角に袖口寸法十三センチを引きます。
・袖下線は、脇線でバスト線から四センチ五ミリ下に結びます。
・ネックポイントで着込み分を一センチ出して肩先と結び直し、袖山線にふくらみをつけて図のように描き直します。
・衿ぐりは後中央で一センチ五ミリ、ネックポイントでは一センチハイネックして描き直します。
・肩線にダーツを描き入れます。
・脇線をウェスト線で五ミリ、裾線でも五ミリ入れて図のように描き直します。
・襠附線は、背巾線より一センチ五ミリ出した点と袖下の角を結び、バスト線との交点を附止りとし、脇線上に六センチ、袖下線上に八センチの附線を引きます。
・カフスは袖口線に沿つて三センチ五ミリ巾とし、切開き線を二本入れ、外廻りで三ミリずつ切り開きます。
・前袖を製図してから、前後の袖の袖山線をつき合せ、肘線で後袖下を二センチ五ミリ切り開き、袖下線、袖山線を訂正し、肘の位置には一センチのダーツを二本とり、残りをいせ込みます。

前身頃

・原型を二センチ倒して写し、脇線平行に五ミリ出します。
・脇ダーツのため、ウェスト線を脇で一

センチ五ミリ下げて引き直します。

•前中央線をウェスト線から十七センチ延長し、脇線も後脇丈同寸にダーツ分一センチ五ミリを加えた寸法に延長し、裾線を引きます。

•肩線を延長して袖丈を計り、後の要領で袖口寸法十一センチの袖を引き、袖山線にふくらみをつけます。

•脇線をウェスト線で五ミリ、裾線でも五ミリ入れて引き直します。

•脇ダーツは袖下から脇線上に五センチ五ミリ下つた点と乳の位置を結び、図のように八センチの長さにとります。

•このダーツをつまんで、脇線をつながりよく引き直し、襠附線を描きます。

•ウェスト線のダーツは一センチ五ミリの分量で図の位置に描きます。

•ポケットは、ポケット口十三センチ、巾三センチ五ミリとして図の位置に描き、蔭に二センチの足をつけますから、この附線がポケットの口明となります。

•カフスは三センチ五ミリ巾に描き、後と同様切開き線を二本とつて、外廻りを三ミリずつ切り開きます。

•カラーの折先は、前中央線でバスト線より一センチ五ミリ下とし、衿ぐりと細線のように結びます。

カラー

•別に記入の『裏カラー』の製図を参照し、前後の原型をネックポイントでつき合せ、肩先で一センチ重ねて写します。

•後中央線に衿ぐり線から十五センチをしるし、直角に二センチ五ミリ入つて矢の線を図のように引き、その線に直角に衿ぐり線を訂正します。

•前身側に身頃と同様に折山線を引き、後衿丈十六センチにして、セイラーカラーの外廻り線を図のように描きます。

•表カラーを見返しつづきにするため、いま製図した細線のカラーを切りとつて、前身頃の折山線につき合せに置き、カラー外廻り線を図のように写します。

•見返し線を折先から二センチ五ミリ下で三センチ五ミリ巾に引き、カラー附線につながりよく結び、これを表カラーにつづけて裁ちます。

•身頃の、裏カラーとの接ぎ線は、折先から十一センチ上に移動させます。

•いま切りとつたカラーに裏カラーの接ぎ線を写し、身頃の分を切り落して裏カラーの型紙とします。

•表カラーの外廻りに三センチ五ミリ巾のバイヤス布をつけるので、その切替え線を記入します。

襠

•襠巾を十センチとし、附線を身頃に合せて図のように描きます。

スカート

•別項スリムスカートを御参照ください。

裁方と縫方の要点

•前身頃は中央線をわに裁つため、カラー附線から折先までの斜線の部分が不足するので、縞を合せて接ぎ足します。

•カフスは、前後の袖山をつき合せて正バイヤスに裁ちます。

•左脇に明きを作ると着やすくなります。

ほかとの組合せにも便利な
通学向きツーピース

（口絵　8・9）

用布　ダブル巾で二ヤール七分

下げ、肩線では四センチくり入れて図のような角衿に描きます。

・肩先で五ミリ上げてくり下げた衿ぐりと結び、肩巾同寸にいせ込み分五ミリを加え、その先にドロップ分二センチを延長し、先で五ミリ下げます。

・袖ぐり線は脇で四センチ五ミリ下げて図のようにくり下げます。

・ウェスト線に三センチのダーツを描き入れます。

・衿ぐりの見返し線を三センチ巾に入れます。

前身頃

・左右の原型を開いて写し、脇線を平行に一センチ入れます。

・ウェスト線上に、ウェストサイズ十七センチをしるし、その先にダーツ分といせ込み分の五センチを加え、ここで脇ダーツ分二センチ五ミリを下げて、ウェスト線と脇線を図のように引き直します。

・肩線を平行に一センチ入れて引き直し、肩先から二センチ延長し、後と同様に肩線と袖ぐり線を描きます。

・ウェスト線と脇線のダーツは、記入の寸法でいずれも乳下り位置に向つて図のようにとります。

・ダーツ分をたたんで脇線とウェスト線を訂正します。

ジャンパースカートのデザイン

後身頃

・バストのゆるみを十センチとし、前後の差をなしにするため、脇線平行に二センチ出します。

・ウェスト線上に、ウェストサイズ十七センチにダーツ分三センチといせ込み分五ミリを加えてしるし、脇線を結びます。

・肩線を平行に一センチ出して引き直します。

・衿ぐり線は後中央線で一センチ五ミリ

ゆるみ
B＝10
W＝4
(W.S64として)
前後の差なし

口絵（9）　ジャンパースカートのデザイン

•衿ぐり線は、胸巾線より一センチ下で中央線直角に七センチに引き、肩線では原型より四センチ入れて、ややカーヴした線で結びます。
•上前の打合線は、衿ぐり線を四センチ延長し、ウェスト線で九センチ出して結びます。
•下前は図の点線のように、上前との重なり分を四センチにします。
•右身頃のフラップポケットは、衿ぐり線を袖ぐり線まで延長して図に記入の寸法に描き、五ミリの浮き分を脇に出します。
•見返し線は、衿ぐりでは三センチ巾打合先では四センチ巾に描き、ボタンの位置をしるします。
•ポケットと衿ぐりのステッチ巾は、一センチ二ミリにします。

スカート

•スカート丈七十二センチ、裾巾四十五センチ、いせ込み分一センチを加えたウェストサイズ十七センチのサーキュラースカートを引きます。
•脇線は八ミリのふくらみをつけて引き直します。
•図の位置に前後の切開き線を入れ、ウェスト線でそれぞれ四センチ切り開きます。
•前スカートのウェスト線を前中央で八ミリ上げて描き直し、裾線も同様描き直します。
•前スカートの左側のタックには、身頃

打合先に揃えてボタンの位置をしるします。

オーバーブラウスのデザイン

後身頃

•バストのゆるみを十四センチとし、前後の差をなしにするため、脇線平行に三センチ出します。
•肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾にいせ込み分一センチを加えて肩先をしるし、その線を延長して袖丈を計ります。
•袖先を直角に五センチ下げ、肩先と結んで袖丈同寸を計り直し、直角に袖口寸法十センチを引き、袖下線をバスト線より四センチ下に結びます。
•肘線を袖下で三センチ切り開き、袖下線に一センチ二ミリのダーツを二本とり、残りをいせ込みにします。
•ウェスト線を中央で一センチ五ミリ、脇線で五ミリ下げてカーヴ線で描き直し、ウェストサイズ十七センチ五ミリにタック分七センチを加えてしるし、脇線を結び直し、角を図のように丸みにして袖下とのつながりをよくします。

ゆるみ
B ＝ 14
W ＝ 6
(W,S64として)
前後の差なし

口絵（8）
オーバーブラウスのデザイン

•ネックポイントで着込み分を一センチ出して肩先と結び直し、更に衿ぐりを五ミリハイネックして肩線を訂正し、袖山線にもふくらみをつけます。
•衿ぐり線は中央で五ミリ上げて図のような角衿に描き、中央線で上から十二センチを明止りとします。
•ウェスト線にタックを三本記入します。
•衿ぐりの見返し線は三センチ巾にします。
•バンドは、十七センチ五ミリのウェスト線に一センチのくりをつけ、巾を後五センチ、脇四センチ五ミリに描きます。

新しいシルエットの

ブラウスとスカート

（口絵　10）

用布

ブラウス＝ダブル巾で一ヤール三分
スカート＝ダブル巾で一ヤール八分

デザイン

後身頃

・バストのゆるみを十二センチとし、前後の差をなしにしますので、脇線を平行に二センチ五ミリ出します。

・肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾同寸にいせ込み分一センチを加えてしるし、その先に袖丈を計ります。

・袖先で直角に七センチ下げて肩先と結び、袖丈同寸を計り直して直角に袖口寸法十四センチ五ミリを引きます。

・袖下線は、脇でバスト線より四センチ下と袖口下を結びます。

・ウェスト線を後中央で二センチ五ミリ、脇で一センチ五ミリ下げて図のように描き直し、中央線より出来上りウェストサイズ十八センチにタック分六センチを加えて計り、脇線を引きます。

・ウェスト線のタックは、記入の寸法で三本とります。

・襠附線は、背巾線の二センチ外と袖下の角を結んで、下から四センチ五ミリ上を附止りとし、脇線上に六センチ、

前身頃

・原型を五ミリ倒して左右を開いて写し、前下りを二センチつけます。

・肩線を延長して袖丈を計り、後の要領で袖口寸法九センチの袖を引きます。

・袖山線で袖先に八センチの明きをしるし、一センチ二ミリの打合を出します。

・この明きには袖山線にステッチをかけて、ボタンを二箇つけます。

・ウェスト線に、前中央からウェストサイズ十七センチ五ミリにタック分五センチを加えてしるし、そこで脇ダーツ分一センチ五ミリとだぶり分五ミリを下げて、ウェスト線を引き直し、脇線を引きます。

・ウェスト線に記入の寸法でタックを二本とり、脇線には一センチ五ミリのダーツをとって、このダーツ分をたたみ、袖下の角を丸く訂正します。

・衿ぐり線は前中央線に直角に五センチ五ミリを引き、五ミリハイネックしたネックポイントに、ややカーヴさせて結びます。

・上前の打合は、胸巾線から一センチ五ミリ下で、中央線に直角に十一センチ出し、ウェスト線では中央線から八センチ五ミリ出して、直線で結びます。

・打合線につづく切替え線は、図のように真横に右身頃の袖ぐり線より二センチ五ミリ手前まで引き、ここからはカーヴで袖下に結びます。

・袖側の切替え線は、切替え線の角で身頃側を五ミリ（ポケットの浮き分）交叉し、バスト線辺りでは八ミリのくりをつけて袖下に結びます。

・ポケットの蓋は、切替え線の角から十二センチの長さで五センチ五ミリの巾に引き、角を丸みにして一センチ二ミリ巾のステッチをかけます。

・下前の重なり分は打合線平行に四センチ巾に引きます。

・衿ぐり線の見返しは、三センチ巾にとります。

・バンドは五ミリのくりをつけて四センチ五ミリ巾に描きますが、上前には八センチの打合を出し、下前は中央線より四センチ五ミリかきとります。

裁方と縫方の要点

・ジャンパースカートの明きは、身頃打合からつづけてスカートのタックの蔭に十八センチくらい切り込み、持出しと見返しをつけて始末し、ボタン止めとします。

・ジャンパースカートとブラウスのフラップポケットは、フラップの裏布を上前布につづけて裁ち、表布は袋布をつづけて別に裁ちます。

・もう一枚の袋布は下前布につづけて裁ちますが、地厚な布の場合にはポケット口から見える部分だけつづけて裁ち、その先に薄地布を接ぎ足します。

・ブラウスの後身頃中央線を、わにするため、明きを作る縫代分として衿ぐり線で八ミリずらせて、型紙を斜めに置いて裁ち、明きはファスナーをつけて始末します。

・袖口は後袖口にも一センチの持出しを作り、ボタン掛けにします。

・バンドは表裏中表に合せ、そのあいだに身頃を挟み附にしますが、厚地の場合は裏布を表と同色の薄地布にします。

袖下線上に八センチの長さに引きます。

●背の線は、衿ぐり線のダーツ分八ミリを後中央に出して裾線と結び、衿ぐり線より上に二センチ五ミリ延長します。

●ネックポイントで着込み分として一センチ出して肩先と結び直し、袖山線もふくらみをつけて描き直します。

●ネックポイントで一センチ五ミリ上げて衿ぐり線を描き直し、図のように八ミリのダーツを入れます。

●見返し線は衿ぐり線に沿つて、二センチ五ミリ巾にとります。

●袖口線は、だぶり分として袖山線で一センチ五ミリ、袖口巾の中央で二センチ五ミリ、袖下線で一センチ出して描き直し、記入の寸法で二本のタックをとり、明きをしるします。

●バンドは二センチ五ミリのくりをつけ、ウェスト線を十八センチに描き、後中央を六センチ巾、脇を五センチ巾に描きます。

前身頃

●原型を一センチ倒して写します。

●脇線を平行に五ミリ入れます。

●肩から袖をつづけた前身頃脇布を後身頃につづけて裁つため、前身頃脇布は出来上り線も細線で記入しましたから、御注意ください。

●肩線を延長して袖丈を計り、後と同じ要領で袖口寸法十二センチ五ミリの袖を引きます。

●袖山線にふくらみをつけて図のように訂正します。

ゆるみ
B = 12
W = 6
前後の差なし

（スカートの襞のとり方）

口絵（10）ブラウスとスカートのデザイン

バントで若々しさを強調した
変り型ジャンパードレス

（口絵 11）

デザイン

用布 ダブル巾で一ヤール二分

後身頃

・バストのゆるみを十センチとし、前後の差をなしにしますので、脇線を平行に二センチ出します。
・肩先を二センチ上げてネックポイントと結び、これを延長して肩巾といせ込み分一センチを加えてしるし、更に肩先に五センチ五ミリ延長します。
・延長した先を直角に五ミリ下げて肩先と結びます。
・ウエスト線に、後中央よりウエストサイズ十六センチとダーツ分三センチ五ミリを加えてしるし、脇線をバスト線より二センチ五ミリ下に結びます。
・ネックポイントで一センチ出して肩先と結び直します。
・衿ぐりは、後中央とネックポイントで一センチハイネックして描き直します。
・ヨーク風の切替え線は肩先より五ミリのところから、原型袖ぐり線では背巾線より五センチ上、背巾線上では六センチ入つた点をそれぞれ通り、後中央の衿ぐりより十六センチ下に、図のようなカーヴ線で結びます。
・縁取り布は、いまの切替え線並行に五センチ巾に描きます。
・袖ぐり線を脇で二センチ五ミリくり下げ、切替えのところで七ミリのダーツをとります。
・ウエスト線に三センチ五ミリのダーツを描きます。
・後中央の打合は、縁取り布の挾まれる

・脇線を下に延長して、脇ダーツ分二センチにだぶり分一センチ五ミリをとり、直角にウエスト線を引き直します。
・ウエスト線上に、出来上りウエストサイズ十八センチにタック分六センチを加え、脇線を訂正します。
・ウエスト線のタックをとります。
・襠附線を後と同じ要領で引き、脇のダーツを図のようにとつてダーツ分をつまみ、脇線を訂正します。
・衿ぐり線は、前中央線で衿ぐりより五センチ下から直角に三センチ五ミリを引き、ネックポイントで一センチ五ミリハイネックした先と、ややカーヴした線で結びます。
・打合は平行に三センチ五ミリ出します。
・切替え線は、まず衿ぐり線上でネックポイントより三センチ下から、肩先で四センチ下り、袖ぐり線より五ミリ入つた位置まで直線で結び、更にウエスト線で中央線から八センチ入りに、図のようなカーヴ線で結びます。
・ポケットの蓋を図の位置に描き入れ、ボタンの位置をしるします。
・ウエスト線にタックを二本とります。
・袖口線はだぶり分を出して描き直し、記入の寸法で二本のタックをとります。
・切替え線より袖側の部分は、後身頃と袖山線を図のようにつき合せて、つづけてとります。
・バンドは後と同じ要領で五センチの巾に描きますが、前中央には身頃に合せて打合を三センチ五ミリ出し、一センチ五ミリのポイントにします。
・見返し線を図のように描きます。

カフス

・五センチ巾の長方形に描き、三センチの持出しをつけます。

襠

・襠巾を七センチとし、附寸法を身頃と同寸にし、附線をくり気味に描きます。

スカート

・中央線を引き、一センチ五ミリとスカート丈七十センチ五ミリをしるし、直角に裾巾二十八センチを引き、ヒップ線にヒップサイズ二十四センチをしるし、裾線と結んで上に延長し、ウエスト線をくりをつけて引きます。
・ウエスト線と裾線をそれぞれ五等分して襞山線を入れると、裾では五センチ六ミリ巾、ウエスト線では四センチ五ミリ巾くらいとなります。
・ウエスト線上に、ウエストサイズ十六センチ五ミリにいせ込み分一センチ五ミリを加えてしるすと、△印の寸法が残りますから、この寸法を襞数で割り、これをダーツ分として、十センチくらいのあいだで各襞奥にたたみ込みます。
・バンドは、三センチ巾でウエスト寸法に引き、四センチの持出しをつけます。

裁方の要点

・『スカートの襞のとり方』図を参照し、各襞山に縦地を通して裁ちます。

ところまで二センチ巾に出し、ボタンの位置をしるします。

前身頃

•原型を一センチ倒して写し、脇線を平行に一センチ入れます。

•肩線を肩先に五センチ五ミリ延長し、先を五ミリ下げて肩先と結びます。

•ウエスト線に、ウエストサイズ十六センチとダーツ分六センチ五ミリを加えてしるし、脇線をバスト線より二センチ五ミリ下に結びます。

•衿ぐりはネックポイントで一センチハイネックし、前中央では五ミリ下げて図のように描き直します。

•ウエストのダーツは、前中央より五センチ入りに四センチ、更に三センチ離して二センチ五ミリの分量にとり、中央寄りのダーツの先から、前中央線に向つて図のような切開き線を入れます。

•『前身頃の切開き方』図のように、ダーツの先で一センチ切り開き、ここに縁取り布を挟み込むことになります。

•ヨーク風の切替え線は肩先より五ミリのところから、袖ぐり線で胸巾線より二センチ上を、バスト線では前中央より十一センチ五ミリ入りをそれぞれ通り、カーヴ線で切開き線に結びます。

•後同様に縁取り布を五センチ巾に描き、袖ぐりを二センチ五ミリくり下げ、七ミリのダーツをとります。

スカート

•スカート丈七十二センチ、裾巾五十五センチ、ウエストサイズは十六センチにダーツ分を加えて、サーキュラースカートを引きます。

•腰に一センチのふくらみをつけて脇線を訂正します。

•後スカートの切替え線は、ウエスト線に中央線より六センチ五ミリ入つたところから、裾で二十七センチ五ミリ入りに結び、ウエスト線で一センチのダーツをとります。

•前スカートの切替え線は、ウエスト線で前中央より五センチ入つて、一センチのダーツを図のように描き、この線を後切替え線に結び入れて、前切替え線とし、ポケット口をしるします。

口絵（11）縁取布の附方

縫方の要点

•前後の身頃肩線をぬい合せ、縁取り布を切替え線にぐるつと割接ぎします。

•『縁取り布の附方』図を参照し、縁取り布の外廻りに、見返しを一センチ控えてとり、出来上り通りに折つて、点線で示した身頃を下に重ね、中側から附線を地縫し、浮いた感じに仕立てます。

•スカートの切替え線を利用して、ダーツの先にポケットを作ります。

口絵（11）ジャンパードレスのデザイン

ゆるみ B＝10 W＝2 (W.S 62として) 前後の差なし

セイラー・シルエットの

新しいツーピース

（口絵 12）

用布 ダブル巾で三ヤール一分

デザイン

後身頃

・丈をウェスト線より十五センチとし、後中央線を延長します。

・バストのゆるみを十六センチにし、前後の差をなしにするため、脇線を平行に三センチ五ミリ出し、ウェスト線より下に十四センチ延長し、裾線を結びます。

・肩先を二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾にダーツ分といせ込み分の一センチを加えて肩先をしるし、その先に袖丈（出来上り袖丈を三十六センチとし、袖山の伸し分を差し引いたもの）を延長します。

・袖先を直角に五センチ下げて袖山線を引き直し、袖丈を計り直して直角に袖口寸法十四センチを引きます。

・袖下線を脇でバスト線より五センチ下に結び、袖先に五ミリ出して袖口線を訂正します。

・脇線を裾で五ミリ入れて引き直します。

・襠附線は、背巾の一センチ五ミリ外に向つて袖下からの方向を定め、四センチ上を附止りとして、脇線上に六センチ、袖下線上に十一センチの附線を引きます。

・ネックポイントで一センチ出して肩先と結び直し、一センチの肩ダーツをとり、袖山線もふくらみをつけて引き直します。

・衿ぐりは後中央で五ミリ上げて細線のように引き直し、ダーツ分八ミリを後中央から出して、背の線を裾と結び直します。

・衿ぐりを更に二センチハイネックさせ、八ミリのダーツをとります。

・前袖を製図してから前後の袖山をつき合せて置き、肘線で後袖下を図のように二センチ切り開いて、八ミリの

ゆるみ B＝16 前後の差なし

原型線 縦の布目

ポケット口11.5 ボタンの直径1.8

口絵（12）ツーピースのデザイン

ダーツを二本とり、残りをいせ込みとします。

前身頃

・原型を二センチ五ミリ倒して写し、中央線を下に十三センチ延長します。

・脇線を平行に五ミリ出し、ダーツ分一センチを下げてウェスト線を引き直します。

・肩線を延長して袖丈を後同寸に計り、袖先を三センチ下げて、袖口巾十三センチの袖を図のように引き、後と同様に襠附線を引きます。

・袖山線に一センチのふくらみをつけて図のように引き直します。

・衿ぐりはネックポイントで二センチハイネックし、前中央でバスト線より二センチ五ミリ下に結び、ここをカラー附止りとします。

・脇ダーツはウェスト線より十センチ上に、乳下りの位置に向つて一センチの分量でとり、このダーツ分をつまんで脇線を訂正し、ウェスト線より下に十四センチ延長し、裾線を描きます。

・ウェスト線に一センチ五ミリのダーツを描き、脇線に十一センチ五ミリのポケット口をしるし、ボタンの位置を記入します。

カラー

・前後の身頃を、原型のネックポイントをつき合せ、肩先を三センチ重ねて写します。

・後中央線にハイネックした衿ぐりから十五センチを計り、ここで直角に二センチ五ミリ入れて矢の線を引き、衿ぐりを直角に訂正し、後カラー丈十九センチを計り、直角にカラー巾十六センチ五ミリを引きます。

・前中央のカラー附止りで、一センチ七ミリ出して衿ぐり線を引き直し、この先にネクタイをつづけますから、中央線より十四センチ五ミリ外に向つて二十センチの丈を引きます。

・ネクタイの巾は八センチ五ミリとし、図のようにネクタイの線に直角に引き、ここにカラー外廻り線を結びます。

・ネクタイは脇側を十七センチの丈とし

口絵（12）スカートのデザイン

て先を少し傾斜させて結び、更に下前側を七センチ長く引きます。

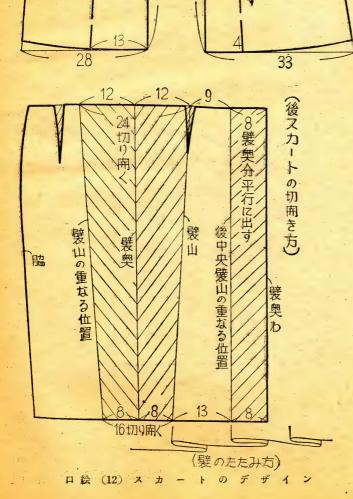
・カラーの附寸法の不足分（一センチ弱）は、肩廻りの辺りで伸します。

襠

・記入の寸法の襠を引きます。

前スカート

・ヒップのゆるみを四センチとし、スカート丈七十センチ五ミリ、裾巾三十三センチのタイトスカートを図のように引き、ウェスト線に二センチのダーツを一本とります。

・切開き線を入れ、裾で四センチ切り開きます。

色彩の調和に重きをおいた
ブラウスとスカート

（口絵 13）

後スカート

・裾巾を二十八センチとしてタイトスカートを引き、ウェスト線に一センチ五ミリと二センチのダーツを二本とり、図の位置に襞分の切開き線を入れます。

・『後スカートの切開き方』図のように、後中央に襞奥分八センチを平行に出し、切開き線では襞分を裾で十六センチ、ウェスト線で二十四センチ切り開き、図のように三本とも同じ方向の片襞にたたみます。

バンド

・三センチ巾とし、ウェスト寸法に四センチの持分し分をつづけます。

用布

ブラウス＝ダブル巾で一ヤール一分
スカート＝ダブル巾で九分

デザイン

後身頃

・バストのゆるみを十二センチとし、前後の差をなしにしますので、脇線を原型より平行に二センチ五ミリ出します。

・ウェスト線は、だぶり分として後中央で二センチ五ミリ、脇側で一センチ五ミリ下げて引き直します。

・肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩線を延長して肩巾同寸にいせ込み分一センチを加えてしるし、その先に出来上り袖丈からカフス丈を引いた寸法を計り、直角に七センチ下げて肩先と結びます。

・袖丈を計り直して直角に袖口寸法十四センチ五ミリを引き、袖下線を脇線でバスト線より四センチ下に結びます。

・袖口は、だぶり分として袖山で一センチ五ミリ、袖口巾の中央で二センチ五ミリ、袖口下で一センチ出し、図のようにカーヴ線で結びます。

・ネックポイントで一センチ出して肩先と結び直し、つづいて袖山線にふくらみをつけてカーヴに描き直します。

・衿ぐりは、後中央でもネックポイントでも一センチハイネックして描き直し、肩線につながりよく結び入れます。

・ウェスト線と袖口に、図に記入の寸法でタックの位置をしるします。

・襠附線は、背巾線より二センチ外と袖下を直線で結び、その線上に、袖下より四センチ上を附止りとし、脇線上に六センチ、袖下線上に八センチの附線を引きます。

・ペプラムは、図のようにウェスト寸法に二センチ五ミリのカーヴをつけ、後中央を六センチ巾に、脇側を五センチ五ミリ巾にしてカーヴ線で引き、脇線で二センチ五ミリ出します。

前身頃

・原型を一センチ倒して写し、前下りを二センチ五ミリにします。

・脇線を原型より五ミリ入れて平行に引きます。

・脇線で、脇ダーツ分一センチ五ミリとだぶり分一センチ五ミリを下げ、ウェスト線を中央線直角に引き直すと、前中央で一センチくらい下ります。

・肩線を延長して袖丈を計り、後と同じ要領で袖口寸法十二センチの袖を製図します。

・袖山線にふくらみをつけて訂正します。

・袖口のだぶり分は袖山で一センチ五ミリ、袖下で一センチ出し、図のように袖口線を描き直し、タックの位置を記入します。

・脇ダーツは、袖下から四センチ五ミリ下に一センチ五ミリの分量で六センチの丈にとり、ダーツをたたんで脇線を訂正します。

・衿ぐりは、倒さない前中央を五ミリ下げて描き直し、前中央線平行に下前の打合分二センチを出します。

・ポケットは、ポケット口十二センチ五ミリを図の位置に引き、その両端から切替え線を図のようなカーヴ線でウェスト線まで引き下し、その先に五セン

チ五ミリ巾のペプラムをつづけます。

・脇寄りの切替え線を利用して四センチの分量のダーツを描き、三センチ離して二センチのタックを記入します。

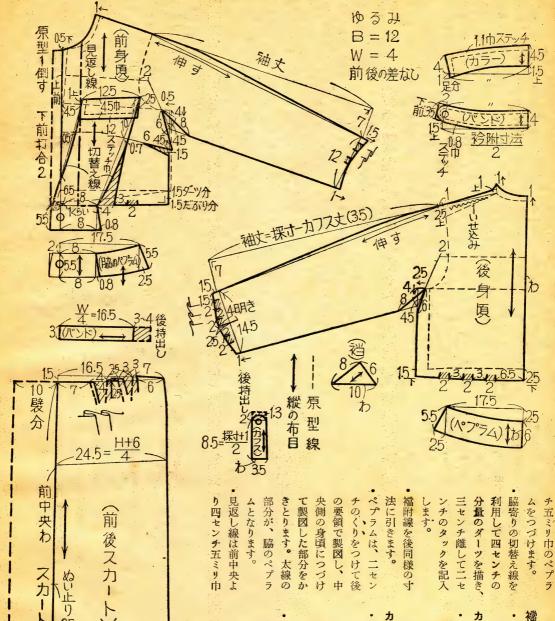
・襠附線を後同様の寸法に引きます。

・ペプラムは、二センチのくりをつけて後の要領で製図し、中央側の身頃につづけて製図した部分をかきとります。太線の部分が、脇のペプラムとなります。

・見返し線は前中央より四センチ五ミリ巾に描きます。

襠

・襠巾を十センチとし、記入の寸法の襠を引きます。

カフス

・カフスは巾三センチ五ミリ、丈の半分を八センチ五ミリに引き、先を図のように一センチ三ミリの丸みに描き、後持出しを二センチつけます。

カラー

・カラーのバンドは、カラー巾を後は四センチ、前は三センチ五ミリとし、一センチ五ミリ上りのバンドカラーを引き、打合を二センチ出して先を丸みにします。

・バンドにつけるカラーは、カラー巾を後は四センチ五ミリ、前は四センチにし、一センチ五ミリ上りのショールカラーを引き、前中央に一センチの足をつけます。

スカート

・直角線を引き、縦線にウェストのくり分を一センチ五ミリにしるし、その先にスカート丈七十七センチ五ミリを引き下し、直角に裾巾二十六センチを引

きます。

・横線上に、ウェストサイズ十六センチ五ミリとタック分七センチを加えた寸法を計つてしるし、ウェスト線より二十センチ下で、ヒップサイズ二十四センチ五ミリを計り、脇線を引きます。

・ウェスト線に、前タック(点線)と後タック(太線)を図のように記入します。

・後中央線平行に襞分十センチを出し、裾から二十五センチ上を襞山のぬい止りとします。

・バンドは三センチ巾とし、三センチか四センチの後持出しをつけます。

裁方と縫方の要点

・前身頃を裁つとき、ポケットの袋布の分(切替え布の下側)をつけて裁ちます。

・ポケットの蓋は、切替え布につづけて裁ち、これが蓋の裏となります。

・別に表蓋布と袋布一枚を裁ち、蓋の外廻りを中表にぬつて表に返し、外廻りを一センチ二ミリ巾のステッチで押えます。

・次に表蓋布の縫代の先に袋布をぬいつけ、切替え線をぬい合せますが、ポケット口は五ミリ浮かせてぬい、袋布の外廻りは身頃にぬいつけます。

・切替えの縫代は、左右ともポケット袋布側へ片返しにします。

・カラーバンド、カフス、身頃からつづいたペプラムの前中央にそれぞれボタンをつけます。

トリミングを面白くした

外出向きワンピース

(口絵 14)

用布

ダブル巾で一ヤール九分
トリミング用に毛糸または別布少々

デザイン

後身頃

・バストのゆるみを十センチとし、前後の差をなしにしますので、脇線を原型より平行に二センチ出して引きます。

・肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾同寸にいせ込み分一センチを加えてしるし、その先に袖丈三十六センチを延長します。

・袖先を直角に五センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直して、直角に袖口巾十三センチを引きます。

・ウェスト線に、出来上りウェストサイズ十七センチにダーツ分三センチを加えてしるし、脇でバスト線より四センチ下げて脇線を結びます。

・後中央より六センチ五ミリ入つて一センチ五ミリ、更に三センチ脇寄りに一センチ五ミリのダーツを描きます。

・衿ぐりは、ネックポイントで着込み分一センチを出し、更に一センチ上げ、後中央では一センチ三ミリ上げてハイネックに描き直し、ネックポイントで角を五ミリくらいかき落してつながりよく肩線に結び入れます。

・袖山線は、一センチのふくらみをつけて形よく訂正し、袖口下を五ミリ出して袖口線をカーヴに描き直します。

・襠附線は、袖下の角と背巾線の一センチ外とを直線で結び、袖下から五センチ上を附止りとし、脇線上に七センチ、袖下線上に十一センチに引きます。

・前身頃を製図してから前後の袖山をつ

婦人服の標準寸法

日本婦人の体格を大、中、小に分けて、それぞれバランスのとれた各部の採寸を示したものです。御自分の採寸と照し合せて、採寸の方法に間違いがないか、また自分の身体のどこに欠点があるかを研究してください。『婦人服の寸法の計り方』は三九頁参照。

名称	大	中	小
	寸法(単位センチ)		
頸廻り	38	36.5	35
胸巾	34	33	32
バスト	86	82	80
乳下り	20	19	18
ウェスト	70	66	64
ヒップ	96	92	89
ヒップ下り	21	20	19
背巾	35	34	33
背丈	38	37	36
背総丈		139	
肩巾	13	12.5	12
袖丈	57	55	53
腕廻り	30	28	26
手頸廻り	17	16	15
掌廻り	21	20	19

ゆるみ
B＝10
W＝2~4
H＝6
前後の差なし

き合せにして、肘線で後袖下側を二センチ五ミリ切り開き、一センチのダーツを二本とり、残りの五ミリをいせ込みます。

•後スカートは、身頃の中央線を下に延長し、上からウェスト線のくり分一センチ五ミリをしるし、ここからスカート丈七十二センチを計り、直角に裾巾二十六センチを引きます。

•ウェスト線は、出来上りウェストサイズ十七センチとダーツ分四センチ、いせ込み分五ミリを加えて計り、カーヴ線でウェスト線を引きます。

•ヒップ丈二十センチの位置でヒップ巾二十四センチ五ミリを計り、ここと裾とは直線で結び、ウェスト脇とはヒップのふくらみをつけてカーヴで結び、脇線とします。

•脇丈を計り直して裾線を訂正します。

•後中央線平行に八センチの片襞分を出し、ウェスト線より十八センチ下を明止りとし、裾より二十五センチ上を襞のぬい止りとします。

•後中央より六センチ五ミリ入って二センチのダーツをとり、更に三センチ脇寄りに二センチのダーツを記入します。

前身頃

•原型を一センチ倒して写し、脇線を平行に一センチ入れます。

•肩線を延長して袖丈三十六センチを計り、後と同じ要領で袖口寸法十一センチの袖を引きます。

•ウェスト線に、出来上りウェストサイズ十七センチとダーツ分六センチを加えてしるし、バスト線より四センチ下に脇線を結びます。

•ウェストのダーツは、前中央より七センチ五ミリ入つて四センチの分量で、更に三センチ脇寄りに離して二センチの分量で図のようにとります。

•衿ぐりは、前中央で五ミリ、ネックポイントで一センチ上げて形よく描き直します。

•後同様に襠附線を引き

ます。

・胸のポケットは巾四センチ、口明十センチ五ミリにして図に記入の位置に描き、外廻りのステッチは一センチ巾にします。

・スカートは、後と同様前中央線を下に延長して、ウェスト線のくり分一センチ五ミリをしるし、更にスカート丈七十二センチを計り、直角に裾巾二十六センチを引きます。

・ウェスト線は、初め中央線に直角に引き、出来上りウェストサイズ十七センチとダーツ分三センチ、いせ込み分一センチを加えて計り、一センチ五ミリのくりをつけて引き直します。

口絵（14）胸ポケットの縫方

・ウェスト線のダーツは、脇より六センチ入つて一センチ五ミリ、更に三センチ離して一センチ五ミリの分量に、合計二本とります。

・スカートのポケットは、巾を四センチ三ミリとして、記入の位置に図のような形に描き、一センチ巾のステッチをしるします。

カラー

・直角線を引き、横線上に衿附寸法の二分の一をしるし、縦線上に上り分一センチをとり、その上に衿巾九センチを計り、カラー先は八センチ五ミリ巾にしてカラー外廻り線を描きます。

・下前の持出し分として、カラーの腰分を一センチ五ミリ出して打合分とします。

襠

・襠巾を八センチとし、附寸法を身頃と同寸にして図の形に引きます。

縫方の要点

・後中央の背明は、スカートのウェスト線より十八センチ下を明止りとして、身頃からつづけてファスナーをつけて開閉します。

・カラーの衿腰は下前を持出しにし、上前は中央までとして、鈎ホックをつけて止めます。

胸のポケットの縫方

・『胸ポケットの縫方』（1）図のように前身頃は、ポケット口布のつく四隅に表から同色薄地の当布を当て、それぞれ三角にミシンをかけてほつれ止めをします。

・次に口布位置の中央に切込みを入れ、ほつれ止めをした四隅にもぬい止りに向つて縫目の中央を切り込みます。（地縫の糸を切らないように）

・（2）図のように、口布附側の縫代を三方ともしるしより裏側に折り曲げ、縫代の先に袋布をぬい合せ、表側より口布附側に一センチ巾にステッチをかけて押えます。

・ポケット口側は、ほつれ止めの布を図のようにととのえて、縫代の先に袋布をぬいつけます。

・（3）図のようにポケット口明の裏側に、三方の附側に縫代分を加えておいた口布（毛糸編または別布）を当てて、口布下側を細かく奥まつりします。

・袋布の外廻りを地縫し、ポケット口の両側に一センチ巾のステッチをかけると、（4）図のように出来上ります。

スカートのポケットの縫方

・胸ポケット同様に、口布附の中央側の角にほつれ止めをして切込みを入れ、袋布も同様につけて、口布附側に表からステッチをかけます。

・毛糸編または別布のポケット口布は、中央側と脇側との二枚作り、脇側にバックルを止めつけ、中央側をそのバッ

口絵（14）スカートのポケットの縫方と出来上り

クルに通しておきます。

●『スカートのポケットの縫方』(1)図を参照して、バックルを通した口布を、図のようにバックルのきわまでまつりつけ、脇側は、脇の出来上りじるしまでまつりつけます。

●(2)図のように、袋布の外廻りを地縫し、表側より口布中央側に一センチ巾のステッチをかけます。

●脇縫側の口布と袋布は、脇縫と一緒に地縫し、脇縫の縫代を割り、口布の縫代は後へ伸しておきます。

毛皮をトリミングした シックな一般向き外出着

（口絵 15）

用布

表ダブル巾で＝二ヤール八分
裏＝九十センチ巾で二ヤール二分
毛皮少々

デザイン

後身頃

●バストのゆるみを十六センチとし、前後の差をなしにするため、脇線を平行に三センチ五ミリ出します。

●後中央線をウェスト線から下に二十センチ延長し、ヒップ線を引き、ヒップサイズ二十五センチ五ミリを計ります。

●背の線はウェスト線で二センチ入れ、背巾線のやや上で、直線に近い線で中央線に結び入れ、ヒップには図のようなカーヴ線で結びます。

●ウェスト線に、背の線からウェストサイズ十七センチ五ミリにダーツ分三センチを加えた寸法をしるし、脇線はバスト線より四センチ五ミリ下に結び、ヒップには丸みをつけて結びます。

●ペプラムの丈は十九センチとし、裾線を描きます。

●ウェスト線に三センチのダーツを図のようにとります。

●肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾にいせ込み分五ミリと肩ダーツ分一センチ五ミリを加えて肩先をしるし、その先に袖丈を延長します。

●袖先を直角に九センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直して、ここから直角に袖口巾十一センチを引き、袖下線を結びます。

●袖口下を直角に訂正します。

●ネックポイントで一センチ出して肩先と結び直し、衿ぐりを後中央で一センチ三ミリ、ネックポイントで一センチハイネックに描きます。

●肩ダーツは、図のようにややカーヴした線で一センチ五ミリの分量に描き、ダーツ分をつまんで肩線を訂正し、つづけて袖山にふくらみをつけます。

●襠附線は、袖下の角から背巾線の一センチ五ミリ外に向つて方向線を引き、角から四センチ上を襠の附止りとし、身頃側八センチ、袖下側十一センチの長さに附線を引きます。

●肘線で袖下側を二センチ五ミリ切り開き、袖山線、袖下線をつながりよく訂正し、袖下線には一センチのダーツを二本とり、残りをいせ込みとします。

前身頃

●原型を二センチ倒して写し、脇線を五ミリ平行に出します。

●前中央線を下に二十センチ延長し、ヒップ線を引き、ヒップサイズ二十五センチ五ミリを計ります。

●ウェスト線に、ウェストサイズ十七センチ五ミリとダーツ分五センチ五ミリを加えた寸法をしるし、後と同様脇線を引きます。

●ペプラム丈を十九センチとし、裾線を引きます。

●肩線を延長して袖丈を計り、後と同じ要領で袖口巾九センチの袖を引き、襠附線を引きます。

●衿ぐりは、ネックポイントで一センチハイネックにします。

●バスト線より一センチ上を折先とし、これより下に打合三センチを平行に出します。

●身頃の折山線は、衿ぐり線上にネックポイントより三センチ下をしるし、ここで衿ぐりに直角に衿腰三センチ五ミリを出し、折先と直線で結びます。

●衿附線は、衿ぐり線でネックポイントから五センチ五ミリ下と、倒さない中央線で衿ぐりより一センチ五ミリ上とを結び、折山線より三センチ延長したところをカラーの附止りとし、衿附線の角を小さい丸みに直します。

●ラペルは、衿附線を附止りから更に四センチ延長して、折先と結び、角を一センチくらいの丸みにして、ややふくらみをつけて折先に結び直します。

●カラーは、衿ぐりで衿腰を出したところから、折山線の平行線を引き上げ、

三センチと後衿附寸法を加えた寸法を計り、ここで直角に六センチ倒して附線を引き直し、衿附寸法を計り直し、直角に後カラー巾十二センチ五ミリを引きます。

•前カラー巾は五センチとし、ラペルの先と三センチ開いて図のように引き、カラー外廻り線を描き入れます。

•カラーの折山線を附線に平行に引き、身頃の折山線と自然につなぎます。

•ウェスト線のダーツは、前中央より七センチ五ミリ入りに三センチの分量でとりますが、図のように裾でも一センチ八ミリつまむことになり、更に三センチ五ミリ脇寄りに二センチ五ミリのダーツをとります。

•ヒップポケットは図のようにカーヴさせて十二センチの長さに描き、スラッシュポケットにします。

•見返し線は中央線から五センチ巾とし、肩では三センチ巾にしてカーヴでつなぎます。

•芯取り線は肩先より図のようなカーヴ線で描き入れます。

•ラペルと打合先には図に点線で示したように毛皮をトリミングします。上前の打合先につける毛皮は打合と同じ三センチ巾にし、ウェスト線から五セン

チ下までつけますが、身頃と見返し布に挟まれた感じに仕上げたいため、身頃、見返し布とも毛皮のつく部分はかきとることになり（上前身頃の打合は裾までつけない。）毛皮は身頃側につけるものと見返し側（ラペルにつづく。）につけるものと二枚とることになります。

・身頃側につける毛皮は、上方のラペルの蔭になる部分は巾を少し狭くして、接ぎ目がカラー附止りをよけるようにします。

・見返し側につける毛皮は、ラペルの部分は折山線より三センチくらい奥までとし、一番上のボタンの辺りで中央線に結び入れ、これより下は身頃側と同様三センチ巾にとります。

・下前側はあまり多く毛皮をつけると、ごろごろしてみにくくなるので、表から見える部分だけ（ラペルのところ）上前側と同様に毛皮をつけ、見えない部分は身頃、見返しともその分だけ布をつづけて裁つことになります。（下前の打合は裾までつける。）

スカート

・引き方は口絵(21)を御参照ください。

縫方の要点

毛皮の附方

・どんなに小さな毛皮でも毛色、密度、毛並、毛足の長さが揃えば、細かく接いでもみにくくありません。表側を見て、毛並を揃えながら接ぎ合せの見積りをし、裏側に型紙をのせてチャコでしるしをつけ、接ぎ目では縫代なしに、外廻りでは五ミリくらい縫代をつけて、毛を切らないように注意しながら安全剃刀で皮だけ切りますが、毛足の長いものでは、裏側で出来上り巾に計っても、表から見ると出来上り巾より広く見えるので、表から正確に見積ってから裏側にしるします。

・毛皮の接ぎ方は、毛皮の裁切り先をつき合せにし、カタン糸で針足を短くして細かく巻縫でぬい合せます。

・接ぎ合せた毛皮の裏側に新モス程度の布を裏打し、粗くハ刺しをして止めつけます。

・一センチ巾くらいの綿テープを用意し、毛皮の外廻りに中表に合せ、出来上り巾より二〜三ミリ外側を、二〜三ミリくらいの縫代でぬいつけ、テープを二〜三ミリ控えて裏に見返し、テープの耳を裏打布に軽くまつりつけます。

・身頃と毛皮の接合せ方は、身頃の縫代を出来上り通りに折り返し、毛皮とつき合せにして、ボタンホールの部分だけ残して細かくまつりつけます。

・前身頃に芯を据え、ラペルには折山より少し奥からハ刺しをしますが、毛皮の部分は芯布の打合先の縫代を、出来上りから裁ち落しておきます。

・見返しにも前と同様に毛皮を接ぎ合せます。

・身頃と見返しの打合先を中表に合せ、裾の毛皮のつかない部分をぬい合せ、芯の縫代を切りとって表に返します。

・毛皮の打合先は、縫代を中に折り込んでまつりつけます。

・カラーをつけるとき、毛皮とぬい合せる部分は、それぞれ縫代を出来上りに折つて、つき合せにしてまつります。

トリミングを効果的にした

外出向きワンピース

（口絵 16）

用布

ダブル巾で一ヤール九分、ベルベッティンを七十一センチ巾で六分くらい

デザイン

後身頃

・バストのゆるみを十センチとし、前後の差をなしにしますので、脇線を原型平行に二センチ出します。

・ウェスト線に、ウェストサイズ十七センチにダーツ分四センチを加えてしるし、脇でバスト線より三センチ五ミリ下と結んで脇線とします。

・ウェスト線に、二センチの分量のダーツを二本描き入れます。

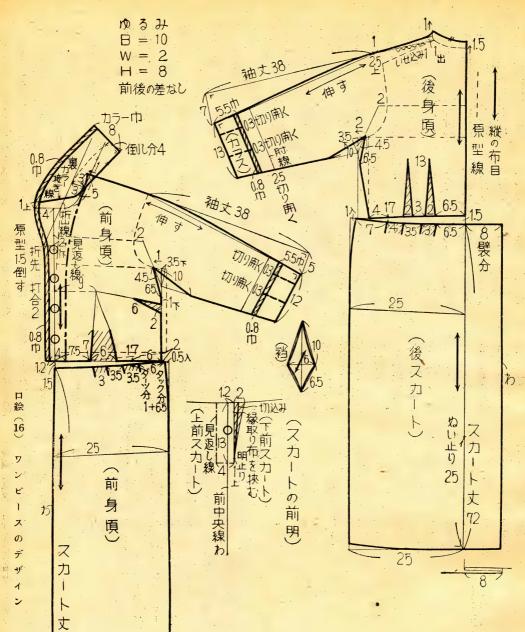
・肩先を二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、これを延長して肩巾同寸といせ込み分一センチを加えてしるし、袖丈（出来上り袖丈三十八センチより伸し分を引いたもの）を計ります。

・袖先で直角に七センチ下げて肩先と結び直し、袖丈を計り直し、直角に十三センチの袖口寸法を引き、袖下線を結びます。

・襠附線は、背巾線で二センチ外と袖下を結び、この斜線で袖下より四センチ五ミリ上を附止りとし、脇線上に六センチ五ミリ、袖下線上に十センチの襠

附線を引きます。

•衿ぐりはネックポイントでゆとり分として一センチ出し、更に一センチ上げ、後中央では一センチ五ミリ上げてハイネックに描き直し、肩線を訂正します。

•袖山にふくらみをつけて袖山線をカーヴに描き直します。

•前身頃の製図をしてから前後の袖山をつき合せにし、肘の位置で後袖下を二センチ五ミリ切り開き、一センチの分量でダーツを二本とり、残りの五ミリをいせ込みにします。

•カフスを五センチ五ミリ巾にし、外廻りを図のように二カ所で三ミリずつ切り開きます。

•カフスの縁取り布は八ミリ巾にします。

•スカートは、ウエストのくり分一センチ五ミリをしるし、そこからスカート丈を七十二センチ引き下し、直角に裾巾二十五センチを引きます。

•ウエスト線は、ウエスト寸法十七センチにタック分七センチを加え、更に脇のくり分一センチを加えてしるし、図のようにカーヴ線で引きます。

•脇線を裾と結び、ウエスト脇で一センチくり入れてカーヴ線で訂正します。

•ウエスト線のタックを二本描きます。

•後中央線平行に襞分八センチを出し、裾から二十五センチ上を襞山のぬい止りとします。

前身頃

•原型を一センチ五ミリ倒して写し、脇線を平行に一センチ入れて引きます。

•肩線を延長して袖丈を計り、後の要領で袖口巾十二センチの袖を引きます。

口絵(16) ワンピースのデザイン

トリミングを新しい感じにした

ジュニア向きの外出着

（口絵 17）

用布
ダブル巾で二ヤール七分
ほかに縁取りの毛皮

デザイン

後身頃

•バストのゆるみを十二センチにし、前後の差をなしにするため、脇線を平行に二センチ五ミリ出します。

•後中央線をヒップ丈まで延長し、ヒップ線を引き、ヒップサイズ二十四センチ五ミリを計ります。

•ウェスト線に、ウェストサイズ十五センチ五ミリとダーツ分五センチを加えてしるし、脇線をバスト線より四センチ五ミリ下に直線で結び、ヒップ線とはカーヴ線で結びます。

•ウェスト線のダーツは、二センチ五ミリの分量で図のように二本とります。

•スカートとの切替え線は、後中央でウエスト線より六センチ五ミリ下と、脇線で二センチ下とを図のようなカーヴ線で結び、ウェスト線のダーツ分をつまんで線をつながりよく訂正します。

•肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、この延長上に、肩巾にいせ込み分一センチを加えて肩先をしるし直し、その先に袖丈を計ります。

•袖先で九センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直して直角に袖口寸法十センチを引き、袖下線を結びます。

•肩線をネックポイントで一センチ出して引き直し、袖山線をふくらみをつけてつながりよく引き直します。

•衿ぐりを後中央で一センチ上げて引き直し、ここで衿ぐりダーツ分一センチ

•襟附線は、胸巾線の二センチ外と袖下の角を結び、後と同寸法に引きます。

•ウェスト線に、ウェストサイズ十七センチとタック分六センチを加えてしるし、脇丈を後よりダーツ分の二センチ長くし、ウェスト線と脇線を引きます。

•ウェスト線のダーツは六センチの分量にし、七センチの長さをぬい止めます。

•脇ダーツは、襠附線より一センチ下つたところに描きます。

•ネックポイントで一センチハイネックして、衿ぐり線を引き直します。

•打合を二センチ平行に出し、折先を胸巾線より二センチ下にしるします。

•ネックポイントから衿ぐり線を三センチ下り、直角に衿腰三センチを計つて、折山線を折先に結び、上に延長します。

•衿ぐりで衿腰を出した点から、折山線平行に線を引き上げ、衿附寸法を計り、直角に四センチ倒して衿附線を引き直し、附寸法を計り直して、直角にカラー巾八センチを引き、カラー外廻り線をカーヴ線で折先につなぎます。

•後衿附線に平行に折山線を入れ、裏カラー接ぎ線を図のように入れます。

•カラーの外廻りから打合先にかけて、八ミリ巾の縁取り布の線を記入します。

•表カラーにつづく見返しは、ウェスト線で四センチ巾とし、図のようにカラーの附線につながりよく結びます。

•スカートは後と同様に引きますが、ウエスト線には打合先の縫代分を一センチ、タック分六センチ五ミリ、脇のくり入れ分五ミリを加えます。

•図の位置にタックを二本描き入れます。

•『スカートの前明』図を参照し、上前の打合一センチ二ミリを中央線より下前側に出し、そこに二センチのダーツを描きます。

縫方の要点

•カラーから打合先の縫方は、表身頃と裏カラーを中表に合せて衿附線を地縫し、縫代は見返しの中に入る部分を割り、後身頃はカラーの方に片返します。

•スカートは打合先のダーツの中央に切込みを入れます。

•身頃とスカートのウェスト線を接ぎ合せ、縫代は身頃側に倒します。

•縁取りの布は、外廻りをわに二つ折にし、附線のカーヴに合せて、アイロンで形づけます。（折山はつぶさない。）

•この縁取り布を身頃表側の附位置に重ね、見返し布で中表に挾み附にします。

•身頃も見返し布も、きせがかからぬようにアイロンでととのえ、縁取り布はアイロンでつぶさぬように注意します。

•スカートの前明は、下前側に持出しを接ぎ足します。

•見返しの奥は二つ折にし、端ミシンをかけてまつり、明止りは裏側から上前と下前を合せて返し針で止めます。

•カフスの縁取り布も、カラー外廻りと同様につけます。

五ミリを出して中央線を切替えの裾と結び直し、上にハイネック分六センチ五ミリを延長し、ネックポイントでは六センチハイネックして衿ぐり線を描き、図のように肩線とつながりよく訂正します。

・衿ぐりのダーツは、原型より一センチ上げた衿ぐり線上に、一センチ五ミリの分量で描きます。

・襠附線は、袖下の角から背巾線の二センチ外に向って方向線を引き、角から四センチ五ミリ上を襠の附止りとし、ここから脇線上に六センチ、袖下線上に九センチの襠附線を引きます。

・袖下の切開きは、前身頃を製図してから、前後の袖山をつき合せに置き、肘線に切込みをして後袖下で二センチ五ミリ開き、図のように前後とも袖山線と袖下線を訂正します。

・袖下の開き分は一センチのダーツを二本とり、残りをいせ込み分とします。

・トリミングする毛皮は、袖口と衿ぐりでは出来上り線より内側に二センチ八ミリ巾とし、スカートとの切替え線では外側に二センチ八ミリ巾を描き入れます。

・見返し線を図のように記入します。

前身頃

・原型を一センチ倒して写し、脇線を平行に五ミリ入れます。

・衿ぐりで前中央から三センチ入りに、二センチのダーツをとり、ダーツ分をつまんで原型を置き直し、肩、衿ぐり、脇、ウェストの各線を写し直します。

・中央線を延長してヒップ丈を計り、ヒ

口絵（17）外出向きワンピースのデザイン

ップサイズ二十四センチ五ミリを計り、ウェスト線に、ウェストサイズ十五センチ五ミリとダーツ分六センチ五ミリを加えた寸法を計り、後と同様に脇線を結びます。

・ウェスト線に、五センチと一センチ五ミリのダーツを図のように描きます。

・肩線を延長して袖丈を計り、袖先を八センチ下げて袖口寸法八センチの袖を引き、襠附線を記入します。

・ネックポイントで六センチハイネックし、先を一センチ五ミリ上げて肩線に結び入れます。

・打合は、バスト線の二センチ下からウエスト線までを、中央線に平行に三センチ出し、衿ぐり前中央では四センチ出し、中央線を五センチ引き上げて、ここを通るカーヴ線で衿ぐり線を図のように描き、打合先に結びます。

・衿ぐりダーツはハイネックした衿ぐり線まで延します。

・トリミングする毛皮の附線は、衿ぐりから打合先のウェスト線までに、出来上り線に沿つて二センチ八ミリ内側に引きます。

・スカートとの切替え線は、前中央でウエスト線より八センチ下、脇寄りダーツ線では四センチ五ミリ下を通り、脇線で二センチ下に結び、この線上で前中央から三センチ五ミリ入りと、ウェスト位置まで引いてある毛皮の附線を、図のようなカーヴ線で結びます。

・この切替え線にも、打合先につづけて二センチ八ミリ巾の毛皮のトリミングを記入します。

・袖口にも図のように二センチ八ミリ巾の毛皮をトリミングします。

・見返し線を図のように記入します。

襠

・襠巾十センチ、附寸法は身頃側六センチ、袖側十センチとし、図のように三角形に引きます。

スカート

・スカート丈七十二センチ、裾巾二メートルのサーキュラースカートを図のように引き、腰の丸みをつけて脇線を引き直します。

・前後とも、身頃のウェスト線より下の部分をスカートの方でかきとつて、身頃の切替え線を図のように引き、この切替え線より下に切開き線を前は一本、後は二本入れ、ギャザー分を前は六センチ、後は五センチずつ切り開き、後は裾でも四センチずつ切り開きます。

裁方と縫方の要点

・見返し布の衿ぐりダーツは型紙をたたんで裁ち、衿ぐり側と奥側をアイロンで伸して作ります。

トリミングする毛皮の附方

・『毛皮の接ぎ方』図のように、毛皮を縁取りの型紙に合せ、カーヴしているところは形なりに巻縫で接ぎ合せます。

・身頃の附線をこの毛皮でくるんで縁取りするのですが、くるんだときに表から見た巾が二センチ八ミリになるように巾を定めます。(毛足の長さによつて変る。)

・毛皮は『毛皮の附方』図のように、新モス程度の布で裏打をしてハ刺しをし、附側は両側とも二〜三ミリ控えて一センチ巾くらいのテープをぬいつけ、テープの端を裏打布にまつりつけます。

・この毛皮で身頃の附線をくるんでテープのところをまつりつけます。

・前身頃の脇寄りダーツから、後身頃の脇寄りダーツのあいだは、縁取りする毛皮の外廻りを少し浮かせてつけます。

(毛皮の附方)
テープをまつりつける
(見返し布)表
身頃
縦地のテープ
新モス程度の芯布
まつる
ハ刺し
0.2~0.3テープを控えてぬいつける

(毛皮の接ぎ方)
(毛皮の裏)
巻縫
型紙の形なりに接ぎ合せる

口絵(17) 毛皮の附方

近代的な感覚を匂わせた ウェディングドレス

(口絵 18)

用布

九十センチ巾で十一ヤール

デザイン

後身頃

・バストのゆるみを八センチにし、前後の差をなしにするため、脇線を平行に

口絵（18）ウェディングドレスの後身頃のデザイン

一センチ五ミリ出します。

•中央線をヒップ丈まで延長して、直角に出来上りヒップサイズ二十五センチを計ります。

•肩先を二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾同寸にいせ込み分一センチを加えて肩先とし、その先に袖丈（出来上り袖丈より伸し分を差し引いた寸法）を延長します。

•袖先で直角に十二センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直し、直角に袖口寸法八センチ五ミリを引きます。

•脇でバスト線より四センチ下に、袖下線を結びます。

•袖口線は、袖山線を七センチ延長して袖口下と結び、図のようにややくり気味に描きます。

•ネックポイントで一センチ前に廻して肩先と結び直し、袖山線もふくらみをつけて引き直します。

•衿ぐり線を一センチハイネックして描き直します。

•背の線は、ウェスト線で中央線から一センチ五ミリ入れて背巾線の少し上に結び、ヒップ線では三センチ出して図のようにややカーヴさせて結びます。

•ウェスト線に、背の線からウェストサイズ十五センチ五ミリに、ダーツ分四センチを加えてしるし、脇線を袖下の角と結んで袖下との角を丸く描き直し、ヒップ線まではカーヴ線で図のように結びます。

•この上身頃の丈はヒップ線までとし、裾線をややカーヴした線に訂正します。

•ウェスト線のダーツを記入の寸法で二本描きます。

•裾附線は、背巾線より一センチ五ミリ外と、袖下の角を結んで下に延長し、袖下の丸みから九センチ上を縫の附止りとします。

•後中央の明きは、上前は出来上り線までとし、下前に二センチ巾の持出しをつけます。

•肘線で袖下線を二センチ五ミリ切り開き、袖山線、袖下線をつながりよく訂正し、袖下には図のように一センチのダーツを二本とり、残りをいせ込みにします。

後スカート脇布

•後身頃につづけて製図します。身頃の中央線を下に延長して、ウェスト線よりスカート丈一メートル十センチ（靴を穿いて床下までの寸法）を計り、直角に裾巾四十三センチ五ミリを引き、脇線をウェスト線に結びます。

•後中央線の裾で三センチ入れてウェスト線と直線で結び直し、下にトレーンの分十五センチを延長し、脇線ではスカート丈一メートル十センチを計り直して、裾線を図のようなカーヴ線で描きます。

・このスカートの上部の出来上り線は、ウエスト線の脇から、背の線でヒップ線より三センチ上に図のようなカーヴ線で結び、ここからスカートの中央線にもカーヴ線で結び直します。
・この後スカート脇布には、後中央にごく近いところの上方から、図のように放射状に三本の切開き線を入れます。
・後中央布との接ぎ線として、襞奥の線を図の細点線のように入れます。

後スカート中央布

・直角線を引き、縦線上に二十センチをしるし、その先に後スカート脇布の襞奥の長さと同寸を計り、直角に裾巾一メートル四十五センチを引きます。
・横線に二十センチを計り、ここから縦線上に二十センチ下げたところと図のように結び、裾とは直線で結んで後中央線とします。
・タックの方向線を図の細線のように引き、この線上で丈を定めて裾線を図のように描き、後中央には裾で二十センチの襞分を出し、ウエスト後中央と結びます。
・ウエスト線に、図のようにタックを三本とります。

後襠

・襠巾を六センチとし、附線を身頃と同寸にして、図のようにややくり気味に描きます。

前身頃

・原型を一センチ倒して写し、脇線で平行に一センチ五ミリ入れます。
・肩線を延長して袖丈を計り、後と同じ要領で袖口寸法八センチ五ミリの袖を引きます。
・ネックポイントで一センチかきとって肩線を結び直し、袖山にもふくらみをつけます。
・衿ぐりを一センチハイネックに描きます。
・中央線を下に延長して、ウエスト線からスカート丈一メートル十センチを計り、直角に裾巾五十一センチを引きます。
・ウエスト線上に、中央線からウエストサイズ十五センチ五ミリにダーツ分四センチ五ミリを加えてしるし、脇線を引き、脇丈を後と同寸にして、裾線をカーヴ線で結び直します。
・プリンセスの切替え線は、後と同様に襠の方向線を入れ、胸巾線より少し下から、図のようなカーヴ線でウエスト線に結び、更に裾に結びます。
・この切替えを利用して袖ぐり線で一センチ五ミリ、ウエスト線では四センチ五ミリの分量のダーツをそれぞれとり、裾線でフレヤー分を図のように交叉させて脇側の切替え線を描きます。
・中央布と脇布の切替え線でそれぞれスカート丈を計り直し、この線に対して

（後スカートの出来上り）

口絵（18）ウェディングドレスの後スカート中央布のデザイン

直角に裾線を訂正します。

- **プリンセス線**につづく袖下の切替え線は、図のように袖下線で六センチ交叉させて描きます。
- 切替え線に挟み込むバンドは、ウエスト線から十センチ五ミリ上に、三センチ五ミリ巾に描き、前中央ウエスト線より九センチ上で、図のようにボタン止めにします。
- このバンド巾の真中で身頃を上下に切り替え、ここから肩線に向つて切開き線を入れ、『前身頃の切開き方』図を参照して、ギャザー分五センチを切り開きます。
- 後スカート脇布を前スカートの脇線につき合せ、図のようにドレープ分を三カ所で切り開き、後スカート中央布との切替え線で襞奥分を図のように出し、スカートの上部にも折返り分を図のように出します。

カラー

- カラー巾を三センチにし、二センチ上りのバンドカラーを図のように描き、前中央には二センチの打合分を出し、図のようにボタン止めにしますが、ここは飾りだけで、明きは後中央とし、下前側に二センチの持出し分を出します。

縫方の要点

ペティコートの縫方

- 布地はナイロンオーガンディーなど、張りのある薄い軽いものを使

口絵（18）ウェディングドレスの前身頃のデザイン

い、上のドレスより裾巾をやや狭くし、（前スカートを標準にして、後は多いめに見積る。）バックフールにして作りますが、バックにふくらみをもたせるため、この部分にだけ更にティアード風のものをつけます。

・このティアード風のものは、図に記入のA、B、C布は一枚ずつ、D布は二、三枚用意し、それぞれ中央をわに裁ちます。

・A布は十本のダーツをつまんでウェスト側を二十六センチ巾にし、ウェスト線にぬいつけます。

・B布は、裾を十五センチ折り返してわにし、上部にギャザーを寄せてA布の下に重ね、A布の附線より少し下側にぬいつけます。

・C布は、上部にギャザーを寄せて裾寄りにつけます。

・D布も同様に、ギャザーを寄せて二十センチ巾くらいに縮め、ウェスト線より十センチくらい下つたA布の上に、二〜三段重ねて止めつけます。

口絵　（18）
ペティコートにつける布

28
32
わ（A布）
45
わ
（B布）
45
15
わ
30
50
（D布）
わ
120
わ
（C布）
50

ドレスの縫方

・布巾の不足分は縦地を通して接いでおきます。

・前身頃につけるバンドをあらかじめ作つておき、プリンセスの切替え線をぬい合せるとき、挟み附とします。

・プリンセスの切替え線は、ウェスト線辺りの縫代を、細く裁ち落して吊れないようにします。

・背明の始末は、上前はボタンの位置にループをつけ、見返し布で挟み附にし、下前は持出しの先に見返しをつけます。

・袖口の明きは袖下で六センチくらいとし、持出し見返しで始末し、袖口廻りにはバイヤス布の見返し布をつけます。

・ペティコートのインサイドベルト、に前身頃のウェスト縫代と後身頃のウェストダーツの縫代をぬい止め、脇もペティコートの脇に止めます。

・スカートを裁つときは、仮縫で変化してもよいように充分余裕をつけて裁ち、型紙通りにぬいじるしをして、着る人に合せてドレーピングをしてから、改めてしるしをつけ直し、本縫にかかります。

・ドレーピングは、脇布のドレープを形づけてから、後中央布を『スカート後中央の出来上り』図のように、ドレープされた脇布の下側から向う側を通つて、ドレープしながら結んだような感じに形づけます。

・この形づけた中央布と脇布とが重なる襞の奥に合じるしをして、裏側から接ぎ合せ、後中央線の襞奥の接ぎも、裾線で襞分を二十センチくらいにし、襞奥を接ぎ合せます。

・ドレ！プされたスカート脇布の上側は、ドレープの蔭から軽くペプラムにとじつけておきます。

単純なうちに柔さのある ツイードのスーツ

（口絵　19）

用布
表＝ダブル巾で二ヤール三分
裏＝七十一センチ巾で二ヤール三分

デザイン

後身頃

・バストのゆるみを十四センチとし、前後の差をなしにしますので、脇線を原型より三センチ平行に出します。

・後中央線を延長してヒップ線を引き、ヒップサイズ二十五センチ五ミリをしるします。

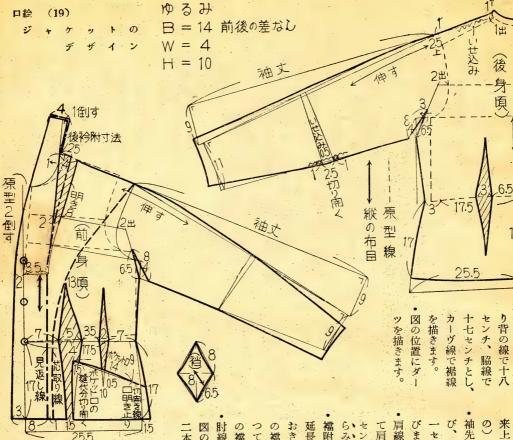
・背の線はウェスト線で二センチくり入れて図のように描きますが、背巾線の辺りには直線に近い線で、ウェストからヒップ線にはカーヴ線で結びます。

・ウェスト線に、背の線からウェスト寸法十七センチ五ミリにダーツ分三センチを加えてしるし、脇でバスト線より四センチ下と結び、裾にはカーヴ線で

口絵 (19)
ジャケットのデザイン

結んで脇線とします。

・丈はウェストより背の線で十八センチ、脇線で十七センチとし、カーヴ線で裾線を描きます。

・図の位置にダーツを描きます。

・肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾にいせ込み分一センチを加えてしるし、この先に袖丈(出来上り袖丈より伸し分を差し引いたもの)を延長します。

・袖先で直角に九センチ下げて肩先と結び、袖丈同寸を計り直し、袖口寸法十一センチを直角にとつて、袖下線を結びます。

・肩線はネツクポイントで一センチ出して肩先と結び直し、衿ぐりは平均に一センチハイネックにして、袖山にふくらみをつけます。

・襠附線は、袖下から背巾線を二センチ延長したところに向つて斜線を引いておき、下から六センチ五ミリを身頃側の襠附線とし、附止りから袖下線へ向つて八センチの線を引き、これを袖側の襠附線とします。

・肘線で袖下を二センチ五ミリ切り開き、図のように一センチの分量のタックを二本とり、残りの五ミリをいせ込みにします。

前身頃

・原型を二センチ倒して写します。

・ネックポイントで一センチハイネックにし、ここからタックの流れる線を乳下り線まで描いて、図のように四センチのタック分を描き入れます。

・タック分をたたんで原型を当て、肩、袖ぐり、脇線を写し直すと、袖ぐり下が下るので、その分ウェストの脇で下げてウェスト線を訂正します。

・前中央線を引き下してヒップ線を引き、ヒップサイズ二十五センチ五ミリを計つてしるします。

・ウェスト線には、ウェスト寸法十七センチ五ミリにダーツ分七センチを加えてしるし、脇でバスト線より四センチ下と結んで脇線とします。

・肩線を延長して袖丈を計り、後の要領で袖の製図をし、襠附線を入れます。

・裾線はウェスト線より十七センチの丈に描き、ウェストのダーツを図の位置に二本描き入れます。

・脇線は裾で一センチ五ミリ出し、ウェストとカーヴ線で結び直します。

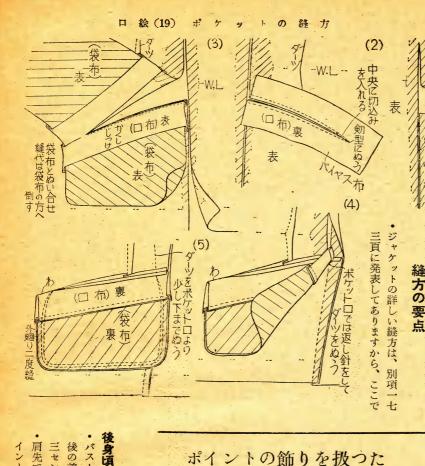
・ポケット口を図の位置にカーヴ線で描き、一センチ五ミリを浮かし分にし、ポケット口より下のダーツの線を描き直します。

・ポケット口を脇線まで延長し、ポケット口の縫代分六ミリを切り開きます。

・肩のタックの長さは胸巾線より二センチ下まで、スカーフを通す明きは、胸巾線より上へ八センチとします。

・ネックポイントからタック線を引き上げて後衿附寸法を計り、直角に一センチ倒してカラー丈を計り直し、カラー巾四センチを直角に引きます。

・打合は乳下り線で二センチ、裾で三センチ出して結び、カラー外廻りから打合先を図のようなカーヴ線で結び、ボ

口絵(19) ポケットの縫方

タンの位置をしるします。

•見返し線は、裾で八センチとして乳下り線くらいまでは中央線に平行に引き、肩ではネックポイントより二センチ五ミリ入つたところとカーヴ線で結び、裏カラーもつづけて裁ちます。

スカート

•別項スリムスカートを御参照ください。

縫方の要点

•ジャケットの詳しい縫方は、別項一七三頁に発表してありますから、ここではこのデザインの要点だけ説明します。

•ポケットはスラッシュにして、ポケットロを浮かせますから、『ポケットの縫方』図を参照して作つてください。

•スカーフを通す明きの作り方は、まず表身頃の裏側に芯を据え、明きの位置に表側から薄地の布を当ててスラッシュを明け、次にタックを明きの部分だけ残してぬいます。

•見返し布には打合側をぬい合せてから、表の明きの位置に合せて切込みを入れ、まつりつけます。

ポイントの飾りを扱つた スポーティなスーツ

（口絵　20）

用布

表＝ダブル巾で二ヤール二分
裏＝七十一センチ巾で二ヤール二分

デザイン

後身頃

•バストのゆるみを十四センチとし、前後の差をなしにするため、脇線平行に三センチ出します。

•肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾にいせ込み分一センチを加えて肩先をしるし、その先に袖丈（出来上り寸法三十八センチより伸し分を引いた寸法）を延長します。

•袖先で直角に六センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直して袖口寸法十二センチを直角に引き、袖下線を脇でバスト線より四センチ下に結びます。

•襠附線は、背巾線より一センチ外に向つて斜線を引き、袖下から三センチ上を襠の附止りとし、脇線で袖下より三センチ下に結んで身頃附線とし、袖下線には七センチ計つて袖側の附線を引きます。

・後中央線を平行に五ミリ出し、下にヒップ丈二十センチを延長し、ヒップ線を入れ、ヒップサイズ二十五センチ五ミリを計ります。
・ウェスト線に、後中央より一センチ五ミリ入つたところから、ウェストサイズ十六センチ五ミリを計り、その先に三センチ五ミリのダーツ分を出し、脇線を引きます。
・ペプラムの丈は十五センチとし、裾線を描きます。
・ネックポイントで一センチ出して肩線を訂正し、袖山線もふくらみをつけて引き直します。
・衿ぐりを後中央で五ミリ上げて引き直し、ここで衿ぐりのダーツ分一センチを中央線より出し、ウェスト線で一センチ五ミリ入れたところと図のように結び、更にカーヴ線で裾に結び、背の線とします。
・衿ぐりは、後中央でもネックポイントでも五センチ五ミリハイネックさせて引き直し、ネックポイントの角で一センチ三ミリかきとつて、肩線とつながりよく結び直します。
・ウェスト線に三センチ五ミリのダーツを描きます。
・肘線で袖下を二センチ五ミリ切り開き、図のように一センチのダーツを二本とり、残りをいせ込みにします。
・衿ぐりの見返し線を図のように描き入れます。

前身頃

・原型を二センチ倒して写します。
・肩線を延長して袖丈を計り、後と同じ要領で袖先の下りを四センチとし、袖口寸法十一センチの袖を引き、襠附線を記入します。
・前中央線を平行に五ミリ出して、ウェスト線から下に二十センチ延長し、ヒップ線を入れ、ヒップサイズ二十五センチ五ミリを計ります。
・ウェスト線に、ウェストサイズ十六センチ五ミリとダーツ分六センチを加えてしるし、脇線を引きます。
・ペプラムの丈は十五センチとし、裾線をカーヴ線で描きます。
・打合を二センチ五ミリとし、乳下り線より下に平行に出します。
・衿ぐりはネックポイントで五センチ五ミリハイネックし、打合先とつながりよくカーヴ線で結びます。
・前立風の切替え線は、打合先でウェスト線から十一センチ上り、更に十四センチ上で一センチ入りにカーヴ線で結び、ここで十センチ五ミリ巾を図のように傾斜させて引き、先を四センチのポイントに描き、更にウェスト線で中央から七センチ入りを通り、裾で打合先から十一センチ入りにカーヴ線で結びます。ポイントにした両角とも三ミリの丸みに描き直します。
・この切替えを利用してウェスト線に三センチ五ミリのダーツをとり、更に三センチ離して二センチ五ミリのダーツを図のようにとりますが、このダーツ線にウェスト位置から十一センチのポケット口をしるします。
・ボタンの位置を前立のポイントの中央と、ウェスト前中央に図のようにします。

襠

・襠巾を六センチ五ミリとし、附寸法を身頃と同寸にして、図のような形に襠を引きます。

スカート

・別項のスリムスカートを参照してください。

縫方の要点

・ジャケットの詳しい縫方は、別項一七三頁に発表してありますから、ここではこのデザインの要点についてだけ説明します。

ゆるみ
B = 14
W = 4
(W,S62として)
H = 10
前後の差なし
原型線
縦の布目

口絵（20）ジャケットのデザイン

・ハイネックした衿ぐりの伸縮は、前後とも原型のネックポイントの辺りと、後身頃のハイネックした衿ぐり線を、湿布を当ててアイロンで充分伸し、原型の衿ぐり線の辺りはいせ込み加減にします。

・この伸縮した衿ぐりは形がくずれているので、もう一度型紙を当てて、衿ぐりから肩線のカーヴ線をしるし直し、本縫にかかります。

・前立のポイントの部分は、ボタン附の位置に玉縁ボタンホールを明け、共布の見返し布をつけて始末します。

・この前立を身頃にぬい合せますが、裾からダーツの少し上までは割接ぎにし、これより上は前立が高くなるようにぬい合せ、ポイントの部分はポケット風に浮かせて、ボタン止めにします。

やわらかい線をあらわした 一般向きのスーツ

（口絵 21）

用布
表＝ダブル巾で二ヤール五分
裏＝九十センチ巾で二ヤール

デザイン

後身頃

・バストのゆるみを十六センチとし、前後の差をなしにするため、脇線を平行に三センチ五ミリ出します。

・肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイント結び、肩巾にいせ込み分一センチを加えて肩先をしるし、その先に袖丈（出来上り袖丈より伸し分を差し引いたもの）を延長します。

・袖先で直角に十センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直して、直角に袖口寸法十二センチを引きます。

・袖下線は、脇でバスト線より三センチ五ミリ下と袖口下を結びます。

・ウエスト線は、だぶり分として後中央で二センチ、脇で一センチ下げてカーヴで引き直し、ウエストサイズ十七センチとタック分五センチを加えた寸法をしるし、脇線を結びます。

・ウエスト線にタックを三本記入します。

・衿ぐりの後中央でダーツ分一センチを出して中央線を引き直します。

・衿ぐりは、後中央で五センチ五ミリ、ネックポイントでは一センチ着込み分を出してから、五センチハイネックして、肩線とつながりよく結びます。

・衿ぐりのダーツは、原型衿ぐり線の一センチ上で一センチの分量に描きます。

・肩線を前に移動させますから、ハイネックした衿ぐり線で一センチ、ネックポイントで一センチ五ミリ、肩先で二センチ出して図のように結び、袖先にはふくらみをつけて結びます。

・肘線で袖下を二センチ五ミリ切り開き、一センチのダーツを二本とつて残りをいせ込みにし、ダーツ分をつまんで、袖下線、袖山線をそれぞれ訂正し、袖先に六センチの明きをしるします。

・襠附線は、背巾線を一センチ出して袖下の角と結び、脇線で袖下より一センチ五ミリ下から斜線に向つて、八センチの身頃側附線を引き、ここから斜線上に七センチ五ミリ計つて袖側の附線とし、袖下線につながりよく結びます。

・衿ぐりに見返し線を描き入れます。

・ペプラムは、まず直角線を引き、横線に五ミリとウエストサイズ十七センチといせ込み分一センチをしるし、縦線で二センチ五ミリくり下げて、ウエスト線をカーヴ線で結びます。

・ペプラムの丈は二十センチとし、ヒップ線を入れてヒップサイズ二十五センチ五ミリを計り、脇線と裾線をカーヴ線で描きます。

・中央線をウエスト線で五ミリ入れて引き直します。

前身頃

・原型を一センチ倒して写し、脇線を五ミリ平行に出します。

・肩線の延長に袖丈を計り、後の要領で袖先の下り八センチ、袖口寸法十一センチの袖を引き、襠附線を記入します。

・ウエスト線を脇でだぶり分の一センチ下げて引き直し、ウエストサイズ十七センチにダーツ分五センチ五ミリを加えてしるします。

・前中央線を下に二十センチ延長し、ヒップ線を入れ、ヒップサイズ二十五センチ五ミリを計つて、脇線と裾線を描きます。

・打合二センチを乳下り線より下に平行に出し、衿ぐりはネックポイントで五センチハイネックして打合先とつながりよく結びますが、前中央線では胸巾線の位置を通ります。

・肩線を後身頃で前に廻した分だけかきとり、袖山線もふくらみをつけます。

・ウェスト線のダーツは、二センチの分量でウェスト線より下に消します。

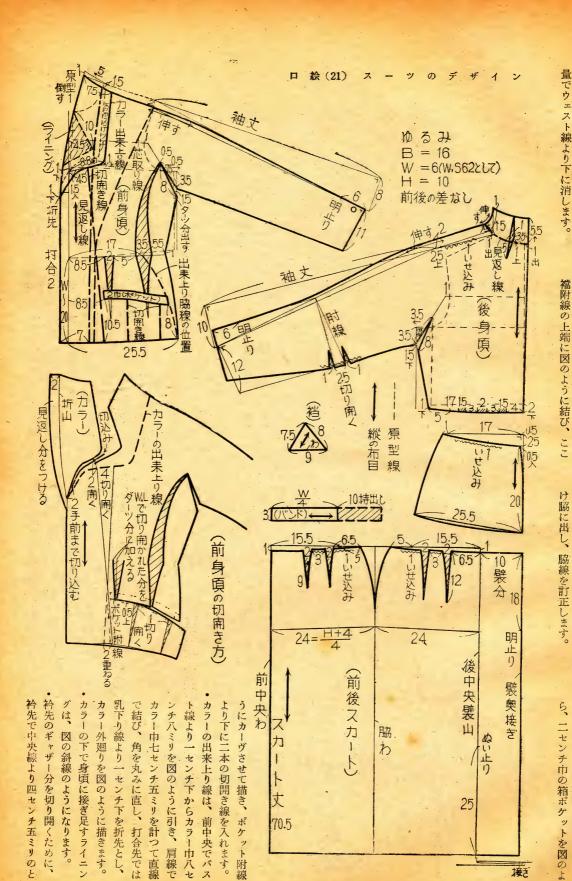
・脇寄りのダーツは三センチ五ミリとし、襠附線の上端に図のように結び、ここでダーツ分を五ミリとして、その分だけ脇に出し、脇線を訂正します。

・ポケットは、出来上り脇線を入れてから、二センチ巾の箱ポケットを図のよ

うにカーヴさせて描き、ポケット附線より下に二本の切開き線を入れます。

・カラーの出来上り線は、前中央でバスト線より一センチ下からカラー巾八センチ八ミリを図のように引き、肩線でカラー巾七センチ五ミリを計つて直線で結び、角を丸みに直し、打合先では乳下り線より一センチ下を折先とし、カラー外廻りを図のように描きます。

・カラーの下で身頃に接ぎ足すライニングは、図の斜線のようになります。

・衿先のギャザー分を切り開くために、衿先で中央線より四センチ五ミリのと

ころから切開き線を裾まで引きます。

•見返し線、芯取り線を記入します。

•『前身頃の切開き方』図を参照し、カラー出来上り線に切込みをし、衿先の切開き線の位置でカラーを直角に二センチ倒し、切開き線では四センチ開き、裾で二センチ重ねるとカラーと身頃のあいだが開かれるので、ここに身頃のカラーの下に重なる部分(ライニングを除く。)を写しとります。

•カラーは衿ぐり線をわに仕上げるため、衿腰となる分を図のように二センチ出し、折先より少し下まで見返し分をつづけます。

•ポケットは附線の五ミリ上に切込みをし、ポケット口を二カ所で一センチずつ切り開きます。

襠

•襠巾を九センチとし、附寸法を身頃と同寸にして、図の三角形に引きます。

スカート

•ヒップのゆるみを四センチとしたヒップサイズの半分と、スカート丈七十センチ五ミリにウェストのくり分一センチを加えた寸法の長方形を引きます。

•前後ともウェスト線は、ウェストサイズ十五センチ五ミリにダーツ分といせ込み分の五センチを加えた寸法を、それぞれ中央線から計り、一センチのくりをつけてカーヴ線で描きます。

•脇で余る分は図のようにダーツに描き、脇線は縫目なしにします。

•前ウェスト線のダーツは、脇線から六センチ入りに、二センチの分量で九センチの長さに描き、三センチの間隔でもう一本描きます。

•後ウェスト線のダーツは、二センチの分量で図のように二本描きます。

•後中央に片襞をとるため、中央線平行に十センチの襞分を出し、襞山のぬい止りは裾から二十五センチ上とします。

バンド

•三センチ巾にしてウェスト寸法に引き、十センチの持出しをつけます。

縫方の要点

•ジャケットの詳しい縫方は、別項一七三頁に発表してありますから、ここではこのデザインの要点だけ説明します。

•『前身頃の切開き方』図を参照し、切り開かれたカラーの縫代の中央に、折先より二センチ手前まで切込みを入れます。

•『カラーの縫方』(1)図のように、身頃にギャザーを寄せてライニングをぬい合せますが、上端は出来上りじるしまでぬい、縫代の部分はぬわずにおきます。

•裏カラーは衿ぐりの折山のところまでとし、表裏のカラーを中表に合せ、カラー外廻りをぬい合せますが、切込みの先は縫代いっぱいまでぬい、(2)図のように表に返して裏カラーを一ミリ控えてととのえ、表より一センチ五ミリ巾のステッチを見返し分の端までかけます。

•裏カラーの附側を出来上りじるしより裏に折り、身頃の衿ぐり線に細かくまつりつけますが、図のA点のところで裏カラーの縫代に切込みを入れ、切込みから下のカラーの縫代を平らに伸します。

•その上にライニングをのせて、ライニングの縫代を出来上り通りに折つてまつりつけ、これより下の身頃の部分は、身頃の裁目をできるだけ少い縫代に折つてまつりつけます。

•前後身頃ともそれぞれ見返し布をぬいつけます。

•カラーを身頃のカラー出来上りの位置に合せて形をととのえ、カラーの肩線を前後の肩線で中表に挟むように合せ、見返し分は衿ぐり側に伸しておき、袖先から見返し奥までの袖山、肩をぬい合せ、見返しの方は縫代を割つておきます。

•見返し布を出来上り通りに裏側に折り返します。

(1)
肩線
衿ぐり
カラー出来上りの位置
ライニング
(前身頃) 裏
折山
(表カラー) 裏
1手前まで切り込む
打合線

(2)
(見返し)
(表カラー)
ステッチ1.5巾 0.1控える
裏カラー
A点
これより下は身頃側の縫代を折つてまつる
衿ぐりの位置まつる
ライニング
カラー出来上り位置
(前身頃) 表
打合先

口絵(21) カラーの縫方

ドレープを特長にした やさしい感じのスーツ

（口絵　22）

用布

表＝ダブル巾で二ヤール三分
裏＝七十一センチ巾で二ヤール三分

デザイン

後身頃

・バストのゆるみを十六センチにしますので、バスト線の脇を原型より二センチ出します。
・後中央線を下に二十センチ延長してヒップ線を入れ、ヒップサイズ二十四センチ五ミリをしるします。
・背の線はウェスト線で二センチくつて図のように描きます。
・ウェスト線で、背の線からウェスト寸法十六センチにダーツ分二センチを加えてしるし、バスト線と裾とに図のように結びます。
・ウェストのダーツを記入の寸法で描きます。
・肩先で五ミリ上げてネックポイントと結んで延長し、これに肩巾と同寸を計り、その先へいせ込み分とダーツ分と肩巾を広くする分五ミリを合せて二センチ五ミリ計り、袖ぐり線を図のように訂正します。
・衿ぐりはハイネックにしますから、後中央で一センチ五ミリ、ネックポイントでは一センチ出してから一センチ二ミリ上げ、肩線を訂正します。
・図の位置に肩ダーツを描きます。
・脇線を後へ廻しますので、バスト線で三センチ、ウェスト線で三センチ、ヒップ線では四センチ入れて、図のようにカーヴ線で結びます。
・丈をウェスト線より十七センチにして裾線を引きます。

前身頃

・原型を二センチ倒して写し、脇線を二センチ平行に出します。
・肩先で五ミリ上げてネックポイントと結びます。
・ネックポイントから六センチ離れたところへ五センチのダーツを描きます。
・ダーツ分をたたんで原型を写し直しま

口絵（22）ジャケットのデザイン

すが、この場合脇が下りすぎるので、下る分の半分だけを下げて、ウェスト線と袖ぐり線を訂正します。

•中央線を下に二十センチ延長し、ヒップ線を入れ、ヒップサイズ二十七センチ五ミリをしるします。

•ウェスト線に、ウェスト寸法十九センチとダーツ分六センチをしるし、脇線を結びます。

•後脇で移動した分を前脇につづけて脇線を引き直し、袖ぐりも描き直します。

•ウェストダーツは、前中央より八センチのところに、二センチ五ミリの分量で図のような形に描き、もう一本は六センチ離して三センチ五ミリの分量とし、袖ぐりでも一センチ五ミリのダーツ分をしるして、図のようなカーヴ線でダーツを描きます。

•裾線は丈をウェストより十七センチとし、ウェスト線に並行に引きます。

•ポケット口は、中央側のダーツでウェスト線より三センチ下から、脇側のダーツで六センチ五ミリ下を通つて、裾で脇線より四センチ五ミリ内側へ図のようなカーヴ線で結び、このポケット口と平行に切開き線を入れます。

•打合は二センチとし、折先を乳下りの位置に定めます。

•衿ぐりはネックポイントで一センチ二ミリのハイネックに描きます。

•衿ぐりで、ネックポイントより三センチ下から、衿腰の三センチを直角に出し、折先と結んで折山線とします。

•ラペルは、ネックポイントから三センチ下つたところと、原型中央線の延長上で衿ぐりの位置より二センチ五ミリ上とを結んで、折山線より十二センチ延長し、折先と結んで角を一センチ五ミリの丸みに描きます。

•衿腰を出した点から折山線に平行線を引き上げ、この線上に三センチと後衿ぐり寸法を計り、ここでカラーの倒し分二センチ五ミリを直角に出して衿腰を出した点と結び、この線上に三センチと後衿ぐり寸法を計り直し、直角に後カラー巾七センチ五ミリを引きます。

•カラーの附止りは折山線より五センチ五ミリのところとし、衿先はラペルより七センチ離して、カラー巾を四センチ五ミリに引き、カラーの外廻りを図のように描きます。

•衿腰から上の折山線を、カラー附線に平行に引き直します。

•折先の位置で、ラペルと打合先をつながりよく訂正します。

•折先より三センチ下で、前中央線まで切込みを入れ、ここから衿附線に向つて図のように切開き線を入れます。

•見返し線は、裾から折先の位置までは七センチ巾、肩で三センチ巾に描き、見返しにギャザーを入れるため、折先より三センチ下に切替え線を入れます。

袖

•ツーピーススリーヴの元型より、袖巾と袖口巾を一センチ狭くして製図します。

スカート

•別項に発表のスリムスカートを参照して製図してください。

裁方と縫方の要点

•ジャケットの詳しい縫方は、別項の一七三頁に発表してありますから、ここではこのデザインについての要点だけ説明します。

•『前身頃の切開き方』図を参照し、ポケット口の切開き線と中央側のウェストダーツ線を切り込んで、図のように肩ダーツをたたむと、ウェストダーツの開きが多くなりますから、ポケットのギャザー分三センチをそのあいだに入れるように切り開きます。

•脇寄りのダーツより脇側の布は、布目が曲りすぎるので、布目を揃えて別に裁ちます。

•折先の三センチ下に切込みを入れ、図のように折先のタック分七ミリを開き、切込みより下の見返しは身頃につづけて裁ちます。

•切込みより上の見返しは、ギャザー分として上で三センチ、下で二センチ切り開きます。

•ポケットは、横のギャザー分をぬい縮め、脇布をダーツ線でぬい合せてからポケット口をぬい、中央側のダーツに挟んでポケットを作ります。

•折先の下の切込みに七ミリのタックをたたんでから、芯据えをしますが、打合先はわになるので、芯も縫代を多くつけてわに折り返るようにします。

•ラペルにハ刺しをし、見返しと中表に合せて外廻りをぬい、形よくラペルのギャザーをまとめて、身頃につづけて裁つてある見返しの上端とぬい合せますが、このとき身頃の前中央のタックのところまでつづけてぬうことになり、縫代は下へ倒します。

•打合先より折り返した芯は、折山より少し中を止めつけます。

(前身頃の切開き方)
ダーツをたたむ
0.7開く
中央線
打合線
見返しつづけて裁つ
3切り開く
(見返し布の切開き方)
(見返し布)
3
ギャザー分
2
(カラーの出来上り)
タック
わ

口絵（22）前身頃と見返し布の切開き方

編物の扱い方を工夫した
スマートなスーツ

（口絵　23）

用布

表＝ダブル巾で二ヤール五分
裏＝七十一センチ巾で二ヤール三分、ほかに極細毛糸三オンス

デザイン

後身頃

・バストのゆるみを十四センチとし、前後の差をなしにしますので、脇線を平行に三センチ出します。

・後中央線を延長してヒップ丈を計り、ヒップサイズ二十五センチ五ミリをしるします。

・背の線は、衿ぐりの後中央でダーツ分八ミリを出し、ウェスト線で二センチくり入れて結び、ややカーヴして後中央線の裾に結びます。

・ウェスト線に、背の線からウェストサイズ十七センチ五ミリとダーツ分二センチを加えてしるし、脇線をバスト線より四センチ下とヒップ脇に結びます。

・ペプラムの丈は十七センチとし、裾線を引きます。

・肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩線に肩巾といせ込み分一センチをしるし、その線を延長して袖丈（出来上り袖丈を三十七センチとし、伸し分を引いたもの）を計ります。

・袖先を直角に六センチ下げて肩先と結び直し、袖丈を計り直して直角に十二センチの袖口寸法を引き、袖下

口絵（23）　スーツのデザイン

仕立で新しさの生きる
ドレッシイなスーツ

（口絵　24）

用布

表＝ダブル巾で二ヤール四分
裏＝九十センチ巾で二ヤール五分

デザイン

後身頃

・バストのゆるみを十四センチとし、前後の差をなしにしますから、脇線平行線を結び、袖口下を八ミリ出して袖口線をカーヴに描き直します。

・切替え線は、袖ぐり線で背巾線より一センチ五ミリ下から、ウェスト線で背の線から七センチ入つた点にカーヴ線で結び、つづけて裾で中央より十一センチ入つた点に引き下します。

・切替え線を利用して、図のようにウェストダーツをとります。

・袖下の角と切替え線の上端を結び、袖下で五センチ交叉させて袖下線を結び直します。

・ネックポイントを一センチ出して肩線を訂正し、衿ぐりはネックポイントで更に四センチ、後中央では四センチ五ミリのハイネックにして描き直します。

・衿ぐりのダーツを記入します。

・前身頃の製図をしてから前後の袖山をつき合せ、肘線で袖下を二センチ五ミリ切り開き、図のように一センチのダーツを二本とつて、残りの五ミリをいせ込み分とします。

前身頃

・原型を二センチ倒して写します。

・前中央線を下に延長してヒップ線を入れ、ヒップサイズをしるします。

・ウェスト線に、ウェストサイズ十七センチ五ミリとダーツ分六センチを加えてしるし、後同様袖下を四センチ下げて脇線を結びます。

・ペプラムの丈を十七センチとし、裾線を引きます。

・肩線を延長して袖丈をしるし、袖先を直角に六センチ下げ、後の要領で十センチ五ミリの袖口寸法を引いてカーヴに描き直し、袖下線も同様に引きます。

・切替え線は、袖ぐり線でバスト線より二センチ五ミリ下から、乳下り線で前中央から十二センチ入つたところを通り、ウェスト線で中央から八センチ入つたところに結び、ここで三センチ五ミリのダーツを図のような方向に描き、ウェスト線から十一センチのポケット口をしるします。

・このポケット口を三センチ下つたところから、ポケット外廻りの切替え線を図のように描きます。

・袖ぐりでも切替え線に六ミリのダーツをとり、ここと袖下を結び、袖下で五センチ五ミリ交叉させて図のように結び、袖下線を訂正します。

・ウェスト線に、切替えのダーツより三センチ五ミリ離し、二センチ五ミリのダーツをとります。

・打合二センチ五ミリを、乳下り線より下に平行に出します。

・衿ぐりはネックポイントで四センチハイネックし、その先から図のようなカーヴ線で打合先に結びます。

・五センチ五ミリ巾の編物のカラー附位置を、図の点線のように記入します。

・切替え線からポケット口にかけて、二センチ八ミリ巾の毛糸編の附位置をしるします。

・図の位置に見返し線と芯取り線をそれぞれ記入します。

カラー

・五センチ五ミリ巾の長方形に引きます。

スカート

・スカート丈七十センチ五ミリ、裾巾二十六センチ、ヒップのゆるみは四センチとし、図のようなタイトスカートを引きます。

・後中央より片襞分七センチを平行に出します。

・前後ともダーツを記入します。

・バンドは三センチ巾にとり、後持出し分を二～四センチつけます。

縫方の要点

・ジャケットの詳しい縫方は、別項一七三頁に発表してありますから、ここではこのデザインについて要点だけ説明します。

・カラーと切替えに挟み込む編物は、製図の巾より附の縫代分として五ミリ巾広にあみます。

・ポケットはダーツを縫代分として、編物を口布として箱ポケットを作ります。

・カラーは衿ぐり側を見返しと身頃で挟み附にし、出来上り通りに表に返し、外廻りを点線の附位置にとじつけます。

に三センチ出します。

・中央線を下に延長してヒップ丈二十センチを計り、ヒップ線を引いて出来上りヒップサイズ二十五センチ五ミリを計ります。

・肩先で二センチ五ミリ上げ、ネックポイントと結んで、肩巾同寸にいせ込み分一センチを加えて肩先をしるし、その先に袖丈（出来上り袖丈を三十九センチとし、伸し分を差し引いたもの）を延長します。

・袖先で直角に四センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直して直角に袖口寸法十三センチ五ミリを引きます。

・袖下線は、脇でバスト線より三センチ下と袖口下を結びます。

・背の線は、中央線より衿ぐり線で八ミリ出し、ウエスト線では二センチ入れて結び、ウエスト線より十八センチ下では一センチ出して、図のようなカーヴ線で結びます。

・ネックポイントで着込み分を一センチ出し、肩先と結び直します。

・背の線を衿ぐり線より上に五センチ五ミリ延長し、ネックポイントでも五センチハイネックして衿ぐり線を描き直し、図の位置に八ミリの衿ぐりダーツをとります。

・ウエスト線上に、背の線からウエストサイズ十七センチ五ミリにダーツ分三センチ五ミリを加えてしるし、ヒップ脇にそれぞれ結んで脇線とし、袖下と袖下の角を丸く訂正します。

・丈をウエスト線から十八センチとし、裾線を引きます。

・ウエスト線のダーツは、背の線から七センチ入りに記入の寸法で描きます。

・肘線で袖下を二センチ五ミリ切り開き、

図の位置で一センチのダーツを二本とり、残りをいせ込みます。

・衿ぐり見返しを五センチ巾に描きます。

前身頃

・原型を二センチ倒して写します。

・ネックポイントで一センチ五ミリのダーツを図の方向にとり、ダーツをたたんでもう一度原型をのせ、肩、袖ぐり、脇線を写し直します。

・中央線をウェスト線より下に二十センチ延長し、ヒップ線を引き、ヒップサイズ二十五センチ五ミリを計ります。

・訂正した肩線を延長して袖丈を計り、袖先の下りを一センチ五ミリとして、後と同じ要領で袖口寸法十一センチ五ミリの袖を引きます。

・ウェスト線上に、ウェストサイズにダーツ分七センチ五ミリを加えてしるし、ヒップ線ではダーツ分を二センチ出して脇線を引き、丈をウェスト線より十八センチとし、裾線を引きます。

・ウェスト線にダーツを二本とります。

・ペプラムのポケットは、図の位置にややカーヴした線で描きますが、ポケットロをスラッシュにするため、縫代分として一センチのダーツを描き、裾線でその分を一センチ下げて訂正します。

・ネックポイントで五センチハイネックし、先を少し上げて肩線につながりよく結び入れます。

・打合六センチ五ミリは、ウェスト線から八センチ上まで出し、ここから衿ぐりの先にカーヴ線で結びます。

・胸の切替え線は、打合先でウェスト線より八センチ上から、図のような山形のカーヴ線で脇線に結びます。

・この切替え線の一番高いところで、上身頃をカラー風に浮かせるので、衿ぐりダーツの先から切開き線を入れます。

・見返し線は、衿ぐりで五センチ巾、裾線で十二センチ巾とします。

・『前身頃上布の切開き方』図を参照し、ネックのダーツを型紙でつまみ、その下の切開き線を切り込むと、切替え線のゆとり分が開かれます。

スカート

・縦線をウェスト線のくり分一センチ五ミリと、スカート丈七十センチ五ミリとし、横線はヒップサイズ二十四センチの二倍の寸法として、長方形を引きます。

・ウェスト線上に、ウェストサイズ十六センチ五ミリに、前はタック分六センチ五ミリ、後ではダーツ分五センチにいせ込み分一センチを加えた寸法を計り、一センチ五ミリのくりをつけてウエスト線を描き直し、ヒップ線辺りで消えるように脇線を描きます。

・前スカートにはタックを二本、後スカートにはダーツを二本とります。

・後中央線平行に襞分十センチをとり、裾線から二十センチ上を襞山のぬい止りとします。

・バンドは、巾を三センチに引き、下前持出しを十センチとります。

口絵（24）前身頃上布の切開き方

口絵（24）芯地のダーツの縫方

裁方と縫方の要点

・ジャケットの詳しい縫方は別項一七三頁を、フレンチスリーヴの伸縮は、別項二八頁を参照してください。

・切替え線より上の斜線の部分はライニングとし、この部分だけ下の身頃につづけて裁ち、別にこの斜線の型紙を、上側の身頃と同様に切り開いて、共色の薄地布で裁つて裏布とします。

芯地のダーツの縫方

・(1)図のように、ウェストのダーツ分を切りとります。

・(2)図のように、ダーツの裁目をつき

口絵（24）ポケットの作り方

口絵（24）前身頃切替えの縫方

(1)

肩線
充分に伸す
(前身頃上布)表
折山
わ
0.5手前まで
ぬい止り
折山わ
伸す
バイヤス共布の端を入れる
たてまつり
(上布裏布)表

(2)

(上布裏布)裏
肩
(前身頃上布)表
折山わ
裏布
折山わ
ぬい止り
切替え線の縫代を割る
袖下
脇線
(前身頃)表
前中央
ダーツ

合せにして、一センチ五ミリ巾のバイヤステープを薄糊でこの裏側に貼り、アイロンで乾かし、表側からクロスミシンで押えます。

ポケットの作り方

•（1）図のように、身頃ポケット附位置に共布の見返しを中表に合せ、ダーツの巾に地縫し、中央に切込みをします。

•（2）図のように見返し布を裏側に引き出し、その先に共色薄地布の袋布をぬい合せ、縫代は袋布の方に倒します。

•（3）図のように、ポケット口がずれぬように注意しながら二枚の袋布を合せ、袋布の周囲を二度縫します。

(3)

(後身頃)裏
肩線縫代割る
いせ込み
折山わ
芯
ライニング裏側
上布裏布表
(前身頃上布)裏
切替え線縫代割る
返し縫して止める
肩線
(前身頃)裏
裏前身頃表
(見返し布)表
(前身頃上布)表浮かせておく
(前身頃)表

前身頃の切替えの縫方

•前身頃上布の切替え線は（1）図のように、カーヴの強いところの縫代に切込みをし、縫代が吊れぬように共布のバイヤス布の端を入れ、この縫代の先にライニングの裏布をまつりつけます。

•上下の前身頃を脇からぬい止りまでぬって縫代を割り、ここから打合先までは縫代を上に倒し、身頃のライニングと薄地のライニングの脇側を止めます。

•前後の身頃を中表に重ね、肩をぬって縫代を割りますが、前身頃のライニングも一緒にぬい合せます。

肩線をドロップさせた一般向きのスーツ

（口絵 25）

用布
表＝ダブル巾で二ヤール三分
裏＝七十一センチ巾で二ヤール一分

デザイン

後身頃

•バストのゆるみを十四センチにするため、バストの脇で一センチ五ミリ出します。

•中央線を下に二十センチ延長し、ヒップ線を引き、ヒップサイズ二十四センチを計ります。

•背の線をウェスト線で二センチ入れて、背巾線の少し上には直線に近い線で結び、ヒップにはカーヴ線で結びます。

•ウェスト線に、背の線からウェストサイズ十六センチをしるし、その先にダーツ分を二センチ加えて、脇線をバスト脇とヒップ線の脇に結びます。

•肩巾は、ダーツ分といせ込み分の二センチを広くし、袖ぐりを引き直します。

•ネックポイントで一センチ出して肩線を訂正し、衿ぐりを後中央で七ミリ、ネックポイントで五ミリ上げ、肩に一センチ五ミリのダーツを描きます。

•ペプラムの丈は十八センチとし、裾線を描きます。

•ウェスト線のダーツは、二センチの分量で描きます。

•脇線は、バスト線で三センチ、ウェスト線で二センチ、裾で三センチ五ミリ後に廻し、ウェスト線から上は直線で、ヒップにかけては腰の丸みをつけて、図のように引き直します。

前身頃

•原型を二センチ倒して写し、バスト線の脇で一センチ五ミリ出します。

口絵（25）　スーツのデザイン

●中央線を下に二十センチ延長し、ヒップ線を入れ、ヒップサイズ二十七センチを計ります。

●ウェスト線に、ウェストサイズ十九センチにダーツ分七センチを加えてしるし、脇線を結びます。

●ペプラムの丈を十八センチとし、裾線をカーヴ線で描きます。

●後脇でかきとつた分を前脇に加えて脇線を図のように引き直し、ウェスト線から上下に後脇丈と同寸を計り、袖ぐりと裾線を訂正します。

●切替え線は、袖ぐり線で胸巾線のところから、ウェスト線で前中央から八センチ入りにカーヴ線で結び、ここから下は裾で十一センチ入りに直線で結び、図の形のポケット口を描きます。

●この切替え線を利用して、袖ぐりで一センチ、ウェスト線で三センチ五ミリのダーツをとり、乳下りの位置では六ミリ交叉させて、脇布側の切替え線(図の点線)を引きます。

●ウェスト線には、切替えのダーツより三センチ五ミリ脇寄りに一センチ五ミリのダーツを描き、更に三センチ五ミリ離して二センチのダーツを、袖ぐり線でも一センチダーツさせて描きます。

●乳下り線より二センチ五ミリ下を折先とし、これより下に打合二センチ五ミリを出します。

●衿ぐりをネックポイントで五ミリハイネックして引き直し、この線上にネックから三センチ下つて、三センチの衿腰を出し、折先と結んで折山線とします。

●ラペルは、衿ぐりにネックポイントから四センチ下り、中央線の原型衿ぐりの位置と直線で結び、これを折山線より先に十二センチ延長し、ここと折先を結び、角を一センチ三ミリ落してラペル外廻り線を描きます。

●カラーは、衿腰を計つた点から折山線に平行線を引き上げ、この線上に衿附寸法を計り、直角に二センチ倒して附線を引き直し、附寸法を計り直して、直角に後カラー巾五ミリを引きます。

●ラペルの先より六センチ入りをカラー附止りとし、ラペル先との開きを六センチにして、前カラー巾を三センチ五ミリに引き、カラー外廻り線を結び、カラー先を六ミリの丸みにします。

●ネックポイントから四センチ下つた衿附線の角を少し落し、カラーの折山線は附線に平行に訂正します。

●見返しは、肩三センチ巾、裾七センチ巾とし、カーヴ線で結びます。

●芯取り線は、脇線で袖ぐりより八センチ下からカーヴ線で引き、ウ

ェスト線より下は見返し巾より一センチ五ミリ広くします。

・前中央にボタンの位置を記入します。

袖

・袖巾のゆるみを三センチ五ミリとし、ツーピーススリーヴの元型を引き、袖山を一センチ五ミリ高くします。

スカート

・スカート丈七十センチ、裾巾二十六センチ、ヒップのゆるみを六センチにし、図のようなタイトスカートを引き、前後の差を二センチつけます。

・後中央は襞奥八センチを平行に出し、図のような片襞にたたみ、襞山のぬい止りは裾から二十センチ上とします。

・バンドは四センチ巾とし、ウェスト寸法に、後持出し分四センチを加えます。

裁方と縫方の要点

・ジャケットの詳しい縫方は、別項一七三頁を御参照ください。ここではこのデザインの要点だけ説明します。

・前身頃中央布は、ポケットの斜線の部分を型紙で一センチたたんで裁ちます。

・脇布は、薄地の場合は袋布をつづけて裁ってもよく、厚地の場合は同色の薄地布を接ぎ足します。

ポケットの作り方

・(1)図を参照し、前身頃中央布のポケットの口明止りのところに、表から同色の薄地布を当て、三角にミシンをかけて、この中央を二枚一緒にぬい止りまで切込みをし、当布を裏側に返してほつれ止めをします。

・(2)図のように、ポケット口裏布の奥に袋布をぬい合せ、ほつれ止めをした前身頃と中表に合せ、ポケット口をほつれ止めをした角から角まで、裏布が控えられるようにぬい合せます。

・ポケット口裏布のぬい止りの位置に切込みを入れ、表に返してポケット口をととのえます。

・(3)図のように、脇布につづけて裁った袋布（厚地の場合は薄地布の袋布をつけておく。）に、中央布の方にぬいつけた袋布を重ね、袋布の外廻りをぬい合せます。

・ポケット口より上下の、脇布と中央布との切替え線をぬい合せ、縫代は割ります。

・(4)図のように、ポケット口の両側は奥まつりをします。

用布

ジャケットの表布＝ダブル巾で一ヤール三分、裏布＝七十一センチ巾で二ヤール四分、スカート＝ダブル巾で九分、ほかに中細または極細毛糸を一オンス

口絵（25） ポケットの作り方

(1)
切替え線
切込み
当布
三角にミシンをかける
ポケット口
(前身頃)
表
裾
当布
切込み

(2)
(ほつれ止め当布)
一枚だけ切込み
(前身頃)表
外廻りをぬい合せ縫代は細く切り揃える
表と共布
(ポケット口裏布)
裏
(袋布)裏
0.5の縫代
(ほつれ止め当布)
切込み
裾

(3)
切替え縫代割る
切込み
(前身頃中央布)裏
(ほつれ止め当布)
(袋布)裏
袋布外廻り地縫い
(前身頃脇布)表
ポケット口
ぬい合せて割る
袋布縫代切りとる
切込み

(4)
(前身頃脇布)表
ポケット口は裏布を控える
奥まつりする
割る
(前身頃中央布)
表
裾
奥まつりする
割る

スェーターの感じを扱つた

一般向きスーツ

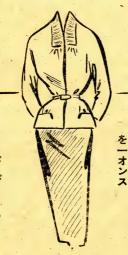
（口絵 26）

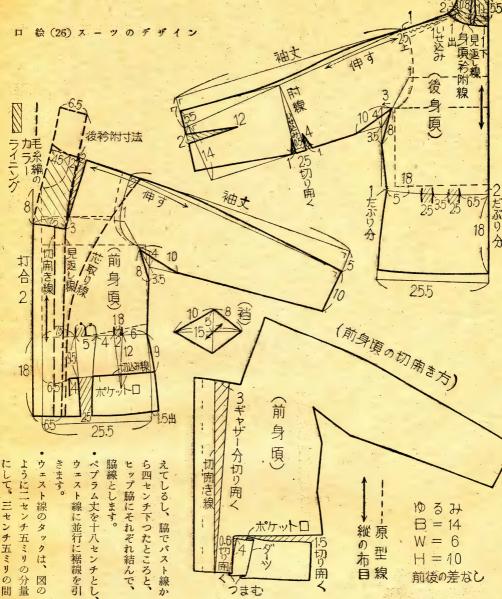
デザイン

後身頃

・バストのゆるみを十四センチとし、前後の差をなしにするため、脇線を平行に、三センチ出します。

・ウェスト線は、だぶり分を後中央で二センチ、脇で一センチつけて、カーヴ線で訂正します。

・後中央線を下に延長し、訂正したウェスト線より下にヒップ丈二十センチを計り、ヒップサイズ二十五センチ五ミリを引きます。

・ウェスト線に、後中央よりウェスト寸法十八センチとタック分五センチを加えてしるし、脇でバスト線から四センチ下つたところと、ヒップ脇にそれぞれ結んで、脇線とします。

・ペプラム丈を十八センチとし、ウェスト線に並行に裾線を引きます。

・ウェスト線のタックは、図のように二センチ五ミリの分量にして、三センチ五ミリの間隔に二本とります。

・肩先を二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、その線を延長してしるし、その先に袖丈(袖山の伸し分を差し引いた寸法)を計ります。

・袖先で直角に七センチ下げて袖丈を計り直し、袖口寸法十四センチを直角に引き、バスト線より四センチ下に袖下線を結びます。

・ネックポイントで一センチ出して肩先と結び直し、衿ぐりを肩で二センチ、後中央で一センチくつて描き直し、ここを身頃の衿附線とします。

・肘線で袖下を二センチ五ミリ切り開き、袖山線、袖下線をつながりよく引き直し、袖下線の肘の位置には、図のように一センチのダーツを二本とり、五ミリをいせ込みにします。

・袖口のダーツは、袖山より五センチ五ミリ下に、二センチの分量で十二センチの長さにとります。

・袖山線にふくらみをつけて太線のように訂正します。

・襟附線は、背巾線の一センチ外に向つて、記入の寸法に引きます。

・衿ぐりは後中央で五センチ五ミリ、ネックポイントで四センチ五ミリ上げて描き、肩線につながりよく結びます。

・衿ぐりにダーツと見返し線を描きます。

前身頃

・前中央線に平行に打合二センチを出し

ます。

•衿附線は、打合先で衿ぐり線から八センチ下り、七センチ五ミリ巾を胸巾線の三センチ下にとり、肩でネックポイントから二センチ入つたところに図のように結び、ここに二センチのダーツをとります。

•ダーツ分をたたんで原型をのせ、肩と袖ぐり線を写し直し、袖ぐり下で下つた分をウェスト線の脇でも下げて、ウェスト線と脇線を訂正します。

•前中央線を下に二十センチ延長し、ヒップ線を引き、ヒップサイズ二十五センチ五ミリを計ります。

•ウェスト線でウェストサイズ十八センチにダーツ分より一センチ少い寸法を加えてしるし、(あとで一センチくらい切り開かれる。)脇線をバストより四センチ下と、ヒップ線の脇にそれぞれ結びます。

•ペプラムの丈を十八センチとし、裾線をカーヴ線で描き、脇裾に一センチ五ミリ出して、脇線を引き直します。

•ウェストのタックは、前中央から七センチ五ミリ離して五センチに、そこから四センチ離して二センチの分量にとります。

•訂正した肩線を延長して袖丈を計り、袖先の下り五センチ、袖口寸法十センチの袖を引き、襠附線を記入します。

•カラーは、ネックポイントで四センチ五ミリハイネックし、その先に打合先を図のようなカーヴ線で結び、衿附線を上に延長して後衿附寸法を計り、直角に後カラー巾六センチ五ミリを引き、外廻り線を結びます。

•切開き線を、前カラーの先から裾まで、打合先に平行に引き下し、ここで衿元のギャザー分を切り開きます。

•ポケットは、前中央から六センチ五ミリ入り、ウェスト線から九センチ五ミリ下つた点と、脇線で九センチ下つた点を結んでポケットロとし、中央側に四センチ切り込んで、ポケットロを鈎形にします。

•見返し線と芯取り線を記入します。

•『前身頃の切開き方』図を参照し、衿元のギャザー分を三センチ切り開き、ポケットはポケットロに鈎形に切込みをし、ウェストのタック分はたたみ込み、中央側の角で六ミリ、脇で一センチ五ミリの縫代分を切り開き、裾線のたるむ分を図のようにつまんで裁ちますが、この分はあらかじめ脇裾で出して製図してあります。

•身頃ポケットロのダーツ分は、ギャザー分となります。

•ウェスト線の中央寄りのタックは、タック分五センチをそのままつまんでしまうとギャザーが感じよく出ないので、図のように半分くらいつまんで、あとはギャザーにします。

襠

•襠巾を十センチとし、附線は身頃と同寸にして図のような形に引きます。

スカート

•別項のスリムスカートを参照。

縫方の要点

•ジャケットの詳しい縫方は別項一七三頁参照。ここではこのデザインについての要点だけ紹介します。

•芯は材料によつて、胸のギャザーを寄せる場合も寄せない場合もあります。

•前後身頃とも衿元の斜線の部分は、同色の薄地布で裁ち、毛糸編のカラーをささえるライニングとします。

•身頃の衿元のギャザーを感じよく寄せ、ライニングとぬい合せます。

•ライニング、見返し布、身頃とも、肩をそれぞれ割接ぎにします。

•身頃衿附線に毛糸編のカラーをぬい合せ、縫代を割ります。

•ライニングを衿附の縫代に止めます。

•裏布をぬい合せた見返し布を、身頃衿ぐり線と中表に合せ、見返しを五ミリから一センチ控えて外廻りをぬい合せ、この縫代にライニングを止めつけます。

•見返し奥を衿附線にまつりつけます。

•カラーの端はゆるめ加減に形よく折り曲げ、少し奥を軽くまつりつけて浮いた感じに仕上げます。

ポケットをアクセントにした

ブラウスとスカート

（口絵　27）

用布

ブラウス＝ダブル巾で一ヤール三分
スカート＝一メートル十センチ巾の場合は一ヤール八分、七十一センチ巾の場合は二ヤール八分

デザイン

後身頃

•バストのゆるみを十二センチとし、前後の差をなしにするため、脇線平行に

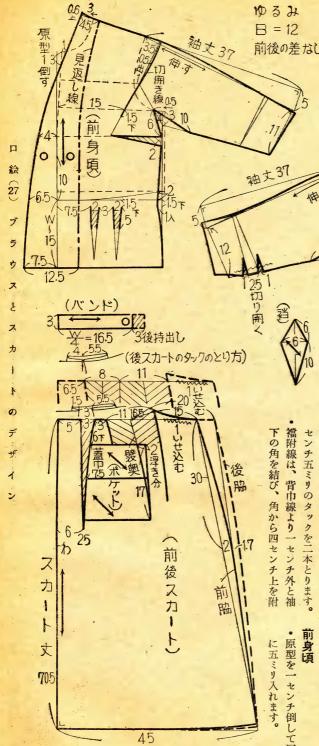
二センチ五ミリ出します。
・後中央線を下に延長してウェスト線より十五センチを計り、直角に裾線を引き、脇線を裾まで引き直します。
・肩先を二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾同寸にいせ込み分一センチを加えて計り、更に袖丈（出来上り寸法三十七センチから伸し分を引いたもの）を延長します。

口絵(27)ブラウスとスカートのデザイン

・袖先で直角に五センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直し、直角に袖口寸法十二センチを引きます。
・袖下線は、バスト線より三センチ下と袖口下を結びます。
・ネックポイントで、着込み分として一センチ出して肩先と結び直し、袖山線もふくらみをつけて描き直します。
・衿ぐり線を後中央で八ミリ上げてくり直し、そこでダーツ分八ミリを後中央に出して裾線と結び、背の線とします。
・背の線を四センチ引き上げ、ネックポイントでも三センチ上げて衿ぐり線を訂正し、肩線につながりよく結びます。
・八ミリの衿ぐりダーツを図の位置にとります。
・脇線をウェスト線の一センチ五ミリ下で、図のように一センチくり入れて引き直します。
・ウェスト線の一センチ五ミリ下に、一センチ五ミリのタックを二本とります。
・襠附線は、背巾線より一センチ外と袖下の角を結び、角から四センチ上を附止りとし、脇線上に六センチ、袖下線上に十センチの附線を引きます。
・肩のタック分の切開き線は、肩先から三センチ五ミリドロップした点と、バスト線上で原型中央より十三センチ入つた点を直線で結び、そのまま背の線まで延長します。
・タックの線は、止りの位置を切開き線上でバスト線より二センチ上とし、図のように六ミリのふくらみをつけて肩先と結び直します。
・衿ぐりの見返し線は、背の線で五センチ五ミリ巾、肩線で四センチ五ミリ巾に描きます。

前身頃

・原型を一センチ倒して写し、脇線平行に五ミリ入れます。
・前中央線を下に延長してウェスト線から十五センチを計り、脇線を後脇丈に脇ダーツ分二センチを加えた寸法に引き下し、裾線を引きます。
・肩線を延長して袖丈三十七センチを計り、後と同じ要領

で袖口寸法十一センチの袖を引きます。

・後と同様に脇線と襠附線を描き、ウェスト線に二本のタックをとります。

・ネックポイントで三センチハイネックし、先を六ミリ上げて肩線につながりよく結びます。

・打合は乳下り線で四センチ、ウェスト線で六センチ五ミリ、裾線では七センチ五ミリ出し、これをカーヴ線で結び、更にハイネックした先に図のように結びます。

・肩先のタックは、肩先から三センチ五ミリドロップした点と、胸巾線上に原型中央線より十五センチ入つた点を直線で結び、これを乳下り線まで延長して切開き線とし、この線上でバスト線より一センチ五ミリ下をタックの止りとし、タックの線をカーヴ線で結び直します。

・脇のダーツは乳下り線から下に二センチの分量をとり、タックの切開き線の位置までの長さに描きます。

・見返し線とボタンの位置を記入します。

襠

・襠巾を六センチとし、附寸法を身頃に合せて図のように引きます。

スカート

・中央線を引いてスカート丈七十センチ五ミリを計り、直角に裾巾四十五センチを引き、ウェスト線も中央線に直角に引きます。

・前スカートは、「ウェスト線に出来上りウェストサイズ十六センチ五ミリと、ダーツ分とタック分といせ込み分の十五センチを加えた寸法を計り、脇線を裾と直線で結んでから、図のように二センチのふくらみをつけて引き直します。

・ウェスト線に前中央から五センチ入り、三センチのダーツを二十五センチの長さにとり、更にこのダーツより三センチ離して、十一センチの分量のタックをとり、このタックを脇側を多くたたんで、ウェスト線を訂正します。

・ポケットは、ウェスト線より六センチ下に、中央側をダーツ線とし、脇側をタックの襞奥の線として十七センチの深さに描き、ポケット口の浮き分を脇側に二センチ出します。

・ポケットの蓋布は、七センチ五ミリ巾に描きます。

・後スカートは、ウェスト線で、ウェストサイズにタック分といせ込み分を二十センチ加えて計り、脇線を裾と結び、一センチ七ミリのふくらみをつけて引き直します。

・ウェスト線に、ボックスのタックを図のようにとります。

・バンドは三センチ巾にし、記入の寸法に引き、三センチの持出しをつけます。

口絵（27）

前後身頃の切開き方

裁方と縫方の要点

・『前身頃の切開き方』図を参照して、タックの切開き線に切込みを入れ、脇ダーツをたたむと、図のようにタック分が切り開かれます。

・後身頃のタックは『後身頃の切開き方』図を参照して、前身頃と同寸だけ切り開きます。

・前後とも切り開いたタック分の中央に切込みを入れ、身頃側も袖側もそれぞれ肩をぬい合せます。

・『タックの始末』（1）図のように、袖側のタック分を出来上り通りにたたむと、縫代が吊れて落ち着かないので、この形通りに別に見返し布を裁ち、折山より五ミリくらい控えて、伸さないように注意しながらぬい合せます。

・（2）図のようにタックを出来上り通りにたたみ、裏側からタックの奥を、（肩で一センチ五ミリくらい奥）タックの止りが剣先になるようにぬいますが、そのときタックを吊るための縦地のテープを四本ぬいつけます。

・このテープは、吊り工合を見て図のよ

口絵（27）タックの始末

若い人にも中年にも向く
ブラウスとスカート

（口絵　28）

口絵（28）ブラウスのデザイン

用布

ブラウス＝ダブル巾で一ヤール四分

スカート＝ダブル巾で九分

デザイン

後身頃

・バストのゆるみを十二センチとし、前後の差をなしにするため、脇線を平行に二センチ五ミリ出します。

・後中央線を下に十三センチ延長し、直角に裾線を引き、脇線を裾まで引き下します。

・肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、この延長上に肩巾にいせ込み分一センチを加えて肩先をしるし、その先に袖丈（出来上り袖丈三十

うに見返しの奥に止めつけておきます。

スカートのポケットの附方

・ポケット布に蓋布をぬい合せ、図のようにポケット口と底を出来上り通りに仕上げ、前スカートのダーツとタックの奥に切込みを入れ、ポケットを挟み込んで、それぞれ一緒にぬい合せます。（ポケット口は二センチ浮かせる。）

七センチより伸し分を引いたもの）を計ります。
・袖先で直角に四センチ下げて肩先と結び直し、袖丈を計り直し、直角に袖口寸法十一センチ五ミリを引きます。
・袖下線は、脇でバスト線より三センチ下に結びます。
・脇線は、ウェスト線より一センチ五ミリ下で一センチ五ミリくり入れ、裾で五ミリ出して引き直します。
・ウェスト線より一センチ五ミリ下に、二センチのダーツを二本とります。
・衿ぐりの後中央でダーツ分の一センチを出し、裾と中央線を結び直し、この線を衿ぐりより上に七センチ五ミリ延長します。
・ネックポイントでは着込み分一センチを出してからハイネック分の六センチを上げて衿ぐり線を描き直し、肩線とのつながりよく訂正します。
・原型衿ぐり線より一センチ上に、図のように一センチのダーツを描き、見返し線を記入します。
・前袖を製図してから前後の袖山をつき合せて、肘線で後袖下を二センチ五ミリ切り開き、袖山、袖下線をつながりよく訂正し、肘の位置に一センチのダーツを二本とり、残りをいせ込みます。

前身頃

・原型を一センチ五ミリ倒して写し、脇線を五ミリ平行に入れます。
・肩線でネックポイントより八センチ入りと、乳下り線で前中央から七センチ五ミリ入りを結び、図のように三センチの肩ダーツをバスト線の少し下で消すようにとります。
・肩ダーツ分をたたんで原型を置き直し、肩線、袖ぐり線を訂正し、袖ぐり下で下つた分を脇でも下げて、ウェスト線と脇線を引き直します。
・脇線を垂直に引き下し、後脇丈と同寸にダーツ分三センチ五ミリを加えてしるし、前中央線も下に延長してダーツ分と十三センチを加えた寸法を計り、裾線を描きます。
・肩線を延長して袖丈を計り、袖先の下りを一センチ五ミリ、袖口寸法十センチ五ミリの袖を引きます。
・衿ぐりは、肩線を六センチ延長し、先を二センチ上げて肩線と結び直してハイネックとし、中央線で原型衿ぐりより四センチ下げて一センチ出し、ここと̇ハ̇イ̇ネ̇ックした先とを直線で結び、二センチ五ミリのふくらみをつけて引き直します。
・前明止りは乳下り線より三センチ五ミリ上とし、図のようなカーヴ線で打合線を衿ぐり線に結び、ボタンの位置をしるします。
・図の位置に一センチの衿ぐりダーツを描き入れます。
・脇ダーツは、ウェスト線より十センチ上と前明止りを結び、三センチ五ミリの脇ダーツを引き、このダーツ分をたたんで脇線を、ウェスト線より一センチ五ミリ下で一センチくり入れ、裾で一センチ出して引き直します。
・胸ポケットは、肩のダーツ線に肩から八センチ下り、一センチ内側よりポケットロ十二センチ五ミリを引き、巾四センチの蓋布を図のように描きます。
・『前身頃の切開き方』図を参照し、型紙の胸ダーツ分をたたむと、中央線がボタンの位置で三ミリくらいずつ倒れます。この倒し分が縫代となります。
・ポケットは、ポケットロのダーツをたたんで蓋の外廻りを写し直すと、図のように縫代分が開かれるので、ダーツの中央に切込みを入れますが、ダーツ分の少いところは中央側の出来上りに三ミリの縫代をつけて、口明止りでは剣形に切り込みます。

スカート

・ヒップのゆ̇る̇み̇を四センチにしたヒップサイズの二分の一と、スカート丈七十センチ五ミリに一センチ五ミリを加えた長方形を引き、中央に脇線を入れます。
・ウェスト線に、ウェストサイズ十五センチ五ミリに、前はタック分六センチといせ込み分五ミリを加え、後はタック分五センチ五ミリといせ込み分一センチを加えてしるし、ウェスト線をカーヴ線で引き直し、脇線はヒップの丸

みをつけてダーツ風に消し、これより下は縫目なしにします。

・ウェスト線に記入の寸法のタックをとりますが、前タックは六センチのタック分の中央に切込みをし、先で二センチと三センチのタックをとり、タックをたたんでウェスト線を訂正します。

・後中央に襞分八センチを平行に出し、裾から三十センチ上を襞山のぬい止りとします。

・バンドは三センチ巾とし、下前後持出し分を八センチつけます。

縫方の要点

前明の始末

・前身頃の中央線をわに仕上げるため、上前打合側に三ミリの縫代をつけて明止りまで切り込み、上前のボタンの位置に玉縁ボタンホールを作ります。

口絵（28）ポケットの作り方

(1)
肩線
肩ダーツ縫代割る
切込み
（前身頃）裏
（表蓋布）裏
蓋の外廻り地縫
（ポケット袋布）裏
切込み

(2)
肩線
ダーツ
（前身頃）
0.1控える
（袋布をつづけたはめ込み布）
裁目をいせ込みはめ込み布に細かくまつる
（ポケット蓋布）
（袋布をつづけた裏蓋布）

・下前側は、くり抜かれた分を共布で裁って接ぎ足し、縫代は割ります。

・身頃、見返しとも、それぞれ肩をぬい合せてから中表に合せて、打合先をぐるっとぬい、表に返して仕上げます。

ポケットの作り方

・ポケット袋布は、二枚とも蓋布をつづけて裁ちますが、布地の厚地の場合は、蓋布をはめ込む方を共布で、蓋裏になる方を共色の薄地布で裁ちます。ジャージー程度の薄地の場合は、二枚とも共布で裁って結構です。

・(1)図のように、肩ダーツをぬって縫代を割り、身頃からつづけて裁ってあるポケット蓋布に、袋布をつづけた裏蓋布を中表に合せ、裏が一ミリくらい控えられるように外廻りをぬい合せ、両端とも縫代いっぱいに切込みを入れ、表に返します。

・(2)図のように、くり抜かれた下側の方には、袋布をつづけて裁ってある共布を接ぎ足しますが、くり抜かれた裁切りの周りを共糸で細かくぬい縮め、何回も湿布を当ててアイロンで押え、裁目のままはめ込む布に重ねて、裁目が出来上りじるしより少しでも内側に入るように伸し込み、織糸で細かくまつりつけます。ポケット口明止りを上下ともしっかりぬい止め、裏側より袋布外廻りを二度縫します。

ポケットを面白く扱つた ブラウスとスカート

（口絵　29）

用布
ブラウス＝ダブル巾で一ヤール一分
スカート＝ダブル巾で一ヤール八分

デザイン

後身頃

・バストのゆるみを十センチとし、前後の差をなしにしますので、脇線を原型より二センチ出します。

・丈はウェスト線より十三センチとして延長し、裾線を引きます。

・肩先を二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩線を延長して、肩巾にいせ込み分一センチを加えてしるし、その先に袖丈（出来上り袖丈を三十七センチとし、伸し分を差し引いたもの）を計ります。

・袖先を直角に三センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直して直角に袖口寸法十二センチを引き、脇線で、バスト線から三センチ下と結んで袖下線を描きます。

・ネックポイントで一センチ上げて肩線を引き直し、衿ぐりは、後中央で二センチ、ネックポイントで一センチ五ミリ上げて描き直し、図のように三ミリかきとって肩線につながりよく結び入れます。

・肘線で袖下を二センチ五ミリ切り開き、袖山線と袖下線をつながりよく引き直し、袖下には一センチのダーツを図のように二本とり、五ミリをいせ込みにし、袖口下で七ミリ出して袖口線を訂正します。

・袖山線にふくらみをつけて訂正します。

・脇線は、ウェスト線で一センチ五ミリ

入れて引き直し、袖下の角に丸みをつけます。

・後中央に打合分一センチ五ミリを平行に出し、ボタンの位置をしるします。

・衿ぐりと打合先に見返し線を入れます。

前身頃

・原型を一センチ倒して写します。

・脇線を原型より平行に一センチ入れて、後脇丈同寸に脇ダーツ分一センチ五ミリを加えた寸法に引き下し、裾線を引きます。

・肩線を延長して袖丈を計り、後と同じ要領で記入の寸法の袖を引き、脇線も引き直します。

・衿ぐりは前中央で二センチ、ネックポイントで一センチ五ミリ上げて描き直し、ネックポイントの先を三ミリ上げて肩線へつながりよく結びます。

・ウエスト線に、四センチのダーツを図のように描きます。

・胸の切替え線は、胸巾線より五ミリ上で中央線直角に八センチ二ミリに引き、ここから下に十一センチ五ミリのポケットロ明を、六センチ八ミリ入りのところに結び、更に脇線で乳下り位置に結び、一センチ五ミリの脇ダーツをとります。

・ポケットロは二ミリのふくらみをつけてカーヴ線に描き直し、四センチ巾のポケットロ布を図のように描きます。

・衿ぐりに沿つて、三センチ巾の見返し線を描き入れます。

スカート

・スカート丈七十センチ五ミリ、ウエストは前後ともウエストサイズの四分の一に、ダーツ分二センチ五ミリといせ込み分一センチを加えて十九センチとし、前裾巾を五十センチ、後裾巾を五十五センチにして、前後のサーキュラースカートを引きます。

・脇線は、前後とも八ミリの腰のふくらみをつけて図のように描き直します。

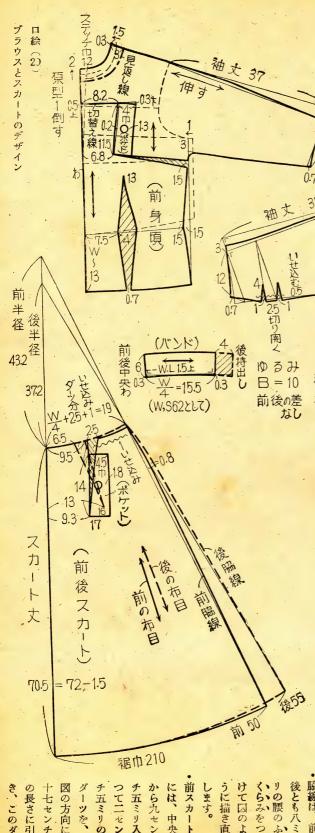
・前スカートには、中央から九センチ五ミリ入つて二センチ五ミリのダーツを、図の方向に十七センチの長さに引き、このダ

口絵（29）
ブラウスとスカートのデザイン

ーツを利用して四センチ五ミリ巾で長さ十四センチのポケット口布を図のように描き、ボタンの位置をしるします。
・後スカートは中央から六センチ五ミリ入りに、二センチ五ミリのダーツを長さ十六センチに描きます。
・バンドは、横線にウエストサイズ十五センチ五ミリを引き、両端とも三ミリずつ下げてカーヴ線で附線を引き直し、附寸法を計り直して、附線に直角に六センチ巾を引き、上側の線を描きます。
・左脇に四センチの後持出しをつけます。

裁方と縫方の要点

・後スカートのダーツは脇へ片返し、軽くふんわりさせておきます。
・ブラウスとスカートのポケットは、どちらも箱ポケットに作りますから、ポケット口布は、正バイヤスで口側をわにして裁ち、袋布は左右のポケットをつづけて一枚に裁ちます。

胸ポケットの作り方

・(1)図のように、前身頃上布のポケット口に、左右つづけて裁つた袋布を中表に合せ、ポケット口を口明じるしから口明じるしまでぬつて、身頃側の縫代だけ、角に向つて切込みを入れ、縫代は袋布側に片返しにします。
・(2)図のように、ポケット口布に袋布をぬい合せておき、口布のもう一方を、前身頃下布のポケット口にぬい合せて、縫代を割ります。
・(3)図のように、口布の上側を裏を少し控えて中からぬい合せ、ポケット口を少し浮かせて、口布の上側を奥まつりでぬい止め、ポケット附側は縫代を中とじしておきます。
・(4)図のように、袋布を左右にくぎるため、袋布の中央を袋布二枚だけ地縫し、外廻りもぬつて、袋布の上部縫代を身頃の切替えの縫代に止めつけます。

(1) 前中央 (前身頃上側)表 身頃一枚を角に向って切込み入れる 出来上りじるしまでぬい縫代袋布へ片返し (袋布)裏
(2) 0.2 (袋布)裏 (ポケット布)裏 出来上りじるしまでぬい縫代割る 0.2手前までぬい縫代袋布へ片返し 身頃一枚に切込み 脇 (前身頃下側)表
(3) 割る 前中央 (前身頃)表 縫代中とじ (ポケット布) わ 裏側を控えてぬい合せポケット口を少し浮かせて少し奥をまつる 割る
(4) 前身頃縫代に袋布縫代を止めつける (前身頃)裏 (袋布)裏 袋の中央にミシン 切替え 脇 袋底ミシン

口絵(29)胸ポケットの作り方

打合の扱い方の新しい ブラウスとスカート

（口絵 30）

用布
ブラウス＝ダブル巾で一ヤール七分
スカート＝ダブル巾で九分

デザイン

後身頃
・バストのゆるみを十二センチとし、前後の差をなしにするため、脇線を平行に二センチ五ミリ出します。
・丈をウエスト線から十三センチとして後中央線を延長し、直角に裾線を引き、脇線を裾まで延長します。
・肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾にいせ込み分一センチを加えて肩先をしるし直し、その先に袖丈からカフス丈を差し引いた寸法を延長します。
・袖先の下りを七センチとして肩先と結び、袖丈を計り直して直角に袖口寸法十四センチ五ミリを引き、脇線でバスト線より三センチ五ミリ下に、袖下線を結びます。
・ネックポイントで一センチ出して肩線を引き直し、更に袖山にふくらみをつけて肩線から袖山線を図のように引き直します。
・衿ぐりを一センチハイネックします。
・袖口のだぶり分を袖山で一センチ五ミ

口絵（30）ブラウスとスカートのデザイン

り、袖巾の中央で二センチ五ミリ、袖下で一センチ出してカーヴ線で結び、記入の寸法でタックを二本しるし、下側のタックの中央に四センチの明きをしるします。

・脇線は、ウェスト線より一センチ五ミリ下で一センチくり入れて描きます。

・ウェスト線のタックは、ウェスト線より一センチ五ミリ下に、一センチ五ミリの分量で二本とります。

・襠附線は、袖下の角より背巾線の二センチ外に向つて、袖側七センチ、身頃側六センチの附寸法に引きます。

前身頃

・原型を一センチ五ミリ倒し、脇線を平行に五ミリ入れます。

・中央線と脇線を下に十三センチ延長し、裾線をカーヴで描きます。

・肩線を延長して袖丈を計り、後と同じ要領で袖口寸法十二センチ五ミリの袖を引き、脇線も後と同様に引いて、襠附線を記入します。

・衿ぐりをネックポイントで一センチハイネックして描き直します。

・衿ぐり線上のネックポイントから三センチ下で、直角に衿腰三センチを計り、ウェスト線で打合六センチ五ミリを出したところと直線で結び、これを裾線まで延長して折山線とします。

・胸巾線より二センチ五ミリ上で折山線より三センチ五ミリ入りをA点とし、ポケットロ九センチを図のように引き、ここ とウェスト線で前中央から六センチ五ミ

り入りを直線で結び、図のように五ミリのくりをつけてカーヴ線で引き直し、この線を裾まで延長して切替え線とします。

・この切替え線を利用してウェスト線で三センチ五ミリのダーツをとり、更に三センチ離して二センチのタックを図のようにとります。

・折山線から切替え線までの部分（中央布）は、見返しつづきの表カラーにつづけて一枚の布に裁つため、この部分を折山線から反対側に写しとると、A点がA′点になります。このA′点をカラー附止りとして、カラー附線を図のように描きます。

・写しとつた中央布では、ポケット口の浮き分一センチ五ミリを図のように出します。

・カラーは、見返しつづきにするため、衿附止りまでの身頃衿附寸法を計り『カラーの型紙』図を参照して別紙にカラーを製図し、これを切りとつて、前身頃の衿ぐりにつき合せに置き、肩で身頃と三センチ重ねて、カラーの外廻りを写します。

・表カラーは見返しつづきとし、身頃中央布もつづけて裁つため、衿附線からつながりよく見返し線を描きます。

・裏カラーの附線をA点から二センチ上げて図のようにつながりよく描きます。

・前身頃脇布は、胸ポケットの袋布を図の点線のようにつづけて裁ち、このポケット口から衿附線までは、三センチくらい重なり分をつけて図のように描きます。

カフス

・五センチ五ミリ巾とし、図のように長方形に引き、下前持出しを三センチつけます。

スカート

・記入寸法のタイトスカートを引きます。

・後中央に片襞分十センチを平行に出します。

口絵（30）
前身頃の裁方

裁方と縫方の要点

・前身頃は中央布と脇布との二枚に切り替えますが、『前身頃の裁方』図のように、中央布の向きを反対にすると、わかりやすくなります。

・切替え線の縫代は少し多めにつけて、ポケットを作つてから、出来上りじるし通りに縫代を折り曲げ、アイロンで縫代をととのえ、脇布の上に中央布を重ねて、ステッチで押えます。

前立にドレープを扱つた ブラウスとスカート

（口絵　31）

用　布

ブラウス＝ダブル巾で一ヤール三分

スカート＝ダブル巾で九分

ブラウスのデザイン

後身頃

・バストのゆるみを十センチとし、前後の差をなしにしますので、脇線を平行に二センチ出します。

・丈はウェスト線より十三センチとして中央線を延長し、直角に裾線を引き、脇線を裾まで引き下します。

・肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、この線を延長して、肩巾にいせ込み分一センチを加えてしるし、更に袖丈三十七センチを計ります。

・袖先の下りを四センチとして肩先と結び、脇線でバスト線から三センチ五ミリ下と結んで袖下線とします。

・袖口線は、袖口下で少し出してカーヴ線に訂正します。

・ネックポイントで一センチ上げて肩線を引き直し、袖山線もふくらみをつけてカーヴ線で引き直します。

・衿ぐりは後中央で一センチ五ミリ、ネックポイントで一センチのハイネックにします。

・脇線をウェスト線より一センチ五ミリ下で一センチくり入れ、裾で一センチ出して図のように描き直し、袖下線にカーヴ線で結び入れます。

・肘線で袖下を二センチ五ミリ切り開き、袖山線、袖下線をつながりよく訂正し、肘の位置に一センチのダーツを二本とり、残りをいせ込みにします。

・ウェスト線のタックは、ウェスト線より一センチ五ミリ下に、一センチ五ミリの分量で二本とり、上から五センチをぬい止めます。

前身頃

・原型を一センチ倒して写します。

・中央線を下に十三センチ延長し、脇線を原型より一センチ入れます。

・肩線上にネックポイントより六センチ入り、三センチのダーツを描きます。

・肩ダーツをたたんで、その上に原型をのせて、肩、袖ぐり、脇、ウエスト線を引き直します。

・脇丈は後同寸にダーツ分一センチ三ミリを加えた寸法とし、裾線を引きます。

・肩線を延長して袖丈を計り、袖先で四センチ下げて、直角に袖口寸法十一センチ五ミリを引き、袖下線を結び、袖口をカーヴに訂正します。

・脇線は、脇ダーツ分を下げたウエスト位置より一センチくり入れて図のように引きます。

・衿ぐりは、ネックポイントで一センチハイネックに描きます。

・前立は巾四センチ五ミリ、ポイントの先を乳下りの位置とし、中央線より外に打合分を二センチ二ミリ半出して図のように描

ジャージーに向く若い人の

ブラウスとスカート

（口絵　32）

ブラウスのデザイン

後身頃

・バストのゆるみを十センチとし、前後の差をなしにしますので、脇線を平行に二センチ出します。

・後中央線を下に十三センチ延長し、脇でも同様に丈を計つて裾線を引きます。

・肩先を二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、これを延長して、肩巾とダーツ分一センチ、いせ込み分五ミリを計つてしるし、その先に袖丈（出来上り袖丈三十六センチから伸し分を差し引いたもの）を計ります。

・袖先で直角に四センチ下げて袖山線を引き直し、袖丈を計り直します。

・袖先で直角に袖口寸法十二センチをとり、袖下をバスト線より四センチ下げて、袖下線を引きます。

・ネックポイントで一センチ出して肩線を結び直し、つづけて袖山線をつながりよくカーヴ線で描き直し、袖口線は袖口下で六ミリ出して図のように描き直します。

・ネックポイントから肩線上に三センチ入り、図のように肩ダーツを描き、衿ぐりをネックポイントで一センチ、後中央で一センチ五ミリハイネックにして描きます。

・ウエスト線に、後中央からウエスト寸法十六センチ五ミリとダーツ分四センチを計り、脇線を図のように結んで、袖下の角に丸みをつけます。

・ウエストのダーツを二本描き入れます。

・打合二センチを後中央より平行に出します。

・肘で袖下を二センチ五ミリ切り開き、

き、ボタンの位置を記入します。

・ウエスト線より一センチ五ミリ下に、二センチの分量のタックを図のように二本とります。

・脇ダーツは、脇線上の乳下り位置と、前立の角を結んで切開き線とし、ここに一センチ三ミリの分量に描きます。

・肩ダーツの先から前立の角に向つて切開き線を引きます。

・『前身頃の切開き方』図を参照して、ダーツの先の切開き線に切込みを入れ、肩ダーツと脇ダーツをたたむと、前立附のギャザー分が開かれます。

・前立のポイントの脇で、タック分を一センチ切り開きます。

カラー

・前中央のカラーの上りを二センチにし、四センチ五ミリ巾のバンドカラーを引きます。

スカート

・スカート丈七十センチ五ミリ、裾巾二十六センチ、ヒップサイズ二十四センチ五ミリ、ウエストサイズ十五センチ五ミリにして、図のようなタイトスカートを引きます。

・前後の差を二センチにするため、ヒップ線より下の脇線を、前は一センチ出し、後は一センチ入れて引き直します。

・後ウエストには、ダーツ分四センチにいせ込み分一センチを加え、脇線とウエスト線を引き直し、図の位置に二センチのダーツを二本記入します。

・後中央線平行に、片襞分八センチを図のように出します。

・前スカートには、四センチと五センチの大きなタック風のダーツを図のように記入します。

バンド

・バンドは三センチ巾にして図のように引き、後持出しを四センチつけます。

裁方と縫方の要点

・前身頃は前中央をわにして正バイヤスに裁ちます。

・前立は上前になる方を接ぎなしにとると、下前前立が不足しますから、不足分を接ぎ足して下前前立を作ります。

・前立線に沿つて切り開いた一センチのタック分の中央に、前中央からタックのぬい止りの少し手前まで切込みを入れ、スタイル画を参照しながら前立附側にギャザーを感じよく寄せて、前立をぬいつけ、ぬい止りより上はぬい離してタックにします。

・スカートの前のタックは、両側からたたみ合せるようにして、ふくらみをもたせるように加減し、襞の蔭に一センチくらい入つたところをミシンで押え、タックがくずれないようにささえておきます。

用布

ブラウス＝ダブル巾で一ヤール二分

スカート＝前中央を横地にとる場合は、九十センチ巾でもダブル巾でも二ヤール一分、前後中央を縦地にとる場合はダブル巾で一ヤール三分

袖山線と袖下線をつながりよく直し、肘の位置に一センチのダーツを二本とつて、五ミリをいせ込みにします。

前身頃

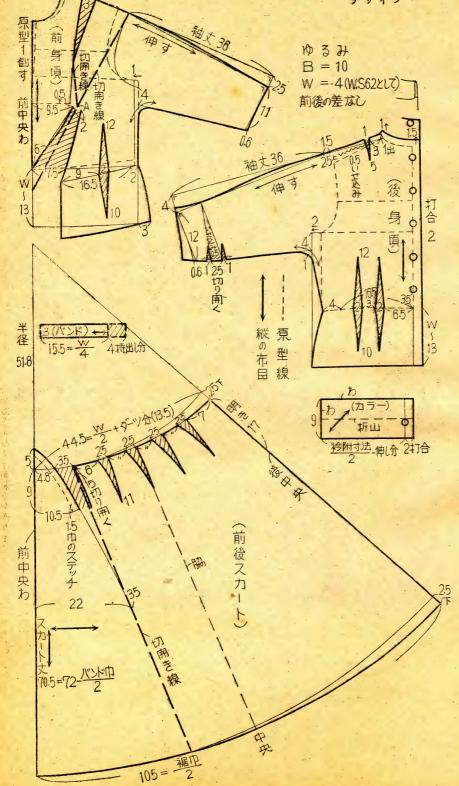
•原型を一センチ倒して写し、脇線を平行に一センチ入れます。

•肩ダーツを図のように描き、ダーツ分をたたんで原型を当て、肩、袖ぐり、脇、ウェスト線を写し直します。

•前中央線を引き下して丈をウェスト線から十三センチとし、脇線も訂正した袖ぐりの角から真下に引き下して、ウェスト線から十三センチを計り、裾線をカーヴ線で結びます。

•肩線を延長して袖丈を計り、袖先の下りを二センチ五ミリとし、後と同じ要領で記入寸法の袖を製図します。

•ウェスト線で前中央から七センチ五ミリを計り、図のような形にダーツを描き、ダーツ分をたたんで中央線を引き直して、ウェストと裾の位置をしるし直し、ウェスト線と裾線を訂正すると図の太線のようになります。

•訂正したウェスト線に、ウェストサイ

ス十六センチ五ミリともう一本のダーツ分二センチを加えて計り、裾で三センチ出して脇線を結び直し、袖下の角を丸みに直します。

•脇寄りのダーツは、中央側のダーツから九センチ離し、図のように二センチの分量に描きます。

•衿ぐりをネックポイントで一センチ出して描き直します。

•胸のタック分を切り開くため、肩先から中央側のウエストダーツの先A点に向つて切開き線を入れ、これを前中央まで延長しておき、もう一本はA点から肩ダーツの先へ向つて図の点線のように切開き線を入れます。

•『前身頃の切開き方』図を参照し、初め中央寄りのウエストダーツの中に描かれた切開き線に、前中央からA点まで切込みをし、次にこのA点から肩ダーツの先まで切込みをし、肩ダーツをたたむと、A点のところで胸のタック分が少し開かれます。

口絵（32）前身頃の切開き方

•胸のタック分は七センチ五ミリ必要ですが、いま開かれた分と初めの製図のタック分二センチでは足りないので、この不足分として四センチを、A点で肩先に向つて切り開きます。

カラー

•前後の衿ぐり寸法を計り、図のようにカラーを製図します。

•後身頃にカラーをつき合せにして、ボタンの位置を図のように定めます。

スカートのデザイン

•前後スカートは脇をつづけて製図しますから、スカート丈七十センチ五ミリ、ウエスト寸法四十四センチ五ミリ、裾巾を一メートル五センチにしてサーキュラースカートを製図し、ウエスト線は後中央で二センチ五ミリくり下げて、その分を裾でも下げ、ウエスト線と裾線を訂正します。

•前中央線をウエスト線より五センチ上げ、タックの折山をカーヴ線で図のように描き、ウエストでダーツ分を三センチ五ミリとつて、ウエストから三十五センチの長さに消します。

•このダーツの位置に、裾まで切開き線を入れ、タックの不足分五センチを『前スカートの切開き方』図のように開きます。

口絵（32）前スカートの切開き方

•ウエストのダーツを図の位置に、二センチ五ミリの分量で図のようなカーヴ線で四本描きます。

•バンドを三センチ巾にして図のように製図します。

裁方と縫方の要点

ブラウス

•前身頃は中央に縦の布目を合せ、開かれたダーツには縫代をつけて裁ちます。

•胸のタックは、『タックのたたみ方』図のように軽くたたみ、(ロ)と(ニ)のタックで胸のふくらみを美しく出すように加減します。なお、ダーツの縫代は脇側へ倒します。

口絵（32）胸のタックのたたみ方

スカート

•スカートの布目は、前中央を縦地にしても横地にしてもよく、布巾によつては脇に縫目を入れても結構です。

•前スカートのタックのステッチより下に、タックの蔭に入るポケットを作つてもよいでしょう。

•前スカートのタック分の中央に四センチくらいの切込みを入れ、タックの折山より内側は、共布か同色の薄地布で図のように見返しをつけ、（折山をわに折り返したいので、中央のポイントから下は見返しを控える。）出来上つたバンドの上に重ね、ハンドステッチかミシンステッチで押えます。

•ミシンステッチの場合はバンドまで通してかけておき、バンド布にだけミシンをかけると固くなるので、スカートの上に重ねてミシンのきわを止めつけます。

•ハンドステッチにする場合は、極細毛糸を二本か三本どりでしますが、材料によつて加減してください。

口絵（32）スカートの縫方

通学・通勤に向く ブラウスとスカート

（口絵 33）

用布
ブラウス＝ダブル巾で一ヤール二分
スカート＝ダブル巾で一ヤール七分

ブラウスのデザイン

後身頃

・バストのゆるみを十二センチとし、前後の差をなしにしますから、脇線を原型より二センチ五ミリ出します。

・後中央線と脇線をそれぞれウェスト線より十三センチ引き下し、裾線を引きます。

・肩先を二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、これを延長して、肩巾にいせ込み分一センチを加えてしるし、その先に袖丈を計ります。

・袖先を直角に四センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直し、袖口寸法十六センチを直角に引き、袖下線は脇でバスト線より三センチ五ミリ下と結びます。

・ネックポイントで一センチ上げて肩先と結び直し、袖山線にふくらみをつけて肩線からつながりよく描きます。

・衿ぐりは後中央で一センチ三ミリ、ネックポイントで一センチのハイネックに描きます。

・袖口線は、袖山と袖下で一センチ、中央で二センチ出してカーヴ線で描き直します。

・袖下線に、袖口明を五センチにしるします。

・脇線は、ウェスト線より一センチ五ミリ下で一センチくり入れ、袖下に丸みをつけて描きます。

・ウェスト線より一センチ五ミリ下に、図のように二本のタックをとります。

前身頃

・原型を一センチ倒して写します。

・脇線を原型より五ミリ入れて引き、これを延長して、脇丈を後同寸にダーツ分一センチ五ミリを加えてしるし、前中央線もウェストより十三センチ延長

口絵（33） ブラウスのデザイン

して、裾線を引きます。
•肩線を延長して袖丈を計り、後と同じ要領で袖の製図をします。
•脇線を後と同じに描き、乳下りの位置に一センチ五ミリのダーツを描き、ダーツをたたんで脇線を訂正します。
•衿ぐりは一センチハイネックにします。
•胸の切替え線は、前中央で胸巾線より二センチ、六センチ五ミリ入りでは五センチ五ミリ、袖ぐりでは二センチ五ミリ上げて図のように描き、図の位置にポケット口をしるし、ポケットの深さを十センチに描きます。
•ポケットは、口で一センチ切り開いて浮かし分にします。
•袖附線は、ポケット口から四センチ下と、袖下をカーヴ線で結んで身頃側の線とし、袖下で三センチ五ミリ交叉させて袖側の線を引き、身頃側と同寸に計り、袖下線に結びます。
•袖口線は、袖山と袖下でだぶり分を一センチずつ出して描き直します。
•前中央で打合を一センチ五ミリ出し、図の位置にボタンをしるします。
•ウェストに四センチのタックを図のように描きます。
•カフスは巾三センチ五ミリ、丈九センチとして図のように製図します。

カラー

•カラーバンドは、衿ぐり寸法を計り、カラー巾三センチとして図のように製図します。
•ショールカラーは、カラーバンドの外廻り寸法を計り、後中央で一センチ五ミリ上げて附線を描き、カラー巾を四センチにして、後衿先を七ミリかきとります。

スカートのデザイン

•スカート丈七十センチ五ミリ、ウェストサイズ十七センチ五ミリ、前裾巾五十センチ、後裾巾六十センチとして、前後のサーキュラースカートを図のように引きます。
•切開き線は、ウェスト線で中央線から前は八センチ五ミリ、後は七センチ五ミリをしるし、それぞれコンパスの中心と結んで裾まで延長し、ウエスト側で前は五センチ、後は六センチ開きます。
•ウェストの切開き分は、前後とも『スカートの切開き方』図を参照して、それぞれカーヴをもたせたダーツに描きます。
•バンドは三センチ巾にし、後の持出し四センチをつけて、図のように長方形に製図します。

口絵（33）スカートのデザイン

裁方と縫方の要点

・ブラウスの背明はファスナーをつけて始末します。

・胸ポケットは、一三五頁口絵(51)ワンピースの『スカートのポケットの縫方』を御参照ください。

・スカートの布目は、前後とも切り開いた型紙で、脇寄り三分の一のところを縦地にして裁ちます。

組合せにも便利な ブラウスとスカート

（口絵　34）

用布

ブラウス＝九十センチ巾で二ヤール二分

スカート＝ダブル巾で九分

デザイン

後身頃

・バストのゆるみを十二センチとし、前後の差をなしにしますので、脇で平行に二センチ五ミリ出します。

・中央線をウェスト線より下に十三センチ延長し、直角に裾線を引き、脇線を裾まで引き下します。

・肩先を二センチ五ミリ上げて、ネックポイントと結び、肩巾同寸にいせ込み分七ミリを加えて肩先をしるし、その先に袖丈（出来上り袖丈三十七センチとして、伸し分を差し引いた寸法）を計ります。

・袖先で直角に四センチ下げて肩先と結び、袖丈を同寸に計り直して、直角に袖口寸法十二センチをとります。

・袖下線は、脇でバスト線より三センチ五ミリ下と袖口下を結び、袖先に七ミリ出して、袖口線を訂正します。

・脇線は、ウェスト線より一センチ五ミリ下で一センチくり入れ、袖下の角と直線で結び、裾にはカーヴ線で結んで、袖下の角を丸く訂正します。

・ネックポイントで、着込み分を一センチ出して肩先と結び直し、ここで一センチハイネックにし、衿ぐり後中央でも一センチ三ミリ上げて衿ぐりを描き直します。

・ウェストのタックは、ウェスト線より一センチ五ミリ下に、記入の寸法で二本とります。

・肘線を袖下側で二センチ五ミリ切り開き、袖山、袖下線をつながりよく訂正し、肘の位置で一センチのダーツを二本とり、残りをいせ込みます。

前身頃

・脇線を平行に五ミリ入れて引きます。

・中央線をウェスト線より下に十三センチ延長し、脇線も後脇丈同寸に引き下し、裾線を描きます。

・肩線を延長して袖丈を計り、後と同じ要領で袖口寸法十一センチの袖を図の

ゆるみ
B＝12
H＝4
前後の差なし

原型線
縦の布目

口絵（34）
ブラウスのデザイン

ように引きます。
•脇線を後と同様に、ウェスト線より一センチ五ミリ下で一センチくり入れて引き直し、袖下を図のような丸みに訂正します。
•ウェストのタックも、ウェスト線より一センチ五ミリ下に記入の寸法で二本とります。
•ネックポイントで一センチハイネックし、衿ぐりを訂正します。
•前中央の前立は四センチ巾とし、打合二センチを、衿ぐりからウェスト線より八センチ上まで平行に出し、前立線を入れます。
•前立にボタン三箇の位置を図のようにしるします。
•前立につづく切替え線は、前立より六センチ上で直角に七センチ五ミリを引き、肩線まで真直に引き上げます。
•この切替え布は脇側をタックとし、タックの折山を二センチ巾のステッチで押え、更に一センチ間隔のステッチを二本かけます。

カラー

•巾を三センチ五ミリ、丈を衿附寸法の二分の一とし、二センチ上りのバンドカラーを引き、衿先を丸く描き、ボタンの位置をしるします。

口絵（34）スカートのデザイン

(W,S64として)
ゆるみH=4
後持出し
3 (バンド)
16= W/4 16 10
16 5 4 0.5 5 16 5
1.5 1.5
8.5 3 0.5 0.75 0.5 1 2 1.5 0.75 いせ込み 1 0.5 0.75 3 7.5
0.5 重なる　0.5 重なる　0.5 重なる
10 襞分
20
明止り
H+4/4 =24　24
前中央 わ
(前スカート)　脇　(後スカート)
後中央襞山
襞奥
スカート丈
ぬい止り
70.5　22

アンバランスの効果を狙つた
ブラウスとスカート

（口絵　35）

用布

ブラウス＝ダブル巾で一ヤール一分
スカート＝ダブル巾で九分

ブラウスのデザイン

後身頃

•バストのゆるみを十二センチにし、前後の差をなしにしますから、脇線を平行に二センチ五ミリ出します。

スカート

•縦線上に、スカート丈七十センチ五ミリにくり分一センチ五ミリを加えてしるし、横線を出来上りヒップサイズ二十四センチの二倍の寸法とし、長方形を引き、中央に脇線を入れます。
•ウェスト線は、前後とも中央線から、ウェストサイズ十六センチにタック分五センチ、いせ込み分一センチを加えた寸法を計り、一センチ五ミリのくりをつけてカーヴ線に引きます。
•ウェスト脇に残つた分は、脇のタック分となります。
•ウェスト線のタックを記入の寸法でそれぞれ描き入れます。
•後中央線に平行に襞分十センチを出し、裾から二十二センチ上を襞山のぬい止りとし、ウェスト線から二十センチ下を明止りとします。
•バンドは巾三センチとし、長さはウェスト寸法に、下前持出し分十センチを加えます。

裁方と縫方の要点

•前身頃の縦の切替え線は、タックの折山とし、二センチ巾のステッチで押えますから、縫代を三センチとり、切替え布の下側は、パイピングに作ります。

•肩先を二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、これを延長して、肩巾といせ込み分七ミリをしるし、この先に袖丈（出来上り袖丈は三十六センチ）を計つてしるします。

•袖先で直角に六センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直して、袖口巾十三センチを直角にとり、脇線でバスト線より三センチ五ミリ下と袖口下を結びます。

•ネックポイントで着込み分を一センチ出して肩先と結び、袖山線に一センチくらいのふくらみをつけます。

•衿ぐりは後中央で二センチ、ネックポイントで一センチ五ミリのハイネックに描き、七ミリのダーツを描きます。

•原型の衿ぐり後中央でダーツ分七ミリを出し、中央線を引き直します。

•ウエストのだぶり分を後中央で三センチ五ミリ、脇で二センチ下げてカーヴ線で結び、三本のタックを記入します。

•肘線で袖下を二センチ五ミリ切り開き、図のように一センチのダーツを二本描いて、五ミリをいせ込みにします。

•ペプラムバンドは、後中央でウエストのくりを三センチつけて巾七センチに引き、脇側は巾六センチにして、裾で図のように三センチ五ミリ出します。

前身頃

•原型を一センチ五ミリ倒して写し、前下りを二センチ五ミリとし、衿ぐりの前中央で原型倒し分の半分を出します。

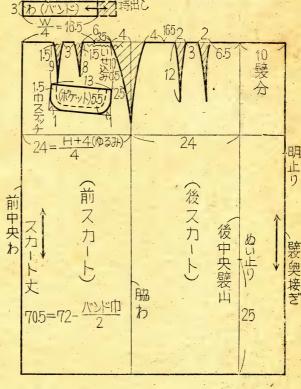
•脇線を平行に五ミリ入れて引きます。

•肩線を延長して袖丈を計り、後と同じ要領で記入寸法の袖を製図します。

•衿ぐりはネックポイントで一センチ五ミリ、前中央では一センチのハイネックに描きます。

•脇線は、後脇丈と同寸よりもダーツ分の二センチだけ長く延長し、袖下に丸みをつけて描き、脇ダーツを入れます。

•ウエストのだぶり分として前中央で一センチ五ミリ、脇で二センチ下げてウエスト線を結びます。

・前中央に打合分二センチを出します。
・上前側のポケットは、前中央で衿ぐりより五センチ五ミリ下げ、胸巾線に平行に八センチ五ミリ引き、更に直角に蓋の深さを三センチ五ミリ、更に直角に蓋の長さを十センチ五ミリ、脇側では蓋の深さを直角に五センチとつて、角に六ミリの丸みをつけます。
・下前側のポケットは、前中央で乳下りの位置より一センチ五ミリ上と、脇で袖下の角より二センチ下とを結び、この線上にステッチをかけることになりますから、中央で一センチ五ミリ下に、ステッチ線に平行に四センチを引き、ここからポケットの蓋を長さ十二センチとして、上前と同じ要領で描きます。
・上前も下前もポケットのデザイン線を打合先まで延長します。
・ポケットの下のギャザー分を出すため、上前、下前ともポケットロの中央から裾までに切開き線を引きます。
・見返し線は衿ぐりは三センチ、打合は四センチ巾に描き、ボタンの位置を図のように記入します。
・前身頃のペプラムバンドは、ウエスト線で中央を二センチ五ミリくり、六センチ巾にして図のように描きます。
・『上前身頃の切開き方』図を参照して、打合先からポケットのデザイン線に切込みを入れ、更にポケットの端から袖山に向つて真直に切込みを入れて、図のようにポケットの端で型紙を一センチ開きます。次にポケットの下のギャザー分を一センチ五ミリ開きます。
・『下前身頃の切開き方』図を参照し、ポケットのデザイン線に切込みを入れ、(蓋の端より少し手前まで)ここに向つて脇ダーツをつまむと、前中央が自然に開かれて縫代分が出ます。次にポケットの下のダーツ分を一センチ五ミリ開きます。
・上前、下前ともポケットロの切込み線は、打合先からポケットロまでの切替え線では上側に二センチの縫代をつけ、ポケット蓋布の外廻りは五ミリの縫代をつけて、ポケットの端より少し手前まで図の太線のように引きます。

口絵（35）スカートのデザイン

スカートのデザイン

・前後を脇でつづけますから、ヒップのゆるみを四センチとし、ヒップサイズの二分の一と、スカート丈七十センチ五ミリの長方形を引きます。
・中央に脇線を入れ、前後ともウェスト線には、ウエスト寸法十六センチ五ミリに前はダーツ分三センチといせ込み分五ミリを加えてしるし、後はダーツ分四センチを加えてしるし、図のようにダーツをそれぞれ描き入れます。
・後中央線に平行に十センチの襞分を出し、裾から二十五センチ上に襞山のぬい止りをしるします。
・ポケットを図の位置に描きます。
・バンドは三センチ巾に引き、後持出し分を三センチか四センチ出します。

縫方の要点

ポケットの縫方

・ポケットの蓋の両端にほつれ止めをして、蓋には裏を控え気味につけます。
・ポケットの下側は、脇側のくり抜かれた裁切りの周りを、共糸で細かくぬい縮め、アイロンでできるだけいせ込みながら布地を蓋の下側に寄せ込み、蓋を下して感じを見ながらギャザーを寄せて、裁切りの縫代を少くして接ぎ布とぬい合せます。
・この接ぎ布の上部をポケットロとして、丈十一センチくらいの袋布をぬい合せ、もう一枚の袋布を裏側から重ねて、袋布の外廻りを二度縫し、裏側の袋布と裏蓋布の上部をぬい合せておきます。

裏布を控える
1.5巾ステッチ
ほつれ止め
ほつれ止め
接ぎ布
いせ込む

口絵（35）ポケットの縫方

ワンピース風にも着られる

ブラウスとスカート

（口絵　36）

用布
ブラウス＝ダブル巾で一ヤール四分
スカート＝ダブル巾で九分

デザイン

後身頃

•バストのゆるみを十二センチとし、前後の差をなしにするため、脇線を平行に二センチ五ミリ出します。

•中央線をウェスト線から下に十五センチ延長し、脇線も十五センチ引き下し、裾線を描きます。

•肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾同寸にいせ込み分一センチを加えて肩先とし、その先に袖丈（出来上り袖丈三十七センチから、伸し分を差し引いたもの）を延長します。

•袖先で五センチ下げて肩先と結び、袖丈同寸を計り、直角に袖口寸法十一センチ五ミリを引きます。

•袖下線は、脇でバスト線より三センチ下と袖口下を結びます。

•襠附線は、背巾線の袖ぐり側で一センチ外と袖下を結び、袖下から四センチを襠の附止りとして、ここから身頃側に六センチ五ミリ、袖側に九センチ五ミリの附線を引きます。

•脇線はウェスト線より一センチ五ミリ下で、一センチ五ミリくり入れて描き直します。

•衿ぐりの後中央でダーツ分六ミリを出し、裾線と結びます。

•ネックポイントで着込み分として一センチ出し、肩先と結びます。

•衿ぐりはネックポイントで一センチ三ミリ、背の線では一センチ五ミリ上げてハイネックに描き直します。

•衿ぐりに六ミリのダーツを描きます。

•ウェストのタックは、ウェスト線より一センチ五ミリ下に一センチ五ミリの分量で二本とります。

前身頃

•原型を一センチ五ミリ倒して写しますが、前下りは二センチにします。

•脇線で平行に五ミリ入れます。

•ネックポイントで五ミリ入れて肩線を訂正し、一センチ三ミリハイネックにします。

•切替え線は、ハイネックの先からそれぞれ記入の寸法の点を通る図のようなカーヴ線で脇線まで結びます。

•ネックポイントで切替え線に沿って一センチ五ミリのダーツをとり、このダーツ

口絵（36）ブラウスのデザイン

をたたんで原型を重ね、肩、袖ぐり、脇線を引き直し、裾線を訂正します。
・中央線をウエスト線から下に十五センチ延長し、脇線も十五センチ引き下して、裾線を引きます。
・肩線を延長して袖丈を計り、後と同じ要領で袖口寸法十センチの袖を引き、後と同寸に襠附線を引きます。
・脇線は、ウエスト線より一センチ五ミリ下で一センチ五ミリくり入れます。
・衿ぐり線は、ネックポイントで更に四センチ五ミリハイネックし、ここからカーヴ線で中央線に結び入れます。
・身頃の切替え線を肩線に直角に引き上げて後衿附寸法を計り、直角に四センチ巾を引き、身頃衿ぐり線につながりよく結びます。
・ポケットはフラップポケットにし、中央線より六センチ入りに描きます。
・見返し線を記入の寸法で描きます。

スカート

・スカート丈七十センチ五ミリ、ウエストサイズ十六センチ、ヒップサイズ二十四センチ、裾巾二十八センチのスリムスカートを引きます。
・前後の差を二センチとするため、脇線を前は一センチ出し、後は一センチ入れて描き直します。
・ウエスト線で、前はタック分六センチ、後は五センチを加えて、ヒップ線までの脇線をそれぞれ引き直します。
・前後ウエスト線にタックとダーツを図のように描き、このタックとダーツをたたんでウエスト線を訂正します。
・後中央線平行に襞奥分八センチを出し、裾から二十センチ上を襞山のぬい止りとします。

口絵（36）スカートのデザイン

裁方と縫方の要点

・ブラウスの切替え線は、中央布が高くなるように片返しに始末します。
・明きは背明にしてファスナーをつけますが、つき合せにしても、また下前持出しをつけてもよいでしょう。
・前スカートのタックはポケットにしてタックの蔭に切込みを入れますが、脇側の縫代を多くして図のように切り込みを入れ、ポケットの袋布が見えないようにします。
・このポケットは軽い感じに作るため、袋布の材質に注意します。また場合によってはポケット口を切り明けずに、ポケット風に見えるように仕立ててもよいでしょう。

毛皮をトリミングした 一般向きトッパー

（口絵　37）

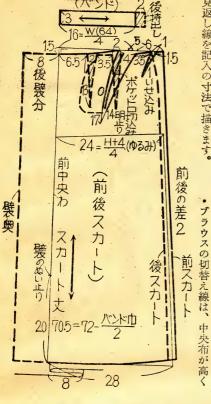
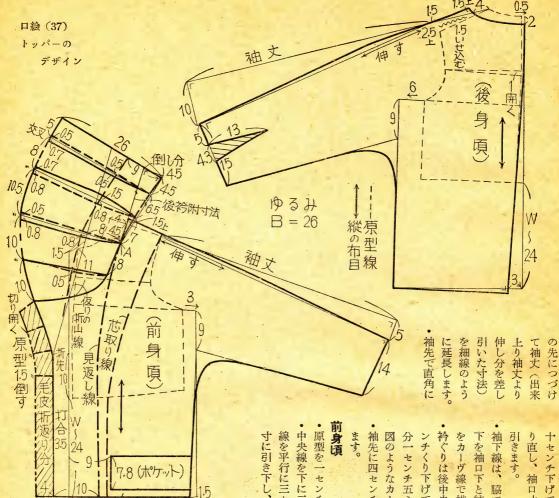
用布
表＝ダブル巾で一ヤール八分
裏＝七十一センチ巾で二ヤール三分

デザイン

後身頃

・原型を背巾線の後中央で一センチ切り開いて写します。
・衿ぐりの後中央で五ミリ出し、背巾線より上の中央線に平行に引き下し、丈をウエスト線から二十四センチとし、直角に裾線を引きます。
・バストのゆるみを二十六センチとし、前後の差をなしにするため、脇線を六センチ平行に出し、裾線まで引き下します。
・背の線は裾で三センチ入れて背巾線の辺りに結び直し、この線に直角に裾線を訂正します。
・肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾にいせ込み分一センチ五ミリを加えて肩先をしるし、そ

口絵（37）
トッパーの
デザイン

の先につづけて袖丈（出来上り袖丈より伸し分を差し引いた寸法）を細線のように延長します。

・袖先で直角に十センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直し、袖口寸法十五センチを直角に引きます。

・袖下線は、脇でバスト線より九センチ下を袖口下と結び、脇線とのつながりをカーヴ線で描きます。

・衿ぐりは後中央で二センチ、肩で四センチくり下げて描き、肩線から着込み分一センチ五ミリを出して、袖山線を図のようなカーヴ線で引き直します。

・袖先に四センチ三ミリのダーツを描きます。

前身頃

・原型を一センチ五ミリ倒して写します。

・中央線を下に二十四センチ延長し、脇線を平行に三センチ出して後脇丈と同寸に引き下し、裾線を結びます。

・肩線を延長して袖丈を計り、袖先の下りを五センチにして袖口寸法十四センチの袖を図のように引きます。

・衿ぐりは肩で四センチ、前中央で十一センチくつて図のように描き、この衿ぐりを肩から一センチ五ミリ上げて、肩線から袖山線をカーヴ線で引き直します。

・脇線は裾で一センチ五ミリ入れて引き直し、図のようなカーヴ線で袖下線と結び直します。

・ネックで上げた一センチ五ミリを前中央裾でも上げて、裾線を訂正します。

・ウェスト線より十センチ上で打合分三センチ五ミリを出し、ここを折先として裾まで平行に引き下します。

・カラーは、くり下げた衿ぐり線で原型の肩線より四センチ五ミリ下（A点）で、直角に衿腰八センチを出し、折先と直線で結んで上に延長し、仮りの折山線とします。

・A点よりこの折山線に平行線を引き上げ、A点からネックまでの寸法と後衿附寸法を計り、ここで直角に四センチ五ミリ倒してA点と結び直し、衿附寸法を計り直し、直角に後カラー巾二十六センチを引き、カラー外廻り線を図のようなカーヴ線で折先に結びます。

・折山線は、後中央線で衿腰九センチを計り、最初引いた仮りの折山線より中央辺りで一センチ五ミリくらいのふくらみをつけて、図の点線のように結びます。

・折山にふくらみをもたせ、外廻りにゆとりを出すため、四カ所に切替えを入れて、それぞれ記入の寸法ずつ交叉させて図のように引きます。

・見返しつづきのカラーにするため、見返しは裾で十センチ巾とし、カラー附

線につながりよく結びます。
•この見返し布の打合先に、表に返る分を四センチ巾につづけますが、折先の辺りより上は外廻りを切り開いて折り返したときに身頃に合うようにします。
•ポケットは蓋附ポケットとし、七センチ八ミリ巾の蓋布を、前中央より九センチ脇寄りで、裾から一センチ八ミリ上に図のように引きます。

縫方の要点

カラーの縫方

•裏カラーは後中央を接ぎ合せて縫代を割り、芯の後中央は縫代なしにしてつき合せにし、裏側にテープを張つて、クロスミシンで押えます。
•裏カラーと芯布を出来上り通りに重ねてハ刺しをし、身頃附線に中表に重ねてぬい合せ、縫代は割ります。
•カラー外廻りを出来上りに折り、縫代を千鳥がけで芯布にかがりつけます。
•裏カラー附線より下の打合先の縫代は、出来上りじるしから裁ち落します。
•見返しつづきの表カラーは毛皮にし、毛並に合せて型紙通りに毛皮を接ぎ合せますが、表側に見返る四センチ巾の折返し分は、折先の辺りから上は外廻りを落ち着くまで切り開いて、その形のものを接ぎ足します。毛皮の扱い方は、口絵(17)の『毛皮の附方』を参照してください。
•この毛皮のカラーに、同じ形の新モス程度の芯を張つて、周囲にテープをぬいつけ、テープを少し控えて折り返し、先を芯布にとじつけますが、見返し奥側はテープをそのまま伸しておきます。
•この毛皮のカラーを出来上り通りに裏カラーの上に重ね、カラー外廻りをまつり合せ、(毛皮の方はテープをすくう。)打合先は毛皮でくるんで同様にまつりつけます。
•見返し奥は毛皮につけたテープを伸しておき、裏布を出来上りに折つて上に重ね、テープのきわにまつりつけます。

若い人にも中年にも向く 洒落たトッパーコート

（口絵 38）

用布
表＝ダブル巾で一ヤール九分
裏＝七十一センチ巾で二ヤール三分

デザイン

後身頃

•原型はバスト線の位置で背を一センチ切り開いて写します。
•後中央線を原型より五ミリ平行に出して引き直し、更にウェスト線より下に二十二センチ延長します。
•バストのゆるみを二十四センチとし、前後の差をなしにしますので、脇線を平行に五センチ五ミリ出してウェスト線より下に二十二センチ延長し、裾線を結びます。
•肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾にダーツ分一センチ五ミリを加えて肩先をしるし、その先に袖丈を延長しますが、上に着るものの袖丈は、ドレスの袖丈に一センチを加えた寸法にします。
•袖先を直角に十センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直して、直角に袖口巾十三センチ五ミリを引きます。
•脇線で、バスト線より四センチ五ミリ下げて袖口下と結びます。
•ネックポイントで肩線を一センチ前に廻して肩先と結び、ネックポイントより四センチ入りに一センチ五ミリの肩ダーツを描き、ダーツ分をたたんで肩線を訂正します。
•襠附線は、袖下の角から背巾線の袖ぐり側へ二センチ出たところへ向つて方向線を引き、脇線で袖下より二センチ下から方向線上に身頃附線を八センチの長さに引き、ここから袖下側を十センチに引きます。
•袖山線に二センチくらいのふくらみをつけて描き直し、袖下線もカーヴで描き直します。
•脇線も後中央線も、裾で一センチ五ミリずつ入れて図のように引き直します。

前身頃

•原型を二センチ倒して写します。
•前中央線平行に五ミリ出し、ウェスト線より二十二センチの丈に延長します。
•脇線を原型より二センチ五ミリ平行に出し、脇丈を後と同寸に引き下し、裾線をカーヴで結びます。
•原型の肩線を延長して袖丈と同寸に計り、直角に袖先を八センチ下げて袖丈を計り直し、十二センチ五ミリの袖口寸法を引き、袖下線を引きます。
•襠附線を後同様に引き、袖山線、袖下線をふくらみをつけて訂正します。

口絵(38) 前身頃中央布の切開き方

•脇線は裾で一センチ五ミリ入れて引き直します。

•ネックポイントで、後で廻した一センチをかきとります。

•衿附線は、衿ぐり前中央で原型より三センチ五ミリ下げて図通りに描きます。

•カラーは、附線を肩で一センチ五ミリ重ねて身頃附線と結び直し、この線を上に延長して、前衿附寸法を計つた上に後衿附寸法を計り、直角にカラー巾六センチを引きます。

•打合は、裾から乳下りのところまでは前中央に平行に三センチ出し、これより上は、図のようなカーヴ線でカラー外廻りにつながりよく結びます。

•中央布の切替え線は、衿附線で前中央より二センチ入り、裾線で中央より十九センチ入つたところに直線で結び、衿ぐりの辺りで少しカーヴさせ、この線をカラー後中央まで図のカーヴ線で延長し、タック分の切開き線とします。

•見返し線は、肩で三センチ五ミリ巾、乳下り線の辺りから下は、中央線から六センチ巾にして図の点線のように入れますが、このスタイルでは、カラー外廻りから打合先をわにしてやわらかく仕上げますから、打合先より二センチ五ミリ奥で見返し布と切り替えることになります。

•芯取り線は、肩先より図のようなカーヴ線で引きます。

•ポケットは、前中央より八センチ入り、ウェスト線より七センチ五ミリ下つた位置から脇寄りに、ポケット口十五センチを裾線並行に引き、巾四センチ八ミリのフラップポケットを図のように描き、外廻りに一センチ四ミリ巾のステッチをしるします。

・前中央の裾より十三センチ上にボタンの位置を描き入れます。

・『前身頃中央布の切開き方』図を参照して、カラーの切開き線に切込みを入れ、衿附の位置で一センチ五ミリ開きます。

・この前中央布は、カラー外廻りから打合先の線に沿つて二センチ五ミリ巾の折返り分をつづけますが、カラーの外廻りはふくらみを少しかきとり、折返り分の奥側は充分いせ込むことになります。

縫方の要点

・前中央布の衿附のタック分に切込みをし、心持ちねじるようにタックします。

・脇布中央布を中表に合せ、切替え線をぬい合せますが、浮いた感じにするため出来上りじるしより内側をぬいます。

・芯を据えてしつけをかけ、身頃からつづいた見返り分を出来上り通りに裏に折り、この見返り分の奥（見返し布との接ぎ線）のたるみ分をいせ込みます。

・見返し布の奥に裏布を接ぎ合せ、身頃からつづいた見返り分と、見返し布をぬい合せ、それにつづけて裏カラーの外廻りともぬい合せて縫代は割ります。

・表カラーの附側を出来上り通りに折り、身頃のカラー附線に重ね、切替え線と同様に出来上りじるしより五ミリくらい内側をまつります。

・後身頃のカラー附線に裏カラーをまつりつけます。

スマートな人に向く
トッパーコート

（口絵 39）

用布

表＝ダブル巾で一ヤール九分

裏＝七十九センチ巾で二ヤール八分

デザイン

後身頃

・原型を背巾で一センチ平行に開いて写します。

・後中央線を一センチ平行に出してウェスト線より下に二十九センチ延長し、直角に裾線を引きます。

・背の線を図のようにつながりよく描き直します。

・バストのゆるみを二十六センチとし、前後の差をなしにするため、脇線平行に六センチ出して裾まで引き下します。

・肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾同寸にダーツ分一センチ五ミリ、いせ込み分五ミリを加えて肩先をしるし、その先に袖丈を延長します。

・袖先で直角に九センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直して、直角に袖口寸法十四センチをとります。

・袖下線をバスト線より十センチ下に結び、袖口下で七ミリ出して袖口線を訂正します。

・ネックポイントで着込み分として一センチ出して肩線を引き直し、これにつながりよく袖山にふくらみをつけます。

・肩線に一センチ五ミリのダーツを少しカーヴさせて図のようにとり、ダーツ分をつまんで肩線をつながりよく訂正します。

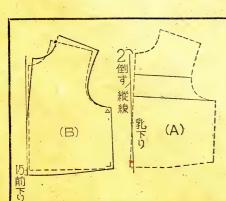
・衿ぐりを後中央で五ミリ上げて描き直します。

・裾巾を二十七センチにして袖下と結び、

婦人服の原型の倒し方

原型を倒すのは、ダーツをとるのと同じ結果になりますから、胸のゆとりを出したいときにします。

A図のように、縦線を引き、別に切りとった原型の乳下り位置を、この線上に合せて、衿ぐりを二センチ倒して重ね、乳下り線から上の中央線、衿ぐり線、肩線、袖ぐり線を写します。

次にB図のように、バスト線の横の△印を押えて、点線のように原型を起し、脇線を引きます。原型の中央線と出来上り中央線とのあいだが少し明きますが、これもゆとりになります。原型をとり除き、脇線の裾で直角線（点線）を引き、前下りを一センチ五ミリつけてウェスト線を引きます。倒し分と前下りは、着る人によって変ります。

脇線とします。

• 襠附の位置は、背巾線で袖ぐり側へ三センチ出たところと袖下の角とを直線で結び、バスト線より三センチ五ミリ下を附止りとして、身頃側は九センチ、袖下側は十センチに引きます。

• 肘線で袖下側を二センチ五ミリ切り開き、一センチのダーツを二本とつて残りをいせ込みにし、袖山線、袖下線つながりよく訂正します。

前身頃

• 原型を一センチ五ミリ倒して写し、脇線平行に三センチ出します。

• 前中央線平行に一センチ出し、ウェスト線から下に二十九センチ延長します。

• 衿附線は、ネックポイントから、胸巾線より三センチ下で原型中央線より六センチ五ミリ入つた位置に結び、この線を利用してネックポイントで二センチ五ミリの肩ダーツをとり、ダーツ分を型紙でたたんで原型を置き直し、肩、袖ぐり、脇線を写し直します。

• 訂正した肩線を延長して袖丈を計り、先で直角に六センチ下げて、後と同じ要領で袖口巾十三センチの袖を引き、後と同寸法に襠附線を記入します。

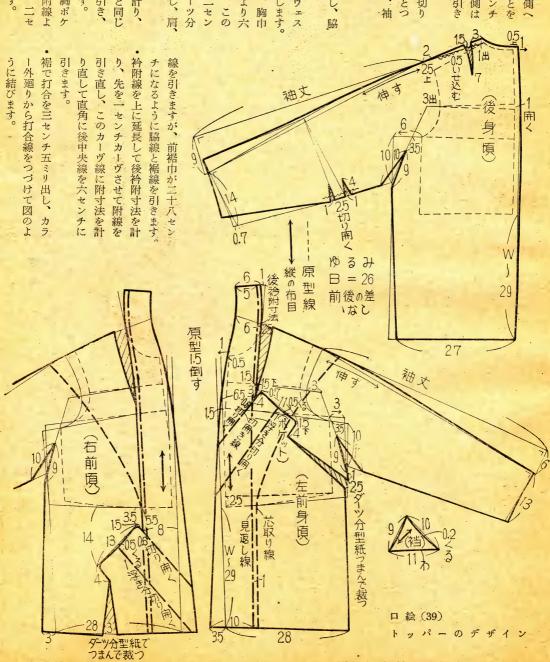
• 左身頃には衿附線につづけて、胸ポケットを図のように描き、更に襠附線より一センチ下つた脇線上に結び、二センチ五ミリの脇ダーツをとります。

• 脇ダーツをつまんで後脇丈と同寸に脇線を引きますが、前裾巾が二十八センチになるように脇線と裾線を引きます。

• 衿附線を上に延長して後衿附寸法を計り、先を一センチカーヴさせて附線を引き直し、このカーヴ線に附寸法を計り直して直角に後中央線を六センチに引きます。

• 裾で打合を三センチ五ミリ出し、カラー外廻りから打合線をつづけて図のように結びます。

• 見返しは後衿中央で五センチ巾、裾で

口絵(39)
トッパーのデザイン

は十センチ巾にして図の太点線のように描き、芯取り線も入れます。

・ポケット口の浮き分として、口明の中央から打合先に向つて切開き線を入れ、ポケット口で一センチ切り開きます。

・ポケット口の浮き分と同様、肩ダーツの先から打合先に向つて切開き線を入れ、ダーツの先で六ミリ切り開きます。

・右身頃のポケットは、衿附線をウエスト線より五センチ五ミリ下で、前中央線から八センチ入つたところまで引き下し、ここからポケットを図に記入のように描き、裾に三センチの分量のダーツをとります。

・ポケット口には、胸ポケット同様に切開き線を二本入れます。

・右身頃の脇線は、脇ダーツがないので後脇丈同寸に引き、裾のダーツ分の三センチを脇に出して引き直します。

・『左右前身頃の切開き方』図を参照して、型紙の衿附線からポケット口明止りまで切込みを入れ、左身頃は脇ダーツを、右身頃は裾のダーツをそれぞれたたむと、図のように衿附とポケット口の縫代分が切り開かれます。

・左右ともポケット口の浮き分を切り開きます。

・布目は左右とも前中央が縦地になるようにします。

口絵（39）
左右前身頃の切開き方

（右身頃）
（左身頃）
0.6切り開く
0.6切り開く
浮き分切り開く
浮き分切り開く
型紙つまんで裁つ
脇ダーツ型紙でつまんで裁つ

襠

・襠巾を十一センチとし、附寸法を身頃に合せて図のような三角形に引き、附線を少しくり気味に描きます。

縫方の要点

・衿附線は、出来上りじるしより一センチくらい奥をぬい、その分をきせにして浮いた感じに仕上げ、縫代は動かぬように、見返しの縫代に止めつけておきます。

年令に区別なく着られる
トッパーコート

（口絵 40）

用布
表＝ダブル巾で一ヤール七分
裏＝九十センチ巾で二ヤール七分

デザイン

後身頃

・バストのゆるみを二十二センチにし、前後の差をなしにするため、脇線を平行に五センチ出します。

・中央線に平行に一センチ出し、ウエスト線から下に三十センチ延長し、この線に直角に裾線を引き、脇線を裾まで引き下します。

・肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、この延長上に肩巾とダーツ分一センチ五ミリといせ込み分五ミリを加えて肩先をしるし、袖丈（ドレスより一センチ長く）を計ります。

・袖先を直角に五センチ下して肩先と結び、袖丈を計り、直角に袖口巾十四センチを引きます。

・脇線でバスト線より七センチ下げて袖下線を結び、脇裾で一センチ五ミリ入れて脇線を引き直し、袖下の角を図のような丸みにします。

・ネックポイントで着込み分として一センチ出して肩線を訂正し、一センチ五ミリの肩ダーツを図のようにとります。

・衿ぐりは並行に一センチくります。

前身頃

・原型を一センチ五ミリ倒して写します。

・カラー附線はネックポイントで一センチくつて、カーヴ線でポケット口まで描き、この附線に沿つて、肩で一センチ五ミリのダーツをとり、このダーツ分をたたんで原型を写し直します。

口絵（40）トッパーのデザイン

・中央線を平行に一センチ出し、ウエスト線から下に三十センチ延長し、脇線はバスト脇で二センチ出して垂直に引き下し、後脇丈と同寸に計つて、裾線を引きます。

・肩線を延長して袖丈を計り、直角に袖口巾十二センチを引きます。

・脇線で七センチ下げて袖下線を結び、脇線を裾で一センチ入れて引き直し、袖下の角を図のような丸みに訂正します。

・打合は裾で五センチ、ウエスト線で二センチ五ミリ出し、ネックでは衿附線より五センチ外をしるし、図のようなカーヴ線で打合先と結びます。

・カラーは、衿附線を上に延長して後衿附寸法に五ミリ加えた寸法を計り、ここで直角に起して附線を引き直し、この線にカラー丈を計り直し、直角に後カラー巾四センチ五ミリを引き、外廻り線をつながりよく結びます。

・ポケットは、図に点線で示した貼附ポケットの上に、身頃からつづいた蓋が図のように重なります。

・裾線に一センチ五ミリのダーツをポケッ

口絵（40）前身頃の裁方

トロに向ってとります。

・図を参照して見返し線、芯取り線をそれぞれ記入します。

スカート

・スカートの引き方順序は次項口絵(41)のスカートと同様ですから、参照してください。

裁方と縫方の要点

・『前身頃の裁方』図を参照して、型紙の衿附線からポケット蓋布の外廻りを切り込み、裾のダーツをたたむと、衿附とポケット蓋の縫代が出ます。

ポケットの作り方

・布地を裁つときは、衿附の縫代分の中央に切込みをし、ポケットは蓋布の外廻りに縫代を細くつけて切り込むので、身頃は斜線の部分だけ不足します。ポケット蓋の外廻り縫代には、ほつれぬように薄糊をつけておきます。

・(1)図のように蓋布の両端にほつれ止めをし、ボタン附の位置に玉縁ボタンホールを作ります。

・(2)図のように、蓋の部分に共色薄地布を中表に合せて、裏布を少し控えて外廻りを地縫し、縫代を整理して表に返します。

・(3)図のように、身頃の不足分を接ぎ足しますが、(5)図のように蓋布の上下の端(図のイとロ)と、貼附ポケットの端を一直線上に揃えるため、接ぎ足す布は、型紙をポケット口の方だけ一センチくらいタックして小さめに裁ちます。

・布を接ぎ足す側は、(2)図のように縫代の先を細かくぐし縫していせ込んでおき、(3)図のように、伸ばさぬように注意しながら接ぎ布を接ぎ足し、縫代を割ります。

・(4)図のように、共色薄地布の裏を裁って外廻りを控えてポケット表布にまつりつけ、貼附ポケットを作ります。

・(5)図のように、貼附ポケットを身頃の附位置にのせて、外廻りの少し奥を細かくまつりつけます。

・(6)図のように、前身頃をはぐつて、蓋の裏布の奥と接ぎ布をぬい合せ、蓋の裏布にボタンホールを明け、衿附線を肩線の少し手前まで、出来上りじるしより少し手前を地縫します。

口絵(40) ポケットの縫方

衿元にトリミングのある
一般向きトッパー

(口絵 41)

用布
表=ダブル布で二ヤール四分
裏=七十一センチ巾で二ヤール八分

コートのデザイン

後身頃

・中央線平行に五ミリ出し、丈をウェスト線から二十二センチ五ミリ延長し、

口絵（41）トッパースーツのデザイン

直角に裾線を引きます。

・バストのゆるみを二十六センチにし、前後の差をなしにするため、脇線平行に六センチ出し、裾まで引き下します。

・背の線は裾で一センチ五ミリ入れて、背巾線辺りに結び入れます。

・肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾にいせ込み分一センチを加えてしるし、その延長線上に袖丈を計ります。

・袖先で直角に六センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直して直角に袖口寸法十三センチを引きます。

・袖下線は、脇から六センチ下げたところと袖口下を結び、袖先に七ミリ出して袖口線をカーヴで描き直します。

・ネックポイントで着込み分として一センチ出して肩先と結び直し、衿ぐりは後中央、ネックポイントとも一センチ五ミリ上げてハイネックにします。

・身頃の袖附線は、肩先から二センチ五ミリドロップさせて図のようなカーヴ線で袖下と結びます。

・袖側の附線は、肩で一センチ五ミリ、袖下で五センチ交叉させ、附線の中間より少し下では七ミリくらいくって図のように描き、身頃附線と同寸に計って袖下線をカーヴで結び直します。

・裾のダーツは開き加減に消します。

•脇線は裾で二センチ入れて結びます。

前身頃

•原型を二センチ倒して写します。
•中央線を平行に五ミリ出して引き、ウェスト線より下に二十二センチ五ミリ延長します。
•バスト線を脇に三センチ出し、垂直に脇丈を後同寸に引き下して、裾線を引きます。
•肩線を延長して袖丈を計り、袖先で直角に三センチ五ミリ下げて、後と同じ要領で袖口寸法十二センチの袖を引き、脇とのつながりを丸く描きます。
•襠附線は、胸巾線を一センチ五ミリ出して脇と結び、脇のカーヴから六センチ上つたところを附止りとしてこれを身頃側の附線とし、袖下側は七センチに引きます。
•脇裾で二センチ五ミリ入れて脇線を引き直します。
•衿ぐりはネックポイントで一センチ五ミリ、前中央でも一センチ五ミリハイネックして描き直します。
•打合二センチ五ミリを前中央線に平行に出します。
•切替え線は、原型の肩先より二センチ五ミリドロップしたところから、乳下り線で原型中央線より十四センチ五ミリの点を通り、ウェスト線より八センチ下で、中央線から十センチ入つたポケットの位置まで図のようなカーヴ線で結びます。
•袖側の切替え線は、後に合せて袖山で一センチ五ミリ交叉させて引きます。
•ポケットは、中央寄りでウェスト線より三センチ下、脇寄りで三センチ五ミリ下を結んで折山線とします。
•ポケット蓋布は、六センチ巾で細線のような形に出来上りますが、この分を身頃につづけて裁つため、これを折山より上に写しとり、切替え線とぶつかるところは、縫代分として一センチ離し、脇側は脇線に沿つて図の太線のように描き、角は小さな丸みにします。
•蓋のステッチは一センチ四ミリ巾です。
•ポケットの浮き分としてポケット口の中央で一センチ五ミリ切り開きます。
•見返し線と芯取り線を入れます。
•前後の袖をつき合せにして、肘の位置で後袖下を二センチ五ミリ切り開き、一センチの分量で二本のダーツを描き、残りの五ミリをいせ込みます。

カラー

•打合先までの前後衿附寸法を計つて衿丈を定め、後衿巾六センチ、前衿巾五センチ五ミリとし、五ミリ上りのバンドカラーを描き、衿先を五ミリかき落して更に五ミリの丸みとします。

襠

•襠巾を七センチとし、附寸法を身頃に合せて図のように描きます。

スカートのデザイン

•縦線はスカート丈七十センチ五ミリに、ウェスト線の下り一センチ五ミリを加えた寸法とし、横線はゆるみを四センチ加えたヒップサイズ二十四センチの二倍の寸法として長方形を引き、中央に脇線を引きます。
•前後とも横線に、ウェストサイズ十六センチ五ミリにダーツ分といせ込み分を加えてそれぞれしるし、一センチ五ミリの下りをつけてウェスト線をカーヴ線で引き、脇線は図のようにヒップ線の辺りで消えるように描きます。
•記入の寸法で前後のウェストダーツを描き、後中央に片襞分八センチを平行に出し、襞のぬい止りは裾から二十五センチ上とします。
•三センチ巾のバンドを引き、八センチの下前持出しをつけます。

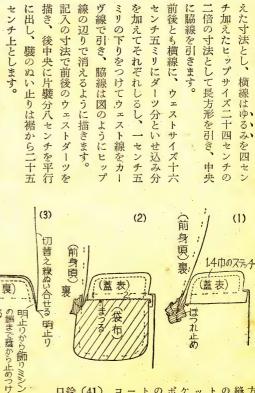
縫方の要点

コートのポケットの縫方

•ポケット明止りにほつれ止めをして切込みを入れます。
•『コートのポケットの縫方』(1)図のように蓋表布を身頃につづく蓋裏布と中表に合せ、裏布を控えてしるしからしるしまで外廻りをぬい、脇縫代の折山の位置に切込みを入れて表に返し、裏を控えてアイロンで押え、一センチ四ミリの飾りミシンをかけます。
•(2)図のように、袋布を折山より二センチ控えて明止りまでまつりつけます。
•(3)図のように身頃の切替え線をぬい合せ、袋布をぬい、表から見えないように明止りから飾りミシンの位置まで少し奥を蔭から斜めに止めつけます。

口絵(41)　コートのポケットの縫方

毛皮のカラーの作り方

•毛皮のカラーをとり外しのできるように仕上げる場合は、共布のバンドカラーを打合先までぬいつけて仕上げておき、別に毛皮のカラーを同じ形に仕上げて、後中央からネックポイントくらいまでを土台のカラーに止めつけて、土台のカラーを打ち合せた上に自然に重ね、鈎ホックで掛け合せます。
•毛皮の扱い方は、口絵(17)の『毛皮の附方』を参照してください。

カラー風の折返しをつけた
一般向きトッパー

（口絵　42）

用布

コート＝表はダブル巾で一ヤール九分
裏は七十一センチ巾で二ヤール四分
スカート＝ダブル巾で九分

コートのデザイン

後身頃

・後中央で着込み分一センチを平行に出し、ウェスト線より下に二十五センチ延長します。

・バストのゆるみを二十四センチとし、前後の差をなしにするため、脇線を五センチ五ミリ平行に出し、ウェスト線より下に二十四センチ延長し、裾線を結びます。

・肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾にいせ込み分一センチを加えて肩先をしるし、その先に袖丈(伸し分を差し引いたもの)を延長し、袖先を直角に五センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直し、直角に袖口寸法十五センチを引きます。

・袖下線は脇で、バスト線より六センチ下と袖口下を結びます。

・脇線を裾で一センチ入れて引き直し、袖下線とカーヴ線で結び直します。

・ネックポイントで着込み分一センチを出し、肩先にふくらみをつけて肩線と袖山線を引き直します。

・衿ぐりの後中央で五ミリ上げて衿ぐり線を引き直し、後中央にダーツ分一センチを出し、裾で一センチ五ミリ入れて背の線を引き直し、上に三センチ八ミリ延長します。

・ネックポイントでも三センチ五ミリ上げてハイネックした衿ぐり線を描き、肩線につながりよく結び入れ、衿ぐりの図の位置に一センチのダーツをとります。

・衿ぐりの見返しは五センチ巾にします。

前身頃

・原型を二センチ倒

ゆるみ
B＝24
前後の差なし

原型線
縦の布目

口絵（42）トッパーのデザイン

して写します。

・中央線を平行に一センチ出して下に延長し、丈をウェスト線から二十三センチとします。

・脇線を平行に二センチ五ミリ出し、ウエスト線より下に二十四センチ延長し、裾線を引き、脇線を裾で一センチ入れて引き直します。

・肩線を延長して袖丈を計り、袖先の下りを六センチとし、袖口寸法十四センチの袖を引きます。

・袖山線を一センチのふくらみをつけて引き直します。

・打合六センチをウェスト線より四センチ上まで出し、ここを折先とします。

・ネックポイントで三センチ五ミリハイネックして折先と結び、これを折山線とします。

・折山線上に胸巾線より四センチ上り、ここから十センチ五ミリ入り、胸巾線より二センチ上つた点をA点とし、ここと折先とを図のようなカーヴ線で結び、ラペル外廻り線とします。

・胸のポケットは、ラペルの上端A点から巾五センチ、長さ十二センチ五ミリのフラップを描き、袖下に結びます。

・袖下では袖を四センチ交叉させて、袖附線と袖下線を結び直します。

・見返しは肩で五センチ巾、裾で十一センチ巾にして、図のようなカーヴ線で描きます。

・ヒップのポケットは、図の位置にポケットロ十三センチ五ミリをしるします。

・芯取り線を記入します。

口絵（42）前身頃の裁方

スカートのデザイン

・ヒップのゆるみを四センチとし、スカート丈七十センチ五ミリのスリムスカートを図のように製図します。

・ウェスト線には前後とも二センチのダーツを二本ずつ描き入れ、一センチずつのいせ込みをとり、残りを脇でダーツ分としてヒップ線の辺りで図のように消します。

・後中央には襞分十センチを中央線平行に出します。

・バンドは三センチ巾とし、長さはウェスト寸法に下前持出し分十センチを加えます。

口絵（42）スカートのデザイン

裁方の要点

・前身頃は、折山線をわにしてラペルから前袖、見返しまでつづけたものを一枚と、『前身頃の裁方』図のように、やはり折山線をわにして身頃、ラペル、フラップの裏までつづけ、上側は三センチくらいの縫代をつけてネックポイントに結んだものを一枚、都合二枚ずつを左右とも裁ち合せます。

縫方の要点

・前身頃の袖側も身頃側もフラップの両端の角がほつれやすいので、この部分には共色の薄地布を薄糊で貼りつけておきます。

・見返し布と身頃を中表に合せ、打合先からラペル、フラップとつづけてぬい合せ、縫代をととのえて角のところは切込みをし、表に返します。

・『前身頃の縫方』図のように、身頃に芯を据えてから、袖布を肩のところではぐつて、中にある身頃上端の裁切り線を二枚一緒にぬい合せ、縫代は段違いに切りとり、下側の縫代を芯に千鳥がけで止めつけると、芯布がライニングとなつて身頃をささえることになります。

口絵（42）前身頃の縫方

若向きにも中年向にもよい

トッパーコート

（口絵　43）

用布
表＝ダブル巾で一ヤール八分
裏＝七十一センチ巾で二ヤール四分

口絵（43）
トッパーのデザイン

デザイン

後身頃

・バストのゆるみを二十六センチにし、前後の差をなしにするため、脇線で平行に六センチ出します。

・中央線に平行に八ミリ出し、その線をウェスト線より下に三十センチ延長し、脇線もウェスト線から下に三十センチ延長して、裾線を結びます。

・肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾同寸にダーツ分一センチ五ミリを加えてしるし、その先に袖丈（出来上り袖丈より伸し分を差し引いた寸法）を計ります。

・袖先で直角に四センチ下げて肩先と結び、袖丈同寸を計り直し、直角に袖口寸法十三センチを引き、脇線でバスト線から九センチ下に袖下線を結びます。

・脇線を裾で三センチ入れて引き直し、袖下を丸く訂正します。

・ネックポイントで着込み分を一センチ出して肩先と結び直し、一センチ五ミリの肩ダーツを図の位置に記入します。

ゆるみB＝26
前後の差なし

・衿ぐり線を後中央で五ミリ上げてくり直し、ここでダーツ分八ミリを後中央に出し、裾では一センチ中に入れて背の線を結びます。

・衿ぐり線を、更に一センチ五ミリハイネックして引き直し、八ミリのダーツを背の線より三センチ入りにとります。

・肘線を袖下側で三センチ切り開き、袖下線をつながりよく引き直し、一センチ二ミリのダーツを二本とって残りをいせ込みます。

・袖山線にふくらみをつけて描き直し、袖口に二センチのダーツを、袖山線から七

センチ下に十四センチの長さにとり、そのダーツ分を袖下に出します。

•芯取り線を図のように描きます。

前身頃

•原型を二センチ倒して写し、脇線を平行に三センチ出します。

•中央線平行に八ミリ出して、丈をウェスト線より下に三十センチ延長し、裾線を引きます。

•肩線を延長して袖丈を計り、後と同じ要領で記入寸法の袖を引きます。

•脇線を裾で二センチ入れて訂正します。

•打合三センチは、中央線平行にバスト線より二センチ五ミリ上まで出します。

•衿ぐりをネックポイントで一センチ五ミリハイネックし、打合先と図のようなカーヴ線で結び、その線をネックポイントから上に延長して後衿附寸法を計ります。

•この線に直角に二センチ出してネックポイントと結び、後衿丈と同寸を計り直し、直角に衿巾八センチを引きます。

•カラー外廻り線を図のような形に描き、カラー巾の中央から裾まで切開き線を入れます。

•切替え線とポケットは、原型脇線よりバスト線上に一センチ入つた点から、ウェスト線で脇から十二センチ入りを通り、ウェスト線より十一センチ下で中央から十二センチ入りに少しカーヴさせて結び、そのまま四センチ五ミリ下に延長し、ここからポケット口を図のような形に描き、ポケット口の中央で、浮き分二センチ五ミリを切り開きます。

•この切替え線を利用して、ウェスト線に一センチ五ミリのダーツをとります。

•切替え線の上端と袖下の角を結び、袖下で二センチ交叉させて、袖の附線と袖下線を結びます。

スカート

•別項のスリムスカートを参照してください。

口絵（42）前身頃の切開き方と裁方

裁方と縫方の要点

•『前身頃の切開き方と裁方』図を参照し、カラー外廻りに肩から衿ぐりに向つて切込みを入れ、衿先の切開き線にも裾まで切り込み、この線で衿先のギャザー分を四センチ開き、次にカラーを中央側に起して衿先の角で直角に三センチ五ミリ開きます。

•切り開かれたところに、カラーの下に重なる身頃を写しとると、斜線の部分Aが不足するので、別にA布として裁つて、あとで身頃にはめ込みます。

•ポケットの切開き線では、ポケット口の浮き分を二センチ五ミリ開きます。

•脇布は、薄地の場合は図のようにポケット袋布をつづけて裁ち、厚地の場合は袋布の表から見えない部分を、共色の薄地布に接ぎ替えます。

•このカラーの縫方の要領は、口絵(49)の『カラーの縫方』の項を参照してください。

切替えに玉縁を扱つた
トッパーコート

（口絵　44）

用布

表＝ダブル巾で一ヤール八分

裏＝九十センチ巾で二ヤール三分

デザイン

後身頃

•中央線を平行に五ミリ出し、丈をウェスト線から二十五センチ延長します。

•バストのゆるみを二十四センチにし、前後の差をなしにするため、脇線平行に五センチ五ミリ出し、丈をウェスト線から二十四センチ延長し、裾線をややカーヴした線で結びます。

•肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾にいせ込み分一センチを加えて肩先をしるし、その先に袖丈を延長します。

•袖先を直角に五センチ五ミリ下げて肩

口絵（44）　トッパーコートのデザイン

先と結び、袖丈を計り直して、直角に袖口寸法十二センチ五ミリをとります。

・袖下線は脇線で八センチ下げて袖口下と結び、脇線にカーヴ線でつながりよく結び入れます。

・ネックポイントで着込み分として一センチ出して肩先と結び直し、後中央で一センチ上げて衿ぐりを描き直します。

・衿ぐりで後中央にダーツ分一センチを出し、裾と直線で結び、衿ぐりより上にハイネック分五センチを延長します。

・背の線は裾で一センチ五ミリ入れて図のように中央線に結び入れ、脇線も裾で五ミリ入れて引き直します。

・訂正したネックポイントでも四センチ五ミリ上げてハイネックした衿ぐりを描き、肩線に結び入れます。

・衿ぐりダーツは、一センチ上げた衿ぐり線に一センチの分量で描きます。

・肘線で袖下を二センチ五ミリ切り開き、八ミリのダーツを図のように二本とり、残りをいせ込みとして袖山、袖下の線をそれぞれつながりよく訂正します。

・衿ぐりの見返しは六センチ巾とします。

前身頃

・原型を二センチ五ミリ倒して写し、脇で二センチ五ミリ出します。

・前中央線を平行に五ミリ出し、丈をウェスト線から二十四センチ延長します。

・衿ぐりのダーツは、原型前中央から三センチのところに図のように二センチの分量でとり、ダーツ分をたたんでもう一度原型をのせ、衿ぐり、肩、袖ぐり線を写し直します。

・移動した袖ぐり下から脇線を垂直に引き下して脇丈を計り、裾線を引きます。

・訂正した肩線を延長して袖丈を計り、袖先で直角に三センチ五ミリ下げて肩先と結び直し、後と同じ要領で袖口寸法十センチ五ミリの袖を引きます。

・打合分二センチ五ミリを中央線平行に出し、バスト線のやや上まで真直に引き上げます。

・衿ぐりは、ネックポイントで四センチハイネックしてカーヴで打合先に結び、衿ぐりダーツを図のように消します。

・胸の切替え線は三センチ八ミリ巾の玉縁に作ります。中央側の玉縁附線は、バスト線より二センチ五ミリ上で中央線から十五センチ五ミリ入つたところから、ウェスト線で中央から八センチ五ミリ入りを通り、裾で七センチ五ミリ入つたところにカーヴ線で結びます。

・脇側の玉縁附線は、中央側附線に並行に三センチ八ミリ巾にバスト線まで引き、中央側玉縁附線の上端と結びます。

・脇寄りの玉縁附線を利用して、バスト線で七ミリ、裾で二センチのダーツを図のようにとります。

・袖附線は脇側の玉縁附線の上端から図のようなカーヴ線で袖下に結び、袖側の附線はその中央よりやや上で五ミリくらいくり、袖下では後袖下より短い分を二センチくらい交叉させて身頃側附線と同寸になるように描き、袖下線と結び直します。

・切替え線利用のポケット口は十一センチくらいにし、図の位置にとります。
・見返し線、芯取り線を記入します。

裁方と縫方の要点

・見返しを裁つとき、衿ぐりダーツの部分は、分量の一番多いところに合せて平行に型紙をつまんでおいて布を裁ちますから、身頃にぬい合せるとき、見返しの方はダーツをつまんだ分だけ短くなっている外廻りと奥側を、アイロンでよく伸して身頃に合せます。
・切替え線は、中央布、脇布とも共布のバイヤス布で一センチ九ミリ巾の玉縁にととのえ、ポケット口より下は裏に共布を当てて奥を軽くまつりつけます。

切替えの位置を新しくした 若向きワンピース

（口絵 45）

用布
ダブル巾で一ヤール九分

デザイン

後身頃

・バストのゆるみを十二センチとし、前後の差をなしにするため、脇線平行に二センチ五ミリ出します。
・後中央線を下に延長し、ウェスト線から七十二センチの丈を計り、直角に裾巾二十八センチを引きます。
・肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾同寸にいせ込み分一センチを加えてしるし、その先に袖丈（出来上り袖丈三十七センチから伸し分を差し引いたもの）を延長します。
・袖先で直角に七センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直して直角に袖口寸法十三センチを引きます。
・袖下線は脇でバスト線より三センチ五ミリ下に結び、この線を袖先に少し延して、袖口線を図のように訂正します。
・ウェスト線に、ウェストサイズ十五センチ五ミリにダーツ分五センチを加えてしるし、ヒップ線ではヒップサイズ二十四センチ五ミリを計つて、袖下から裾まで図のように脇線を描きます。
・ウェスト線のダーツは、中央線から六センチ五ミリ入りに、二センチ五ミリの分量で十二センチの長さに描き、更に三センチ離してもう一本描きます。
・ネックポイントで着込み分として一センチ出して肩先と結び直し、衿ぐりを全体に一センチハイネックして描き直します。
・ヨークの切替え線は、後中央線で衿ぐりより十一センチ下つたところと、肩先とを図のようなカーヴ線で結びます。
・襠附線は背巾線を一センチ出して袖下の角と結び、袖下をつながりよくするため、下に少し延長してややカーヴさせておき、袖側の襠附寸法六センチ五ミリを計り、脇線上には八センチの附線を図のように引き、脇線も少し出してカーヴさせます。
・前身頃を製図してから、前後の袖山をつき合せにし、後袖下の肘線で二センチ五ミリ切り開き、一センチの分量でダーツを二本描き入れ、残りをいせ込みとします。
・スカートとの切替え線はウェスト線から中央線では八センチ五ミリ、脇線では八センチ下を結び、スカート側は中央線で二センチのくりをつけて、図のように描きます。
・後中央の裾で切替え線のくり分二センチを下げ、裾線を訂正します。

前身頃

・原型を一センチ倒して写し、脇線平行に五ミリ入れます。
・前中央線を下に延長してスカート丈七十二センチを計り、直角に裾巾二十八センチを引きます。
・肩線を延長してその線上に袖丈を計り、後と同じ要領で袖口寸法十一センチの袖を引きます。

口絵(83)女児外出着の 裁方と縫方の要点

・前身頃は『前身頃の切開き方』図を参照して切込みを入れますが、前後ともステッチがかかるだけの縫代が必要です。
・前身頃のタックは切開きの位置につまみ、後身頃のタックは前の感じに合せながら適当の間隔につまみます。
・前ヨークの下側の切替え線は縫代が少いので、共色の薄地布でスラッシュ風に見返しをとつてこれを縫代とし、前後ともヨークの角は額縁に始末し、一センチ二ミリ巾のステッチで身頃にぬいつけます。

•ウェスト線に、出来上りウェストサイズにダーツ分七センチ五ミリをしるし、脇丈は、後脇丈にダーツ分二センチを加えた寸法とし、ウェスト線と脇線を引きます。

•スカートの脇線も後と同様にヒップサイズを計つて引きます。

•ウェスト線と脇線に記入の寸法のダーツを描き、脇ダーツ分をつまんで脇線を訂正します。

•衿ぐりは、ネックポイントで一センチハイネックして描き、前中央より一センチ五ミリ手前をカラーの附止りとします。

•打合は前中央線平行に二センチを出し、ボタンの位置をしるします。

•ヨークの切替え線は、後の肩線からつづけて図のようなカーヴで描きます。

•襠附線は後と同じ要領で引きます。

•スカートとの切替え線は、ウェスト線に沿つて八センチ下に描き、スカート側は前中央で二センチのくりをつけ、脇側では身頃よりダーツ分四センチだけ狭くしとつて、切替え線と脇線をカーヴ線で引き直します。

•ヒップポケットは、ポケット口を切替え線より並行に二センチ上げて引き、脇に浮き分二センチを出して図の点線のように描きます。

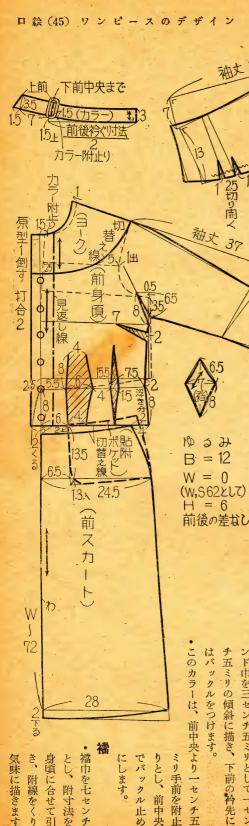
•裾線の前中央で切替え線のくり分二センチを下げ、脇線を後脇丈同寸に計つて、裾線を引きます。

•見返しは巾五センチとし、中央線に並行に引きます。

カラー

•カラー巾を三センチ、丈を前後衿ぐり寸法の二分の一として、一センチ五ミリ上りのバンドカラーを引き、上前は附線を七センチ延長し、その先ではバンド巾を三センチ五ミリとして一センチ五ミリの傾斜に描き、下前の衿先にはバックルをつけます。

•このカラーは、前中央より一センチ五ミリ手前を附止りとし、前中央でバックル止めにします。

襠

•襠巾を七センチとし、附寸法を身頃に合せて引き、附線をくり気味に描きます。

毛糸編をカラー風に扱つた
若向きワンピース

（口絵　46）

用布
ダブル巾で一ヤール八分
トリミング用に極細毛糸少々

デザイン

後身頃

・バストのゆるみを十センチとし、前後の差をなしにしますので、脇線を原型に平行に二センチ出します。

・ウェスト線に、出来上りウェストサイズ十七センチとダーツ分三センチを加えてしるし、脇でバスト線より四センチ下に結んで脇線とします。

・肩先を二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾同寸にいせ込み分七ミリを加えてしるし、その先に袖丈（出来上り袖丈三十七センチとし、伸し分を差し引いたもの）を延長します。

・袖先で直角に六センチ下げて肩先に結び、袖丈を計り直して、直角に袖口寸法十三センチを引き、袖下線を脇でバスト線から四センチ下に結びます。

・ネックポイントで、着込み分一センチを上げて肩先と結び直し、つづけて袖山線もふくらみをつけて描き直します。

・衿ぐりは後中央で三センチ、ネックポイントで二センチハイネックにして、つながりよく肩線を訂正します。

・後中央の衿ぐりから六センチ下と、肩線でネックポイントから六センチのところをカーヴ線で結んで切替え線とし、これより上には毛糸編をつけます。

・見返し線は、切替え線に沿つて二センチ五ミリ巾に描き入れます。

・ウェスト線に、三センチのダーツを記入します。

・襠附線は、背巾を袖側へ一センチ出して袖下と結び、袖下より六センチ上を襠の附止りとし、脇線上に七センチ、袖下線上に十一センチを記入します。

・袖下の切開きは、前身頃の製図をしてから前後の袖山をつき合せに置き、肘線を切開き線として、後袖下を二セン

口絵（46）ワンピースのデザイン

チ五ミリ切り開き、一センチのダーツを二本とり、五ミリをいせ込みます。

前身頃

- 脇線を平行に一センチ入れます。
- 肩ダーツは二センチの分量で、ネックポイントより六センチのところから、胸巾線で前中央より七センチ六ミリ入りに向つて図のようにとります。
- このダーツをたたんで原型を置き直し、図のようにもう一度原型を写します。
- ウエスト線に、出来上りウエストサイズ十七センチとダーツ分六センチを加えてしるし、二センチの脇ダーツ分を下げてウエスト線、脇線を訂正します。
- ウエスト線にダーツを記入します。
- 肩線を延長して袖丈を計り、後と同じ要領で袖口寸法十一センチの袖を描き、襠附線を描きます。
- 衿ぐりは、ネックポイントで二センチハイネックし、胸巾線で六ミリ入りに結び、ウエスト線で前中央より六センチ五ミリの打合分を出し、衿ぐりとつながりよくカーヴ線で結びます。
- 衿元の編物との切替え線は、ダーツの先から記入の寸法通り山形に描きます。
- 肩のダーツより二センチ五ミリ奥に、打合先に沿つて見返し線を記入します。
- スカートは、ウエストのくりを二センチつけ、丈を七十二センチとし、直角に裾巾三十八センチを引きます。
- ウエスト線は、出来上りウエストサイズにダーツ分二センチと、いせ込み分一センチを加えてしるし、図のようなカーヴ線で描きます。
- ヒップ下り二十センチの位置にヒップ線を引き、ヒップサイズ二十五センチを計り、裾と結んで脇線を引きます。
- 後スカートは図の点線のように、中央より六センチ五ミリ入りに二センチのダーツを描き、ヒップのふくらみを八ミリつけて脇線を訂正します。
- 前スカートは、図の実線のように二センチのダーツを描き、ポケット口は、ダーツの先から図のような形で脇線に結び、脇にポケット口の浮き分一センチ五ミリを出して、脇線を訂正します。
- 前スカートのポケット口より上の脇布は、ポケット袋布もつづけて裁ちます。

襠

- 襠巾を六センチとし、身頃の附寸法に合せて襠を描きます。

縫方の要点

- 衿元は、毛糸編をカラーの感じにトリミングしますので、身頃の附線に見返しをつけてととのえておきます。
- 衿元の毛糸編は、極細毛糸を二本どりにし、型紙に合せて一目ゴム編にあみますが、衿元は少し長めにあんで裏側に折り返し、軽く止めておきます。
- この毛糸編を身頃衿元の裏側に重ねて軽くまつりつけ、山形の部分は、浮いた感じにするために離しておき、ボタンで止めたような感じに仕上げます。」

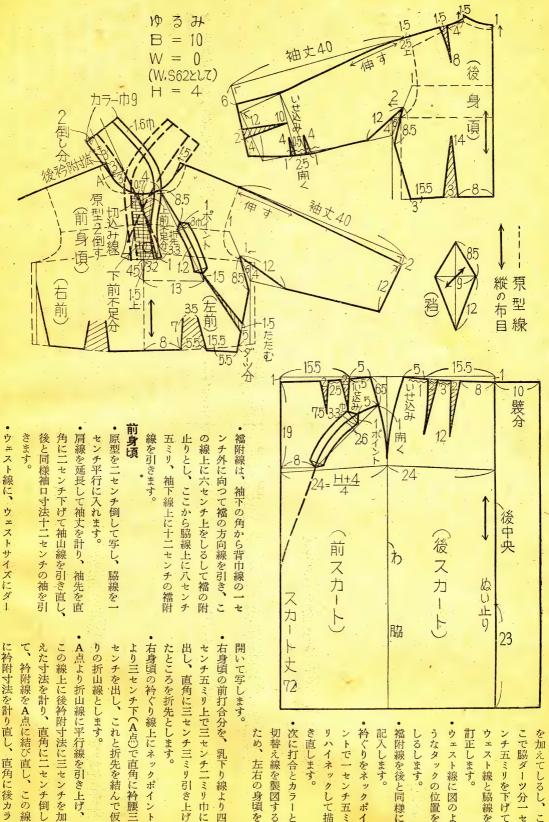
ポケットを対照的に扱つた
一般向きワンピース

（口絵　47）

用布　ダブル巾で二ヤール二分

デザイン

後身頃

- バストのゆるみを十センチとし、前後の差をなしにするため、脇線を平行に二センチ出します。
- 肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾にダーツ分一センチ五ミリを加えて肩先をしるし、その先に袖丈（出来上り袖丈四十センチより伸し分を差し引いたもの）を延長します。
- 直角に袖先を六センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直し、直角に袖口寸法十二センチを引き、脇でバスト線より六センチ下に袖下線を結びます。
- ウエスト線に、ウエストサイズ十五センチ五ミリにダーツ分三センチを加えてしるし、脇線を結びます。
- ウエスト線に三センチのダーツを描き入れます。
- 衿ぐりを後中央で一センチ、ネックポイントで一センチ五ミリハイネックさせて描き直し、肩線をつながりよく引き直し、一センチ五ミリのダーツを図のように少しカーヴさせて描きます。
- 肘線で袖下を二センチ五ミリ切り開き、袖山線はややふくらみをつけてつながりよく引き直し、袖下線もつながりよく訂正して、一センチのダーツを二本とり、残りをいせ込みにします。
- 袖口には、袖下より四センチ上に二センチのダーツをとります。

ゆるみ
B＝10
W＝0
(W.S62として)
H＝4

•襠附線は、袖下の角から背巾線の一センチ外に向つて襠の方向線を引き、この線上に六センチ上をしるして襠の附止りとし、ここから脇線上に八センチ五ミリ、袖下線上に十二センチの襠附線を引きます。

前身頃

•原型を二センチ倒して写し、脇線を一センチ平行に入れます。

•肩線を延長して袖丈を計り、袖先を直角に二センチ下げて袖山線を引き直し、後と同様袖口寸法十二センチの袖を引きます。

•ウェスト線に、ウェストサイズにダーツ分五センチ五ミリを加えてしるし、ここで脇ダーツ分一センチ五ミリを下げて、ウェスト線と脇線を訂正します。

•ウェスト線に図のようなタックの位置をしるします。

•襠附線を後と同様に記入します。

•衿ぐりをネックポイントで一センチ五ミリハイネックして描き直します。

•次に打合とカラーと切替え線を製図するため、左右の身頃を開いて写します。

•右身頃の前打合分を、乳下り線より四センチ五ミリ上で三センチ二ミリ巾に出し、直角に三センチ三ミリ引き上げたところを折先とします。

•右身頃の衿ぐり線上にネックポイントより三センチ下(A点)で直角に衿腰三センチを出し、これと折先を結んで仮りの折山線とします。

•A点より折山線に平行線を引き上げ、この線上に後衿附寸法に三センチを加えた寸法を計り、直角に二センチ倒して、衿附線をA点に結び直し、直角に後カラ

ー巾九センチを引きます。
・カラーの外廻り線を図のような形に描いて折先の位置と結び、折先より下は打合先より一センチ出して、図のように少ししやくれ気味に描きます。
・カラーの折山線を附線に平行に引き直します。
・カラー外廻りに一センチ六ミリ巾のバイヤス布の縁取りを記入します。
・上前身頃と同様に下前のカラーも引き、前中央をわにするため、都合のよい位置に次のように切込み線を入れます。
・切込み線は、衿ぐり前中央より七ミリ右身頃寄りと、前明止りで打合先より一センチ入つた点(最初の打合先)を直線で結びます。
・図に斜線で示した部分が上前で不足する分量で、横線で示した部分が下前で不足する分量となります。
・下前身頃のポケットは、前中央から衿ぐり線に四センチ入りと、乳下り線で十三センチ入りをカーヴ線で結び、この線上に三センチ巾の玉縁ポケットを図のように描きます。
・このポケットの縫代分を出すため、下前身頃のウェスト線より五センチ上の脇線上に、一センチ五ミリの脇ダーツをポケット口止りに向つてとり、その分をウェスト線の脇で下げます。
・型紙で脇ダーツ分をたたみ、ポケット切替え線に、衿ぐりからダーツの先まで切込みを入れると、ポケット口の縫代が開かれます。

スカート

・ヒップのゆるみを四センチにして、スカート丈七十二センチの脇縫なしのスリムスカートを図のように引きます。
・後中央に襞分十センチを出します。
・右スカートのヒップポケットは、脇で六センチ五ミリ下つたところから、前中央線でウェスト線より十九センチ下り、八センチ入つた点に図のようなカーヴ線で結び、三センチ三ミリ巾の玉縁ポケットを描きます。
・ポケット口の縫代分を出すため、ポケット口の線を中央線まで延長して切開き線とし、脇で一センチ開きます。

裾

・記入の寸法の裾を引きます。

縫方の要点

ポケットの作り方

・胸とヒップのポケットは玉縁仕立にしますが、これにつづくデザイン線もポケット口につづいた感じに作るため、切替え線をポケットから衿ぐりまでつき合せにし、それぞれ見返しをとりますが、出来上りの山をわの感じにするため、できるだけ見返し布を控えてつけます。この見返し布は、薄地の場合は表と共布で、厚地の場合は共色の薄地布を用います。
・玉縁を作り、見返し布を出来上り通りに折り返したら、この切替え線の下側に四センチ巾の表と共布を重ね、山より五ミリくらい奥をとじつけます。

前明の始末

・前身頃の前明切込み線を切り込み、上前、下前に不足分を接ぎ足します。
・上前のボタンホールを明けます。
・肩をぬい合せた身頃に裏カラーをぬいつけ、カラーの縁取りのバイヤス布を巾二つ折にして、カラー外廻りのカーヴ線に合せてアイロンで形づくり、裏カラーの外廻りに中表にぬいつけ、縫代を割ります。
・見返しつづきの表カラーの外廻りに、バイヤス布のもう一方の端をぬい合せ、縫代を割り、見返し奥を後の方はカラー附線にまつりつけ、前の方は二つ折にして端ミシンをかけて、まつらずに離しておきます。

材料次第で誰にも着られる
ワンピースドレス

（口絵 48）

用布 ダブル巾で一ヤール九分

デザイン

後身頃

・バストのゆるみを十センチとし、前後の差をなしにしますので、脇線を平行に二センチ出します。
・肩先を二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩線を延長して肩巾と一センチのいせ込み分をしるし、その先に袖丈（出来上り袖丈を三十六センチとし、伸し分を差し引いたもの）を計ります。
・袖先を直角に六センチ下げて肩先と結び直し、袖丈を計り直して直角に袖口寸法十三センチを引きます。

口絵（48）ワンピースのデザイン

•袖下線は、バスト線で脇を四センチ下げて袖口下と結びます。

•ネックポイントで一センチ出し、後中央を五ミリ上げて衿ぐりと肩線を訂正し、衿ぐりのダーツ分として八ミリを後中央に出し、ウェスト線と結んで背の線とします。

•衿ぐりは、更に後中央で四センチのハイネックにし、ネックポイントでは三センチ五ミリを上げて描き直し、背の線より二センチ五ミリ入りに、八ミリのダーツをとります。

•ウェスト線に、ウェスト寸法十七センチとダーツといせ込み分四センチ五ミリを加えてしるし、袖下と脇線を結び、図の位置にダーツを二本描き入れます。

•襠附線は、袖下から背巾線の一センチ外に向つて襠の方向線を引き、下から三センチを計つてここを襠の附止りとし、身頃側に六センチ、袖下側に九センチを引きます。

•肘線で二センチ五ミリ切り開き、図のように一センチのタックを二本とつて、五ミリをいせ込みにします。

•衿ぐりに沿つて見返し線を描きます。

•スカートは、ウェスト線で一センチ五ミリをくり、そこからスカート丈七十二センチを引き、直角に裾巾二十六センチの裾線を引きます。

•ウェスト線に、ウェストサイズにダーツ分五センチといせ込み分五ミリを加えてしるし、ヒップサイズを計つて脇線を引きます。

•脇丈を計り直して裾線をカーヴに引き直します。

•後中央線平行に、片襞分八センチを出し、裾より二十二センチ上をぬい止りとします。

•ウェストのダーツを二本、図の位置に記入します。

前身頃

•原型を一センチ倒して写し、脇を平行に一センチ入れて引きます。

•ウェスト線に、出来上りウェストサイズ十七センチとダーツ分六センチを加えてしるし、脇線をバスト線より四センチ下に結びます。

•肩線を延長して袖丈を計り、直角に六センチ下げて肩先と結び、後の要領で袖口寸法十一センチの袖を描きます。

•襠附線を後と同寸法に引きます。

・衿ぐりは、ネックポイントで三センチ五ミリハイネックし、中央線では原型衿ぐりより五センチ下で直角に四センチを引き、ハイネックした先とややカーヴした線で結びます。
・衿ぐりの横線を袖先まで延長して切開き線とし、縫代分として一センチ切り開きます。
・打合は衿ぐりで八センチ、ウェスト線で五センチ出して結びます。
・ウェストのダーツは図の位置に六センチにしるし、八センチ上までぬい止めます。
・見返しは肩で四センチ五ミリ巾、ウェストの位置で十センチ巾にして、図のように引きます。
・ステッチ巾は打合を、一センチ三ミリとし、衿ぐりには三センチ五ミリ巾のところを、三ミリ間隔のステッチでいつぱいに埋めます。
・前スカートは、後と同じ要領で記入の寸法に引き、ウェスト線のダーツは、前中央から五センチ入りに一センチ五ミリの分量でとり、更に脇寄りに二センチの分量でもう一本描き入れます。
・スカートのポケットは、前のダーツを利用して、十八センチの寸法を中央線より八センチ入つたところに引き、脇線ではヒップ線より一センチ上と結んで、中央側の角は二センチ五ミリの丸みをつけてカーヴ線に訂正し、これを切替え線とします。
・ポケット口は、ウェスト線から中央側は四センチ五ミリ、脇線では七センチ下げて結び、ポケット口の中央辺りで五ミリくつてカーヴ線に訂正し、脇側にポケット口の浮き分を二センチ、底側ではいせ込み分として一センチ出してポケットの脇線を引きます。
・ポケットにつづくフラップの巾は、中央側で六センチ、脇側で六センチ五ミリとし、中央側の角を丸みにして、口側の線に沿つてカーヴ線で結びます。
・ポケット口のフラップも三ミリ間隔のステッチで埋めます。

襠

・襠巾を六センチ五ミリとして、記入の寸法に襠を引きます。

口絵（48）ポケットの縫方

(1)
フラップ表
0.3間隔にステッチする
2
折山
(B布)
裏側
縫代2

(2)
(A布)表
同色薄地の袋布を接ぐ
(B布)表
0.2控える
(スカート表)
同色薄地の見返し
1.3のステッチ

(3)
(A布)
(B布)
(袋布)
(前スカート)裏

裁方と縫方の要点

・ポケット布は、縦横の地の目が目立たない場合にはバイヤスに裁ちます。
・『ポケットの縫方』(1)図を参照して、ポケットB布の裏にフラップの附側を細かくまつりつけます。
・(2)図のように、スカートのポケット附側には同色の薄地布の見返しをつけてととのえておき、A布とのあいだにフラップのついたB布を挟み、一センチ三ミリ巾のステッチで押えます。
・(3)図を参照して、ポケット裏側で縫代を全部一緒にかがつておきます。

いろいろのタイプに向く

ワンピースドレス

（口絵　49）

用布
ダブル巾で二ヤール六分

デザイン

後身頃

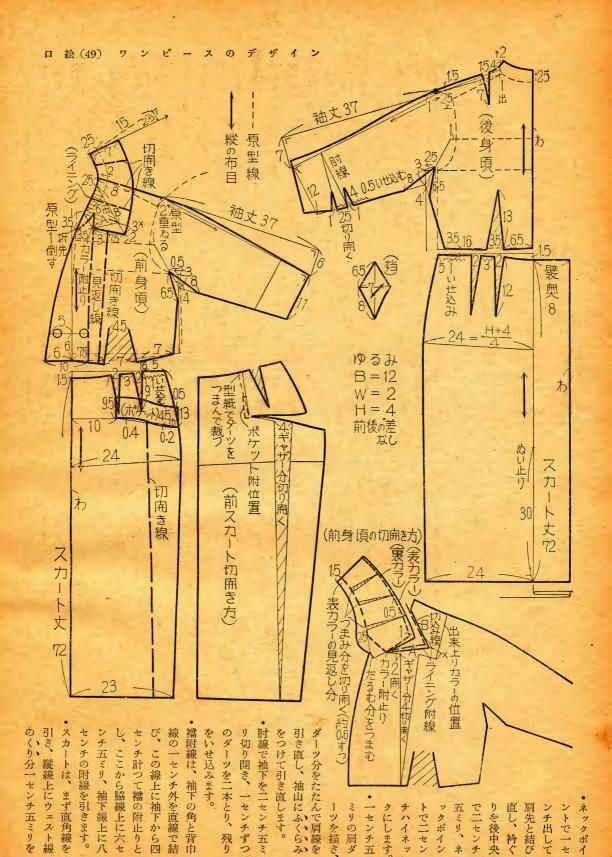
・バストのゆるみを十二センチとし、前後の差をなしにするため、脇線を平行に二センチ五ミリ出します。
・ウェスト線に、ウエストサイズ十六センチにダーツ分三センチ五ミリを加えた寸法を計り、脇線をバスト線より三センチ下に結びます。
・ウェスト線に三センチ五ミリのダーツを描きます。
・肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、この延長上に肩巾にダーツ分の一センチ五ミリを加えて肩先をしるし、その先に袖丈三十七センチを計ります。
・袖先で直角に七センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直し、直角に袖口寸法十二センチを引き、袖下線を結びます。

•ネックポイントで一センチ出して肩先と結び直し、衿ぐりを後中央で二センチ五ミリ、ネックポイントで二センチハイネックにします。

•一センチ五ミリの肩ダーツを描き、ダーツ分をたたんで肩線を引き直し、袖山にふくらみをつけて引き直します。

•肘線で袖下を二センチ五ミリ切り開き、一センチずつのダーツを二本とり、残りをいせ込みます。

•襠附線は、袖下の角と背巾線の一センチ外を直線で結び、この線上に袖下から四センチ計つて襠の附止りとし、ここから脇線上に六センチ五ミリ、袖下線上に八センチの附線を引きます。

•スカートは、まず直角線を引き、縦線上にウエスト線のくり分一センチ五ミリを

しるし、ここからスカート丈七十二センチを計り、直角に裾巾二十四センチを引きます。
・横線に、ウェストサイズ十六センチにダーツ分四センチ、いせ込み分一センチを加えてしるし、一センチ五ミリのくりをつけてウェスト線を引きます。
・ヒップ下りの位置でヒップサイズ二十四センチを計り、脇線を引きます。
・ウェスト線にダーツを二本とります。
・後中央線に平行に襞分八センチを出し、裾から三十センチ上を襞奥のぬい止りとします。

前身頃

・原型を一センチ倒して写します。
・脇線を五ミリ平行に入れます。
・ウェスト線に、ウェストサイズ十六センチにダーツ分七センチを加えてしるし、バスト線より三センチ下に脇線を結びます。
・ウェスト線に前中央から七センチ五ミリ離し、七センチのタックを図のようにとり、タック分をつまんでウェスト線を引き直します。
・肩線を延長して袖丈を計り、袖先を六センチ下げて、後同様に袖口寸法十一センチの袖を引き、襠附線を引きます。
・打合はウェスト線で六センチ、ウェストより六センチ上では五センチとし、ネックポイントで二センチハイネックし、ここから前中央で衿ぐりより三センチ五ミリ下の折先を通り、更に打合先に結ぶカーヴ線を引きます。
・カラーは、後身頃の原型を肩先で二センチ重ね、ネックポイントをつき合せて図のように写し、後衿ぐりの中央から矢の線を引き、この線を衿ぐりから二センチ五ミリ延長し、衿ぐり線を前と結びますが、図のように矢の線に対して直角に描きます。
・矢の線をカラーの後中央として、カラー巾を後中央で七センチ、肩線で八センチにし、後のカラー外廻り線を結びます。
・打合線上の折先から横に三センチ五ミリ入つたところをカラー附止りとし、ここから胸巾線より二センチ上に七センチ五ミリの衿先を引き、後カラーの外廻りとつなぎます。
・切開き線は図の点線のように、カラー附止りより三センチ衿先寄りから、ウェストに向つて一本引き、カラーには肩線の位置と、後カラーの中央と、前カラーの中央との都合三本記入します。
・前身頃を別紙に写しとり、前カラーの外廻りを肩からカラー附止りまで切り込み、『前身頃の切開き方』図を参照し、身頃の切開き線でギャザー分四センチを切り開き、更に切開きの位置でカラーを左に倒して二センチ開くと、折先の打合の部分がたるむので、この分を型紙でつまみ、このつまれた分をカラー切開き線の三カ所で切り開きます。
（一カ所の切開き分は六ミリくらい）
・表カラーの附側には裏に見返る分をつづけて裁つため、後中央で一センチ五ミリ、折先寄りでは二センチ五ミリ出し、図のようなカーヴ線で折先に結び直します。
・裏カラーは、衿先で表より一センチくらい控えて図の点線のように引きます。
・衿先のギャザー分を切り開き、カラーを二センチ倒すと、身頃とカラーのあいだが開かれるので、ここで身頃をできるだけとるのですが、なほ不足する分をライニングとして接ぎ足すことになります。
・ライニングは前身頃に斜線で示したように、衿附線上でネックポイントより二センチ五ミリ下と衿先とを結び、この線上に三センチ上つた点とカラー附止りを結んでA線とし、附止りから上に図のB線と平行の線を引き上げると、ライニングは約六センチ巾になります。
・前身頃でカラーの下に重なつた部分をライニングを除いて写しとり、切り開いた前身頃に描き足しますが、ライニング附のA線はギャザー分を切り開いたため、カラー附止りと結び直します。
・見返し線は、カラー附止りの位置で四センチ巾、ウェスト線で十センチ巾にして結び、附止りより上は表カラーの見返し分を除いて図のように描きます。
・スカートは、裾巾を二十三センチにして後と同じ要領で引き、ウェスト線のダーツは脇より五センチ入りに一本、更に三センチ離してもう一本、どちらも二センチの分量で描きます。
・ポケットは、前中央より十センチ入りでウェスト線より九センチ五ミリ下つた点と、脇線で十三センチ下つた点を結び、図のようなカーヴ線で附線を引き、附線に並行に四センチ五ミリ巾の箱ポケットを描きます。
・ポケット附の中央に裾まで切開き線を引きます。
・『前スカートの切開き方』図を参照し、型紙のポケット附線に切込みをし、ポケットロのギャザー分を切り開き、前寄りのダーツをたたんでポケットロの縫代分を出します。

襠

・襠巾を七センチとし、附側は身頃附寸法に合せて、図のように引きます。

縫方の要点

カラーの縫方

・『前身頃の切開き方』図を参照し、表カラーの外廻りに切込みをしますが、裏カラーを図のように控えてぬうため、その分縫代を多くつけて切り込みます。
・『カラーの縫方』(1)図のように、前身頃にライニングを接ぎ足しますが、まず身頃のA線をライニングに合せてギャザーし、ライニングA線にぬい合せ、縫代をライニングの方に倒し、B線をぬい合せて縫代を割ります。
・折先の位置の縫代に、吊れない程度に

切込みをし、これより下の打合先に見返し布を少し控えてぬい合せ、縫代は見返しの方に倒します。

•折先より上は見返しの縫代を出来上り通りに折つて、表カラーの附線に縦まつりでつけます。

•(2)図のように、表カラーの衿先を額縁に作り、裏カラーを中表に重ねてカラー外廻りをぬいますが、裏カラーを衿先では一センチくらい控え、附止りでは自然に控え分を少くし、後カラーに向つては五ミリくらい控えるようにぬい合せ表に返してととのえます。

•裏カラーの附側を出来上り通りに折つて身頃にまつりつけますが、カラー附止りより四センチくらい手前までは裁切りのまま残しておきます。

•(3)図のように、表カラーを身頃のカラーの重なる位置に形をととのえて重ね、自然に折り返る折山の位置を定め、表カラーの見返し分の奥を粗まつりで身頃に止めつけ、それより下の見返し布の奥を二つ折にして端ミシンをかけ、まつりつけずに離しておきます。

•(4)図のように出来上りますが、カラー附止りより二センチくらいのあいだを、表から奥まつりでぬい止めます。

口絵(49) カラーの縫方

スマートなジュニアの

外出向きワンピース

（口絵 50）

用布 ダブル巾で二ヤール三分

デザイン

後身頃

•バストのゆるみを十二センチとし、前後の差をなしにするため、脇線で平行に二センチ五ミリ出します。

•中央線を下に延長してウェスト線よりスカート丈七十二センチを計り、直角に裾巾二十八センチを引きます。

•背の線は、衿ぐり線で中央からダーツ分八ミリを出し、ウェスト線で一センチ五ミリ入つたところと直線で結び、更に裾線で中央線から三センチ出したところに結びます。

•ウェスト線上に、背の線からウェストサイズ十五センチ五ミリに、ダーツ分四センチを加えてしるし、脇でバスト線より三センチ下と結び、ヒップ線ではヒップサイズ二十四センチ五ミリをしるして、ヒップのふくらみをつけながら脇線を引きます。

•脇丈を計り直し、裾線を訂正します。

•肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾同寸にいせ込み分一センチを加えて肩先とし、その先に袖丈（袖丈三十七センチとし、伸し分を差し引いた寸法）を延長します。

•袖先で直角に六センチ下げて肩先と結び、袖丈と同寸を計り、直角に袖口巾十二センチを引き、袖下線を結び、袖先に八ミリ出して袖口線を訂正します。

•襠附線は、背巾線の一センチ外と袖下の角を結び、下から五センチ五ミリ上を附止りとし、脇線上に六センチ、袖下線上にも六センチの附線を引きます。

•ネックポイントで着込み分として一センチ出し、肩線を引き直し、袖山線もふくらみをつけて描き直します。

•衿ぐり線は、後中央で五ミリ上げてくり直し、更に全体に二センチハイネックして図のように描き、八ミリのダーツを描き入れます。

•四センチのウェストダーツを描きます。

•ウェストの切替え線は、後中央でウェスト線より三センチ五ミリ下と、ウェ

ストの脇を図のカーヴ線で結びます。

・スカートは、この切替え線で後中央を五ミリくり下げて引き、裾線も五ミリ下げて訂正します。

・背の線に平行に二センチの打合を出し、ボタンの位置を記入します。

・肘線を袖下で二センチ五ミリ切り開き、袖山線と袖下線をつながりよく訂正し、一センチのダーツを二本とり、残りをいせ込みます。

・スカートの中央線は裾から三十センチをぬい残し、ここに別に製図したアコーディオンプリーツを入れます。

前身頃

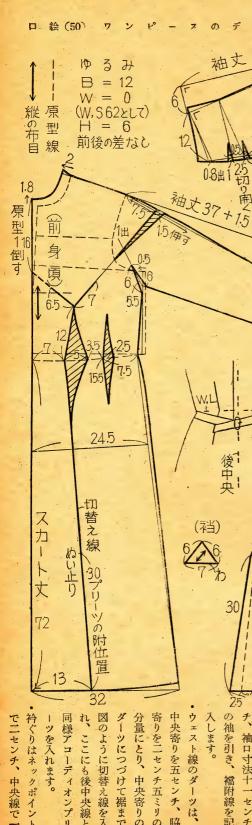
・原型を一センチ倒して写し、脇線を平行に五ミリ入れます。

・中央線を下に延長して、ウェスト線からスカート丈七十二センチを計り、直角に裾巾三十二センチをとります。

・ウェスト線に、中央からウェストサイズ十五センチ五ミリにダーツ分七センチ五ミリを加えてしるし、後身頃と同様に脇線を引きますが、記入のヒップサイズで腰の丸みが出ないときには、図のようにふくらみをつけて引き直します。

・脇線に後脇丈同寸を計り、裾線をカーヴ線で引き直します。

・肩線を延長して、袖丈にダーツ分一センチ五ミリを加えて計り、後と同じ要領で袖先の下り七センチ、袖口寸法十一センチの袖を引き、襠附線を記入します。

・ウェスト線のダーツは、中央寄りを五センチ、脇寄りを二センチ五ミリの分量にとり、中央寄りのダーツにつづけて裾まで図のように切替え線を入れ、ここにも後中央線と同様アコーディオンプリーツを入れます。

・衿ぐりはネックポイントで二センチ、中央線で一

センチ八ミリハイネックし、図のように描き直します。

・中央寄りのダーツの先からV字型にタック風のダーツをとりますが、その方向は中央線上で衿ぐりから十六センチ下と、肩先から袖山線に七センチ五ミリドロップした点にそれぞれ結び、袖山線には一センチ五ミリのダーツを、原型の袖ぐり線までの長さにとります。

・『前身頃の切開き方』図を参照し、切替え線に裾から前中央までと、袖ぐり線まで切込みを入れ、袖山のダーツをたたみ、図の位置で一センチ五ミリ切り開き、図のようにダーツを描きます。

襠

・襠巾を七センチにし、附線を身頃の附寸法と同寸にして図のように引きます。

アコーディオンプリーツ

・丈三十センチ、裾巾十五センチ、上の巾六センチにして図のように引き、上の襞奥は一センチ、下は二センチ五ミリにして襞山、襞奥をしるします。

ダーツはたたむ
6.5
7
ここまで裾から切込みを入れる
ここで1.5切り開く
前中央わ

口絵（50）前身頃の切開き方

(1)
切込み
(前身頃)表
前中央わ
(2)
前中央
0.3外をぬって浮いた感じにする
(前身頃)裏
(3)
前中央わ
千鳥がけ
ステッチをかけるため当布をしておく
ウェストのダーツ
(前身頃)裏
(4)
中ステッチ
(出来上り)

口絵（50）胸のダーツの縫方

縫方の要点

・『胸のダーツの縫方』図(1)を参照して、V字型のダーツの途中まで切込みを入れます。

・(2)図のように、まず切替え線につづくウェスト線のダーツをしるし通りに地縫し、縫代は割り、次に胸のダーツをぬいますが、ダーツは浮いた感じを出すため、しるしより三ミリくらい奥を地縫し、縫代は下側に倒します。

・このダーツに一センチのステッチをかけますが、縫代が少いので、(3)図のように裏に薄地布を当ててステッチをかけ、ウェストのダーツの縫代に重なる部分は千鳥がけをしておきます。

アコーディオンプリーツの附方

・(1)図のように、アコーディオンプリーツをたたみます。

・(2)図のように、身頃の布とプリーツの布とを中表にしてぬい合せます。

・(3)図のように、切替え線を地縫して縫代を割り、プリーツの襞奥をたたみ、切替え線の縫代にとじつけます。

・(4)図のように、表から一センチ五ミリと一センチの三角かがりをします。

口絵（50）アコーディオンプリーツの附方

パーティドレスにもなる

若向きワンピース

（口絵 51）

用布

ダブル巾で二ヤール五分

ネックウェア＝七十一センチ巾で三分

ワンピースのデザイン

後身頃

・バストのゆるみを十二センチにし、前後の差をなしにするため、脇線を平行に二センチ五ミリ出します。

・肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾同寸にいせ込み分一センチを加えてしるし、その先に袖丈三十七センチを延長します。

・ウェスト線に、出来上りウェストサイズ十六センチ五ミリ、ダーツ分四センチといせ込み分五ミリを加えてしるし、脇でバスト線より二センチ五ミリ下と結んで、脇線とします。

・ウェストダーツは、図の位置に二センチの分量で十三センチの長さに二本描き入れます。

・袖先を直角に七センチ下げて肩先と結び、この線に袖丈を許り直して、直角に袖口寸法十二センチ五ミリを許ります。

・脇で二センチ五ミリ下と袖口を結んで袖下線とします。

・肘線で二センチ五ミリ切り開き、図のように一センチのダーツを二本描き、袖山線にふくらみをつけます。

・襠附線は袖下から背巾線を袖ぐり側へ一センチ出したところに向けて方向を定め、脇で袖下より二センチ下から方向線上に六センチを計つて附止りとし、ここに身頃側襠附線を引き、附止りか

ゆるみ
B＝12
W＝2
(W.S＝64)
前後の差なし

原型線
縦の布目

口絵（51）
ワンピースのデザイン

ら袖下線に向つて九センチの袖側襠附線を引きます。

前身頃

•原型を一センチ倒して写し、前下りは二センチつけます。

•脇線を平行に五ミリ入れます。

•肩線を延長して袖丈を計り、袖先で直角に七センチ下げて袖口寸法十一センチ五ミリを計ります。

•ウェスト線に、ウェストサイズ十六センチ五ミリ、ダーツ分五センチ五ミリ、いせ込み分五ミリを加えてしるし、ここで脇ダーツ分二センチを下げてウェスト線を引き、脇でバスト線より二センチ五ミリ下と結んで脇線とします。

•図の位置にウェストと脇のダーツをそれぞれ描き入れます。

•袖下線を引き、襠附線を後と同様にして引きます。

•胸の切替え線は、前中央のバスト線より二センチ五ミリ上で、中央線に対して直角線を引き、この線上に前中央より三センチ五ミリ入つてポケット口九センチをしるし、下側ではウェストダーツの先からポケット口に平行に四センチ五ミリを脇側へ引き、ポケット口と結んで、角を一センチ五ミリの丸みに描きます。

•ポケット口の脇側では浮かし分を五ミリ出します。

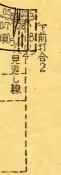
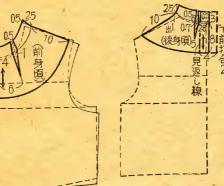
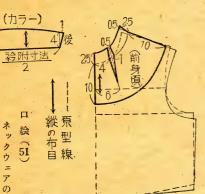
•衿ぐりは、前中央で五ミリ下げてくり直します。

襠

•襠巾を六センチとして、図のように製図します。

スカート

•スカート丈を七十二センチ、ウェスト寸法は後を十六センチ五ミリ、前はダーツ分といせ込み分を加えて十七センチ五ミリとし、裾巾は後が五十五センチ、前が五十センチのサーキュラースカートを製図します。

•前スカートには図の位置に六ミリのダーツを描き、記入の寸法でポケットを描いて、ポケット口を三ミリくります。

•ポケットは図の位置に切込みを入れ、口側は浮かし分七ミリ、底はいせ込み分三ミリを開きます。

口絵（51）ネックウェアのデザイン

ネックウェアのデザイン

後身頃

•衿ぐりで後中央線をダーツ分として七ミリ出して、背の線を引き直します。

•ネックポイントを一センチ出して肩線を引き直します。

•ハイネックは後中央で三センチ、ネックポイントで二センチ五ミリとして衿ぐり線を描き、肩線とつながりよく訂正します。

•ダーツは、背の線から二センチ八ミリ入り、原型衿ぐりより五ミリ上に、七ミリの分量で図のように描きます。

•丈は原型衿ぐりより後中央で八センチ、肩で十センチとして、図のようにカーヴ線で結びます。

•打合は下前だけに二センチつけます。

•見返しは、打合先から巾四センチとします。

前身頃

•衿ぐりの図の位置に一センチのダーツをとり、ダーツ分をたたんで衿ぐり線、肩線、脇線を訂正します。

•前中央とネックポイントで二センチ五ミリのハイネックに描き、衿ぐりのダーツをハイネックの線まで延して描きます。

口絵（51）スカートのポケットの縫方

ドレープの扱い方が目新しい

一般向きワンピース

（口絵 52）

用布 ダブル巾で二ヤール

デザイン

後身頃

・バストのゆるみを十二センチとし、前後の差をなしにするため、脇線を平行に二センチ五ミリ出します。

・ウェスト線に、ウェストサイズ十七センチ五ミリにダーツ分といせ込み分の四センチを加えてしるし、脇線をバスト線より四センチ下に結びます。

・肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾同寸にいせ込み分一センチを加えて肩先をしるし、その先に袖丈（出来上り袖丈を三十七センチとし、伸し分を差し引いたもの）を延長します。

・袖先で直角に六センチ下げ、肩先と結び直し、袖丈を計り直し、直角に袖口寸法十二センチ五ミリを引き、袖下線を結びます。

・衿ぐりの後中央でダーツ分を八ミリ出して中央線を引き直し、この線を上に四センチ延長します。

・ネックポイントで一センチ出して肩線を訂正し、ここでは三センチ五ミリ上げて、図のようにハイネックした衿ぐり線を描き、肩線とのつながりをよく訂正します。

・原型の衿ぐり線に、八ミリのダーツを描きます。

・襠附線は、背巾線の二センチ外と袖下の角と結び、角から四センチ上を襠の附止りとし、脇線上に八センチ、袖下線上に十センチの附線を引きます。

・前身頃の製図をしてから前後の袖山をつき合せにし、肘線で袖下を二センチ五ミリ切り開き、袖山線にふくらみをつけてつながりよく訂正します。

・袖口線は袖下で八ミリ出して図のように引き直し、袖下には一センチの分量のダーツを図のように二本とり、残りをいせ込みにします。

・スカートは、縦線にウェストのくり分一センチ五ミリを計り、その下にスカート丈七十二センチを計つて、直角に裾巾二十六センチを引きます。

・ウェスト線は中央線に直角に、ウェストサイズ十七センチ五ミリにタック分七センチと脇のくり入れる分一センチを加えてしるし、裾と直線で結んでか

・丈は前中央線で原型衿ぐりより十センチ、肩線でも十センチとつて、図のようにカーヴ線で結びます。

カラー

・ハイネックの衿ぐり寸法をカラー附寸法として、その二分の一の衿附線を引き、後カラー巾四センチ、前カラー巾五センチとして外廻り線を描き、後は一センチ、前は五ミリ出して衿先を描きます。

縫方の要点

・前身頃の切替えは、中央から左右に三センチ五ミリずつをぬい止めます。

・ダーツからつづくポケットの脇側の線は割接ぎにし、ポケットの袋布は、表を一枚、表より丈を一センチ五ミリ短くした裏を一枚、都合二枚用意しておきます。

スカートのポケットの縫方

・スカートのダーツは、縫代を中央側に倒します。

・(1)図を参照して、スカートのポケット附じるしより口側に二センチ五ミリ、周囲は一センチくらい縫代を残して布をくり抜きます。

・(2)図のように、四センチ五ミリ角に裁つたバイヤス布（表布が厚地の場合は同色の薄地布）を、ポケット口の両角に表から当て、角に向つてミシンを三角にかけ、地縫の糸を切らないように、注意してほつれ止めをします。

・当布は裏に引き出し、縫代はバイヤス布の方に倒してアイロンで押えます。

・(3)図を参照して、ポケット口に裏袋布を中表に合せ、五ミリの縫代で地縫し、袋布の方に片返し、袋布を裏側に引き出しておきます。

・表の袋布は底をぐし縫でいせ込みます。

・(4)図のように、表の袋布とスカートを中表にぬい合せ、スカートの縫代には切込みを入れて割ります。

・ポケット口は、割つた縫代をくるんで出来上りから折り、表にひびかぬようにまつりつけます。

・裏袋布を割つた縫代の上にのせ、(5)図のように縫目のきわをスカートの縫代に細かくとじ合せます。

ら、脇線をウェスト線で一センチ入れて引きます。

•ウェスト線をカーヴ線で描き、記入の寸法でタックを二本しるし、タック分をたたんでウェスト線を訂正します。

•脇丈を計つて裾線を訂正し、後中央に片襞分七センチを平行に出します。

前身頃

•原型を一センチ五ミリ倒して写し、脇線を平行に五ミリ入れます。

•ウェスト線に、ウェストサイズ十七センチ五ミリにダーツ分五センチを加えてしるし、脇線をバスト線より四センチ下に結びます。

•ウェスト線に五センチのダーツを図のように描きます。

•肩線を延長して袖丈を計り、後と同じ要領で記入の寸法の袖を引き、襠附線も後同様に記入します。

•衿ぐりはネックポイントで三センチ五ミリハイネックし、前中央では原型より八センチ下で中央線に直角に一センチ八ミリを引き、ハイネックした先と少しカーヴした線で結びます。

•打合は中央線に平行に一センチ八ミリ巾とし、ボタン四箇の位置をしるしておきます。

•見返しは肩で四センチ巾、ウェスト線で五センチ巾にして、図の太点線のように引きます。

•衿ぐりのタック分を切り開くため、衿ぐりの角から脇線に向つて切開き線を引き、衿ぐりで一センチ三ミリ切り開きます。

•スカートは、裾巾二十七センチ五ミリ、ウェスト線のタック分は八センチにし、後と同じ要領で引きます。

•ウェスト線の脇側のタックの蔭に、スラッシュポケットの位置をしるし、袋布の大きさを記入します。

襠

•襠巾八センチとし、附寸法は身頃側八センチ、袖側十センチにして、図のような形に製図します。

裁方の要点

•前見返しを裁つとき、衿ぐりダーツは型紙をつまんで裁ちます。

口絵（52）ワンピースのデザイン

毛皮をトリミングした
一般向きオーバー

（口絵 53）

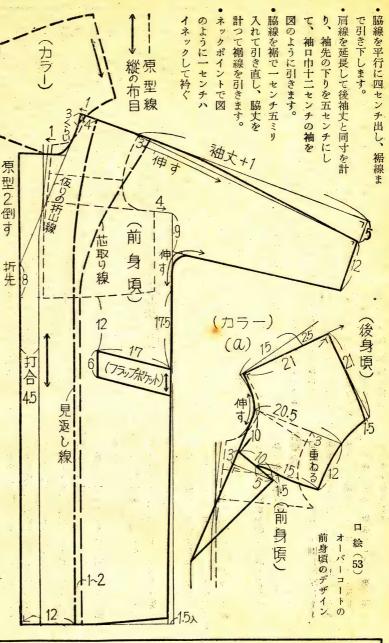
用布
- **表＝ダブル巾で二ヤール三分**
- **裏＝七十一センチ巾で三ヤール六分**
- **ラペルとポケットの別布＝ダブル巾で七分**

デザイン

後身頃

- 後中央線を原型より一センチ出して平行に引き下し、丈をドレスより一〜二センチ長く計つて、直角に裾線を引きます。
- バストのゆるみを三十センチとし、前後の差をなしにするため、脇線を七センチ平行に出し、その線を裾まで引き下します。
- 肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、この線上に肩巾といせ込み分五ミリとダーツ分一センチ五ミリを加えて肩先をしるし、その先に、ドレスより一センチ長い袖丈（袖山の伸し分を差し引いた寸法）を計ります。
- 袖先で直角に五センチ下げて肩先と結び、この線上に袖丈を計り直し、直角に袖口寸法十六センチを引き、ここから脇でバスト線より九センチ下つたところに、袖下線を結びます。
- 袖山から六センチ下つた袖先に、三センチのダーツを十三センチの長さにとり、ダーツ分をたたんで袖口線を引き直します。

前身頃

- 原型を二センチ倒して写し、前中央線を平行に一センチ出して下に延長し、丈を後と同寸に計つて、直角に裾線を引きます。

- 脇線を裾で一センチ五ミリ入れて引き直し、袖下線とつながりよくカーヴ線で結びます。
- 背の線も裾で一センチ五ミリ入れて、ウェスト線の辺りから図のように引き直します。
- ネックポイントで着込み分として一センチ出して肩線を訂正し、衿ぐりをネックポイントで更に一センチ、後中央で一センチ五ミリのハイネックに描き直します。
- 肩線にはネックポイントより四センチ入りに、一センチ五ミリのダーツをややカーヴした線で六センチの長さに描き、ダーツ分をたたんで肩線をつながりよく訂正します。
- 肘線で袖下を三センチ切り開き、袖山にふくらみをつけてつながりよく袖山線を引き直し、袖下線もつながりよく訂正して一センチ二ミリのダーツを図のように二本とり、残りをいせ込みにします。

口絵（53）
オーバーコートの後身頃のデザイン

•脇線を平行に四センチ出し、裾線まで引き下します。

•肩線を延長して後袖丈と同寸を計り、袖先の下りを五センチにして、袖口巾十二センチの袖を図のように引きます。

•脇線を裾で一センチ五ミリ入れて引き直し、脇丈を計つて裾線を引きます。

•ネックポイントで図のように一センチハイネックして衿ぐりを描き直します。

•打合分四センチ五ミリを中央線に平行に出しますが、ウエスト線より八センチ上を、ラペルの折先とします。

•衿ぐりでネックポイントから三センチくらい下と折先とを直線で結び、仮りの折山線とします。（実際の折山線はもう少し浅くなる。）

•（a）図を参照して別紙にカラーの製図をします。前後身頃の型紙のネックポイントをつき合せ、肩先を三センチ重ねて置くと、ハイネック分のところは重なります。

•後中央で図のように矢の線を引き、この線に直角に衿ぐり線を訂正します。

•カラー丈を二十一センチとし、直角にカラー巾二十一センチを引き、一センチ五ミリのカーヴをつけます。

•前はネックポイントから仮りの折山線上に十センチ下り、更に三センチ下で直角線を引き、十センチ下つたところからこの直角線上に十センチを計り、折先と結んでラペルとします。

•カラーの附止りを衿先より五センチ入りとし、カラー巾を前十五センチ、肩で二十センチ五ミリとして、カラー外廻り線を結びます。

口絵（53）オーバーコートの前身頃のデザイン

・このラペルとカラーを写しとり、前身頃の仮りの折山線につき合せて置き、カラーとラペルの外廻りを写しとり、カラー附線をつながりよく訂正します。
・衿附寸法の不足分（ハイネックした衿ぐりで重なつた分）は衿附のときカラーを伸してつけます。

・記入の位置に六センチ五ミリ巾のフラップポケットを描きます。
・見返し線は肩で四センチ、折先より裾寄りは十二センチの巾にして図のように結び、芯取り線も記入します。
・このポケットのフラップと見返し布は移りのよい別布で裁ちます。

放射状のステッチを扱つた スポーティなコート

（口絵　54）

用　布
表＝ダブル巾で二ヤール七分
裏＝九十センチ巾で四ヤール

デザイン

後身頃
・後中央線を原型より平行に一センチ出し、ウェスト線から下に七十四センチ（ドレス丈より一〜二センチ長く）延長し、この中央線に直角に裾巾三十三センチを引きます。
・バストのゆるみを二十六センチとし、前後の差をなしにしますから、バスト線の脇で六センチ出し、裾と直線で結んで脇線とします。
・裾線を脇に直角に訂正します。
・肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、これを肩先に延長してこの線上に原型肩巾を計り直し、その先にいせ込み分一センチとダーツ分一センチ五ミリを加え、更にドレスの袖丈に一センチ加えた寸法（袖山の伸し分を差し引いたもの）を計ります。
・袖先で直角に七センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直します。
・袖口線は、袖山に直角に十五センチに引きます。
・袖下線は、脇線でバスト線より九センチ下げて袖口下と直線で結び、袖先に一センチ延して袖口線を図のように訂正します。
・ネックポイントで着込み分として一センチ出し、衿ぐりを一センチ五ミリのハイネックに描き、肩線を図のようにつながりよく訂正します。
・肩ダーツは、原型ネックポイントより四センチ脇寄りに、一センチ五ミリの分量でややカーヴさせて図のように描きます。
・身頃の袖附線は、肩先から七センチドロップさせて、図のようなカーヴ線で袖下につなぎます。
・袖側の附線は、身頃袖附線に袖山で一センチ五ミリ、袖下で五センチ交叉させ、図に点線で示したようなカーヴ線で結びます。
・身頃と袖の附線を同寸に計り合せて、袖下線を結び直します。

前身頃
・原型を一センチ五ミリ倒して写します。
・前中央線を平行に一センチ出し、丈をウェスト線より七十四センチに延長し、この線に直角に裾線を引き、裾巾四十センチを計ります。

・脇線を原型より平行に三センチ出して引きます。

・衿ぐり線に中央線より三センチ入り、一センチ五ミリのダーツ分をしるし、ここと、裾で中央線より十九センチ五ミリ入つた点を直線で結び、切替え線とします。

・一センチ五ミリの衿ぐりダーツを、切替え線に沿つてバスト線の辺りで消し、このダーツ分をたたんでもう一度原型を置き直し、衿ぐり、肩、袖ぐり、ウェストの各線を図の細線のように引き直します。

・移動したバスト線の脇と裾脇とを結んで脇線とし、後脇丈と同寸に計り合せ、裾線を図のようにカーヴ線で引き直します。

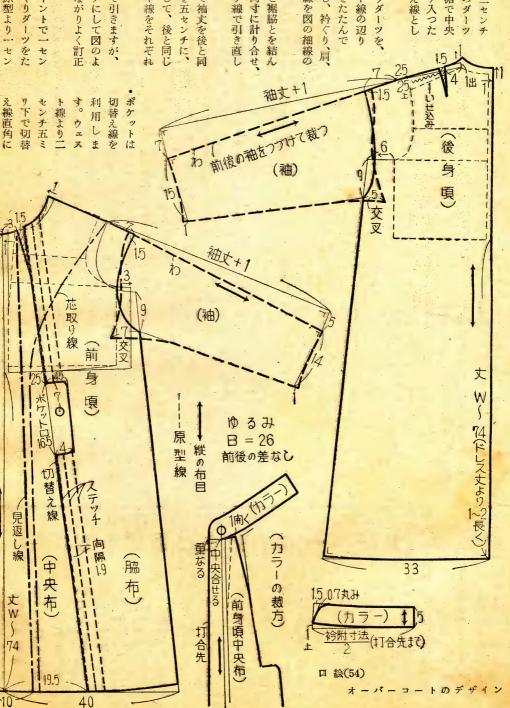
・訂正した肩線を延長して袖丈を後と同寸に計り、袖先の下りを五センチに、袖口寸法十四センチにして、後と同じ要領で袖山、袖口、袖下線をそれぞれ引きます。

・袖附線も後と同じ要領で引きますが、袖下の交叉分を七センチにして図のように引き、袖下線をつながりよく訂正します。

・衿ぐり線は、ネックポイントで一センチハイネックさせ、衿ぐりダーツをたたんでおいて前中央で原型より一センチ下つたところに、図のように形よく結びます。

・ポケットは切替え線を利用します。ウェスト線より二センチ五ミリ下で切替え線直角に四センチ五ミリの蓋巾

口 絵(54)

オーバーコートのデザイン

を引き、ポケット口を十六センチ五ミリとして、下側の蓋巾四センチを直角に引き、蓋の角は上下とも小さい丸みに描いて、ボタンの位置を図のようにしるします。

・見返しは裾で十センチ巾とし、図のように衿ぐりのダーツのところと直線で結びます。

カラー

・身頃の衿附寸法を打合先まで計り、カラー巾を五センチとし、附寸法の二分の一を引いて、一センチ上りのバンドカラーを引きます。

・打合先の丸みを図のように描きますが、このカラーは前身頃の中央布につづけて裁つため、『カラーの裁方』図のように、カラーと前身頃の中央じるしをつき合せにし、ダーツの位置で一センチ開いて置くと打合先では図のように重なるので、カラーと身頃の打合先の線が平らになるように訂正します。

・ボタンの位置をカラー巾の中央にします。

裁方と縫方の要点

・袖は袖山をわにして、前後をつづけて裁ちます。

・前身頃中央布は、『カラーの裁方』図のようにカラーとポケット蓋布をつづけて裁ちます。

・ポケットは、中央布のポケット口の上下、鈎形のところにそれぞれほつれ止めの当布をし、蓋布の部分に裏布をぬい合せます。

・前後の肩をぬい合せて縫代を割り、前切替え線をぬい合せますが、ポケットの口明だけぬい残し、あとで脇布の切替えの縫代の先と、ポケット蓋の裏布に袋布をそれぞれぬいつけ、袋の外廻りを二度縫してポケットを作ります。

・身頃につづく表カラーは、衿附線から前中央までの一センチの開き分を裏からぬい消し、縫代はカラーの方に片返しにし、残りの衿附線を身頃附線にぬい合せます。

・裏カラーと見返し布は、表と同様につづけて裁っても、カラーと見返し布を別々に裁って接ぎ合せても結構です。

・見返しつづきの裏カラーに身頃の裏布をぬい合せ、表カラーをつけた表身頃に中表に重ね、打合先からカラー外廻りをぐるっとぬい合せ、表に返して裏布を少し控えてととのえ、衿附と見返し奥の縫代を中とじします。

ポケットの切替えを面白くした
ストレートなコート

（口絵　55）

デザイン

用布

表＝ダブル巾で三ヤール

裏＝七十一センチ巾で三ヤール五分

後身頃

・原型はバスト線で一センチ平行に切り開いたものを写します。

・後中央を平行に一センチ出し、これをウェスト線より下に七十四センチ延長して、直角に裾巾二十八センチを引きます。

・バストのゆるみを二十六センチとし、前後の差をなしにするため、バスト線の脇で六センチ出し、脇線を裾と直線で結びます。

・肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、これを延長して肩巾同寸にいせ込み分一センチを加えてしるし、その先にドレスの袖丈より一センチ長い袖丈（袖山の伸し分を差し引いたもの）を計ります。

・袖先で直角に八センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直して、直角に袖口寸法十三センチを引きます。

・袖下線は、脇でバスト線より五センチ五ミリ下と、袖口下を直線で結びます。

・袖山線、袖下線は、図のようなふくらみをつけてそれぞれカーヴ線に訂正します。

・襠附線は、背巾線で二センチ出して袖下の角と斜線で結び、角から脇線上に一センチ下つたところから、斜線に向つて七センチ五ミリの附線を引き、ここを襠の附止りとして、袖下線上で角から一センチ五ミリの点と結んで、袖側の襠附線とします。

・ネックポイントで一センチ前に廻して肩先と結び直します。

・衿ぐりの後中央でダーツ分一センチを出し、裾と直線で結んで後中央線とします。

・衿ぐりは、後中央で五センチ五ミリ、ネックポイントでも五センチ五ミリハイネックにして描き直し、図のようにつながりよく肩線に結び入れます。

口絵（55）

オーバーコートのデザイン

・衿ぐりのダーツは、後中央より三センチ入って一センチの分量で図のようにとり、衿ぐりに沿って六センチ五ミリ巾の見返し線を記入します。

襠

・襠巾を八センチ五ミリ、附寸法を身頃と同寸にして図のような三角形に描き、正バイヤスに裁ちます。

前身頃

・原型を二センチ倒して写します。ネックポイントで肩線を一センチかきとり、ここで五ミリハイネックし、二センチのダーツを図の方向に描き入れます。

・ダーツをつまんでもう一度原型を写し直します。

・前中央線を平行に一センチ出し、ウェスト線より下に七十四センチ延長し、この線に直角に裾巾三十二センチを引きます。

・脇線は、バスト線で脇を原型より三センチ出して裾と直線で結び、後脇丈と同寸に計り合せて、裾線をカーヴ線で訂正します。

・肩線を延長して後袖丈と同寸を計り、後と同じ要領で記入の寸法の袖を引きます。

・袖山線、袖下線は後同様にふくらみをつけて訂正します。

・衿ぐりは、原型から五センチ五ミリのハイネックにしますから、肩ダーツ分をたたんでおいて肩線を延長し、先を一センチ五ミリ上げて、図のように肩線に結び直します。

ダーツを図のようにとり、ダーツ分をたたんで原型を置き直し、袖ぐり、脇、ウエスト線を訂正します。

•ウエスト線に、ウエストサイズ十六センチ五ミリにダーツ分七センチ五ミリを加えてしるし、後と同様に脇線を引き、脇丈を後と同寸に計つて、裾線をカーヴ線で描きます。

•袖は、肩ダーツをたたんで肩線を延長し、袖丈を計り、袖口寸法十三センチのフレンチスリーヴを後と同じ要領で引きます。

•切替え線は、ウエスト線より下に十二センチの長さに傾斜をつけて引きますが、図のように七ミリの丸みをつけて描き、更に脇線でウエスト線より十四センチ五ミリ下にカーヴ線で結びます。

•この横の切替え線には、六センチ巾のポケット口布を描きます。

•ウエスト線には、切替え線を利用して五センチのダーツをとり、更に四センチ五ミリ脇寄りに二センチ五ミリのダーツを図のようにとります。

•身頃の脇布は、図の点線で示したように袖とポケット袋布をつづけて裁ちますが、切替え線は乳下り線で中央布の線と五ミリ交叉させて、肩とウエストのダーツとつながりよく結び直します。

•衿ぐりはネックポイントで一センチハイネックし、前中央では一センチ下げたところをカラー附止りとして、図のような形に描きます。

•打合は三センチ五ミリとし、前中央線に平行に出します。

•前中央に六箇のボタンの位置を図のようにしるします。

•見返しは打合の先から十センチ巾にとります。

裁断の面白さに重点をおいた
一般向きコート

（口絵　57）

用布

表＝両面もので肩を縫目なし、後中央を接ぎにするとダブル巾で三ヤール五分。片面もので前後中央を縦地（後中央わ）にし、肩を接ぎにすると二ヤール八分。裏＝九十センチ巾で四ヤール

デザイン

後身頃

・中央線を平行に一センチ出し、丈をウエスト線から下に七十四センチ延長し、直角に裾線を三十一センチに引きます。

・バストのゆるみを二十八センチにし、前後の差をなしにするため、バスト線の脇で六センチ五ミリ出し、裾と直線で結んで脇線とし、脇丈を計り直して裾線を訂正します。

・肩先で一センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾同寸とラインニングに入れるダーツ分一センチ五ミリと、いせ込み分五ミリを加えて肩先をしるし、その先に袖丈（ドレス袖丈より一センチ長くし、袖山の伸し分を差し引いた寸法）を延長します。

・袖先で直角に九センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直して、直角に袖口寸法十八センチを引きます。

・袖下線は、脇でバスト線から十一センチ下げて袖口下と結びます。

・ネックポイントで、着込み分として一センチ五ミリ出して肩先と結び直し、つづけて袖山線もふくらみをつけて描き直します。

・肩線でネックポイントから四センチ入りに、一センチ五ミリのダーツを八センチの長さにとります。

・衿ぐりの後中央でダーツ分八ミリを出して裾線と結び、その線を上に五センチ五ミリ延長します。

・ネックポイントでも五センチ上げて衿ぐり線を訂正し、背の線を衿ぐりで五ミリ出して訂正します。

・衿ぐりは見返しを一センチ控えてつけるため、図の点線が見返し布の附線となり、表身頃はここまで折り返ることになります。

・原型衿ぐり線より七ミリ上に、八ミリの衿ぐりダーツを図のようにとります。

・前のカラーからつづく切替え線は、バスト線上に脇から七センチ入りをカラーの止りとし、そこから四センチ五ミリ脇寄りで五ミリ上をカラーの角として、肩巾（肩巾を五ミリ広くする。）より一センチ五ミリ広くした肩先に、図のようにややカーヴした線で結びます。

・芯取り線は、ウェスト線より下は見返しの巾より一センチ広くし、乳下り線の辺りより上は図のように切替え線と同一の線になります。

カラー

・直角線を引き、後中央で七センチ五ミリ上げて衿附線をカーヴ線で描き、衿腰は後中央で五センチ、前中央で四センチとし、図の点線のように折山線を描きます。

・衿巾は後七センチ五ミリ、前八センチとしてカラー外廻り線を描きますが、衿先を図のような丸みに描き、衿腰のところでは一センチ二ミリぐらいくり入れます。

・衿附線は、前寄りで少しふくらみをつけて描き直します。

・衿附寸法を前中央から計り直し、余った分は図のように後中央で平行にかきとります。

裁方と縫方の要点

・前身頃の脇布は、ポケットの袋布をつづけて裁ちますが、ポケットロから見えない底の方は、共色の薄地色に接ぎ替えます。

・後身頃の裏布は、袖先に接ぎが入るようになります。

・前身頃の裏布は、中央布と脇布に切り離さずに一枚の布で裁つため、乳下り線で交叉している分を、つき合せになるように型紙を置き直すと、肩ダーツとウェスト線のダーツの分量が多くなります。

・見返し布と裏布を接ぎ合せる場合は、見返し線より入り込んだ切替え線を、見返し線まで移動させてぬい合せるようにします。

・ポケットの口布は、脇側を脇縫と一緒にぬいつけ、中央側は身頃と離して仕立てます。

・ポケットは口布の巾が広いために、ポケットロが浮きすぎるので、巾の中央ぐらいまで、表にひびかぬように注意しながら、蔭から身頃にとじつけます。

・肩からポケットロまでの切替えには、共色の糸で一センチ五ミリ巾のステッチをかけます。

打合は、裾からウェスト線の辺りまで平行に四センチ出し、ハイネックした衿ぐりの先にカーヴ線でつながりよく結びます。

•胸のポケットは、原型の袖ぐりで胸巾線より一センチ五ミリ下(図のA点)から、脇線より十センチ五ミリ入ったところまで縦に十四センチのポケット口を引き下し、この線に直角に十六センチ五ミリの底を引き、更に直角線を引き上げて肩ダーツにつながりよく結び、打合寄りの角に一センチ八ミリの丸みをつけます。

•このポケットは袖につづけて裁つので、身頃側は肩先からA点を通つて袖下に結ぶ袖ぐりのカーヴ線までとし、(ポケットの下に重なる部分は、ライニングと袋布を兼ねる。)袖側は袖下で六センチ交叉させて袖の附線をA点に結び、袖とポケットを図の点線のように一枚の布に裁ちます。

•ウェスト線より十三センチ五ミリ下に、ポケット口十六センチ、玉縁巾八ミリの玉縁ポケットを記入します。

•見返し線は、裾で十二センチ巾を計り、肩ダーツの位置とカーヴ線で結びます。

•芯取り線は、裾で見返し巾より一センチから一センチ五ミリ広くし、肩先とカーヴ線で結びます。

縫方の要点

•胸のポケットは、袖側の布のA点の角にほつれ止めをし、ポケット口の裏側(縫代分)に五センチ巾の縦地の薄地芯布を張り、両端とも千鳥がけでぬい止めます。

•このポケットは貼附ポケットの要領で始末します。まずポケットの外廻りを出来上り通りに縫代を折り曲げて形作り、ポケット口は二センチ、あとは一センチ控えて裏布(共色薄地布)をまつりつけ、身頃の上に出来上り通りにのせてしつけで押えます。

•裏側を見て、表に針目を出さないように注意しながら、出来上りじるしより少し奥を返し針で止めつけます。

プリンセス・スタイルの

若向きオーバーコート

(口絵 56)

用布

表＝ダブル巾で二ヤール七分

裏＝七十一センチ巾で五ヤール二分

デザイン

後身頃

•バストのゆるみを十八センチとし、前後の差をなしにするため、脇線を平行に四センチ出します。

•後中央線を平行に一センチ出して、ウエスト線から下に七十四センチ延長し、ここで直角に裾巾三十七センチを引きます。

•背の線は、ウエスト線で二センチくり入れ、背巾線より少し上辺りで後中央線に直線に近い線で結び、裾ではフレヤー分八センチを出して、ウエスト線と直線で結びます。

•ウエスト線に、ウエストサイズ十六センチ五ミリにダーツ分五センチを加えた寸法をしるし、脇線でバスト線より四センチ下と直線で結び、更に裾とも直線で結びますが、腰のふくらみを一センチ五ミリくらいつけて結び直し、脇線とします。

•裾線は、背の線にも脇線にも直角になるように訂正します。

•肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、この線上に原型肩巾にいせ込み分一センチを加えた寸法を計り、その先にドレスの袖丈より一センチ長い寸法を延長します。

•袖口は、袖山線に直角に十五センチとし、袖下線を直線で結びます。

•袖下の角は図のようなカーヴ線に訂正し、袖口下は直角になるように袖口線を訂正します。

•ネックポイントで一センチ出して肩線を訂正し、衿ぐりを一センチハイネックします。

•ウエスト線には、五センチのダーツを図のような形にとります。

前身頃

•原型を一センチ五ミリ倒して写します。

•脇線を平行に一センチ出します。

•前中央線を一センチ平行に出し、丈をウエスト線より七十四センチとし、直角に裾巾三十九センチを引きます。

•肩線を延長して肩先より二センチ計り、ウエスト線で前中央から六センチ入りに向つて切替え線を引きますが、乳下り線では前中央より十センチ入りを通ります。

•この切替え線を利用して三センチの肩

口絵（57）

オーバーコートのデザイン

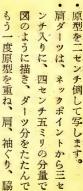
・カラーの止りから袖下の角に向って、図のように袖ぐり線を描き、袖下で二センチ交叉させて袖側の附線を描き、袖下線につながりよく結び入れます。

・カフスは巾を八センチとして袖口線に並行に引き、切替え線を二本入れ、袖山側でそれぞれ六ミリずつ切り開きます。

・見返し線を図のように描きます。

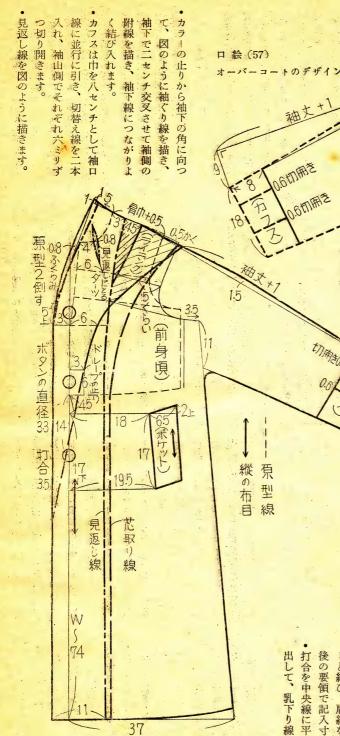
前身頃

・原型を二センチ倒して写します。

・肩ダーツは、ネックポイントから三センチ入りに、四センチ五ミリの分量で図のように描き、ダーツ分をたたんでもう一度原型を重ね、肩、袖ぐり、脇線を写し直します。

・中央線をウェスト線から下に七十四センチ延長して、直角に裾巾三十七センチを引き、バスト脇で三センチ五ミリ出して脇線を結び、脇丈を後と同寸に計って裾線を訂正します。

・肩先で五ミリかき落してネックポイントと結び、肩線を延長して袖丈を計り、後の要領で記入寸法の袖を引きます。

・打合を中央線に平行に三センチ五ミリ出して、乳下り線より五センチ上まで引き、ネックポイントで五センチハイネックさせて打合先と結び、八ミリのふくらみをつけて図のように衿ぐり線を描きます。

・セイラーカラー風の切替え線は、後身頃肩先の衿ぐりから切替えまでの肩線を計り、これと同寸法を前肩線に計って、（ダーツをたたんでおく。）

ここから胸巾線で袖ぐり線より五センチ乳下り線では中央から六センチ入りをそれぞれ通つて、ウェスト線から六センチ上で三センチ入りにカーヴ線で結び、ここをドレープの止りとします。
•この切替え線を打合先まで延長して切開き線とします。
•衿ぐり線は、後と同様一センチの見返る分を図の点線のように引きます。
•見返し線、芯取り線を描き入れます。

裁方の要点

•『身頃の裁方』図を参照し、前身頃の切替え線に肩から打合先まで切込みを入れ、ドレープの止りの位置で図のように八ミリ開き、次に切替え線から肩ダーツの先に向つて切込みを入れ、ダーツ分を平らにたたむと肩で六センチくらい開かれます。
•この前身頃に後身頃をつづけますから、出来上りの衿ぐり先をつき合せにし、肩先では一センチ重ねて外廻りを写しとりますが、着る人の肩の高さと厚み、布の厚みによつては肩先をつき合せることもあります。
•衿ぐりの裏に見返る分一センチを、図のように出来上り線より外にしるし、見返し布との接ぎ線とします。
•切替え線の袖山で二センチ出して引き直し、その分袖先でかき落します。
•後身頃の図に斜線で示した部分（衿ぐり見返し線からバスト線まで）はライニングとし、後袖につづけて裁ちます。
•前のライニングは、切替え線と見返し線とのあいだの斜線で示した三角形のものです。

口絵（57）身頃の裁方

縫方の要点

•前見返し布の衿ぐりダーツをぬい、これに前のライニングをぬい合せます。
•後身頃のライニングは、肩ダーツをぬつて肩にいせ込みをし、前見返し布と肩をぬい合せます。
•セイラーカラー風の外廻りを浮かせて仕上げるため、後身頃の角を額縁に作り、前切開きの縫代の中央に肩から十センチくらい切込みを入れ、外廻りを出来上り通りにアイロンで形づくります。
•この外廻りに一センチ五ミリから二センチくらい控えて同色の薄地布で見返しをつけますが、見返し布は切込み先より三センチ長く裁ち切り、表身頃と見返しとのあいだに伸しておきます。
•前身頃の切替え線につづくドレープをたたみ、衿ぐり側の表布をはぐつて、中側からドレープの奥をつまみ縫にしますが、肩先寄りを少し残してドレープの止りの位置までぬいます。
•前後の袖山線を中表に合せてぬい合せ、縫代を割ります。
•ぬい残した肩のドレープをたたみ、ドレープの奥をぬい合せます。
•前身頃に芯を張つてドレープの縫代を芯にとじつけ、つづけて後身頃のカラー風の外廻りも見返し奥をライニングにとじつけます。
•衿ぐりはやわらかく仕立てるため、表身頃を裏に折り返して、折山より一センチ奥に見返し布をぬい合せ、縫代は割つておきますが、打合先には自然に片返しに消すようにします。

同色の毛糸編をトリミングした
バレル型コート

（口絵 58）

用布
表＝ダブル巾で三ヤール
裏＝九十センチ巾で三ヤール四分
毛糸二オンスくらい

デザイン

後身頃
•後中央線を原型平行に一センチ出し、ウェスト線より下に延長して丈をドレ

スより二センチ長くし、直角に裾線を引きます。

・バストのゆるみを二十八センチとし、前後の差をなしにするため、脇線を原型より平行に六センチ五ミリ出し、裾線まで引き下します。

・肩先を二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、原型肩巾にいせ込み分一センチ五ミリを加えて肩先をしるし、その先にドレスの袖丈より一センチ長い寸法を延長します。

・袖先で直角に七センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直して直角に袖口寸法十三センチ五ミリを引きます。

・袖下線は脇線で十三センチ下に結び、図のように肘線の辺りで袖下に一センチ五ミリのふくらみをつけ、脇線にはカーヴで結びます。

・袖口下で五ミリ出して袖口線を引き直します。

・肘の切開きは、肘線で袖下線を三センチ切り開き、袖下線をつながりよく訂正し、図のように一センチ五ミリのタックを二本とります。

・袖山線も図のようにふくらみをつけながらつながりよく引き直します。

・衿ぐりは後中央で五センチ五ミリハイネックし、ネックポイントでは着込み分一センチを出して肩線を訂正してから、五センチのハイネックにし、図の通りに衿ぐり線を結び、肩線につながりよく結び直します。

•この衿ぐり線に沿つて四センチ下に、毛糸編との切替え線を入れます。
•衿ぐりの見返しは、原型衿ぐり線より一センチくらい奥に描きます。

前身頃

•原型を二センチ倒して写し、前中央線を一センチ平行に出して下に延長し、丈をドレスより二センチ長く計り、直角に裾線を引きます。
•脇線を平行に三センチ五ミリ出し、裾まで引き下して脇丈を後と同寸に計り、出来上りの裾線を引きます。
•肩線を延長して袖丈を後と同寸に計り、後と同じ要領で袖口寸法十二センチ五ミリの袖を引き、袖山と袖下に図のようにふくらみをつけます。
•衿ぐりはネックポイントで肩線を五センチ延長し、先を一センチ三ミリ上げて図のようにハイネックし、打合は裾からウエスト線より少し上まで平行に四センチ出し、ハイネックした衿ぐりに図のようなカーヴ線で結びます。
•切替え線は、肩線より原型袖ぐり線で三センチ下つた点を直線で結び、衿ぐりには図のようにややカーヴした線で結び、袖ぐり側には六センチ五ミリ延長し、ウエスト線上前中央より十三センチ二ミリの点に図のようなカーヴで結び、更にウエスト線より十五センチ五ミリ下で十センチ五ミリ入りまで延し、ここをA点として中央線まで直角線を引きます。
•毛糸編の前立は、衿ぐりから打合先、更に横の切替え線のA点まで四センチ巾に引き、角を丸みに訂正します。
•切替え線利用のポケットは、A点より上に十五センチの口明をしるします。
•A点では、切替え線のギャザー分として横に二センチのダーツ分をしるし、ウェスト線の辺りで消すように描き、更にギャザーの不足分を二本の切開き線で二センチずつ切り開きます。
•袖附線は、切替え線上でバスト線より一センチ下つたところから、袖下の角に向つてカーヴ線で結びますが、つながりよくするため脇に少し出し、袖側は袖下で三センチ五ミリ交叉させて図のように描き、袖下線にカーヴ線で結び入れます。
•見返し線は、肩の切替えで後見返し巾と同寸にし、ウェスト線辺りから裾まででは十一センチ巾に描きます。
•芯取り線は、裾で見返しより一センチ巾を広くし、切替え線上A点に結び、これより上は切替え線と同一線を用います。
•点線で示した前袖を後身頃につづけて裁つため、前袖を別紙に写しとり、後袖山に肩先をつき合せ、袖先では六センチ開いて図のように置き、外廻りを写しますが、ハイネックした肩線は、後肩線に沿つて描き加えます。
•『前身頃の切開き方』図を参照して、切替え線でギャザー分を二センチずつ二カ所で切り開きます。

裁方と縫方の要点

•見返し布、芯布は、切り替えずに一枚の布に裁ち、ギャザー分も切り開きません。

毛糸編の前立とポケットの作り方

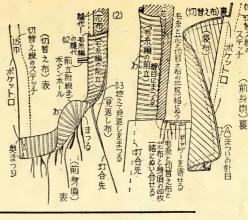
•毛糸編の前立は、極細毛糸または細めの中細毛糸で、一目ゴム編を約一メートル六十センチの巾で八センチの長さにあみます。(長さ八センチの方が前立としては巾になる。)
•新モス程度の薄地の芯布を用意し、前立の型紙に合せて、附側だけに一センチの縫代を加えて裁ちます。
•八センチの毛糸編の前立を五ミリずらせて巾を二つ折にし、新モスの芯布に合せて、カーヴのところは心持ち内側をぬつて縮め、外側を少し伸し気味にして、アイロンで形を作ります。
•上前打合のボタンの位置に玉縁ボタンホールを作りますが、ホールの端が前立の附線にくるようにします。
•切替え布のポケット口に、縦地の薄地芯布を入れて、縫代分の方に八刺しでぬい止め、出来上り通りに折つて一センチ五ミリ巾の飾りミシンを、ポケット口にだけかけておきます。
•身頃は袖附線をぬい合せて前後をつづけ、これに前切替え線をぬい合せますが、肩の切替え線は中表に合せてぬい、縫代を割ります。
•肩先からポケット口までは、出来上り通りに重ねて、一センチ五ミリ巾のステッチで押え、切替え線を浮かせておきます。

前立とポケットの縫方

•『前立とポケットの作り方』(1)図のように、ポケット口の縫代の奥に袋布を二枚それぞれぬいつけます。
•毛糸編の前立を身頃の附線に中表に平らに重ねてしつけで押え、(毛糸編の縫代は二ミリ)身頃附線の裏側には、前立の芯布を出来上り通りに重ねてピンを打ち、更に芯布の裏側には切替え線にギャザーを寄せた身頃を重ね、全部一緒に、左身頃のA点から右身頃のA

(前身頃)
2ダーツ分
2切り開く

口絵(58) 前身頃の切開き方

口絵（58）前立とポケットの作り方

点までぐるつとぬい合せます。

・（1）図のように、毛糸編の前立で芯布をくるんで二つ折にし、折り返した端をいまぬつた前立附の縫目に絹糸でまつり、（2）図のように、下の身頃をぬい合せた部分も縫目のきわにまつりつけ、毛糸編の端もきれいに奥まつりしておきます。

・（1）図のようにポケット袋布の周囲をぬい合せます。

見返し布の附方

・前立をつけた前身頃に芯を据え、表裏とも袖下、脇縫をしてから、裏布をぬい合せた見返し布と身頃をぬい合せますが、初め前立のつかない裾の方だけ中表に重ねてぬい合せます。

・前立と重なる部分は、出来上り通り中裏に重ね、芯布は毛糸編の打合先より四ミリくらい控えて縫代を裁ち落し、いままで身頃の縫代で芯をくるんであつたのを、見返し布の縫代で芯をくるみ、（入れ替える部分では芯に横に切込みをする。）『前立とポケットの縫方』（2）図のように、毛糸編の折山より三ミリ控えて絹糸でまつりつけます。

細い毛皮を扱つて服飾にした
外出向きコート

（口絵 59）

用布

表＝ダブル巾で二ヤール四分
裏＝七十一センチ巾で四ヤール
ほかにカラーとカフスの毛皮

デザイン

後身頃

・バストのゆるみを二十四センチにし、前後の差をなしにするため、脇線を平行に五センチ五ミリ出します。

・中央線を平行に一センチ出してウェスト線より下に七十四センチ延長し、この線に直角に裾巾二十八センチを引き、脇線を結びます。

・肩先で二センチ五ミリ上とネックポイントを結んで肩先に延長し、原型肩巾にいせ込み分一センチ五ミリを加えて肩先をしるし直し、その先に袖丈（ドレスの袖丈より一センチ長くし、袖山の伸し分を引いた寸法）を計ります。

・袖先で直角に四センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直し、この点より直角に袖口巾十六センチを引き、脇線で十センチ下に袖下線を結び、袖下の角を丸みに訂正します。

・衿ぐりの後中央でダーツ分八ミリを出し、裾と直線で結び、六センチ五ミリハイネックにします。

・ネックポイントでは着込み分一センチを出し、ここで五センチ五ミリハイネックして衿ぐり線を結び、肩線とつながりよく結び直し、袖山線にふくらみをつけます。

・衿ぐりのダーツは、原型の衿ぐり線より一センチ上（図の細線）で、後中央より三センチ五ミリ脇寄りに、八ミリの分量で図のように描きます。

・衿ぐりの見返しは、衿ぐり線に沿つて六センチ五ミリ巾とします。

・衿ぐり線に沿つて五センチ下の点線は、毛皮のカラーの附線です。

・カフスは十センチ巾とし、巾を三等分して切開き線を二本入れ、外廻りを七ミリずつ切り開き、袖山では五ミリ出します。

前身頃

・原型を二センチ倒して写します。

・脇線を平行に二センチ五ミリ出します。

・前中央線を一センチ出し、ウェスト線より下に七十四センチ延長し、この線に直角に裾巾二十九センチを引き、脇線を結びます。

・肩線を延長して袖丈（袖山の伸し分だけ短く）を計り、直角に四センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直して、直角に袖口巾十五センチを引きます。

・脇線でバスト線より十センチ下と袖口下を結びます。

・衿ぐりは、ネックポイントで肩線を五

口絵（59）オーバーコートのデザイン

センチ五ミリ延長し、先で二センチ上げて肩線と図のように結び直し、前中央線では六センチ上げて衿ぐり線を結びます。

• 前打合は上前三センチ、下前六センチにし、それぞれ中央線平行に引きます。

• ポケットは、前中央線より四センチ中で胸巾線より五ミリ下と、原型脇線より六センチ中でバスト線より一センチ三ミリ上とを直線で結び、ポケット口とします。

• ポケット外廻りは、上前打合先でウェスト線より九センチ五ミリ上と、更に二センチ五ミリ上(A)点をしるし、前中央線ではウェストより五センチ上で直角に三センチ五ミリ中(B)点をしるし、ポケット口と図のように結びます。

• 折り返るポケット蓋布は、巾七センチにして角を図のような丸みに描きます。

• ポケット附位置は、外廻り線より一センチ内側の点線のところとし、ポケット口を浮かせます。

• 袖附線は、ポケット口の止りから袖下にカーヴで結び、(袖下のつながりをよくするため、脇線を少し出す。)袖下で三センチ五ミリ交叉させて袖側の附線を描き、袖下線を結び直します。

• 後身頃の袖下、脇丈と計り合せて、前身の出来上り裾線を描きます。(後袖下寸法の不足分は布地を伸すことになる。)

• カフスは後と同様です。

• 前打合のボタンは、ポケットの底の丸みのところに一箇だけ表に出してつけ、あとは図に点

線で示したようにかくしボタンを五個つけます。

・見返し線は肩で六センチ五ミリ巾とし、バスト線辺りから下は下前打合先より十三センチ巾に引きます。

・芯取り線は、ウェスト線より下は見返し線より巾を一センチだけ広くし、ウェスト線より上は図のように肩先にカーヴで結びます。

・衿ぐり線に沿つて五センチ下に、毛皮のカラーの附線を引きます。

・ポケットの切開きは、ポケット口から打合先に向つて図の点線のように切開き線を二本入れ、ポケットの底から脇線に向つて一本入れます。

・『前身頃の切開き方』図を参照して、ポケット口の切開き線では蓋の外廻り線で一センチ五ミリずつ切り開いて身頃のドレープ分とし、ポケットの底では中央線の位置で一センチ五ミリ開いて、ポケット外廻りの縫代分とします。

口絵（59）前身頃の切開き方

口絵（59）前身頃と袋布と蓋布の裁方

・ポケットの底はBをぬい止りとして、縫代分を図のようにダーツ風に消し、この縫代の中央に、ぬい止りより一センチ手前まで切込みをします。

カラー裏布

・身頃の衿附線で附寸法を計り、カラー巾八センチ五ミリのバンドカラーを引きます。

裁方の要点

・前身頃は、『前身頃と袋布と蓋布の裁方』図と『前身頃の切開き方』図のように上下を別々に裁ち、上の身頃にはポケット袋布をつづけますが、布地がやや厚地の場合は、表から見えない位置で共色の薄地布に接ぎ替えます。

・もう一枚の袋布は、図の長点線のようにポケット蓋布をつづけて、共色薄地布で裁ちます。

・ポケット蓋の表布は図の短点線のように、ポケット口の折山より奥に返る分を四〜五センチつけて裁ちます。

縫方の要点

ポケットの作り方

・『ポケットの縫方』(1)図を参照して、上前、下前ともポケットの底の縫代分の中央に、ぬい止りより一センチ手前まで切込みをします。

・ボタン附の位置に玉縁ボタンホールを作りますが、下前は(10)図を参照して縦にボタンホールを作ります。

・ポケット口で切り開いたドレープ分を(1)図のようにタックして形づけ、しつけでぬい止めます。

・(2)図のように、蓋布と袋布をつづけた布を身頃に中表に合せ、ポケット口の切込みのところから、底のぬい止りより少し手前まで、袋布を控えて地縫します。

・(3)図のように、袋布を表に返して出来上り通りにアイロンで押え、ぬい残した底をぬい止りBまで自然にぬい消します。

・表布の蓋を裏布に中表に合せ、外廻りを地縫し、縫代を細く整理して表に返し、(4)図のように蓋布の下側を、裁切りのまま袋布に千鳥がけで止めます。

・(5)図のように、身頃のポケット口を裁切りのまま袋布に止めつけ、タックを蓋の飾りミシンのかかる位置でととのえて、しつけで押えておきます。

・(6)図のように蓋布を出来上り通りに折り返して、外廻りを一センチ五ミリ巾の飾りミシンで押えます。

・上の前身頃は、(7)図のようにポケット口の止りに当布をしてほつれ止めをし、上前身頃にはポケットのボタンホールの位置に合せて、横にボタンホールを作ります。

・(8)図のように、上下の身頃をしるし通りに合せて、打合先と袖下側をそれぞれぬい合せて、縫代を割りますが、掛接ぎのできる布地では、打合側を掛接ぎで始末します。

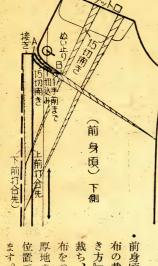
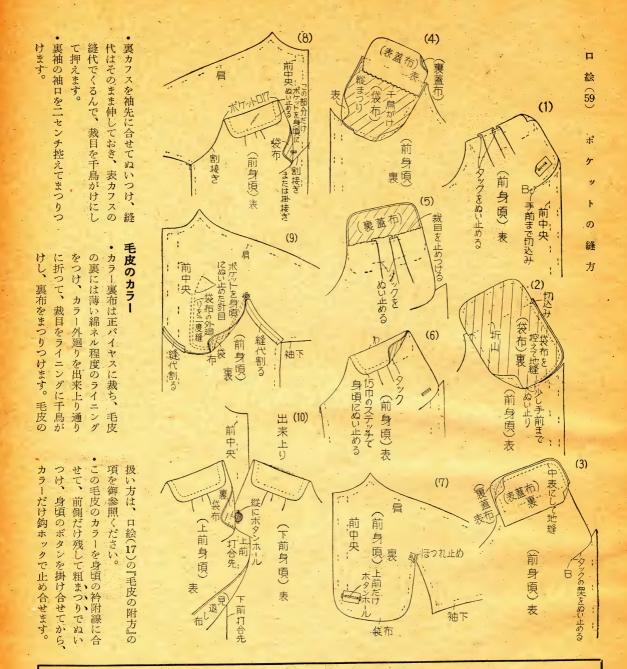
・(9)図のように、袋布の周囲を二度縫します。

・(10)図のように、上前、下前ともボタンホールの裏側の始末をします。このボタンは下前身頃にボタンをつけて、上前身頃のボタンホールに通し、次にポケットのホールに下前、上前の順に掛け合せることになります。

カフスの附方

・表裏とも袖下をそれぞれぬい、縫代をどちらも割ります。

・中表に合せて外廻りをぬい合せますが、裏カフスを一センチくらい控えられるようにぬいます。

・裏カフスと身頃の袖口は、縫代をなしにして余分を切り落します。

口絵(59) ポケットの縫方

・裏カフスを袖先に合せてぬいつけ、縫代はそのまま伸しておき、表カフスの縫代でくるんで、裁目を千鳥がけにして押えます。

・裏袖の袖口を二センチ控えてまつりつけます。

毛皮のカラー

・カラー裏布は正バイヤスに裁ち、毛皮の裏には薄い綿ネル程度のライニングをつけ、カラー外廻りを出来上り通りに折つて、裁目をライニングに千鳥がけし、裏布をまつりつけます。毛皮の扱い方は、口絵(17)の『毛皮の附方』の項を御参照ください。

・この毛皮のカラーを身頃の衿附線に合せて、前側だけ残して粗まつりでぬいつけ、身頃のボタンを掛け合せてから、カラーだけ鈎ホックで止め合せます。

カラーにドレープを扱つた

若向きオーバーコート

（口絵 60）

用布
表＝ダブル巾で三ヤール五分
裏＝七十一センチ巾で四ヤール三分

デザイン

後身頃

・バストのゆるみを二十八センチとし、前後の差をなしにしますから、バスト線を脇の方に六センチ五ミリ出しておきます。

・後中央線を一センチ平行に出し、その線を延長してウェスト線から七十四センチを計り、直角に裾巾三十一センチを引き、脇線を結び、脇丈を計り直して裾線を訂正します。

・肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾同寸にダーツ分一センチ五ミリ、いせ込み分五ミリを加えて肩先をしるし、その先に出来上り袖丈（ドレスの袖丈より一センチ長くし、伸し分を差し引いたもの）を延長します。

・袖先で直角に九センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直して直角に袖口寸法十五センチを引きます。

・袖下線は、脇でバスト線より十三センチ下に結びます。

・ネックポイントで着込み分を一センチ出して肩先と結び直し、袖山線にもふくらみをつけて引き直します。

・肩線のダーツを、ネックポイントから三センチのところに、一センチ五ミリの分量でとりますが、ダーツの長さは七センチとし、カーヴをつけて図のような形に描き入れます。

・袖口線のダーツは、袖山から五センチのところに、三センチの分量でとり、長さは十二センチに描きます。

・袖附線は、ネックポイントから肩線上に七センチ五ミリのところ（肩ダーツをつまむと六センチ入りとなる。）から、背巾線では一センチ五ミリ出たところを通り、袖下に向つて図のようなカーヴ線で結びます。

・袖側の附線は、肩線で一センチ、袖下で八センチ交叉させて図のように描き、身頃の附線と同寸法にして、袖下線を訂正します。

・肩巾の中央から、裾を開き加減に切開き線を入れ、裾で五センチ開きます。

前身頃

・原型を二センチ倒して写し、脇線平行に三センチ五ミリ出します。

・前中央線を平行に一センチ出し、ウェスト線より七十四センチ延長し、直角に裾巾三十八センチを引きます。

・ネックポイントで、真下に向つて二センチのダーツをとり、型紙をつまんでもう一度原型を重ね、肩、袖ぐり、脇線を写し直します。

・バスト脇と裾を結んで脇線を引き、脇丈を後と同寸に計つて、裾線を訂正します。

・訂正した肩線を延長して袖丈を計り、直角に六センチ下げて、後と同じ要領で記入の寸法の袖を引きます。

・袖山線に一センチ五ミリのふくらみをつけて引き直し、袖口に三センチの分量のダーツを十二センチの長さにとります。

・袖附線を後と同じ要領で図のように描き、袖下線を訂正します。

・打合は前中央線で、乳下り線より三センチ下まで裾から平行に引き上げ、図のように乳下り線の二センチ上で八センチ巾に鈎形に出し、ここを折先として衿ぐり線に結びます。

・身頃の切替え線と、これにつづくポケットを図の位置に描きます。

カラー

・前後の衿附寸法を計り、（a）図のように、後中央で十九センチ上りのカラーを引きます。

・表カラーを見返しつづきにするため、（a）図のカラーを切りとり、前身頃の衿ぐり線とカラー附線をつき合せにしてカラーの外廻りを写すと、肩で二センチ五ミリくらい重なります。

・表カラーは見返しつづきにするため、カラー附線につながりよく見返し線を描き入れます。

・裏カラーの接ぎ線は、折先より十二センチ上に移動して、カラー附線とつながりよく結びます。

・鈎形に出た折先より十センチ下に見返しの接ぎ線を図のように入れ、表カラーの切開き線をカラー後中央線に向つて引きます。

・『表カラーの切開き方』図のように、切開き線と衿附線の交点で、ドレープ分

口絵（60）

オーバーコートのデザイン

五センチを開きます。

・芯取り線は、裾から原型ウェスト線の位置までは見返し線より巾を一センチ広くし、その上は図のように肩線に向つてカーヴ線で描き入れます。

袖

・身頃と一緒に製図した前後の袖（図の点線）を別紙に写しとり、前後の袖山線をつき合せに置くと、肩の方が離れるので、その分は図のようにダーツとします。

・次頁の『袖の裁方』図を参照して、肘線で後袖下線を三センチ切り開き、一センチ二ミリの分量のダーツを図のように二本とり、残りをいせ込みにします。

裁方と縫方の要点

・身頃と袖は、附線で縞を合せるように注意し、前後の脇線も縞がずれないように注意して裁ち合せます。

口絵（60）
袖の裁方

1.2 1.2
いせ込む
3
切り開く
後
前
（袖）
肘線

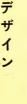
（袖の裁方）

・前身頃の切替え線も目立たぬように縞を合せて裁ち、ポケットだけが浮いた感じに仕上げます。

・カラーのドレープ分は表カラーだけ切り開き、折山より下はくずれないように内側からぬっておき、裏カラーと芯で表のドレープをささえます。

・切替え線より上の身頃は、ポケット口に向う布をつづけて裁ち、その先に共色の薄地布の袋布を接ぎ足します。

・折先より下はボタンを表に出さずに蔭ボタンにします。

・格子を合せるため、型紙を多少ずらせて置く場合もありますので、格子の大きさ、色合によつては布を多めに用意します。

横縞を生かして新しさを出した
中年向きワンピース

（口絵 61）

用布
ダブル巾で二ヤール六分

デザイン

後身頃

・バストのゆるみを十センチとし、前後の差をなしにしますので、脇線を平行に二センチ出します。

・ウェスト線に、ウェストサイズ十七センチにダーツ分三センチといせ込み分五ミリを加えてしるし、脇線をバスト線より四センチ下に結びます。

・肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾同寸にいせ込み分一センチを加えてしるし、その先に袖丈（出来上り寸法より袖山の伸し分を差し引いた寸法）を延長します。

・袖先で直角に九センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直して、直角に袖口寸法九センチ五ミリを引き、袖下線を結びます。

・襠附線は、背巾線を袖ぐり線より一センチ延長した点と袖下を結び、この線上に袖下から四センチを計つてしるし、ここを附止りとして身頃側は脇線上に七センチ、袖側は袖下線上に十センチの附線をそれぞれ引きます。

・ネックポイントを一センチ前へ廻して肩先と結び直し、袖山にふくらみをつけます。

・衿ぐりは後中央で一センチ上げて描き直し、その位置で後中央にダーツ分八ミリを出してウェスト線と結び直し、この線を上に延長して、後中央で三センチ五ミリ、ネックポイントで三センチのハイネックに描き、肩線につながりよく結び入れます。

・衿ぐりダーツを図のように描きます。

・肘線で袖下を二センチ五ミリ切り開き、図のように一センチのダーツを二本描き、五ミリをいせ込みます。

・ウェスト線のダーツを描き入れます。

・スカートは、ウェスト線のくりを一センチ五ミリつけ、スカート丈七十二センチ、裾巾二十八センチに引きます。

・ウェスト線に、ウェスト寸法にタック分八センチ五ミリを加えてしるし、更に一センチ五ミリ脇に出して裾と直線で結び、脇線を図のように描きます。

・ウェストのタックは、後中央より六センチ五ミリ入つて五センチのタック、三センチ離して三センチ五ミリのタックをもう一本しるします。

前身頃

・原型を二センチ倒して写します。

・脇線を平行に一センチ入れます。

・原型の衿ぐりで中央から二センチ入つたところに、二センチのダーツを描き、これをたたんで原型を置き直します。

・ウェスト線に、ウェストサイズ十七センチにダーツ分六センチを加えてしるし、脇線をバスト線より四センチ下と結びます。

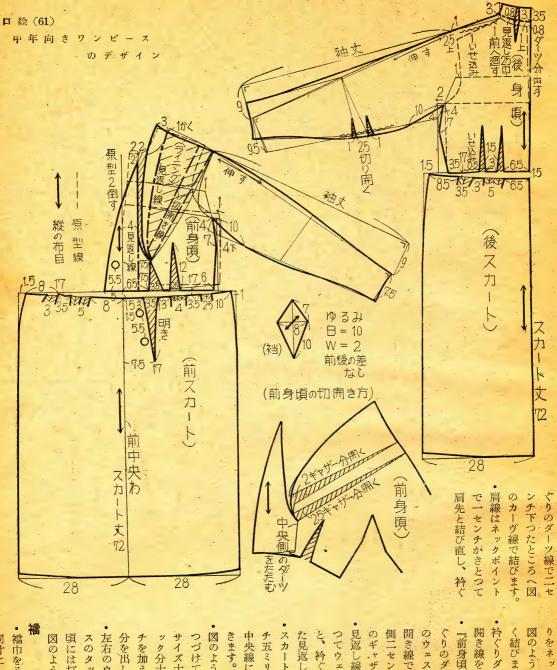
・肩線を延長して袖丈をしるし、後の要領で袖を製図し、襠附線を引きます。

・ウェスト線に、二本のダーツを図のように描き入れます。

・打合はウェスト線で五センチとし、衿

口絵（61）

中年向きワンピースのデザイン

ぐりのダーツ線で二センチ下つたところへ図のカーヴ線で結びます。

• 肩線はネックポイントで一センチかきとつて肩先と結び直し、衿ぐりをネックポイントで三センチ上げて図のように描き、肩線ともつながりよく結びます。

• 衿ぐりダーツの先から肩線へ向つて切開き線を二本入れます。

• 『前身頃の切開き方』図を参照し、衿ぐりのダーツに切込みを入れ、中央側のウエストダーツをたたみ、二本の切開き線で図のように上側二センチ、下側二センチ五ミリをそれぞれ開き、胸のギャザー分とします。

• 見返し線は、衿ぐりからダーツ線に沿つてウエストダーツの先までの見返しと、衿ぐりダーツ線を真直に引き下した見返しとに分けて描きます。

• スカートはウエスト線のくりを一センチ五ミリつけ、丈を七十二センチとし、中央線に直角に裾線二十八センチを引きます。

• 図のように左右のスカートを前中央でつづけて製図し、ウエストでウエストサイズ十七センチに、左スカートはタック分十センチ、右スカートは八センチを加えてしるし、それぞれふくらみ分を出して裾と結び、脇線を描きます。

• 左右のウエスト線を描き、アンバランスのタックをそれぞれ描き入れ、左身頃には打合先に合せて明きを作るため、図のようにダーツをとります。

襠

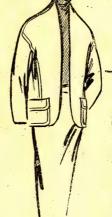
• 襠巾を八センチとし、附寸法を身頃と同寸にして図のように引きます。

裁方と縫方の要点

・前身頃の斜線で示した部分にはライニングをとり、このライニングに見返しをぬい合せ、身頃の衿ぐりダーツに切込みを入れ、ギャザーを形よく寄せて見返し布をぬい合せます。（上の方は縫代分が多いので見返しを多く控える。）

・このギャザーの感じがこわれないように加減しながら、ライニングを肩の縫代に止めつけます。

・打合先にもう一枚の見返し布をぬいつけて表に返し、脇側の身頃を上に重ねて、出来上りより奥をまつり止めます。

・前スカートは『前スカートのタックのたたみ方』図を参照して、ウエスト線のタックをたたみ、明きはダーツの中央側の線に五ミリの縫代をつけ、先は剣形に切込みを入れて、上前に五センチ巾の見返しをつけ、下前は上前の見返し巾だけ持出し布をぬい足します。

口絵（61）前スカートのタックのたたみ方

持出し布
見返し布
前中央
前明
（下前スカート）
（上前スカート）

切替えを新しい感じに扱つた
中年向きトッパー

（口絵　62）

用布
表布＝ダブル巾で一ヤール九分
裏布＝九十センチ巾で二ヤール五分

デザイン

後身頃

・バストのゆるみを二十二センチにし、前後の差をなしにするため、脇線平行に五センチ出します。

・中央線平行に五ミリ出して、丈をウエスト線から下に二十二センチ延長し、直角に裾線を引き、脇線を引き下して裾線と結びます。

・肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、その線を延長して肩巾同寸にいせ込み分一センチを加えてしるし、その先に袖丈を計ります。

・袖先で直角に五センチ下げて肩先と結び、袖丈同寸を計り直し、直角に袖口寸法十二センチ五ミリを引きます。

・袖下線は、脇線でバスト線から七センチ下つたところと袖口下を結びます。

・裾線で、脇より一センチ五ミリ入れて脇線を引き直し、袖下線を図のように中間でややくり気味にして描き直し、つづけて袖下の角に丸みをつけて脇線に結び入れます。

・背の線は、衿ぐり線でダーツ分八ミリを出して裾線と結び、その線を上に六センチ延長します。

・ネックポイントで着込み分として一センチ出して肩先と結び直し、ここで五センチ五ミリハイネックして衿ぐりを描き直し、図のように肩線につながりよく結びます。

・衿ぐりのダーツは、原型衿ぐり線より一センチ上で八ミリの分量にし、図のように描きます。

・衿ぐりの見返しは八センチ巾に描き入れます。

前身頃

・原型を一センチ五ミリ倒して写し、脇線平行に二センチ出します。

・中央線に平行に五ミリ出し、その線をウエスト線より下に二十一センチ五ミリ延長し、脇線を後脇丈同寸に引き下して、裾線を中央線に結びます。

・肩線を延長して袖丈をしるし、後と同じ要領で袖口寸法十一センチの袖を描きます。

・裾線で脇を一センチ五ミリ入れて脇線を引き直し、袖下の角を小さい丸みに訂正します。

・ネックポイントで五センチ五ミリハイネックし、打合分二センチ五ミリを中央線平行に出して、バスト線辺りから図のようなカーヴ線でハイネックの先に結び、先で一センチ五ミリ上げて肩線につながりよく結びます。

・ペプラムの前裾は、打合先より一センチ入れてウエスト位置と結び直してから、角を図のような丸みに描きます。

・切替え線は、ハイネックした衿ぐり線でネックポイントより一センチ下つた点から、原型衿ぐり線で一センチ五ミリ下、袖ぐり線では四センチ五ミリ下を通り、袖ぐり線より七センチ延したところで五センチ下のA点にややカーヴした線で結びます。A点からは鈎形

口絵（62）

中年向きトッパーのデザイン

に、バスト線で脇から六センチ五ミリ入りと、ウェスト線で原型中央線から十二センチ五ミリ入りを通つて、裾線で脇から十四センチ入りに結びます。

・この切替え線を利用して原型衿ぐり線では五ミリ、裾線では二センチ五ミリのダーツを図のようにとります。

・図を参照して記入寸法のポケットを描き、次に見返し線、芯取り線、ボタンの位置をそれぞれ描き入れます。

・縦の切替え線とポケットにあしらつてあるステッチは、一センチ七ミリ巾とします。

・後身頃に前身頃脇布をつづけて裁ちますから、『前後身頃の型紙の合せ方』図を参照し、前後の袖山を直線の部分をつき合せて置き、後身頃はそのまま外廻りを写しとり、前身頃は衿ぐりの方を残して切替え線の△じるしの辺りまで外廻りを写しておき、後身頃の肩線に沿つて前身頃の分を衿ぐりで一センチ、原型ネックポイントの辺りで一センチ五ミリと計り、図のようにつながりよく前切替え線を結び、前中央布とぬい合せるときには伸縮をして加減します。

裁方と縫方の要点

・ポケットは『ポケットの裁方』図を参照し、型紙のダーツ分をつまんで蓋布もつづけて裁ちますが、ポケットの折山線で左右とも五ミリずつの浮き分を出します。

・切替え線の縫方は、まず前身頃脇布のA点に共色薄地布の当布をして、ほついれ止めをします。

・中央布と脇布の切替えは、衿ぐり線よりA点までを中表に合せて地縫し、縫代を割ります。

・中央布のA点から裾までは、出来上りから縫代を折り曲げ、縫代の奥をアイロンで伸して平らにし、脇布の出来上りじるしに合せてのせ、一センチ七ミリ巾のステッチで押えます。

・貼附ポケットにつづけた蓋布は、蓋の裏布になるので、蓋の表布を折山線より少し奥までつづけて裁ち、表側と中表に合せて、裏布を少し控えて外廻りをぬい合せ、表に返して一センチ七ミリ巾の飾りミシンをかけます。

・ポケットの周囲を出来上り通りにアイロンで押えて、表蓋布の折返り分の先に裏布をぬいつけ、少し控えて周囲をまつりつけます。

・身頃の裏布をつける前に、ポケット蓋布の飾りミシンにつづけて、一センチ七ミリ巾の飾りミシンでポケットをぬいつけます。

やわらかい線を生かした
外出向きワンピース

（口絵 63）

用布
ダブル巾で二ヤール二分

デザイン

後身頃

・バストのゆるみを十センチにし、前後の差をなしにしますので、脇線を平行に二センチ出して引きます。

・肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結んで延長し、肩巾にいせ込み分一センチを加えてしるし、その先に袖丈（出来上り袖丈を三十七センチとし、伸し分を差し引いたもの）を計ります。

・袖先で直角に五センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直して、袖口寸法十二センチを直角にとり、袖下は脇でバスト線より三センチ下と結びます。

・ウェスト線に、ウェストサイズ十七センチにダーツ分三センチ、いせ込み分五ミリを加えてしるし、脇線を結んで、袖下の角に丸みをつけて描きます。

・ウェスト線のダーツを描き入れます。

・肩線をネックポイントで一センチ前に廻して肩先と結び直し、つづけて袖山にふくらみをつけて描き直します。

・衿ぐりを後中央で一センチ、ネックポイントで五ミリ上げて描き直します。

・肘線で袖下を二センチ五ミリ切り開き、図のように一センチのダーツを二本とって、五ミリをいせ込みます。

・スカートは、ウェストのくりを一センチ五ミリ、スカート丈七十二センチ、裾巾二十五センチ五ミリに引きます。

・ウェスト線に、ウェストサイズにタック分五センチ、いせ込み分一センチを加えてしるし、ヒップ線を入れ、ヒップサイズ二十四センチ五ミリをしるし、脇線を結びます。

・ウェスト線にタックを二本しるします。

前身頃

・原型を一センチ五ミリ倒し、左右の身頃を開いて写します。

・脇線を平行に一センチ入れます。

・肩線を延長して袖丈を計り、後の要領で袖口巾十センチの袖を引きます。

・ウェスト線に、ウェストサイズ十七センチにダーツ分五センチ五ミリをしるし、脇線を引き、袖下の角に丸みをつけて袖下線に結び入れます。

・ウェストダーツを描きます。

・肩線はネックポイントで一センチかきとって肩先と結び、袖山線もふくらみをつけて描き直します。

・上前打合はウェスト線で十センチ五ミリ出し、前中央で衿ぐりより一センチ下と図のようなカーヴ線で結びます。

・下前打合は二センチ五ミリとし、胸巾線より少し上まで中央線に平行に出します。

・衿ぐりをネックポイントで五ミリハイネックに描き直します。

・後カラーは衿ぐり線を引き上げて、後衿附寸法を計り、ここで直角に一センチ二ミリ起して附線を引き直し、衿附寸法を計り直して直角にカラー巾五センチを引き、左右ともカラー外廻り線を図のように描いて打合先に結びます。

・衿附線は、ネックポイントより図に記入の方向に八センチ五ミリの長さに引きますが、このぬい止りの位置ではカラー巾が少し広くなるように描きます。

・切開き線は、衿附線をウェスト線まで延長した点線と、衿附線から袖下に向つた点線とになります。

・『前身頃の切開き方』図のように、上前、下前とも打合側の切開き線ではタック分二センチ五ミリ、袖下に向う方ではギャザー分三センチ五ミリを切り開き、カラーの外廻りは三ミリずつ二カ所で切り開きます。

・スカートは、ウェストのダーツ分三センチ五ミリ、いせ込み分を一セン

チとして後と同様に引きますが、前中央で左右をつづけて描きます。

•上前も下前も、打合はウエスト線では十センチ五ミリ、ヒップでは十四センチ、裾で十六センチ出します。

•上前には、図の位置にポケット口を描き入れ、ポケット口の浮き分二センチを脇へ出して、脇線を結び直します。

•ダーツを図の位置に描き、ポケット口から裾線まで切開き線を入れます。

•『スカートの切開き方』図のように、ポケット口中央側のダーツをたたみ、ポケット口で三センチ開いて裁ち、開き分はポケット口でタックにします。

ポケットの扱い方を工夫した

一般向きワンピース

（口絵 64）

用布 ダブル巾で二ヤール一分

デザイン

後身頃

•バストのゆるみを十センチとし、前後の差をなしにしますので、脇線を原型に平行に二センチ出します。

•ウエスト線に、ウエストサイズ十七センチにダーツ分三センチを加えてしるし、脇でバスト線より三センチ五ミリ下と結んで、脇線とします。

•肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、これを延長して、肩巾にいせ込み分五ミリ、ダーツ分一センチ五ミリを加えてしるし、その先に袖丈（出来上り袖丈を三十六センチとし、袖山の伸し分を差し引いたもの）を計ります。

•袖先で直角に五センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直し、袖山線に直角に十三センチの袖口線を引き、袖下線を結びます。

•襠附線は、背巾線で袖ぐりより一センチ出して袖下の角と結び、この線上に袖下から三センチ五ミリを計って附止りとし、附止りより図のように脇線へ向って六センチ、袖下線へ向って九センチの附線を引きます。

•ネックポイントで、着込み分として一センチを図のように出して肩線を引き直します。

•衿ぐりを後中央で一センチ五ミリ、ネックポイントで一センチのハイネックに描き直します。

•肩ダーツを図の位置に描き、ダーツをつまんで肩線を引き直し、袖山線にふくらみをつけて描き直します。

•ウエスト線に三センチのダーツを描きます。

前身頃

•原型を二センチ五ミリ倒して写します。

•脇線を平行に一センチ入れて引きます。

•ウエスト線に、出来上りウエスト寸法に六センチ五ミリのダーツ分を加えてしるし、脇でバスト線より三センチ五ミリ下と結びます。

•肩線を延長して袖丈を計り、後と同じ要領で記入の寸法の袖を引き、襠附線を引きます。

•衿ぐりはネックポイントで一センチ、前中央で一センチ五ミリのハイネックに描き直します。

•打合は乳下りより三センチ五ミリ上で、倒した原型の前中央線に直角に三センチ出し、これより五センチ上までは中央線に平行に引き、胸巾線で三センチ六ミリ、衿ぐり前中央では一センチ五ミリ上げて横に三センチ出し、打合先の線を図のようなカーヴ線で描きます。

•カラーは見返しつづきにするため、別紙に直角線を引いて、横線に衿附寸法の二分の一をしるし、カラー巾を後中央で五センチ五ミリ、前中央で四センチ上げて六センチにし、図のようにカラー附線と外廻り線を引きます。

•いま製図したカラーを切りとり、身頃打合先にカラー附線の端をつき合せ、肩で二センチ重ねてカラー外廻りと附線を写し、附線につながりよく見返し線を記入し、表カラーはこの見返しつづきに、裏カラーは衿附線で身頃に接ぎ合せます。

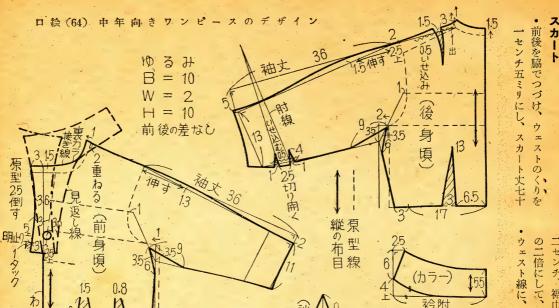
•原型を倒したためにできた左右のゆとり分は、明止りの位置でそれぞれタックにします。

•ウエスト線のダーツは、三センチ五ミリと三センチの分量にして、図のように二本描き入れます。

•前後の袖山をつき合せにし、肘線で後袖下を二センチ五ミリ切り開き、一センチの分量のダーツを図のように二本とつて、五ミリをいせ込みます。

襠

•襠巾を七センチにし、附線は身頃側六センチ、袖側九センチに描きます。

スカート

・前後を脇でつづけ、ウェストのくりを一センチ五ミリにし、スカート丈七十二センチ、裾巾を二十五センチ五ミリの二倍にして、長方形を引きます。

・ウェスト線に、出来上りウェストサイズ十七センチに、ダーツ分を後は四センチ五ミリ、前は四センチ、いせ込み分は前後とも一センチずつをそれぞれ加えてしるし、前後スカートの脇線をカーヴ線で描きます。

・ダーツは前後とも二本ずつを、図に記入のように描き入れます。

・前スカートには、身頃からつづいた感じにポケット口布をつけます。このポケット口布の丈は十四センチ五ミリとし、巾は上方のウェスト線では中央線より七センチ入つて四センチ五ミリ、下側では中央線より九センチ五ミリ入つて五センチとし、附線を図の太点線のように七ミリのくりをつけてカーヴ線に描き直します。

・後中央に襞分として九センチを平行に出し、後中央で裾より二十センチ上を襞山のぬい止りとします。

口絵（64）前身頃のダーツの縫方

縫方の要点

前身頃のダーツの縫方

・前身頃のダーツは二本とも、ダーツの出来上りじるしより四ミリくらい外側を、八センチの長さにぬつて先をぬい離し、縫代は出来上りじるしから向い合せに折り、『前身頃のダーツの縫方』（1）図のように裏側にライニングを当てて縫代にとじつけると、（2）図のようにタックが浮きます。

前明とカラーの縫方

• 前身頃は中央をわにするため『前明とカラーの縫方』(1)図を参照して、明止りまで切込みを入れると、下前の重なり分（図の斜線）が不足するので、(2)図のようにこの不足分を割接ぎで足します。

• (2)図のように、裏カラーを身頃にぬいつけ、見返しの中に入る部分は縫代をぴったり割り、あとは衿の方に片返しに倒します。

• 見返しつづきの表カラーを、裏カラーに中表に合せて、打合の明止りからカラー外廻りをつづけてぐるつとぬい合せます。

• カラーを表に返して出来上り通りにととのえ、見返しの奥を二つ折にして端ミシンをかけておき、衿附の縫目にまつりつけます。

• 明止りのタックをつまみ、タックの奥の折山を見返しに止めつけて、くずれないようにしておきます。

スカートのポケットの作り方

• ポケットの口布は『スカートのポケットの作り方』(1)図のように、長さは附寸法の二倍、巾は出来上り巾の二倍とし、周囲に一センチくらい縫代をつけて裁ちます。

• ポケット附の位置はダーツにかかるので、ダーツの中央に切込みを入れ、(1)図のように口布を中表に合せてぬいつけます。

• 次は(2)図のように口布をしるし通りに折つて、縫代の先にポケット袋布をつけます。

ドレープで落着いた感じにした 中年向き外出着

（口絵　65）

用布　ダブル巾で一ヤール九分

デザイン

後身頃

• バストのゆるみを十センチにし、前後の差をなしにしますので、脇線を原型に平行に二センチ出します。

• 肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、これを延長して、肩巾にいせ込み分一センチを加えてしるし、その先に袖丈（袖丈を三十七センチとし、袖山の伸し分を差し引いた寸法）を計ります。

• 袖先で直角に四センチ下げ、肩先と結んで袖丈を計り直し、袖口寸法十一センチ五ミリを直角に引きます。

• 脇線でバストより三センチ下に袖下線を結びます。

• ウエスト線に、ウエストサイズ十六センチにダーツ分三センチを加えてしるし、脇線を結びます。

• 襠附線は、背巾線を袖ぐりより二センチ出したところと袖下の角を結び、この線上に角から五センチ上をしるして附止りとし、袖側は袖下線に向つて九センチ、身頃側は脇線に向つて六センチの長さに襠附線を引きます。

• ネックポイントで一センチ出して肩先と結び、つづけて袖山線を図のようにふくらみをつけて描き直します。

• 衿ぐりでダーツ分八ミリを中央線より出し、ウエスト後中央と結んで背の線とし、これを上へ四センチ延長し、ネックポイントでは三センチ五ミリ上げて、ハイネックの衿ぐり線を描きます。

• 衿ぐりダーツを図のように描きます。

• ウエスト線に三センチのダーツを描き入れます。

• 肘線を袖下で二センチ五ミリ切り開き、

開き分は二本のタックにします。

・見返し線は、原型衿ぐりと同じ線に描き入れます。

・スカートは、ウェスト線のくりを一センチ五ミリにし、スカート丈を七十二センチ、裾巾を二十四センチ五ミリに引きます。

・ヒップ線を入れ、ヒップサイズを二十四センチ五ミリとし、ウェスト線に、ウェストサイズ十六センチにダーツ分三センチといせ込み分五ミリを加えてしるし、図のように脇線を描きます。

・ウェスト線のダーツを記入の寸法で描き、後中央線に平行に襞分八センチを出して、裾から二十五センチ上を襞山のぬい止りとします。

口絵（65）中年向き

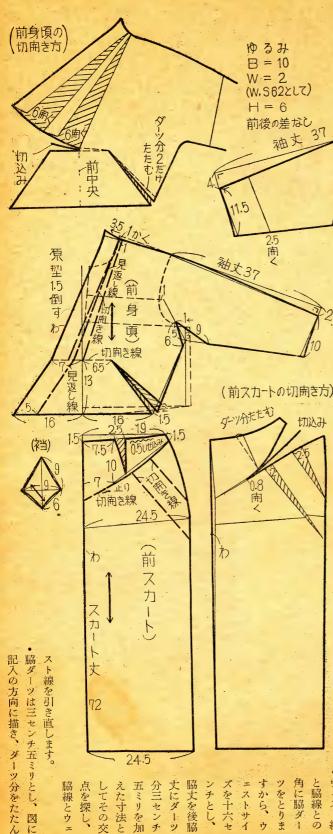
ワンピースのデザイン

前身頃

・原型を一センチ五ミリ倒して写し、脇線を一センチ入れて引きます。

・肩線を延長して袖丈を計り、袖先で二センチ下げて、後と同じ要領で記入寸法の袖を引きます。

・ウェスト線と脇線との角に脇ダーツをとりますから、ウエストサイズを十六センチとし、脇丈を後脇丈にダーツ分三センチ五ミリを加えた寸法としてその交点を探し、脇線とウェスト線を引き直します。

・脇ダーツは三センチ五ミリとし、図に記入の方向に描き、ダーツ分をたたん

で脇線を訂正し、後と同様に襠附線を引きます。

・肩線は、ネックポイントで一センチかきとつて引き直し、袖山線にふくらみをつけて描き直します。

・打合はウェスト線で十六センチ、ウェスト線より十三センチ上では七センチ出して結びます。

・衿ぐりはネックポイントで三センチ五ミリハイネックにし、図のようなカーヴ線で打合先と結びます。

・見返しは肩で三センチ五ミリ巾、ウェスト線では五センチ巾とし、図のように引きます。

・切開き線は、脇ダーツの先から中央線に直角に打合先まで引き、更に肩線からこの切開き線に向つて図の点線のように二本引きます。

・『前身頃の切開き方』図を参照し、まずダーツの先の切開き線に打合先から切込みをし、脇ダーツを図のように二センチだけたたみ、打合先の二本の切開き線ではドレープ分を六センチずつ切り開きます。

・スカートは、ダーツ分を二センチ五ミリとして後と同様に引きます。

・ドレープを出す切開き線は、脇でウェスト線より一センチ五ミリ下と、ウェスト線から十センチ下で中央から七センチ入りを切込み止りとして、直線で結び、この線を中央線まで延長し、脇から切込み止りまでを図のようなカーヴ線で引き直します。

・この切開き線から脇線に向つて、図のように二本の切開き線を入れます。

・『前スカートの切開き方』図を参照し、前身頃と同様に、まずウェスト線の脇から中央線に向つて切込みを入れ、切込み線の止りで八ミリ切り開き、ウェストのダーツをたたみ、脇側の切開き線で二センチと二センチ五ミリをそれぞれ切り開きます。

襠

・襠巾を九センチにし、附線は身頃と同寸法にして、図のように少しくり気味に引きます。

裁方と縫方の要点

・打合先の見返し分は、身頃の打合先につづけて裁ちます。

・『前身頃の切開き方』図のように、切り開かれた切込みの縫代分の中央に、打合先から前中央線まで、切込みを入れます。

・上側の見返しの奥をよりぐけして、ドレープを感じよく寄せ、下側の布と接ぎ合せますが、このとき縫目はドレープの蔭になるように気をつけてまつり、縫代を上に倒し、下側の見返し布で接ぎ目の縫代をくるみ、縫代だけ端ミシンで押え、下側の見返し布の奥をよりぐけにして始末します。

・スカートの切込み線も前身頃と同じ要領で始末します。

衿元でいろいろに感じの変る

中年向きワンピース

（口絵 66）

用布

ダブル巾で、横縞の場合は一ヤール九分、縦縞の場合は二ヤール

デザイン

後身頃

・バストのゆるみを十センチにし、前後の差をなしにしますので、脇線を平行に二センチ出します。

・ウェスト線に、ウェストサイズ十七センチにダーツ分三センチといせ込み分五ミリをしるし、脇線をバスト線より四センチ五ミリ下に結びます。

・肩先を二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾と同寸にいせ込み分一センチを加えてしるし、その先へ袖丈（出来上り袖丈を三十七センチとし、伸し分を差し引いたもの）を延長します。

・袖先を直角に四センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直して、袖口寸法十二センチ五ミリを直角に引き、袖下線を結んで、袖下の角に丸みをつけ、脇線に結び入れます。

・ネツクポイントを一センチ前に廻して肩先と結び直し、つづけて袖山線もふくらみをつけて描き直します。

・衿ぐりを後中央で一センチ上げて描き直し、ここで後中央線よりダーツ分八ミリを出し、ウェスト中央と結びます。

・訂正した背の線を衿ぐりより三センチ五ミリ延長し、ネックポイントでも三センチ上げて衿ぐりをハイネックに描き直し、ネックから肩線に結びます。

・衿ぐりのダーツを図のように描きます。

・ウェストダーツは、一センチ五ミリずつの分量で図の位置に二本描きます。

・後中央線平行に、片襞分十センチを出して裾まで引き下し、裾から二十センチ上を襞山のぬい止りとします。
・後中央線で、ウェスト線より十八センチ下を背明の明止りとします。

前身頃

・原型を一センチ五ミリ倒して写します。
・脇線を平行に一センチ入れて引きます。
・ウェスト線は中央線に直角に引き、(横縞を通すため)ウェストサイズ十七センチにダーツ分四センチ五ミリ、いせ込み分五ミリを加えてしるし、脇線をバスト線より四センチ五ミリ下と結びます。
・肩線を延長して袖丈を計り、後と同じ要領で袖口寸法十一センチ五ミリの袖を引きます。
・肩線はネックポイントで五ミリかき落して肩先と結び直し、つづけて袖山にいいふくらみをつけて描きます。
・衿ぐりは、ネックポイントで三センチハイネックし、図のように胸巾線の前中央になだらかなカーヴ線で結びます。
・ウェスト線のダーツを記入の寸法で二本描きます。
・ポケットは、乳下り線の二センチ二ミリ上で中央より二センチ七ミリ入った

・肘線で袖下を二センチ五ミリ切り開き、図のように一センチのダーツを二本とり、残りの五ミリをいせ込みます。
・スカートは横縞を通すため、ウェスト線のくりをなしにして、スカート丈七十二センチ、裾巾二十四センチ五ミリに引きます。
・ウェスト線は中央線に直角に引き、ウェストサイズ十七センチとダーツ分四センチ、いせ込み分一センチを加えてしるし、ヒップ線にヒップサイズ二十四センチ五ミリを計つて、裾側には直線で脇線を結び、ウェスト線にはヒップのふくらみをつけて、カーヴ線で脇線を結びます。
・中央から六センチ五ミリ入りに二センチ、更に三センチ脇寄りに二センチのダーツを描きます。

点から、胸巾線の五ミリ下で前中央から七センチ入つた点に結び、ここから袖下に向つて切替え線を引き、十センチ五ミリのポケット口をしるし、底は中央寄りのダーツの上と結び、ポケット口の脇側を中央側に平行に描きます。

・ポケット口の浮き分を、中央側に八ミリ出してポケット線を引き直します。

・ポケット口につづく切替え線（図の点線）は、脇布の切替え線ですから、中央布の切替え線は、袖下寸法が後と同寸になるまで袖下で図のように交叉させ、途中は八ミリくらいくり入れます。

・ポケット口には、二センチ二ミリ巾にステッチの線を描き入れます。

・脇ダーツは、後脇丈より長い分を、横縞の線に合せてダーツにとります。

・スカートは、後スカートと同様に引き、図の位置に二本のダーツを描きます。

・スカートのポケットは図のように、脇寄りのダーツの先に向けて十三センチのポケット口を引きます。

・この前スカートは、図のように後スカートと脇線をつき合せてつづけ、脇の縫目をなしに裁ちます。

裁方と縫方の要点

・縞を全部横に使つて裁ち合せますが、とくに前身頃のポケットの切替え線も縞を揃えるように注意して裁ちます。

前身頃のポケットの縫方

・前身頃は脇布、中央布とも『前身頃の裁方』図のようにポケット分をつづけて裁ちます。

・脇布のポケット口に、共布の袋布をぬいつけ、袋布の方を五ミリくらい控えて、口側に二センチ二ミリ巾のステッチをかけます。

・中央布のダーツの先にはほつれ止めをしておきます。

・中央布と脇布の切替えを中表にぬい合せ、ダーツの部分の縫代は中央側へ倒し、ポケットの部分の縫代は脇布側へ倒します。

・中央布につづけて裁つたポケットの袋布と、脇布のポケットの袋布とを合せ、外廻りをぬい合せます。

(中央布)
ポケット附位置
(脇布)

口絵（66）前身頃の裁方

(1)
ダーツをつまむ
(前スカート)
縫代分0.5くらい
(表布) 表

口絵（66）スカートのポケットの縫方

スカートのポケットの縫方

・(1)図を参照して、ウェスト線からポケット口に切込みを入れ、脇側のダーツ分を型紙でつまんで、ポケット口の浮き分を出します。

・(2)図を参照してポケット口をぬいますが、縫代が少いので注意してぬい、向う布は縞を合せて割接ぎにします。

・ポケット口に、二センチ四ミリ巾のステッチをかけてから、袋布の底をぬい合せ、最後にポケット口の両側にもステッチをかけてととのえます。

・後明は、衿ぐりからスカートの明止りまでつづけて、ファスナーをつけます。

スマートなタイプの人に向く

中年向きベルト附スーツ

（口絵　67）

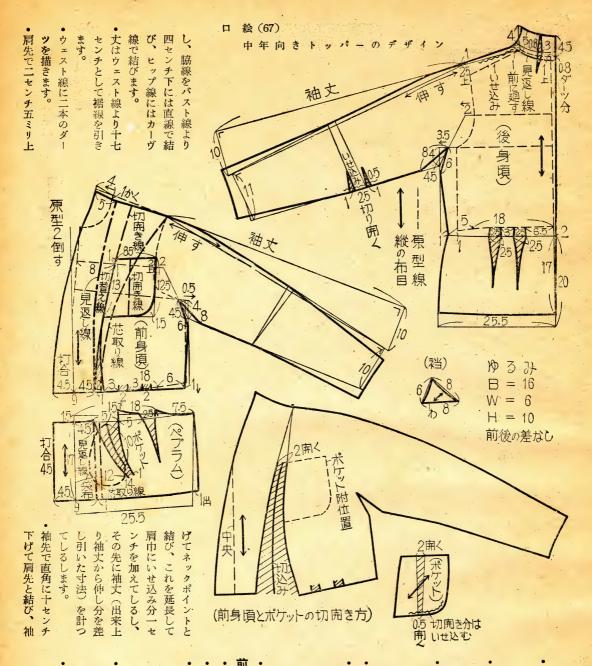
デザイン

用布

表＝ダブル巾で一ヤール七分
裏＝七十一センチ巾で二ヤール一分

後身頃

・バストのゆるみを十六センチにし、前後の差をなしにしますので、脇線を平行に三センチ五ミリ出します。

・背のだぶり分として後中央で二センチ、脇で一センチ下げてウェスト線を引き直し、ヒップ丈を計つて、ヒップサイズ二十五センチ五ミリをしるします。

・ウェスト線に、ウェストサイズ十八センチにダーツ分五センチを加えてしる

し、脇線をバスト線より四センチ下には直線で結び、ヒップ線にはカーヴ線で結びます。

• 丈はウェスト線より十七センチとして裾線を引きます。

• ウェスト線に二本のダーツを描きます。

• 肩先で二センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、これを延長して肩巾にいせ込み分一センチを加えてしるし、その先に袖丈（出来上り袖丈から伸し分を差し引いた寸法）を計つてしるします。

• 袖先で直角に十センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直し、袖口寸法十一センチを直角に引き、袖下線を結びます。

• ネックポイントで一センチ出して肩線を引き直し、袖山にふくらみをつけて袖山線を描き直します。

• 衿ぐりを後中央で一センチ上げて描き、この位置で後中央へダーツ分八ミリを出して裾と結びます。

• 背の線を上に延長して原型衿ぐりより四センチ五ミリを計り、ネックポイントで四センチ上げて、衿ぐりをハイネックに描きます。

• 衿ぐりのダーツを図のように描きます。

• 襠附線は、背巾線を袖ぐりより二センチ出して袖下の角と結び、袖下より四センチ五ミリ上を附止りとして、身頃側は六センチ、袖側は八センチの長さにそれぞれ引きます。

• 見返し線は五センチ巾に描きます。

前身頃

• 原型を二センチ倒して写します。

• 脇線を平行に五ミリ出して引きます。

• ウェスト線を脇で一センチ下げて引き直し、ウエストサイズ十八センチにダーツ分六センチを加えてしるし、脇線を結びます。

• 肩線を延長して袖丈を計り、後と同じ要領で袖口寸法十センチの袖を引き、後と同寸に襠附線を引きます。

• 打合をウェスト線で四センチ五ミリ出し、ネックポイントで四センチのハイネックにして先を少し上げ、図のよう

口絵（67）
中年向きトッパーのデザイン

（前身頃とポケットの切開き方）

なカーヴ線で打合先の線を結びます。
•ネックポイントで一センチかき落して肩線を訂正し、袖山にふくらみをつけて描き直します。
•切替え線は、胸巾線で八センチ入り、ウエスト線で前中央から四センチ五ミリ入ったところをカーヴ線で結び、胸巾線より一センチ上まで引きます。
•ポケットは、切替え線の上端より十三センチの深さにし、ポケット口を八センチ五ミリにして、図のように角を丸みにしたポケットの形を描きます。
•ウエスト線に、二センチのダーツ一本とタック二本を記入の位置に描きます。
•見返し線は、肩で五センチ、下で九センチの巾にして、図のように引きます。
•切替え線につづけて切開き線を肩まで引き上げ、ポケットにも切開き線を入れます。
•ペプラムは、ウエスト線に前中央で一センチ五ミリのくりをつけ、ウエストサイズにダーツ分七センチ五ミリを加えてしるします。
•ヒップ線を引き、ヒップサイズ二十五センチ五ミリとして、脇線を結びます。
•丈をウエスト線から十七センチとして裾線を描き、裾で脇に一センチ出して、脇線をカーヴ線で描きます。
•タックは、ウエスト線で前中央より四センチ五ミリ入りから、十四センチのタックの先が前中央より十二センチ入りになるようにカーヴ線で描き、分量はウエスト線で五センチ、先では一センチに描きます。
•タックより五センチ離して、二センチ五ミリのダーツを図のようにカーヴ線で描き、タックとダーツをたたみ、ウエスト線を描き直します。
•タックの際にポケットを作りますが、ポケット口はウエスト線より一センチ五ミリ下から十センチの長さにし、袋布の形を図の太点線のように描きます。
•打合を平行に四センチ五ミリ出します。
•見返し線は身頃につづけて九センチ巾に描きます。
•芯取り線を図の位置に描きます。
•前後の袖山をつき合せにし、肘の位置で後袖下を二センチ五ミリ切り開き、一センチのダーツを二本とつて、残りの五ミリをいせ込みにします。

襟

•襟巾を八センチとし、附線を身頃と同寸法にして少しくり気味に描きます。

スカート

•別項のスリムスカートと同じですから、ここでは製図を省きます。

裁方と縫方の要点

•前身頃の見返しはペプラムをつづけて裁ちます。
•芯布もペプラムをつづけ、型紙で身頃のダーツ分をつまんで裁ちます。
•『前身頃とポケットの切開き方』図のように、前身頃の切替え線を肩まで切り開き、ポケット口で二センチ開きます。
•ポケットの切開き線では、口側で二センチの浮き分を開き、底側では五ミリ開いて、切開き分を底の丸みの辺りでいせ込みます。
•胸ポケットの縫方は、口絵(51)のワンピースを参照してください。
•ペプラムのポケットは、タックの襞奥にスラッシュの方法で作りますが、その位置はウエストより一センチ五ミリ下からポケット口を十センチにし、口明止りより三センチの深さの袋布をつけます。（袋布は底で七センチ五ミリくらいの巾にする。）

健康的なタイプの人に向く

軽快なワンピース

（口絵 68）

用布　ダブル巾で一ヤール九分

デザイン

後身頃

•バストのゆるみを十センチにし、前後の差をなしにしますので、脇線を平行に二センチ出します。
•肩先で二センチ五ミリ上げ、ネックポイントと結んで延長し、肩巾といせ込み分をしるし、その先に袖丈（出来上り袖丈を三十七センチとし、袖山の伸し分を差し引いた寸法）を計ります。
•袖先で直角に六センチ下げ、肩先と結んで袖丈を計り直し、袖口寸法十三センチを直角にとります。
•袖下線は、脇でバスト線より四センチ下と結びます。
•ウエスト線に、ウエスト寸法十七センチにダーツ分四センチ、いせ込み分五ミリを加えてしるし、脇線を引きます。
•襟附線は、背巾線を袖ぐりより一セン

口絵（68）

中年向きワンピースのデザイン

チ出した点と袖下の角を結び、袖下から三センチのところを附止りとして、脇線に向つて六センチ、袖下線には九センチの長さの線をそれぞれ引いて、襠附線とします。

・ウェストのダーツを図の位置に二本描き入れます。

・肩線はネックポイントで一センチ出して肩先と結び直し、つづけてふくらみをつけて袖山線を図のようにカーヴ線に描きます。

・衿ぐりは、ネックポイントで五ミリくり下げて描き直します。

・前身頃の製図をしてから前後の袖山をつき合せにし、肘線を後袖下で二センチ五ミリ切り開き、図のように一センチのタックを二本記入し、残りをいせ込みます。

・スカートは、図のようにウェストのくりを一センチ五ミリつけ、スカート丈七十二センチ、裾巾二十五センチに引きます。

・ウェスト線に、ウェストサイズ十七センチにダーツ分五センチ、いせ込み分一センチを加えてしるし、ヒップ線に二十五センチ五ミリを計つて、脇線を結びます。

・ウェストのダーツを図のように描き、後中央に襞分七センチを出します。

前身頃

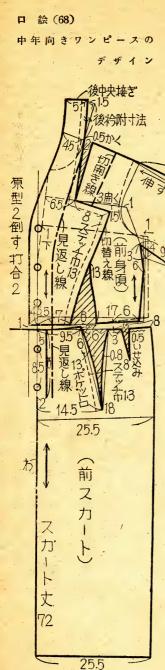
・原型を二センチ倒して写し、脇線を平行に一センチ入れます。

・肩線でネックポイントより五ミリ入つたところで、肩ダーツを二センチの分量にして胸巾線の前中央より六センチ五ミリ入りに図のように描きます。

・ダーツ分をたたんで原型を置き直し、肩線、袖ぐり線を訂正し、袖ぐり下で下つた分をウェスト脇でも下げ、ウェスト線を訂正します。

・訂正した肩線を延長して袖丈を計り、後と同じ要領で袖を引きます。

・ウェスト線に、ウェストサイズにダーツ分六センチを加えてしるし、脇線を引き、襠附線を入れます。

・打合分二センチをバスト線の辺りまで平行に出し、衿ぐりは肩線を四センチ五ミリ延長

して、図のように打合先にカーヴ線でつなぎます。

•衿ぐり線を上に延長し、この線に平行にダーツ線から後衿ぐり寸法と同寸を引き上げて、ここで左に直角に一センチ五ミリ起してダーツ線と結び直し、後衿ぐり寸法を計り直して、直角に衿巾五センチをとり、図のようなカーヴ線で衿ぐり線を描きます。

•切替え線は、肩ダーツの先から胸巾線より一センチ五ミリ下に八センチを引き、ウェスト線で中央から七センチ入りに図のようなカーヴ線で結び、この線に沿つて六センチのウェストダーツを描き入れます。

•切替え線のステッチは、後カラーからつづけて一センチ三ミリ巾にかけます。

•肩線から切替え線に向つて切開き線を入れ、切替え線上でギャザー分を三センチ開きます。

•見返し線を図のように描き、後に廻るカラーの分もつづけて裁ちます。

•前中央線の図の位置に、ボタン三箇をしるしておきます。

•スカートは、ウェスト線に一センチのいせを図のようにつけ、スカート丈を七十二センチ、裾巾二十五センチに引きます。

•ウェスト線に、ウエストサイズにダーツ分七センチ五ミリ、いせ込み分五ミリを加えてしるし、ヒップ線を引いてヒップサイズ二十五センチ五ミリを計り、脇線を結びます。

•ウェスト線のダーツは、中央から九センチ五ミリ入りに、六センチの分量で十八センチの長さに図のように描き、更に三センチ離して一センチ五ミリの分量でもう一本とります。

•ポケットは、中央側のダーツの中央に切込みを入れて作ります。ポケット口を浮かせるため、ダーツの中央側の線をウェスト線から上に七ミリ延長し、ウェスト線より六センチ下から十三センチをポケット口にします。

•前明は、打合先からつづけてウェスト線から十五センチにします。

襠

•襠巾を六センチ五ミリとし、附線は身頃の寸法に合せてややくり気味に描きます。

縫方の要点

•身頃の打合に合せて、スカートにウェスト線から十五センチの明きを作りますが、前中央をわにするため、明きのしるしからダーツ風に縫代をとり、その縫代の分量を脇側に出します。

•スカートの明きの始末は、口絵(47)を御参照ください。

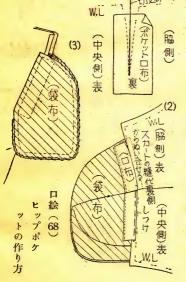
ヒップポケットの作り方

•『ヒップポケットの作り方』(1)図のようにポケット口布を中表に合せて、ポケット口のしるしからしるしまでをぬい、切込みを剣先まで入れて裏に返し、縫代を中央側では口布側に片返し、脇側では割ります。

•(2)図のように口布の裏側に袋布を当て、口布の奥に端ミシンをかけて止めますが、袋布の口側の縫代は、中央側では身頃の出来上りじるしに合せて裁ち切り、脇側では割られた身頃側の縫代と裏側でぬい合せておきます。

•ウェスト線からポケット口までのダーツをぬつて縫代は割り、脇側のスカートと袋布をよけておいて、中央側のポケットに一センチ三ミリ巾のステッチをかけます。

•(3)図のようにポケット口を合せて袋布の周囲をぬい、上下の明止りを半返しで止め、縫代はからげておきます。

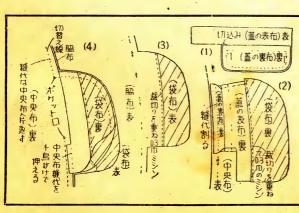
口絵(68)ヒップポケットの作り方

口絵(81)女児オーバーのポケットの縫方

(1)図のように、蓋布の外廻りをしるしより一センチ手前までぬいます。

(2)図のように、蓋の表布に袋布を重ね接ぎにし、中央布のポケット口に蓋の裏布をぬい合せます。

(3)・(4)図のように脇布に袋布をぬいつけ、上下の切替え線をぬつて中央側に倒し、袋布の外廻りをぬいます。

蓋布のぬい残したところをかがり、蓋布を中央側に折り返してボタン止めにします。

ジャケットの基本的な仕立方

台芯の作り方

・台芯は身頃の土台となるものですから、仮縫のときに身体に合せて芯のダーツの位置や分量を正しく定め、次のように作ります。

・袖ぐりから入れた脇寄りのダーツは型紙をたたんで裁ち、切替え線には五ミリずつの縫代をつけて裁ちます。

・図のように切替え線は重ね接ぎにし、ウェストダーツの先はダーツ分の中央に切込みをして重ね接ぎにします。

・前肩を五〜六ミリ肩先の方向にアイロンで伸しておきます。

台芯の作り方

伸す 0.5〜0.6

切替え線は重ね接ぎ

(芯)

このダーツは型紙でたたんで裁つ

ダーツの部分切込みを入れて重ね接ぎ

身頃と袖の伸縮

・出来上つた台芯に合せて次のように表布の伸縮をしますが、必ず左右の身頃を中表に合せて左右同じ分量を伸縮するように注意します。

・後身頃は、肩ダーツを地縫し、縫代の中央に切込みを入れて割り、ダーツより肩先寄りは、しろも二本どりでしるしより二〜三ミリ外と、更に五ミリくらい外をできるだけ細かくぬつて、肩のいせ込み分をぬい縮め、この上に湿布を当てて、縫代側からアイロンで押えていせ込みます。

・袖ぐりから脇にかけても図のように細かくぬつて、左右の身頃を中表に重ね、体格によつて違いますが、五〜六ミリぬい縮めて、肩と同じ要領でいせ込みます。

・ウェスト線のくり入れた部分は、水をつけて熱いアイロンを当て、図のように三角形の感じに充分伸しますが、ヒップや背巾線の近くまで伸さないように注意します。

・前身頃は、肩巾を芯に合せて五〜六ミリ伸し、脇線はヒップの丸みに合せていせ込み、袖ぐりとウェスト脇は後と同様に伸縮をします。

・袖は、外袖の袖下線を内袖に合せて肘の辺りで伸し、肘側の線は肘線を中心にして五〜六センチのあいだでいせ込みます。

内袖に合せていせ込む

5〜6

肘

外袖中表　(袖)

伸す

内袖に合せて伸す

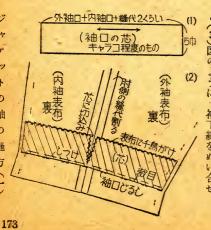
ジャケットの身頃と袖の伸縮

・以上の伸縮がすんだら、しつけで仮縫をし、着てみて合わないところを補正し、これによつて型紙を訂正してしるしをつけ直し、本縫にかかります。

袖の縫方

・内袖と外袖の肘側の線を中表に合せ、外袖の伸縮のくせを消さないように注意しながら地縫し、縫代を割ります。

・袖先に入れるキャラコ程度の芯を(1)図の大きさに用意します。

・(2)図のようにこの芯を、一方の裁目を袖先の出来上りじるしに合せてのせ、肘側の縫目のところで芯に切込みを入れて落ち着かせ、袖先側をしつけで押え、奥の裁目を表布に千鳥がけで止めつけます。

・(3)図のように、袖下線をぬい合せ、

ジャケットの袖の縫方(一)

ジャケットの袖の縫方（一）

(3)
袖下側地縫
縫代を切りとる
（芯）
袖口

(4)
袖下側縫代割る
（内袖表布）裏
（芯）
裁切りを芯布に千鳥がけ

(6)
（裏袖）表
（表袖）
2控える
裏糸で細かく縦まつり

(5)
裏袖の縫代は外袖に片返し
6～7残す
6～7残す
裏をゆるめて中とじ
（外袖表布）裏
（芯）
袖口
（裏袖）

(7)
（出来上り）
縫目
5～6
（外袖）
（内袖）
斜めじつけ
（裏袖）表
0.6～0.7外
0.3
0.2外
2.25
2.5
2

芯の縫代を縫目のきわから切りとつて縫代を割ります。

• (4)図のように、袖先の縫代を出来上り通りに折つて、縫代の裁切りを芯布に千鳥がけで止めつけます。

• 裏布も表と同様に伸縮し、中表に合せて、肘側と袖下側をそれぞれぬつて筒に作りますが、どちらもしるしより三ミリくらい外を地縫し、きせをかけて縫代を外袖の方に倒します。

• (5)図のように表裏の内袖を中に合せて、肘側と袖下側の縫代をそれぞれとじ合せますが、全体に裏をゆるめ加減にして、両端とも六～七センチ残して、しろも二本どりでとじ合せます。

• 裏袖の中に手を差し入れてひつくり返し、(6)図のように裏の袖口を二センチ控え、細かく縦まつりをします。

• (7)図のように表に返し、袖全体にアイロンをかけ、袖附の裁切りより五センチほど奥に袖附のカーヴに沿つて斜めじつけをし、表裏を止めておきます。

• 表袖の袖山は、しるしより二～三ミリ外をしろも二本どりで細かくぐるつとぬい縮め、更に二～三ミリ外側をもう一本ぬい縮め、裏側から水をつけて袖山の形に合せていせ込みます。

• 裏袖の袖山は、しるしの六～七ミリ外で縫代を裏側に折り曲げて、折山のきわを表袖と同様にぬい縮め、糸は切らずに残しておきます。

• 出来上つた袖は、(7)図のように記入の寸法通りにたたんでおきます。

身頃の縫方

• 『身頃の縫方』(1)図のように、前後ともダーツをそれぞれ地縫し、縫代をアイロンで充分伸し、縫代の中央に切込みを入れて割ります。薄地物の場合は、縫代を中央側に片返しに倒します。

• (2)図のように、前身頃の裏側に台芯を据えます。台芯の据え方は、まず芯は表を上に、打合の方を手前にして台の上に置き、その上に表身頃の表を上に出して重ね、表布のたるまぬように注意しながら（とくに肩廻りなど）芯と表布を平らにして、ABCDの順序にしつけをかけます。

• 芯布の地質によつて台芯のままでは頼りない場合や、表身頃との接触をなめらかにしたいために、または台芯の形

(1)
（前身頃脇布）
ダーツの縫代伸す
縫代割る
ダーツの先は縫代をアイロンでつぶす

(2)
（前身頃表布）
芯の位置
ポケット口
D
C
A
B
3
2
折山
伸
伸
打合を手前においてしつけする
右身頃は肩の方から裾に向つてしつけする

(3)
八刺し
（芯）
折山

(4)
（前身頃）表
（八刺しの方法）
0.3
0.6～0.7
表布を少しすくう

(5)
（芯）裏
折山より2奥より始める
折山
折先の近くは八刺しを控える
1手前まで

ジャケットの身頃の縫方（一）

ジャケットの身頃の縫方（二）

をくずさない目的のために、この台芯のほかにカラー、肩、ラペルに増し布（ごく薄手のキャラコか薄手のスレキ）をつけることもあります。

・（3）（4）（5）図を参照して、ラペルを軽く折つて、折山に左手を入れて持ち、記入通りの針目で折山線より二センチ奥から折山線に平行にハ刺しをしますが、絶対に芯布を吊らせないように注意して、出来上りの形を考えながら、カラーの附の近くは芯を心持ちゆるめ加減に、ラペルの先の方はほとんど平らに手加減をし、表の出来上りじるしより一センチ手前までハ刺しをし、形をくずさないようにアイロンをかけておきます。

・ハ刺しがすんだら（6）（7）図のように、上前のボタン附の位置に、玉縁ボタンホールを作ります。（孔かがりのときは服が出来上つてからかがる。）

・見返し布と前裏との接ぎは、接ぎ線に合じるしをつけて、裏布の縫代を出来上り通りに折つておきます。

・見返しの附側の縫代の端に薄糊をつけ、合じるしを合せて裏布を出来上り通りにのせ、アイロンで乾かすと、裏布の縫代が見返し布に糊づけされます。

・裏布をはぐつて見返し附線にミシンをかけますが、裾は出来上りより二センチ手前までぬいます。

・裏身頃のダーツをぬい、縫代を脇へ倒し、表と同様に伸縮をします。

・（6）図を参照して、表身頃と見返し布を中表に合せ、折先はしるし通りにピンを打ち、折先から上は、身頃は出来上りじるし通りに、見返しは三〜四ミリ外側に合せてピンを打ち、折先から下は、身頃はしるし通りに、見返しはしるしより少し中側を合せてピンを打ち、しつけで押えてから、しつけより少し外側をカラー附止りから見返しの裾までぬい合せます。

・いまぬつた打合先は、芯の縫代をミシンのきわから切りとり、表と見返しの縫代を差をつけて切り落します。

・（8）図のように、打合先の縫代を芯いつぱいに表布側に片返しに倒してアイロンで押え、吊れるところは縫代に切込みを入れ、縫代を芯にからげつけます。

・カラー附止りには表身頃にだけ切込みを入れて、表に返し、ラペルと打合先の形をととのえて、アイロンをかけて落ち着かせます。

・（9）図のように、打合先からラペル外廻りにつづけて斜めじつけをし、ラペルはラペルの形に注意しながら折山線からふんわり折り返し、その感じをこわさないように折山に斜めじつけをします。

・（10）図のように、肩線より三〜四センチ手前の衿ぐり線で、見返し布の縫代に切込みを入れ、見返しの衿附線をラペル外廻りと平らになるように折り曲げて、しつけで押えてから、表に針目を出さぬように折山の一〜二ミリ奥を丁寧に芯にまつりつけます。

・（10）図のように、裏を上にして、ラペルは表に返したままで平らに置き、見返しの接ぎのすぐきわに、表まで通してしつけをかけます。

・次は（11）図のように、裏布をそつと持ち上げ、見返しの縫代を動かぬように芯にとじつけます。

・後身頃は、表は背縫をぬつて縫代を割り、裏はダーツをぬつて脇寄りに倒し、表と同様に伸縮をします。

・裏身頃の背縫は、（12）図のように出来

ジャケットの身頃の縫方(三)

(12)
0.6〜0.7外を地縫(縫代右身頃に片返し)
しつけ
出来上りじるし
(後裏身頃)裏
縫代脇に倒す

(13)
(後身頃)
パッドの入る程度残して斜めじつけ
しるしの0.3外側を返し縫
しつけ
奥まつり
芯
斜めじつけ
(前裏身頃)表
6〜7残す
中とじをする
裏脇縫
(見返し)表
いせ込んで千鳥がけ
裁切りを千鳥がけ

(14)
(身頃裏布)
表
(見返し)表
しつけ
針目の間隔0.5〜0.6
かくしじつけ
2.5
1
2
0.6〜0.7中
奥まつり
千鳥がけ

(15)(かくしじつけの仕方)
(見返し)表
芯
(身頃)
見返しと縫代芯をすくう

上りじるし通りにしつけをかけ、それより六〜七ミリ外を地縫し、縫代はしるし通りに右身頃側に片返しにし、アイロンで押えると深いきせがかかることになります。このしつけは最後の仕上げのときにとります。

・裏身頃の肩、袖ぐり、脇線を、表身頃の出来上り線に合せてみて、裏のしるしの違っているところを訂正します。

・後身頃の肩の伸縮加減をもう一度見て、表裏ともそれぞれ肩をぬい合せますが、表の肩は、芯をよけて地縫し、縫代を割ってその上に芯を平らに伸し、割った後肩の縫代に、表がたるまぬように注意しながらとじつけます。裏の肩は縫代を後身頃の方に倒します。

・脇縫は、表はしるし通りにぬって縫代を割り、裏は出来上りじるし通りにしつけをしてからしつけより三ミリくらい外をぬい、しつけ通りに後へ倒します。

・(13)図のように、脇縫を上下とも六〜七センチ残して裏をゆるめ加減に合せ、中側からとじ合せます。

・表裾の縫代を裏側に折り、裁切りの先を細かくぬっていせ込み、(13)図のように表布に千鳥がけで止めつけますが、ポケットの袋にかかるところは、上側の袋布一枚だけに止めます。

・見返しの裾の裁切りの出ているところは、裁切りのまま千鳥がけで細かく止めつけます。

・ここで一度ジャケットをスタンドに着せて、肩の表裏のあいだにパッドを入れてピンで止めておき、袖ぐり、衿ぐりの裏の釣合を見ながら、斜めじつけで衿ぐりと袖ぐりの廻りをぐるつと押えます。

・裾の方も釣合をみて斜めじつけで止めておき、スタンドからはずして、(14)図のように、裏の裾を表より二センチ控えて折り、折山より一センチ五ミリくらい上をしつけで押え、折山を持ち上げるようにして一センチ奥を奥まつりします。

・表裾の端は(14)(15)図のように、二センチ五ミリくらいのあいだだけ千鳥がけで細かく止めます。

・衿附の準備として衿附の出来上りじるしより三ミリ外廻りを、しつけで返し縫で押え、形をくずさないようにアイロンを当て、縫代は一センチ二〜三ミリに裁ち揃えます。(13)図参照。

カラーの縫方

・『ジャケットのカラーの縫方』図(1)のようにカラーの芯布は、左右同じ形の正バイヤスに裁ち、後中央を重ね接ぎにすると、布目が山形に合います。

・裏カラーは後中央を割接ぎにし、(2)図のようにカラーの芯布を裏を上にして台の上に置き、その上に裏カラーを表を上にしてのせ、折山にしつけをかけて押えます。

・この芯と裏カラーの二枚を一緒に伸縮します。外廻り側は後中央から肩廻りの辺りまで伸し、(伸し分は仮縫のとき定める。)附側は後中央から左右に附寸法の不足分をぼかすように伸しますが、どちらも外側を充分に伸して、折山線はいせ加減にします。

・表カラーも裏カラーに合せて伸縮をします。

・(3)図のように裏カラーにハ刺しをしますから、折山を軽く折って附側を左手に持ち、衿腰の部分を、折山線に沿ったところから五ミリくらいの細かい針目で平らにハ刺しをし、附側は出来上りじるしより八ミリ手前までします。

・次に外廻り側を左手に持ち替えて、外側に折り返る部分を折山線に沿ったところからハ刺しを始めますが、折山より外側は左手で少しずつ芯をゆるめ加

ジャケットのカラーの縫方

(1)
0.5重ね接ぎ
(芯)
左右同形のバイヤス

(2)
伸す
伸す
(裏カラー)表
折山をしつけで押える
(芯)
伸す

(3)
出来上りじるしまで地縫
折山
芯の縫代を切り
針足0.5
表カラーを中表に合せる
0.8手前までハ刺し

減にしてカラーの返し工合をよくします。ハ刺しの間隔は衿腰の部分より少し粗くて結構です。

・ハ刺しが全部すんだら、もう一度アイロンをかけてカラーの伸縮をととのえ、カラーを折山から二つ折にして、出来上りの形に形づけて見ます。

・表カラーと裏カラーを中表に合せ、カラー外廻りを裏カラーは出来上りじるしより二ミリ中側を、表カラーはしるしより三ミリくらい外側を合せてしつけをかけておき、しつけより少し外側を、カラー附止りから附止りまでぐるつと地縫し、芯の縫代を縫目のきわから切りとります。

・カラー外廻りの表と裏の縫代分を差をつけて裁ち落し、衿先の丸みのところの縫代に切込みを入れてととのえ、縫代を縫目のきわまで芯の方に折り曲げて、縫代を芯にからげつけます。

・カラーを表に返し、外廻りをアイロンで押え、折山からカラーを二つ折にして出来上り通りに形づけ、カラー外廻りには七ミリくらい内側に斜めじつけをかけておきます。

カラーの附方

・『ジャケットのカラーの附方』(1)図のように身頃は衿附側を手前に置き、裏カラーの後中央を表身頃の背縫に合せてピンを打ち、次にカラー附止りを合せてピンを打ち、折山線を正確に合せると、後中央の辺りはカラーが引き加減になり、このあいだを更に細かくピンを打つて縦まつりにしますが、最初後中央から左へ向つてまつり始め、次は右の附止りから後中央へと、細かくまつりつけます。

・裏へ返して、いままつりつけた衿ぐりの縫代分を、差をつけて切り落し、(芯は八ミリ、身頃六ミリ、裏カラー四ミリくらい)縫代をカラーの芯にしつけ糸で千鳥がけにし、衿附の表側は湿布の上からアイロンで押え、裏側は直接水をつけてアイロンで押えます。

・カラーからラペルへとつづく折山を、ラペルの中間より上の方だけアイロンで押えてととのえ、下の方は折りをつけないで、やわらかく折り返つた感じをこわさないようにします。

・表カラーの伸縮は裏カラーと同様ですが、肩廻りの辺りは裏カラーより少し吊り気味にし、折山のところはラペルと同様にゆとりをもたせます。

・(2)図のように、表カラーの衿附の縫代を出来上り通りに折り曲げて、身頃附線に合せてしつけをかけますが、身頃の縫代が奥まつりをしてあるところはつき合せとなります。

・後中央から前附止りに向つて(2)図のように縦まつりでまつり始め、前寄りのつき合せの部分は(3)図の方法ではしごまつりにして、ミシンでぬい合せて縫代を割つたようにきれいに仕上げ、次に反対側の附止りから後中央までを同様にまつります。

ジャケットのカラーの附方

袖附とパッドの附方

・袖附の仮縫がすんだら、外袖の縫目の位置を左右間違えぬようにして、パッドの位置をしつけで表布にしるし、パッドをはずして、袖附線のしるしと合じるしを、袖と身頃にそれぞれつけます。

・表身頃(芯とも)と表袖を中表にし、合じるしを合せてしつけし、地縫します。

・袖附の縫目に、伸縮をした袖の形をこわさないようにアイロンをかけ、縫代を肩で一センチ五ミリ、袖下では一センチくらいに裁ち落し、袖下寄りの縫代に切込みを入れ、袖の方に倒します。

・パッドを肩で袖附のしるしより一センチ五ミリほど出してピンで止め、袖附の縫代、肩の縫代、前身頃の芯にパッドを止めつけます。(表に返したとき、パッドが落ち着くように注意する。)

・身頃の裏をパッドの下側にのせ、表がたるまないように注意しながら袖ぐりの出来上りじるしより三ミリ外側をしつけでぬい止め、パッドのつくところ

ジャケットの袖附とパッドの附方

はパッドの裏側にぬいつけます。

• この裏側の袖附線に、附側の縫代を折り曲げてある裏袖をのせ、身頃の出来上りじるしに合せて、いせ込みながら絹糸で纏まつりします。

仕上げ

• 前中央線の切りじつけだけを残して、その他のしつけを全部とります。

• 吊り紐は、裏布の残りで縦地を通して長さ六センチ、巾三センチに裁ち、巾四つ折にして、巾の両端に端ミシンをかけ、四センチの長さに両端を折つて表カラー後中央の衿附線のきわにのせ、両端とも裏カラーまで通す返し縫で止めつけます。

•『ジャケットの身頃の縫方』(14)(15)図を参照して、折先から裾の見返しの奥まで、表と共色の絹糸で見返し側からかくしじつけをします。

• 玉縁のボタンホールの始末は、表の位置に合せて見返し布に、表と同じ形に切込みをし、縫代を折り曲げて細かくまつりつけます。

• 孔かがりのボタンホールの場合は、仕上げのアイロンをかけた後、中央線より二〜三ミリ外から奥に向つて、鳩目のボタンホールをします。

• 下前にボタンをつけます。

子供服の標準寸法と原型

子供服の標準寸法

子供の寸法は、よほど慣れた方でないと計り方がむずかしいうえに、あまり身体に合せすぎると、かえつて可愛らしさがなくなりますから、婦人服のように各部を細かく計る必要はありません。

また子供の発育程度によつて、同じ年令でも寸法が大分違いますから、あまり年令にこだわらずに、子供の胸廻り寸法や着丈などをこの標準寸法に照し合せて、一番近い年令の標準寸法を用い、袖丈、肩巾、着丈などは着る子供に合せます。

ここに発表の胸廻りとヒップ廻りの寸法には、すでに十四センチのゆるみを加えてあり、巾にゆとりをもたせて着やすくしてあります。

身頃の原型

図の原型は、二才の標準寸法で割り出したものですから、これを参照しながら各年令に応じて、それぞれの標準寸法から割り出してください。

子供服の原型

×印の寸法は、どの年令にも共通する規定寸法です。

後身頃のウェスト線は、婦人のように脇側を下げないので、前身頃を製図してから、前後の脇線をつき合せにし、ウェストをつながりよく訂正します。

子供服をデザインする場合に、ウェスト線の位置を原型より上げますが、この寸法は子供の発育状態によつて一様ではなく、八才くらいまでは三〜四センチ上げ、十才で二〜三センチ、十二才で一〜二センチ上げます。

袖の元型

図の元型も二才の標準寸法から割り出してあります。年令に応じて袖山は二才毎に七ミリずつ増し、そのほかは各年令の寸法に合せます。

子供の袖は、婦人服に比較すると、袖山が少し低くなつていますが、年令の大きい子供の場合は、袖山を少し高くすることもあります。

名称	2才毎に増す寸法（センチが単位）	2才	4才	6才	8才	10才	12才	14才
頸廻り	1.3増	27	28.3	29.6	30.9	32.2	33.5	34.8
肩巾	0.7〃	7.5	8.2	8.9	9.6	10.3	11	11.7
背丈	2.5〃	20	22.5	25	27.5	30	32.5	35
胸廻り	4〃	63	67	71	75	79	83	87
ヒップ廻り	4〃	63	67	71	75	79	83	87
袖丈	8才以下4.5増 8才―14才4増	24	28.5	33	37.5	41.5	45.5	49.5
腕廻り	1.3〃	18.8	20.1	21.4	22.7	24	25.3	26.6
掌廻り	0.7〃	15.7	16.4	17.1	17.8	18.5	19.2	19.9
着丈	8〃	(76) 34	42	50	58	66	74	82

子供服のデザイン

6才～12・3才に向く 女児のガウン

（口絵　69）

用布　ダブル巾で一ヤール三分

10才の寸法で発表

デザイン

後身頃

- 後中央線を五ミリ平行に出して引き直し、これを下に延長して丈をウェスト線より二十六センチとし、直角に裾巾二十八センチを引きます。
- 脇線は、バスト線で二センチ五ミリ出して裾と直線で結びます。
- 図の細点線のように、原型肩巾の中央より裾までの寸法を同じ点から脇線上に計り、裾線を引きます。
- 肩先を一センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾にいせ込み分一センチを加えた寸法をネックポイントから計つてしるし、その先に袖丈三十九センチ（出来上り袖丈からカフス巾を差し引いた寸法）を延長します。
- 袖先で直角に三センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直し、ここで直角に袖口寸法十五センチ五ミリ（ギャザー分を含む。）を引きます。
- 袖下線は、脇でバスト線より五センチ下に結び、脇下は脇線とのつながりよくカーヴ線に直します。
- 袖口のだぶり分は袖山で一センチ、袖巾の中央辺りで二センチとし、袖口線を図のように描き直します。
- 袖山線はふくらみをつけて太線のように訂正します。

前身頃

- 前中央線を五ミリ平行に出し、この線をウェスト線より二十六センチ延長し、直角に裾巾三十センチを引きます。

口絵（69）
10才女児ガウン
のデザイン

4・5才〜11・2才に向く
通学向き男児服

（口絵 70）

6才の寸法で発表

脇線はバスト線で二センチ五ミリ出して裾と結び、後脇丈と同寸に計つて裾線を引きます。

• 肩先を五ミリ上げてネックポイントと結び、これを延長して袖丈三十九センチを計ります。

• 袖先で直角に三センチ下げ、後と同じ要領で袖口寸法十三センチ五ミリの袖を引きます。

• 衿ぐりをやや浅く訂正します。

• 打合を前中央線に平行に四センチ五ミリ出します。

• 切替え線を図のような形に描き、ボタンの位置を記入します。

• 見返し巾は打合先に平行に九センチとします。

カラー

• カラー巾を後九センチ、前八センチ五ミリとし、五センチ上りのショールカラーを引きます。

• カラー先は、角を落して図のような丸みにします。

• カラー外廻りのステッチは一センチ五ミリ巾にします。

カフス

• 二センチ五ミリ巾にして、出来上り袖口寸法の二分の一との長方形に引き、袖山、袖口をわに裁ちます。

用布

ジャンパー＝表はダブル巾で八分
裏は七十一センチ巾で一ヤール三分
パンツ＝ダブル巾で五分

ジャンパーのデザイン

後身頃

• 原型を写し、後中央で平行にゆとり分五ミリを出し、丈をウェスト線より十二センチ延長します。

• バスト線で二センチ出し、そのまま平行に引き下して脇線とし、直角に裾線を引きます。

• 肩先で一センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、その線を延長して、肩巾同寸にいせ込み分五ミリを加えてしるし、その先にカフス巾を引いた袖丈二十九センチ五ミリを計ります。

• 袖先で直角に三センチ下げて肩先と結び直し、袖丈同寸を計り直し、直角に十四センチ五ミリの袖口線を引き、※

※袖下の角で四センチ下げたところに袖下線を結びます。

• 袖山線にふくらみをつけてカーヴ線に訂正します。

• 袖口のだぶり分として袖山で一センチ、袖巾の中央で二センチ、袖口下で五ミリを出し、図のようなカーヴ線で袖口線を訂正します。

• 袖口下から四センチに明きのしるしをします。

• 衿ぐりは五ミリのハイネックにします。

• 脇線で、裾より四センチ五ミリ上に二センチ巾のバンドの附位置をしるし、中央寄りを切り込みます。

前身頃

• 原型を一センチ二ミリ倒して写します。

口絵（70）男児のジャンパーのデザイン

•バストで二センチのゆるみを出し、丈をウエスト線より十二センチに引き下し、裾線をカーヴ線で結びます。

•肩先で五ミリ上げてネックポイントと結び、肩線を延長してその先に袖丈二十九センチ五ミリを計ります。

•袖先で直角に三センチ下げて肩先と結び直し、後と同じ要領で記入寸法の袖を引きます。

•袖口は袖山で一センチ出し、袖口下で五ミリ出して図のようにくり、袖下線に四センチの明きをしるします。

•衿ぐりは、ネックポイントで五ミリハイネックして描き直します。

•打合は一センチ八ミリとし、倒さない中央線で衿ぐりの一センチ上まで平行に引き、ここから直角線を衿ぐり線まで引き、衿ぐりとつながりよく角を落し、衿附線とします。

•衿ぐりでネックポイントより二センチ五ミリ下つたA点から、直角に衿腰二センチ五ミリを出し、折先（バスト線上の打合先）と結び、この線を引き上げて仮りの折山線とします。

•A点から折山線に平行線を引き上げ、二センチ五ミリと後衿附寸法をしるし、直角に三センチ五ミリ倒してA点と結び直し、この線に衿附寸法を計り直し、直角に後カラー巾八センチを引きます。

•衿附線上の前中央線をカラー附止りとし、ラペルの先より一センチ三ミリ上を通る三センチのカラー巾を引き、カラーの後中央に外廻り線を結びます。

•切替え線は、ネックポイントから六センチ五ミリ下と肩先から七センチ下とを直線で結び、衿ぐりまで延長します。

•切替え線に、前中央から六センチ五ミリ入つて八センチ五ミリのポケット口をしるし、ここから袖下の角に向つて袖附線を描きます。

•袖附線の中央辺りで、図のように一センチくらいのダーツをとります。

•ポケットの蓋は、三センチ八ミリ巾に引きます。

•切開き線は、ポケットの中央から裾まで引き下し、ギャザー分を平行に四センチ切り開きます。

•裾から四センチ五ミリ上で、脇から十センチ五ミリ入りに、バンドを止める位置をしるし、前中央にボタンの位置を描き入れます。

•見返し線を図のように記入します。

カフス

•カフスは袖口寸法を十八センチとし、その二分の一と巾三センチ五ミリの長方形に引きます。

バンド

•前身頃につくバンドは十二センチの長さに、後バンドは十センチにし、どちらも二センチ巾に図のようにとります。

パンツのデザイン

前パンツ

•直角線を引き、横線上にヒップサイズの四分の一の十七センチ八ミリをしるし、縦線に脇丈三十三センチ五ミリを計つて長方形を引きます。

•中央側の縦線に、上から股上寸法二十三センチ（ウエストにゴムテープを通すため、標準より一センチ長く）を計り、ここで中央線に直角線を引き、中央側へ股下持出しを四センチ五ミリ延長し、この直角の二等分線を引いて、角から二センチ七ミリをしるします。

•股上線は、股上寸法を三等分して、下から三分の一の点から二等分線上の二センチ七ミリのところを通り、股下持出しの先にカーヴで結びます。

•股下線は、持出しの先から裾線に図のようなカーヴで結びます。

•基準では脇線のウエスト寄りで二センチ入れてカーヴ線で描きますが、ここではあとでウエストにゴムを通すため脇線をくらずに真直にします。

•裾線は、脇で一センチ五ミリ上げて股下とカーヴで結び直します。

•股下の丈を並行に三センチ詰めて、裾口の線を引きます。

後パンツ

•前パンツの持出しの先から脇線までを二等分して直角線を引き上げ、ウエスト線から上に五センチ延長します。

•股上線は、前持出し線の先に二センチ五ミリ出し、ここで直角に七ミリ下げて、ウエスト線から五センチ上と結びますが、股下の角の二等分線の位置で、前股上線より一センチ二ミリ外側を通るようにします。

•股下線は、前裾線より二センチ五ミリ出して股上線にカーヴで結び、前裾線に沿つて、後裾線を描きます。

•ウエスト線は前ウエスト線の延長上に、後股上線の上端から前ウエスト寸法と同寸を計つて結びます。

股明当布

•当布は記入寸法の半月形に描きます。

縫方の要点

•パンツのウエストは、二センチ巾の三つ折にして端ミシンで押え、折山より四〜五ミリ入つたところにステッチをかけます。

•ゴム通しの孔をボタンホールステッチでかがり、細めのゴムテープを二段に入れて重ね接ぎにします。

口絵（70）　六才男児用パンツのデザイン

4・5才～5・6才に向く 女児のワンピース

（口絵 71）

6才の寸法で発表

用布 ダブル巾で一ヤール

デザイン

後身頃

・後中央線をウェスト線より下に二十五センチ延長し、直角に裾巾二十七センチを引き、バスト脇と結んで脇線とします。

・肩巾の中央をコンパスの中心とし、裾まで引き下した線を半径として脇線に向つて弧を描き、これを裾線とします。

・肩先で一センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾同寸にいせ込み分三ミリを加えて肩先とし、その先に袖丈三十一センチを延長します。

・袖先で直角に三センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直し、直角に袖口寸法十三センチを引きます。

・衿ぐりを五ミリハイネックにして描き直します。

・袖附線は、訂正したネックポイントより肩線上に十センチのところから、背巾線で中央から十一センチの点を通り、バスト線から二センチ下つた脇線上に図のように結び、肩先で五ミリかきとつて肩線をカーヴに描き直します。

・袖側の附線は、肩先で五ミリ、袖下では四センチ五ミリ交叉させて図のように描き、身頃側の附線と同寸に計り、袖下線を袖口下と結びます。

・身頃袖ぐり線の背巾線の位置と、裾で中央線から十二センチ入りを結んだ点線は、箱襞を入れる位置を示し、襞分を出す切開き線とします。

・袖口のだぶり分として袖山で一センチ、中央で二センチ、袖下で五ミリ出して描き直し、袖下線に明き分五センチをしるします。

前身頃

・前中央線をウェスト線より下に二十五センチ延長して、直角に裾巾二十九センチを引き、脇線をバスト脇と結び、後脇丈同寸に計つて裾線を訂正します。

・肩先で六ミリ上げてネックポイントと結び、その線を延長して袖丈三十一センチをしるし、後と同様に袖山、袖口線を引きます。

・ネックポイントで五ミリ出して衿ぐりを描き直します。

・後と同じ要領で袖附、袖下線を描き、肩線を訂正して箱襞の入る位置を(切開き線)を入れます。

・前中央に打合分二センチを平行に出し、衿先から二十七センチを明止りとし、これより下は三センチの片襞となります。

カフス

・カフスは巾二センチ、

口絵(71)六才女児ワンピースのデザイン

口絵（72）十四才女児ジャケットのデザイン

で引き、上身頃側は袖ぐり側で五ミリ上げて引き直します。

●腰の切替え線は、裾より十五センチ上に裾線に並行に引き、脇側にポケットの浮き分六ミリを出して、脇線を訂正します。

●切替え線は上下とも一センチ四ミリ巾のステッチをかけて折山を浮かせます。

●ポケットは、下の切替え線上に脇より六センチ五ミリ入つて十二センチ五ミリの口巾をしるし、十二センチの深さにして、底の両角を一センチ五ミリずつの丸みにして外廻り線を描き、一センチ五ミリ間隔のステッチ二本で形どります。

●見返しは打合先に平行に五センチ五ミリ巾に引き、前中央にボタン五箇の位置をしるします。

カラー

●後カラー巾を十センチ五ミリ、前カラー巾を八センチにし、一センチ五ミリ上りのショールカラーを引き、衿先は図のように丸みにします。

●前中央で衿附線を一センチ下げて引き直し、衿附寸法を前側から計り直して、余つた分は後中央でかきとります。

●折山線を図に記入の点線の位置に描き入れます。

●カラー外廻りに一センチ四ミリ巾のステッチをします。

袖

●記入の寸法でワンピーススリーヴを製図します。

●袖巾線で一センチ五ミリ出して袖下線を描き直します。

スカート

●出来上りのウェストサイズを六十七センチとして、その四分の一の十六センチ七ミリと、スカート丈四十五センチ五ミリの直角線を引き、裾巾二十五センチも直角に引き、脇線を結びます。

●ウェスト線と裾線をそれぞれ六等分して、図のように襞山の線を入れ、襞の深さは裾で三センチとして、追かけの片襞にします。

●バンドは三センチ巾として、ウェストサイズと同寸に引き、脇に後持出し分二センチをつけます。

縫方の要点

●スカートは、長方形の布を型紙通りにたたみますから、『プリーツのしるしの附方』図のように、襞奥が縦地になるようにして、襞山と襞奥のしるしをつけます。

●ウェストサイズは着る子供のサイズに合せて襞分を割り出しますが、とくにタイトにする場合、またはとくにウェストの細い場合には、バンドにぬいつけるときに全体をいせ込んでつける方法と、ウエスト線の近くで襞奥を多くしてダーツする方法があります。ダーツする場合は、ウェスト寄りの襞山を少しのあいだぬい止めておきます。

口絵（72）十四才女児スカートのデザイン

口絵(72)十四才女児ジャケットのデザイン

で引き、上身頃側は袖ぐり側で五ミリ上げて引き直します。

•腰の切替え線は、裾より十五センチ上に裾線に並行に引き、脇側にポケットの浮き分六ミリを出して、脇線を訂正します。

•切替え線は上下とも一センチ四ミリ巾のステッチをかけて折山を浮かせます。

•ポケットは、下の切替え線上に脇より六センチ五ミリ入つて十二センチ五ミリの口巾をしるし、十二センチの深さにして、底の両角を一センチ五ミリずつの丸みにして外廻り線を描き、一センチ五ミリ間隔のステッチ二本で形どります。

•見返しは打合先に平行に五センチ五ミリ巾に引き、前中央にボタン五箇の位置をしるします。

カラー

•後カラー巾を十センチ五ミリ、前カラー巾を八センチにし、一センチ五ミリ上りのショールカラーを引き、衿先は図のように丸みにします。

•前中央で衿附線を一センチ下げて引き直し、衿附寸法を前側から計り直して、余つた分は後中央でかきとります。

•折山線を図に記入の点線の位置に描き入れます。

•カラー外廻りに一センチ四ミリ巾のステッチをします。

袖

•記入の寸法でワンピーススリーヴを製図します。

•袖巾線で一センチ五ミリ出して袖下線を描き直します。

スカート

•出来上りのウェストサイズを六十七センチとして、その四分の一の十六センチ七ミリと、スカート丈四十五センチ五ミリの直角線を引き、裾巾二十五センチも直角に引き、脇線を結びます。

•ウェスト線と裾線をそれぞれ六等分して、図のように襞山の線を入れ、襞の深さは裾で三センチとして、追かけの片襞にします。

•バンドは三センチ巾として、ウェストサイズと同寸に引き、脇に後持出し分二センチをつけます。

縫方の要点

•スカートは、長方形の布を型紙通りにたたみますから、『プリーツのしるしの附方』図のように、襞奥が縦地になるようにして、襞山と襞奥のしるしをつけます。

•ウェストサイズは着る子供のサイズに合せて襞分を割り出しますが、とくにタイトにする場合、またはとくにウェストの細い場合には、バンドにぬいつけるときに全体をいせ込んでつける方法と、ウェスト線の近くで襞奥を多くしてダーツする方法があります。ダーツする場合は、ウェスト寄りの襞山を少しのあいだぬい止めておきます。

口絵(72)十四才女児スカートのデザイン

7・8才～13・4才に向く 女児のワンピース

（口絵　73）

8才の寸法で発表

用布

ダブル巾で一ヤール五分
別布＝七十一センチ巾で五分

デザイン

後身頃

・ウェスト線を三センチ平行に上げて引き直し、脇で一センチ五ミリ入れて脇線を引きます。

・肩巾を五ミリ狭くして袖ぐり線を引き直し、衿ぐりを五ミリハイネックにします。

・ウェスト線のダーツは、二センチの分量で図のように描きます。

前身頃

・ウェスト線を全体に三センチ上げて訂正し、脇で一センチ五ミリ入れて脇線を引きます。

・肩巾を五ミリ狭くして袖ぐり線を引き直し、衿ぐりはネックポイントで五ミリハイネックにします。

・ウェスト線に二センチのダーツを描き、打合を一センチ五ミリ出して、見返しは四センチ巾にします。

カラー

・前身頃の衿附寸法を計り、三センチ上りのショールカラーを六センチ巾に引いて、衿先を図のような丸みにして描きます。

袖

・記入の寸法でワンピーススリーヴを製図します。

・山を二センチ高くし、袖山線平行にギャザー分を二センチ出し、袖口にだぶり分を出して袖口線を図のように描き直します。

・カフスは二センチ五ミリ巾とし、下前持出しを一センチつけます。

（前後スカートの切開き方）

口　絵（73）
8才女児ワンピースのデザイン

スカート

・スカート丈三十三センチ五ミリ、出来上り裾巾を一メートル八十センチとして、記入の寸法のサーキュラースカートを引きます。

・前後スカートともウェストサイズを三等分して切開き線を二本入れ、ウェスト線でギャザー分を五センチずつ切り開きます。

・前スカートの切替え線は『スカートの切開き方』図を参照し、ウェスト線より前中央で十七センチ、脇で七センチ五ミリ下つたところを図のようなカーヴ線で結び、一センチ八ミリ巾のバイヤス布を挾みます。

・後スカートの切替え線は、図の点線のようにウェスト線より脇で七センチ五ミリ、後中央では八センチ五ミリ下げてカーヴ線で結び、前と同様バイヤス布を挾みます。

ベルト

・巾は脇で五センチ、先で七センチとし、六十五センチの長さに引き、先を四センチ傾斜させせます。

縫方の要点

・前スカートの切替えに挾む別布のバイヤス布は、左右つづけて山形の傾斜通りに裁ちますが、巾を二つ折にして外廻りをわにし、二つ折にしたためにポイントの裏でたるむ分は、額縁にぬつて縫代を割ります。

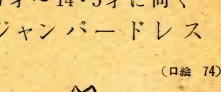
6・7才〜14・5才に向く ジャンパードレス

（口絵　74）

用布

ブラウス＝七十一センチ巾で一ヤール七分

ジャンパースカート＝ダブル巾で一ヤール二分、裏布七十一センチ巾で八分

10才の寸法で発表

ブラウスのデザイン

後身頃

・後中央線を下に十センチ延長し、裾線を直角に引き、脇線をウェスト脇で一センチ出して結び直し、裾線まで引き下します。

・衿ぐりを五ミリ上げて描き直します。

・肩巾をいせ込み分の五ミリだけ広くし、袖ぐりを一センチくり下げます。

前身頃

・前中央線を下に十センチ延長し、脇線をウェスト脇で二センチ出して後脇丈と同寸に計り、裾線を描きます。

・衿ぐりをネックポイントで五ミリ上げ、袖ぐり線を一センチくり下げます。

カラー

・記入寸法のショールカラーを描きます。

袖

・記入の寸法でワンピーススリーヴを引き、袖口のだぶり分を、袖山で一センチ、外袖の中央で一センチ五ミリ出して、図のように袖口線を描きます。

・袖山を一センチ高く描き直します。

・カフスは三センチ五ミリ巾に引きます。

ジャンパースカートのデザイン

後身頃

・脇線を原型より平行に五ミリ入れ、ウェスト線を三センチ上げて引きます。

・脇線をウェスト線で一センチ五ミリ入

口絵（74）十才の女児ブラウスのデザイン

後明ファスナー

（後身頃）　いせ込み

（前身頃）

原型線　縦の布目

（カラー）　衿附寸法/2

袖丈　カフフ巾　41.5－3.5＝38

15.5（袖）

（カフス）　掌廻り＋1/2

れて結びます。

•衿ぐりは、後中央でバスト線より一センチ五ミリ上げて、真横に六センチ五ミリ引き、肩線でネックポイントより三センチ五ミリのところと結び、少しカーヴをつけます。

•袖ぐりは脇で三センチくり下げます。

•ウェスト線のダーツを描きます。

前身頃

•脇線を五ミリ入れます。

•ウェスト線を三センチ上げ、ここで脇線を一センチ五ミリ入れて結びます。

•袖ぐりを脇で三センチくり下げます。

•ウェスト線のダーツをしるします。

•衿ぐりは、前中央でバスト線より二センチ五ミリ下げて、横に六センチ引き、肩で三センチ五ミリ入りに結びます。

•ポケットは、口側を衿ぐり線より平行に一センチ上にして一センチ三ミリ広くし、丈はウェスト線より一センチ下で八センチの巾に描きますが、口の線から五センチ五ミリの蓋を折り返すようにし、切開き線を入れ、ポケットロで六ミリ開きます。

スカート

•丈三十九センチ、ウェストサイズは出来上りの四分の一、裾巾五十センチのサーキュラースカートを引きます。

•図の位置に二本の切開き線を入れて、後スカートは中央側を四センチ、脇側を三センチ開き、前スカートは中央側で四センチ開いてギャザー分にします。

ベルト

•巾を一センチ八ミリにし、長さは後中央をわにして二十センチにします。

•ポケットの脇から出ているベルトは、六センチ五ミリの長さにします。

縫方の要点

•ブラウスの後明は、ファスナーをカラーまでつづけてつけます。

•ジャンパースカートのポケットは、表蓋布に折山より三センチ奥までの見返し布をつづけて裁ち、ポケットと中表に合せて蓋の外廻りを折山までぬい合せ、ぬい止りの縫代に切込みを入れて表に返します。

•身頃には裏をつけ、スカートとウェストをぬい合せてから、ポケットを附位置にのせ、ベルトを挾んでポケットの外廻りを奥まつりします。

口絵（74） 10才の女児ジャンパースカートのデザイン

2・3才〜5・6才に向く 男女児兼用のガウン

（口絵 75）

4才の寸法で発表

用布

表＝七十一センチ巾で一ヤール五分

裏＝七十一センチ巾で一ヤール七分

デザイン

後身頃

•後中央線を下に延長し、丈をウェスト線より十六センチ五ミリとして、直角

に裾巾二十五センチを引きます。

・脇を、バスト線で二センチ五ミリ出して裾と結びます。

・肩先を一センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、これを延長して肩巾にいせ込み分七ミリを加えてしるし、その先に袖丈二十六センチを計ります。

・袖先で直角に三センチ下げて肩先と結び、これに袖丈を計り直して、直角に袖口寸法十一センチを引きます。

・袖下線は、脇で袖下を四センチ下げて袖口下と結びます。

・身頃の袖附線は、肩先を三センチ五ミリドロップして袖下にカーヴ線で結び、袖側は、袖山で一センチ、袖下で三センチ五ミリ交叉させて、身頃袖附線と同寸に描き、袖下線と結び直します。

・袖口のだぶり分を、袖口中央辺りで二センチくらい、袖山で一センチ、袖下で五ミリ出して描き、袖口下に三センチの明きをしるします。

・衿ぐりは五ミリのハイネックにします。

・身頃に二本の切開き線を入れ、図に記入の寸法を裾で開きます。

・袖に図のような切開き線を引き、袖附のタック分を二センチ開きます。

前身頃

・前中央線を下に延長し、丈をウェスト線より十六センチとして、裾巾二十七センチを直角に計ります。

・脇線は、バスト線で二センチ五ミリ出して裾と結び、後脇丈と同寸に計り合せて裾線を引きます。

・肩先を五ミリ上げてネックポイントと結び、肩線上に袖丈を計り、袖先を二センチ下げて後同様に袖を引きます。

・衿ぐりは、ネックポイントで五ミリ、前中央で三ミリのハイネックにします。

・打合は、衿ぐりで四センチ、裾では六センチ五ミリ出して打合先を結びます。

・前立は、バスト線より五ミリ下までとし、打合と同寸法を中央線より内側に計り、角を図のような丸みに描きます。

・図の位置に貼附ポケットを描きます。

・前立より裾に向って二本の切開き線を引き、ギャザー分（上前だけ）として前立側で二センチ五ミリずつ開きます。

・見返し線を図のように入れます。

・記入の寸法でカフスを引きます。

裁方と縫方の要点

・身頃は上前だけ切り開きます。

・前立は、上前の表裏の分を二枚裁ちますが、下前は前立なしにしますから切開きをしないで裁ちます。

・袖は、『袖の切開き方』図を参照し、前後の袖山をつき合せにつづけて裁ち、図の位置にタックをとります。

・『前立と袖附の縫方』図を参照して、打合は、見返し奥と裾をそれぞれ二つ折にして端ミシンをかけ、裾の角は額縁に始末し、裾をまつります。

・表前立布を出来上り通りに折って、上前身頃の前立附位置にのせ、一センチ一ミリ巾のステッチをかけます。

・裏前立布を身頃衿ぐりの表に中表に重ね、この上に衿ぐり見返し布を重ねて三枚一緒にぬい、縫代を細く切つてところどころに切込みを入れて表に返し、裏前立布の外廻りをまつります。

・衿ぐり見返しは、肩の縫代に千鳥がけで止めます。

・袖口の明きはスナップ止めにします。

口絵（75）前立と袖附の縫方

肩
千鳥がけ
袖附の縫目
1.1巾のステッチで表から押える
身頃袖山縫代
表前立をつけたミシン
（上前身頃）裏
スナップ
（前立裏布）表
前中央
（見返し）
カ布（下前身頃）
裏
裾をまつる

7・8才〜11・2才に向く 女児のジャンパードレス

（口絵 76）

10才の寸法で発表

用布 ダブル巾で一ヤール

口絵（76）十才女児のジャンパードレスのデザイン

デザイン

後身頃

・ウェスト線を原型より平行に三センチ上げて引き直し、脇裾で二センチ入れて袖下と結び、脇線とします。

・いせ込み分として肩線を五ミリ広くし、袖ぐりは脇で三センチくり下げます。

・ウェスト線に二センチのダーツを図のようにとります。

前身頃

・ウェスト線を原型より三センチ上げて引き直し、脇で二センチ入れて袖下と結び、脇線とします。

・袖ぐり線を脇で三センチくり下げて描きます。

・ウェスト線に二センチのダーツをとります。

・打合は、ウェスト線の前中央で六センチ五ミリ、バスト線の位置では二センチ五ミリを出して結び、バスト線の位置を折先とします。

・衿ぐりと折先を直線で結んで折山線とします。

カラー

・前後身頃のネックポイントをつき合せにし、原型の肩先を一センチ五ミリ重ねて写します。

・衿ぐりの後中央から図の方向に矢の線を引き、その線に直角になるように後衿ぐり線を訂正します。

・前身頃に身頃と同様に折山線を引き、後カラー丈を十四センチにして、図のようなセイラーカラーの外廻り線を描きます。

・図の位置に二センチ五ミリ巾の箱ポケットを描きます。

・表カラーは見返しつづきにするため、いま製図したカラーの型紙を切りとり、前身頃の折山にカラーの折山をつき合せに置いて外廻りを写し、見返しをウエスト線で十センチ巾とし、カラー附線につながりよく結びます。

・裏カラーの附線は折先から八センチ上に移動しますから、この分をカラーの製図の方でもかきとつて、これを裏カラーとします。

スカート

・スカート丈三十九センチ、ウエストサイズ十五センチ八ミリ、裾巾五十センチのサーキュラースカートを引きます。

・ウエスト線を三等分して二本の切開き線を入れ、前後ともウエスト側でギャザー分を六センチずつ切り開きます。

7・8才～14・5才に向く 女児のツーピース

（口絵 77）

用布

ジャケット＝表はダブル巾で九分、裏は七十一センチ巾で一ヤール二分、スカート＝ダブル巾で一ヤール弱

8才の寸法で発表

ジャケットのデザイン

後身頃

・後中央線を下に十一センチ延長し、直角に裾線を引きます。

・脇線はバスト脇で二センチ、ウエスト脇で二センチ五ミリ出して結び、裾まで延長します。

・肩先で一センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾にいせ込み分七ミリを加えて肩先をしるし、その先に袖丈を延長します。

・袖先で直角に三センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直し、ここで直角に袖口巾十二センチを引きます。

・袖下線は脇線でバストより四センチ下に結び、脇線にカーヴで結び直します。

・袖山線にふくらみをつけます。

・衿ぐりを五ミリハイネックし、三センチ巾の見返しを記入します。

・裾線に一センチのダーツを描きます。

前身頃

・前中央線を下に十一センチ延長し、脇線をバスト脇で二センチ、ウエスト脇で三センチ出して結び、後脇丈同寸に引き下し、裾線を描きます。

・肩先で五ミリ上げてネックポイントと結び、袖丈を延して袖を引きます。

・打合は中央線に平行に二センチ五ミリ出し、衿ぐりはネックポイントで五ミリハイネックし、打合先で三ミリ下げて描き直します。

・ポケットは、ポケット口を十センチとして、ポケットの深さと形は図の点線（ステッチの位置）通り。

・ポケット口の脇寄りの角から切替え線を裾まで引き下げます。

・ポケットの蓋も底に合せて丸形に描き、この型紙は前脇布につづけて裁ちます。

・裾のダーツは、切替え線から一センチ五ミリの分量をとります。

・見返し線と芯取り線を記入します。

口絵（77）八才女児ジャケットのデザイン

（プリーツのしるしの附方）

（スカート丈）（丈）（Wの上げ分）（ベント巾/2）
32＝30.5＋3－1.5

口絵（77）女児スカートのデザイン

スカートのデザイン

・直角線を引き、縦線上にウエストのく

り分一センチとスカート丈三十二センチを計り、直角に裾巾二十一センチを引きます。

・ウエストのくりを一センチにしてウエストサイズ十六センチを計り、裾と結んで脇線とします。

・ウエスト線と裾線を四等分して図のように襞山の線を入れ、襞の深さは三センチとして追かけの片襞にたたみます。

・バンドと吊り紐は記入寸法で引き、後バンドには左脇に二センチの持出し分をつけます。

裁方と縫方の要点

・スカートは図のように襞山と襞奥のしるしをつけ、襞奥を縦地に裁ちます。

ポケットの縫方

・中央布のポケットの角にほつれ止めをし、玉縁のボタンホールを作ります。

・中央布のポケットの蓋布に、裏を控え気味につけます。

・脇布のポケットの角にほつれ止めをし、ポケット口を五ミリくり入れて袋布を中表につけ、袋布を二ミリくらい控えておきます。

・上下の切替え線を中表にぬい、縫代は割ります。

・もう一枚の袋布を重ねてしつけで止め、表からステッチをかけ、上部は蓋の裏布とぬい止めます。

・**芯を据えてからポケット上部の縫代を芯に千鳥がけで止めつけます。**

2・3才～5・6才に向く 通園向き女児ガウン

（口絵 78）

6才の寸法で発表

用布 ダブル巾で一ヤール

デザイン

後身頃

・後中央線を下に二十二センチ延長し、直角に裾巾二十六センチを引き、バスト脇で二センチ出して脇線を結びます。

・肩巾の中央をコンパスの中心とし、裾まで引き下した線を半径として脇に向つて弧線を描き、これを裾線とします。

・肩先を一センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾にいせ込み分五ミリを加えてしるし、その先に袖丈三十三センチを延長します。

・袖先の下りを三センチとし、袖口寸法十三センチの袖を図のように引きます。

・衿ぐりを五ミリハイネックにして描き直し、後中央線に平行に打合一センチ八ミリを出します。

・ヨークの切替え線を図の点線のように描き、外廻りに二センチ巾のステッチ線を記入します。

・身頃側のヨーク附線は、ヨークの脇寄りの角で五ミリダーツし、袖山は八ミリ交叉させて図の太線のように描き、附寸法をヨーク側と同寸に計り、袖山線を五ミリのふくらみをつけて図のように描き直します。

・見返し線は、衿ぐりでは二センチ五ミリ巾、打合先では四センチ巾とし、ボタンの位置をしるします。

・身頃ヨーク附のギャザー分は、図の切

（ポケットのバンド）

8.5 バックルの止る位置

--- 原型線

↔ 縦の布目

口絵（78）六才女児ガウンのデザイン

開き線で平行に三センチ五ミリ切り開きます。

前身頃

•前中央線を下に二十二センチ延長し、直角に裾巾二十八センチを引き、バスト脇で二センチ出して脇線を結び、後脇丈と同寸に計つて裾線を訂正します。

•肩先で五ミリ上げて肩線を引き直し、後と同じ要領で図に記入の寸法で袖を引きます。

•衿ぐりを五ミリハイネックします。

•ヨークの切替え線は後と同じ要領でバスト線の一センチ上に引き、袖山線を訂正します。

•衿ぐりの見返し線を入れます。

•ポケットは、三センチのバンドを図の位置に描き、この下側に九センチくらいのスラッシュポケットを作ります。

7・8才〜14・5才に向く 女児ワンピース

（口絵　79）

用布

ダブル巾で一ヤール五分

8才の寸法で発表

デザイン

後身頃

•ウェスト線を三センチ上げて引きます。

•脇線は、ウェストで一センチ五ミリ入れて結びます。

•肩先で五ミリ入れて袖ぐり線を描き直します。

•ウェストダーツを図の位置に描きます。

前身頃

•原型を開いて写し、後同様にウェスト線を三センチ上げ、脇線、袖ぐり線を描き直します。

•衿ぐりを図のように浅くくり直します。

•ウェストダーツを図のように二本描きます。

•上前打合は、下前の肩線で三センチ重なるようにし、ダーツの線を通つて、ウェストで前中央より二センチのところに結び、これをウェスト線より五センチ引き下して四センチ巾の前立を引き、先を中央で一センチ五ミリのポイントにします。

•下前の打合は、中央線に平行に二センチ出します。

•ポケットを図のように描き、中央に切開き線を入れて、ポケット口で一センチ五ミリ開いて浮かせます。

•上前と下前の見返し線を図のように描き入れ、ボタンの位置をしるします。

カラー

•三センチ上りのショールカラーを記入の寸法で描きます。

袖

•ワンピーススリーヴを記入の寸法で製図します。

•袖山を二センチ高くして附線を描き直し、袖山線に平行に二センチ出します。

•袖口線はだぶり分を袖山で一センチ、外袖の中央で二センチ出して、図のように描き直します。

•カフスは三センチ巾にして記入の寸法で製図します。

口絵(79)八才女児ワンピースのデザイン

スカート

・スカート丈三十三センチ五ミリ、裾巾四十五センチ、ウェストサイズ十五センチ三ミリのサーキュラースカートを引きます。

・ウェスト線を三等分して切開き線を二本入れ、ウェストでギャザー分六センチずつを開きます。

7・8才～14・5才に向く
女児の ジャンパースカート

（口絵 80）

12才の寸法で発表

用布
ダブル巾で一ヤール六分

デザイン

後身頃

・後中央線を四十一センチ五ミリ延長し、裾巾三十センチを直角に引きます。

・ウェスト線を、平行に二センチ五ミリ上げ、脇線を二センチ入れて結びます。

・脇でバスト線を二センチ五ミリ下げて、袖ぐりを描き直します。

・衿ぐり、袖ぐりを図のようにくり直し、ウェスト線にダーツを描きます。

・ウェスト線の接ぎは、ウェスト線より二センチ五ミリ下とし、スカート側は、後中央で一センチのくりをつけて描き直し、この一センチを裾で出します。

・スカートに切開き線を二本入れ、記入寸法ずつ開き、更に脇裾で二センチ出して脇線を引き直します。

前身頃

・前中央線を四十一センチ五ミリ延長し、直角に裾巾三十二センチを引きます。

・後と同様にウェスト線、脇線、袖ぐり線を描きます。

・衿ぐりは、肩から五～六センチ下（B点）までは図のようにカーヴで描き、これより下は前中央に直線で結びます。

・打合一センチ八ミリを中央線平行に出し、衿ぐり線を打合先まで延長します。

・切替え線につづけてカラーを裁ち出すため、前後の肩をつき合せに置き、カラー後中央に矢の線を引き、カラーの外廻り線を図のように描き、ウェスト線で前中央から八センチ入りにカーヴで結び、この線上A点から下を身頃の切替え線とします。

・この切替え線を利用して、ウェスト線で二センチのダーツをとり、スカートは裾でフレヤー分を交叉させます。

・スカート中央布は、ギャザー分五センチを前中央に平行に出し、脇布は脇裾で二センチ出して脇線を引き直します。

・脇布は身頃とスカートをつづけて裁ち、中央布は身頃の裾をウェスト線より二センチ五ミリ下げて引き、ツーピース

口絵（80）十二才ジャンパースカートのデザイン

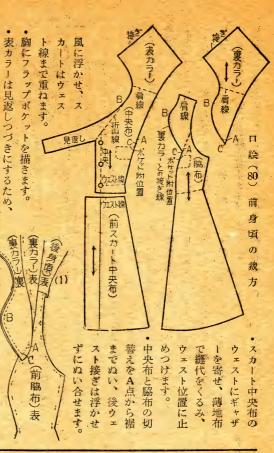
口絵（80）前身頃の裁方

•スカート中央布のウェストにギャザーを寄せ、薄地布で縫代をくるみ、ウェスト位置に止めつけます。

•中央布と脇布の切替えをA点から裾までぬい、後ウェスト接ぎは浮かせずにぬい合せます。

風に浮かせ、スカートはウェスト線まで重ねます。

•胸にフラップポケットを描きます。

•表カラーは見返しつづきにするため、見返し線を衿ぐりのB点から、身頃の裾まで描き入れます。

•裏カラーとの接ぎ線は、衿ぐりのB点から切替え線上のC点にカーヴ線で結びます。裏カラー接ぎ線より上は表カラーに裏がついて浮くことになります。

縫方の要点

•『前身頃の縫方』(1)図を参照し、前脇布の肩と後肩をぬい合せ、(2)図のように脇布に裏カラーをぬい合せます。

•(3)図のように表カラーと、裏カラーを中表に合せ、カラー外廻りをA点から反対側A点までぐるつとぬいます。

•(4)図のように見返しを折山線から折り返し、打合を見返し奥までぬつて、身頃の裾を三つ折にしてまつります。

口絵（80）前身頃の縫方

4・5才〜7・8才に向く 女児オーバーコート

（口絵 81）

6才の寸法で発表

用布

表＝ダブル巾で一ヤール四分

裏＝七十一センチ巾で二ヤール三分

デザイン

後身頃

•後中央線を原型より五ミリ出して引き下し、丈をウェスト線より二十六センチ（ドレス丈より一センチ長く）とし、裾巾二十六センチを直角に引きます。

•脇線は、バスト線で三センチ出して裾と結び、原型肩線の中央から裾までの寸法を、同じ肩線中央から脇裾に向つて計り、裾線を描き直します。

•肩先を一センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾といせ込み分一センチをしるし、その先に袖丈三十四センチを延長します。

•袖先で直角に三センチ下げて肩先と結び、袖丈を計り直し、袖口寸法十三センチ五ミリを直角にとり、袖下線を脇でバスト線より六センチ下と結びます。

•肩線をネックポイントで一センチ上げ、肩先と結び直します。

•衿ぐりは後中央で七ミリ、ネックポイントで五ミリ上げて描き、肩線へつながりよく結び入れます。

•袖山線にふくらみをつけ、袖口線は袖下で五ミリ出してカーヴに描き直し、袖下の角を丸みにします。

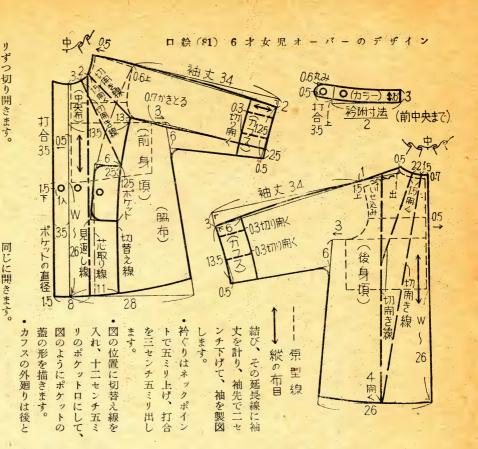
•カフスは六センチ巾に描き、二本の切開き線で外廻りを三ミリずつ開きます。

•身頃の切開き線は、図の太点線のように三本引き入れます。

•『後身頃の切開き方』図を参照し、裾線で四センチ、衿ぐりでは一センチ五ミ

口絵（81）６才女児オーバーのデザイン

りずつ切り開きます。

前身頃

・前中央線を五ミリ出して下に二十六センチ延長し、裾巾を直角に引きます。

・脇線をバストで三センチ出して裾と結び、後脇丈同寸にして裾線を描きます。

・肩先を六ミリ上げてネックポイントと結び、その延長線に袖丈を計り、袖先で二センチ下げて、袖を製図します。

---- 原型線
↕ 縦の布目

・衿ぐりはネックポイントで五ミリ上げ、打合を三センチ五ミリ出します。

・図の位置に切替え線を入れ、十二センチ五ミリのポケット口にして、図のようにポケットの蓋の形を描きます。

・カフスの外廻りは後と同じに開きます。

・ボタンの位置をしるし、見返し線と芯取り線を描きます。

・衿ぐりから二本の切開き線を出し、衿ぐりで一センチ五ミリずつ開きます。

カラー

・前中央で一センチ上りにして、三センチ巾のバンドカラーを引きます。

・前中央より打合分三センチ五ミリを出し、図のように丸みをつけ、ボタンの位置をしるします。

口絵（81）後身頃の切開き方

縫方の要点

・前身頃の切替え線は、中央布の方へ縫代を倒すので、中央布の角に当布を当ててほつれ止めをします。

・衿ぐりのタックは、流れる方向に注意してたたみます。

・『ポケットの作り方』は一七二頁参照。

用布

表＝ダブル巾で一ヤール七分

裏＝七十一センチ巾で二ヤール六分

7・8才〜11・12才に向く 女児のオーバーコート

（口絵　82）

10才の寸法で発表

デザイン

後身頃

・後中央線を五ミリ出し、ウエスト線より下に三十七センチ延長し、直角に裾巾二十八センチを引きます。

・脇線はバスト脇で二センチ五ミリ出して裾と結び、脇裾を直角に訂正します。

・肩先を一センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾といせ込み分をしるし、その先に袖丈を延長し、記入寸法のフレンチスリーヴを引きます。

・ヨークは肩先を三センチ五ミリドロッ

プさせ、セイラーカラー風に描きます。

・ヨークの肩線はネックポイントで一センチ出し、肩先を五ミリくり下げます。

・袖山のタック分としてヨーク線を上に三センチ引き上げて袖先と結び、袖山線に直角にヨーク附線を訂正し、タックの位置を図のようにしるします。

・図に記入の切開き線では、裾のフレヤー分を四センチ切り開きます。

前身頃

・前中央線を平行に五ミリ出し、後と同様に丈を延し、裾線を引きます。

・脇線をバスト線で二センチ五ミリ出して裾と結び、裾線を描きます。

・肩先を五ミリ上げて肩線を引き直し、この線を肩先に延長して、後と同じ要領で記入寸法の袖を引きます。

・ポケットは、図の位置に記入寸法の貼附ポケットを描き、このポケット脇側の線を、三センチ五ミリドロップさせた肩先と結び、ヨーク線とします。

・後同様ヨークの肩先を五ミリくり下げ、袖の方もタック分を三センチ上げて袖山線を引き、タック分をしるします。

・打合を三センチ出し、前中央とポケット口には、同じ高さにボタンの位置をしるし、見返し線、芯取り線を描きます。

・身頃のタック分の切開き線は、ポケット口より二センチ五ミリ下つた袖附線から、ポケット口に平行に、ポケット端より三センチ手前まで引き、ここから真直に裾まで引き下します。

・『前身頃の切開き方』図を参照し、ポケットの底で四センチ五ミリ、身頃の裾で二センチ切り開くと、図の点線が出来上りじるしとなります。

・この出来上りじるしよりポケット口で二センチ五ミリ、中央側で三センチ、底側一センチ五ミリの縫代をつけて切込みをし、袖附の縫代分の中央にも切り込むと、図の斜線の部分は切りとられます。底側にタック分をしるします。

カラー

・身頃衿ぐりの前中央をカラー附止りとし、カラー巾は後四センチ、前四センチ五ミリのバンドカラーを引きます。

裁方と縫方の要点

・ヨークの外廻りは、一センチくらい浮かせて仕上げるため、布を裁つときその分だけ縫代を見越して裁ちます。

・『タックのとり方』図のように、ポケットの下側のタックをつまみ、袋布と兼用のライニングをくり抜かれた大きさ（図の斜線）に縫代をつけて裁ちます。

・前後の肩、袖山をそれぞれぬい合せ、袖山のタックをつまみます。

・後ヨークの角は、左右とも額縁にぬい、ヨークの外廻りの縫代を出来上り通りに折つて、アイロンで押えておきます。

・ヨークの附方は、ヨークを出来上り通りに身頃附線に重ね、出来上り線に沿つて端の方をしつけで押えておきます。

・ヨーク布をはぐり、前ヨークのポケッ

ト附の位置から反対側の同じ位置まで、出来上りじるしより一センチ奥を地縫しますが、後ヨークの角は額縁に始末してあるので、角から四〜五センチぬい残し、ここはあとからまつります。

・前ヨーク附のぬい止り（ポケットの上角）の縫代は、ポケットの外廻りを浮かせるので、裁目を斜めに内側に折り込んで細かくまつりつけておき、袋布兼用のライニングを、外廻りの縫代を折り曲げて上にのせてまつりつけます。

・貼附ポケットは、共色の薄地布を八ミリくらい控えて裏にまつりつけ、ボタンホールを作つておき、身頃のポケット附位置に重ねて、出来上りより一センチ内側を飾りミシンでぬいつけます。

・ヨークの裏布は、表ヨークより外廻りを一センチくらい小さく裁つて、ヨーク附の裏側の縫目にまつりつけると、表ヨークを吊るライニングとなります。

2・3才〜4・5才に向く 女児のワンピース

（口絵 83）

4才の寸法で発表

口絵（83）4才女児ワンピースのデザイン

デザイン

用布

表＝ダブル巾で一ヤール二分

裏＝九十センチ巾で六分

後身頃

・中央線を五ミリ平行に出し、下に二十センチ五ミリ延長し、直角に裾巾二十五センチを引き、脇線をバスト線で二センチ五ミリ出して裾と結び、裾線を描きます。

・肩先で一センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、肩巾同寸にいせ込み分を加えて肩先とし、その先に記入の寸法のフレンチスリーヴを製図します。

・衿ぐりは図のようにハイネックします。

・ヨーク線は、肩先で一センチドロップさせて図のような形に描き、ヨーク附線のタック分は、図の切開き線と後中央で図のように出します。

前身頃

・中央線平行に五ミリ出し、後同様に丈を延し、裾線二十七センチを引きます。

・肩線に三センチのダーツを描き、ダーツをたたんで原型を置き直し、脇線をバスト線で二センチ五ミリ出して裾と結び、後脇丈同寸に裾線を描きます。

・肩先で六ミリ上げてネックポイントと結び、後の要領で記入の袖を引きます。

・打合を四センチ平行に出し、衿ぐりを図のように描き直します。

・前ヨークは肩ダーツの脇側に、肩先を一センチドロップさせて描き、外廻りのステッチは一センチ二ミリ巾です。

・見返し線とボタンの位置を記入します。

・『前身頃の切開き方』図を参照し、二本の切開き線ではタック分を図のように切り開き、肩ダーツをつまむとヨークの縫代が出ます。ヨークの下に残つたダーツ分はタックにします。

ポケット

・ポケットを左袖山につけます。

・裁方と縫方一二〇頁下段参照。

12・3才〜ジュニアに向く
女学生のオーバーコート

（口絵 84）

用布

表＝ダブル巾で二ヤール四分
裏＝七十一センチ巾で三ヤール三分

後身頃

・中央線を平行に五ミリ出し、下に五十三センチ延長し、直角に裾巾二十八センチを引き、脇線をバスト脇で三センチ出して裾と結び、裾線を描きます。

・ネックポイントで肩込み分一センチを出して肩先と結び、肩巾を一センチ五ミリ（五ミリはいせ込み）広くし、袖ぐり線を訂正します。

・衿ぐりを図のようにハイネックします。

前身頃

・原型を一センチ二ミリ倒して写し、中央線を五ミリ平行に出し、後と同様に丈を延長し、裾線と脇線を引きます。

・衿ぐりを七ミリハイネックし、肩巾を五ミリ広くします（布を五ミリ伸す。）

・打合を三センチ出し、この線上の胸巾線の位置を折先とします。

・ポケットとボタンの位置を記入します。

カラー

・(a)図を参照して、身後の身頃をネックポイントでつき合せ、肩先を五センチ重ねて写し、前衿ぐり線でネックポイントから五センチ下と、折先を結んでカラー折山線とします。

デザイン

口絵（84）
14才女児オーバーのデザイン

•衿ぐりの後中央から矢の線を引き、衿ぐりを訂正して、衿丈を矢の線、肩線でそれぞれ計り、この二点を結び、折先から胸巾線上の七センチ入りを通って折先に結ぶカラー外廻りのA線を図のように引きます。

•打合線で折先から二センチ五ミリ下ったところと、A線の前肩線より八センチ下とを図のようなカーヴ線で結び、これを出来上りのカラー外廻り線とします。

•カラー外廻りの縁取りは二センチ五ミリ巾とし、これにつづくネクタイを上前と下前を別々に記入寸法で引きます。

•見返しつづきのカラーにするため、このカラー(a)を切りとつて、前身頃の折山線につき合せて外廻りを写します。

•表カラー附線につながりよく見返し線を描き入れ、芯取り線も記入します。

•裏カラーの接ぎ線を記入します。

袖

•記入寸法のワンピーススリーヴを製図し、袖山で五ミリ、袖下で三センチ出して、それぞれの線を描き直します。

(ネクタイの裁方)

裏側中央　折先

(ネクタイ)

3

2.5

ぬい止り

裏側中央　前中央

(ネクタイの出来上り)

縁取のぬい止り

傾斜をつけてとじる

打合

ネクタイの裏の縫目

裁方と縫方の要点

•カラーの縁取り布は後中央を縦地に裁つので、ネクタイはバイヤスとなります。このネクタイの部分は『ネクタイの裁方』図のように、裏の中央が接ぎ線になるように縫代をつけて裁ちます。

•『ネクタイの出来上り』図を参照し、カラー外廻りの縁取り布は、ネクタイの裏側中央を中表に合せて、先から折先のしるしまで地縫し、縫代を割り、先の傾斜の部分をぬつて、表に返してアイロンでととのえておきます。

•縁取りの内側の線を、表カラーの附じるし通りに中表に合せ、ぬい止りからぬい止りまでぐるつと地縫し、縁取りが高くなるように片返しておきます。

•縁取りの外廻りの線は、ぬい止りのきわに切込みを入れて、縁取り布の縫代を表カラーの上に伸し、縁取り布を少したるませて、外廻りをしつけで押えておきます。

•この見返しつづきの表カラーを、身頃につけた裏カラーに中表に重ね、打合先からカラー外廻りをぐるつとぬい合せ、表に返し、ネクタイのぬい残した部分を出来上りにまつりつけ、縁取りのぬい止りを図のようにとじつけておきます。

11・12才～15・16才に向く 女学生のオーバーコート

（口絵　85）

用布

表＝ダブル巾で一ヤール八分

裏＝七十一センチ巾で二ヤール四分

12才の寸法で発表

後身頃

•後中央線を五ミリ平行に出して引き直し、これを下に延長して、丈をウェスト線より四十二センチ五ミリとし、裾巾二十九センチを直角に引きます。

•脇線をバスト線で二センチ五ミリ出して裾と結び、図の点線のように肩巾の中央から裾までの寸法を脇線上に計つて、裾線を描きます。

•肩先を一センチ五ミリ上げてネックポイントと結び、これを延長して肩巾といせ込み分一センチを加えてしるし、その先にドロップショルダーにする分の二センチ五ミリを計り、先で直角に五ミリ下げて、肩先とややカーヴさせて結び直します。

•脇線で、バスト線より四センチ下げ、ドロップした肩先と結んで図のように袖ぐりを描き直します。

•図のように肩から裾まで切開き線を入れ、裾で五センチ切り開きます。

前身頃

•原型を一センチ二ミリ倒して写します。

•前中央線を平行に五ミリ出し、丈をウェスト線より四十二センチ五ミリとして延長し、直角に裾巾三十三センチを引きます。

•脇線をバスト線で二センチ五ミリ出して裾と結び、後脇丈と同寸に計り合せて裾線を描きます。

•肩線を肩先に二センチ五ミリ延長し、

口絵（85）

12才女児オーバーのデザイン

直角に五ミリ下げてややカーヴさせて肩線を結び直し、後と同様に袖下で四センチ下げて、袖ぐり線をつながりよく描き直します。

・打合分五センチを、裾からバスト線の一センチ五ミリ下まで中央線に対して平行に出し、ここをラペルの折先とします。

・衿ぐり線のネックポイントより二センチ五ミリ下つたところで、図のように衿腰二センチ五ミリを直角に出して折先と結び、この斜線を折山線とします。

・ネックポイントから衿ぐり線上に二センチ五ミリ下つたところと、原型前中央線を四センチ五ミリ引き上げたところを直線で結び、衿ぐりとの角をできるだけ小さい丸みでつながりよく直し、衿附線とします。

・衿附線を折山線との交点から十センチ五ミリ延長し、ここと折先を直線で結び、ラペルの先から衿附線上に五センチ入りをカラーの附止りとし、ラペルの先に二センチの丸みをつけてラペルの外廻り線を図のように形よくカーヴ線で描きます。

・衿ぐり線で衿腰を計つたところから折山線に平行線を引き上げ、この線上にネックポイントまでの二センチ五ミリと、その上に後衿附寸法を計ります。

・カラーの倒し分九センチ五ミリを図のように直角に計り、もう一度衿腰の元と結び直し、この線に衿附寸法を計り直して、直角に後カラー巾十四センチを引きます。

・前カラー巾を六センチとし、衿先をラペルの先と四センチ離して図のように引き、カラー外廻りをカーヴ線で結び、衿先の角を一センチかき落して丸みにします。

・後中央線で衿腰の分として二センチ五ミリを計り、折山線をつながりよく描きます。

・図の位置に打合のボタンをしるします。

・見返し線は、肩で二センチ五ミリ、裾で十センチ五ミリ巾にして図のように描きます。

・ポケットは、バスト線から三センチ五ミリ上で　中央線より六センチ五ミリ入つた点から、前中央線より五センチ入りに深さ十四センチを引き、ポケットロは十三センチにして図のように傾斜をつけて引き、脇側の深さ十三センチ、底巾十二センチのポケット外廻り線を引き、底の両角は図のような丸みにします。

・ポケットの蓋は四センチ五ミリ巾とし、ポケットの底と同様に、両角とも丸みをつけます。

袖

・袖丈四十六センチ五ミリ、袖巾十六センチ一ミリ、袖山十センチ、袖口十三センチにしてワンピースすリーヴを引きます。

・袖山を一センチ高くし、袖下で巾を二センチ五ミリ出して袖附線と袖下線を引き直します。

・袖山では、身頃でドロップさせた分の二センチ五ミリを図のようにかきとり、袖下線を二センチ出して袖附線を訂正します。

縫方の要点

・打合先からカラー外廻りのステッチは一センチ四ミリ巾に、ポケットのステッチは一センチ一ミリ巾にします。

・ポケットをつけるときは、ポケットロを五ミリ浮かせてつけます。

ニューデザイン独習書・第15集（秋・冬の号）

昭和29年10月25日印刷　著者　杉野芳子
昭和29年10月31日発行　発行者　川村和子
定価　250円　印刷者　大橋芳雄

発行所　東京都渋谷区上通2の27宮益ビル
株式会社ホームライフ社
電話青山(40)1213・振替東京36121

¥ 250